

徳島の剣道

特報

1.《特別寄稿》

美馬勝行 平野誠司 青木茂生

第40号

2. 新八段誕生

3. 全国スポーツ少年団剣道交流大会 第三位



徳島県剣道連盟

山名信行新八段の似顔絵イラスト。(職場の同僚が作成)



県内初!

小松島支部青年部の発足

詳細は P 206



巻頭言

石川県能登半島の地震に思うこと

徳島県剣道連盟 会長 藤川 和 秋



令和六年一月一日発生した石川県能登半島地震により一月十一日時点で死者が二百十三人に達しました。正月早々に痛ましい災害が起こり日本全国で不安な年明けになっています。徳島県は幸いにも天気にも恵まれ平穏な年明けを迎えることができましたが、痛ましい災害を他人ごとと思わず、亡くなったひとの分までしっかりと生きて行くという、同じ国民としての連帯感が必要だと思います。徳島県剣道連盟としても、令和六年は何を重点に活動していくかを考えてみますと

- 中学、高校を含めた少年剣士の指導育成
- 女子剣士の発掘と指導育成
- 徳島県立新武道館建設要望の具現化
- 徳島県剣道連盟の組織見直しと基盤の強化

などが上げられます。連盟会員の皆様や部活や剣道教室の保護者等の皆様のご協力を頂きながら、今年一年頑張っけて行けたらと思います。

また、各会員の皆様が、仕事もしながら自ら剣道の修練を積み、また少年剣士の指導育成にも頑張っけておられる姿に感謝と敬意を表したいと思います。

昨年の年末に南部の審査運営を担当する丸岡偉人先生からお電話を頂きました。「長年南部審査を担当してきましたが、後任ができたので退任します。」との内容で、長年ボランティアで大任を果たされたことに本当に感謝しお礼を申しあげました。徳島県剣道連盟はこのようにボランティアで支えられている部分がほとんどであり、今後もこの精神が徳島県剣道連盟の運営に大きな支えとなっていくものと思います。

石川県能登半島の被災者の皆さんの悲しみや、これからの頑張りに負けないよう、我々剣道にたずさわる者として、今できること、今やらなければならぬことをしっかりと見据えて進んで行かなければならないと痛感しています。

連盟会員や関係者の皆さまには、今年一年、健康に留意し自らの剣道修行に取り組み、また地域での少年剣士の指導育成や支援にも頑張っけて頂けたらと思います。

『徳島の剣道 第四十号』 目次

巻頭言……………藤川 和秋……………1

《特報一》特別寄稿

徳島県高齢剣友会 会長として思う……………美馬 勝行……………5

日本剣道形から考える……………平野 誠司……………6

剣・居・杖 一体をめざして……………青木 茂生……………9

《特報二》新八段誕生

「縁」と「感謝」……………山名 信行……………12

祝二刀流剣道八段誕生……………近藤 巨……………15

祝剣道八段ご昇段……………藤井 良一……………17

八段合格おめでとう……………榭山 紹生……………19

《特報三》

徳島県初全国スポーツ少年団剣道交流大会三位入賞……………中西 実……………21

顕彰一覧

地域文化功労……………坂本 憲一……………25

地域文化功労者表彰を受賞して……………坂本 憲一……………25

剣道有功賞……………三木 毅……………27

剣縁に感謝……………三木 毅……………27

少年剣道教育奨励賞……………原 知永……………34

少年剣道教育奨励賞を受賞して……………原 知永……………34

少年剣道教育奨励賞を受賞し……………片山 聖也……………35

スポーツ功労賞……………片山 聖也……………35

スポーツ功労賞をいただいて……………竹内佳代子……………37

生涯スポーツ賞……………竹内佳代子……………37

生涯スポーツ賞を受賞して……………泊 利治……………39

令和五年度徳島県中学校剣道優秀選手……………泊 利治……………39

令和五年度徳島県高等学校剣道優秀選手……………泊 利治……………39

令和五年度徳島県高等学校剣道優秀選手……………泊 利治……………39

先生を偲ぶ

笠井選 先生を偲ぶ……………塩田 善治……………43

ありがとう 笠井先生……………藤井 利一……………46

笠井選先生を偲んで……………安田 勝裕……………49

我が師匠「谷本 修」を偲ぶ……………谷本 晃成……………50

全国講習会報告……………谷本 晃成……………50

令和五年度剣道中央講習会報告……………吉田 茂生……………52

剣道授業協力者講習会の所感……………青木 博志……………55

第四十七回全国高等学校・中学校剣道部活動指導者研修会……………河野 寿仁……………57

剣道に役立つ医学知識……………河野 寿仁……………57

ママができる原因と対処方法……………佐々木克哉……………60

各種大会に参加して……………佐々木克哉……………60

令和五年度「骨太」四国ブロック講習会報告……………福多 雅英……………62

ドイツ・ニーダーザクセン州剣道連盟との剣道交流……………福多 雅英……………65

第二十七回女子剣道審判法講習会……………金野 裕美……………69

最後の寺西杯少年剣道大会を終えて……………寺西 明弘……………70

各種大会に参加して……………寺西 明弘……………70

第七十一回全日本都道府県対抗剣道優勝大会に出場して……………内海 翔貴……………73

第十五回全日本都道府県対抗女子剣道大会に参加して……………白木 洋一……………75

第二十一回全日本選抜剣道八段優勝大会に出場して……………玉田 晋作……………80

全国高等学校剣道選抜大会に出場して……………近藤 正獅……………82

全国高等学校選抜大会に出場して……………村田 七菜……………84

インターハイに出場して……………永瀨 聡良……………87

北海道インターハイ……………永瀨 聡良……………87

第五十三回全国中学校剣道大会に出場して……………平田 大和……………90

全国中学校剣道大会に出場して……………大和 希輔……………93

全日本女子剣道選手権大会に出場して……………岩谷 夢羽……………94

パナソニック杯第十八回全日本都道府県対抗……………河野菜々子……………96

少年剣道優勝大会に参加して……………山本 泰史……………98

第六十九回全日本東西対抗剣道大会に出場して	吉田 茂生	104
第六十五回全国教職員剣道大会に参加して	濱田 諒	106
「かごしま国体」に出場して	玉田 晋作	107
国民体育大会第四十四回四国ブロック大会	前田奈々枝	109
特別国民体育大会に出場して	長地 千景	111
令和五年度全国警察剣道大会を終えて	山室 雅幹	113
全日本剣道選手権大会に出場して	山本 義征	114
全日本高齢者武道大会に参加して	松本 憲二	115
第二十九回徳島県健康福祉祭(県ねりんピック)開催状況	松本 憲二	117
ねりんピック愛媛のえひめ二〇二三剣道交流大会に参加して	木原 資裕	119
随 想		
口は災いの元?	網師本誠司	122
私が剣道を始めたきっかけ	谷口 順二	123
人工股関節と剣道	栗野 佳明	126
人生の分岐点	佐賀 博史	127
称号・段位合格者		
七段に合格して	佐々木克哉	130
七段に合格して	谷 博	132
七段審査に合格して	松本 慎二	134
七段審査に合格して	尾脇 広美	135
剣道七段に合格して	原田 敏也	136
六段に合格して	秋山 雄治	137
六段に合格して	高橋 伊織	138
剣道六段審査に合格して	大城 健作	139
六段に合格して	河村 知志	140
六段に合格して	櫻井 一志	142
剣道六段審査に合格して	岩井 睦司	144
六段に合格して	日和田朗子	146

私の歩んだ剣の道	久保 雄二	147
人を育てる剣道	近藤 正章	149
剣道称号「錬士」をいただいて	塚原 裕美	151
称号・段位合格者一覧		152

居合道部会

《特別寄稿》

徳島県の居合道	原田 勝	158
---------	------	-----

活動報告		
居合道部会活動報告	満壽 良史	162

講習会報告		
第五十回居合道中央・地区講習会報告	坂本 憲一	164

大会・行事所感		
第五十八回全日本居合道大会に出場して	森 将夫	166

称号・段位合格者一覧		
居合道七段審査に合格するまで	満壽 良史	168
居合道七段を拝受して	内海 直弥	170
六段に合格して	村井 恒治	171

称号・段位合格者		
日本剣道形と居合道	一村 昌和	173
剣道と居合に出会って	川人 政利	178

随 想		
阿波居合道伝習会	坂本 憲一	179
阿南市剣道連盟大瀉道場	福井 勝	182
徳島春風館道場	青木 茂生	184

道場紹介		
------	--	--

杖道部会

《特別寄稿》

私の杖道観	清家 権一	188
活動報告		
杖道部会より	米倉 武志	190
講習会報告		
杖道中央・地区講習会を受講して	筒井 勇	191
第二回杖道講習会開催	武田 修典	193
第十回広島杖道大会及び交流稽古会に参加して	筒井 勇	195
称号・段位合格者一覧		197
称号・段位合格者		197
杖道昇段手記	塩谷美千彦	197
杖道雑感	赤松 睦	199
随想		
日本の伝統文化である武道の実践を	米倉 滋	201
がんばろう徳島		
今年注目の剣道教室		
徳島剣清塾活動報告	河田 清実	202
青年部の発足		
小松島支部青年部発足と合同練習試合	澤田 俊介	206
小松島支部青年部発足おめでとうございます	小野 勝	208
大塚製菓剣道部の活動報告	綾部 文明	210
専門部報告		
事業部	平尾 満紀	212
審査部	生田 浩章	215
強化部	白木 洋一	216
少年部	白木 崇	218

女子部	竹内佳代子	219
審判部	富浦 廣志	222
中体連	木下 臣仁	223
高体連専門部	河野 寿仁	225
大学連	木原 資裕	228
高齡剣友会	松本 憲二	230
徳島県剣道稽古場所一覧		232
居合道 道場案内		235
令和五年度 大会記録		236
徳島新聞に見る戦いの跡		269
令和六年度 昇段審査学科試験問題・解答例		292
令和六年度 徳島県剣道連盟行事予定表		307
令和六年度 審査実施計画表		309
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等		311
この一年の主な出来事		
編集後記		

表紙題字	堀江 幸夫
さし絵	村嶋 恒徳
	(英城県在住)
	(元徳島県剣道連盟委員長)

《特報一》 特別寄稿

徳島県高齢剣友会 会長として思う

高齢剣友会 美馬 勝行



令和五年四月 徳島県高齢剣友会の発
展に御尽力されました高島前会長の後を
引き受けることになりました。

会員百余名を乗せた大きな船を引き寄
せるガリバーの力は持ちあわせておりま
せんが、皆さんと一丸となって、「魅力ある高齢剣友会」となる
よう微力ながら力を注ぎたいと思っています。

剣道は精神的、身体的鍛錬だけでなく、通じて人としての生き
方はどうあるべきかを教えてくれる武道であることは言うまでも
ありませんが、私達にはこれまで培って身に付けてきた技能を持っ
ており、これを「次代の剣士」に還元すべきであるという使命が
残されているということを決して忘れてはならないと考えており
ます。

「もう年じゃ！」と一步下がるのではなく、積極的に「子育て」
への参加が望まれるところであります。

今、全日本高齢剣友会では、葉（ひこばえ）伐った木の切り株

などの根元から新たに生える芽のこと）活動として「剣道少年指
導の手引き」を作成して「基本に充実させた活動の促進」を少年
指導の指針とする指導方法を打ち出しているところでもあります。

これが実践のための高齢剣士の心構えとして思うことは、自己
の技能向上のみにとらわれることなく、常に「ひこばえ指導」を
も念頭に置いた「基本に忠実な稽古」に意を配し、子供から慕わ
れ、頼りにされる「爺さん剣士」となるよう、上手で分かりやす
い指導能力を身につけることが大切であります。

このような恩返し精神が、結果的には我が高齢剣友会が本来
の目的とする生涯剣道に通じ、しいては健康で長生きの源となる
ことと確信するところであります。

以上、会長としての初心の一端を述べましたが、「誰からも頼
りにされ、健康で明るい、我が徳島県高齢剣友会」を目指し

みんなが一つの輪となつてさあ・・・

日本剣道形から考える

〈全国警察剣道大会公開演武を振り返って〉

警察支部 平野 誠 司



警察定年となる一年が駆け足で過ぎていく。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、警察官の術科訓練（柔道、剣道、逮捕術等）は令和二年四月から約一年半の中断となった。その後、慎重な制限下で訓練は再開されるが、全国の指導者の苦悩と葛藤は計り知れないものがあった。

令和四年になると、それぞれ地域の感染状況を踏まえながら、管区大会や全国大会も試行的に再開されるようになり、それを受けて各県においても再開に向けた環境を整えていった。訓練の中断等による警察官の練度低下はやむを得なかったが、ここはひとまず再開することが重要であり、完全復活に向けた気運も徐々に高まっていった。

警察官のめざす一番重要な大会は、県の威信をかけて戦う全国警察剣道大会（団体戦）であるが、令和元年はオリンピック開催に向けた日本武道館の改築工事のため中止となり、コロナ禍の二年間を合わせると三年間中断したことになる。令和四年には警視庁術科センター（武道館）において試行的ではあるが開催が可能

となり、今年度は遂に日本武道館での完全復活を果たした。

私は昭和六十一年に徳島県警察官を拝命して以来、翌六十二年から選手として十四年間、監督として十三年間、そして指導者（師範）となり審判員を五年間務めてきた。この三年間にわたる中断は、このまま大会も再開することなく、心寂しく退官かと思っていたところであったが、どうにか完全復活ができたことは本当に感無量であり嬉しい限りであった。

全国大会も迫ってきた九月上旬、警察大学校の剣道教授から一本の電話が入った。今大会から公開演武が再開するという。どうやら話の内容はその演武者としての依頼のようである。あまりにも唐突なことであり、一瞬返事に躊躇もしたが、よくよく考えてみるとこれは大変光栄なことであり、名誉なことでもある。退職の年に巡ってきたこの機会に感謝し、快くお受けすることになった。

こうして、令和五年十月二十一日、警察人生最後の大会となる「令和五年度全国警察剣道大会」の公開演武者の任を仰せつかったのであった。

その公開演武者は次のとおりである。

打太刀 剣道教士八段 平野誠司（徳島県警察）

仕太刀 剣道教士八段 石田洋二（大阪府警察）

奇しくも大阪体育大学の二つ後輩の石田洋二先生との演武である。二人は同じ師（作道正夫範士）の元で修行した身であり、早速電話を入れると、二人の心に秘めた師承に火が付いたように話は盛

り上がった。

大阪体育大学での修練は、日本一と称する稽古量を誇り、体大気質という逞しい勝負論を確立していくものであったが、剣禅一致の修行論を含め、量的、質的なバランスも見事に調和されていた。大学時代四年間、心の底から剣道と向き合った。何より師匠の存在が大きく、師匠との出会いがなければ今の自分も存在しない。剣道観が遅しくなり、また剣心は深まった。

稽古法の一つに形稽古があった。先生方をはじめOBや四年生の先輩が元立ちとなり、下級生は次々とお願いしていく。まさに剣道形の懸かり稽古である。そこでは「様式」と「勝負」ということを念頭に何度も何度も繰り返された。約束通りにやって、その約束事(様式)をどう超えるか。元立ち(打太刀)から機と見ては振り下ろされる太刀を先の気位で必死に切り落とし

ていく。九歩(二人の



関係が始まるという)の間合いを「人間の間」とし、そこから三歩進んで勝負の間である「漸突攻防の間」へと進む。この間詰に全神経を集中させる。特に肝心となるのが最後の三歩目、触刃から交刃へと入る、一触即発の間に接するところでの工夫が真骨頂である。

時折、剣道具を付けて稽古をしているとよく似た場面に遭遇する。形稽古が防具稽古に重なり合う瞬間である。こういう気付きを大切にしている修行形態が常であった。

稽古然り、座禅(立ち稽古)然り、剣道形然り、自己の内側と向き合って気を練るといふ修煉方法が幅広く、また奥深く用意されていた。自然と「気」なるものに興味を持ち、自己の支柱となっていた。

卒業後の二人は、大阪、徳島と場所は違ったが、お互いに地元警察官を拝命し、体大気質を盾に警察剣道へと乗り込んでいった。共に選手、監督時代を過ごし、指導者の道を歩んできた二人の共演となった。

日本武道館での公開演武という大舞台で、約束事をどう超えるかという命題を克服するため、大阪と徳島を往復してはお互いの気を高めていった。剣道形には十人十色の見方があるので周囲の評価はあまり気にせず、真剣勝負に徹することを覚悟していた。

全国警察剣道大会は、決勝戦前に警察庁長官が入場し、全国警察の先生方が注目する中で公開演武となるが、あまり緊張はなかった。入場前の一礼。なんとも広い日本武道館のフロアだけ脳裏に

刻まれた。

下座中央で座礼、立ち上がって演武の位置へ。上席に礼、互いに礼。それ以降は無の境地へと導かれていった。我に返ったのは、退場後、会場に一礼する時であった。無心で勝負して、勝ち負けもわからない、そんな心境だった。渡り廊下で二人の満面の笑顔からは汗が噴き出した。感無量とはまさにこのことだと思った。

次の世代に伝えたいこと、それは「剣の心」である。剣道とは何か、なぜ剣道なのか。勝ちを目指すだけが勝ちだけがすべてではない。そこを超えたところに大切な「剣の心」がある。剣道の理念「人間形成の道」とは、剣道によって何かを悟ろう、得ようとする自己の心から始まっていく。その意識の真ん中にあることが楽しくなっていくのである。

剣道の「魅力」「やりがい」「面白さ」をどのように体感できるかが継続の鍵となり、次の世代へ繋げるためには、まずは自分がそう感じるところから始まるのである。



剣・居・杖一体をめざして

徳島県剣道連盟杖道部 会長 青木茂生



この度、徳島県剣道連盟機関紙「徳島の剣道」に特別寄稿のご依頼を頂きました。誠に恐縮ではありますが、私が三道をめざした思いを綴らせて頂きます。

剣の道の先人達は「剣・居・杖の一体」を教導されています。しかし、近年における剣道の実態は、「剣道は剣道、居合道は居合道、杖道は杖道」と分断した既成概念があり、剣道・居合道・杖道を同時に修練する人は意外に少数のように思われます。その一方で、剣道人は居合道を「剣の理法に合致していない単なる形だ」と評し、また居合道人は「最近の剣道は竹刀を使った当てっこ剣道」と、また「杖道は太刀と杖を使った単なる形だ」と評する方も多くおられます。これらのことは、剣理の究明、剣道・居合道・杖道の普及発展において好ましくありません。願わくは、先人達の「剣居一体・剣居一如」の教えを紐解き、真の剣理究明に近づいていかなければならないと思っております。

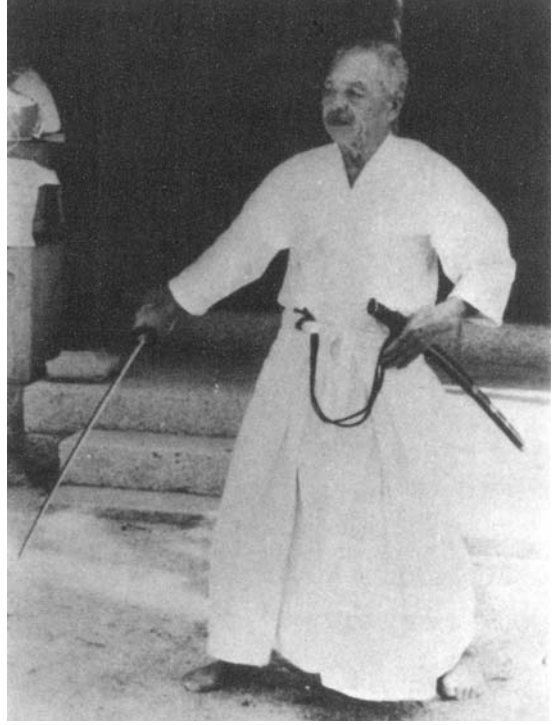
この三道を極めた名人有信館中山博道先生が、明治・大正・昭和（前期）の三代にわたって、多くの子弟を育成して有為の人材を剣道界に送り出しています。修道学院高野佐三郎先生と

東京の剣勢を二分した有信館中山博道先生は、「死ぬればそれまで、稽古に血を吐き骨身を削る日々」を重ねられ剣道・居合道・杖道の三道を極め、精進されて範士にまでになられています。同じく中山博道先生の弟子であった山口県の木村栄寿先生も剣道・居合道・杖道の三道を極め、範士になられており、最近では広島県の（故）中西康先生は、剣道範士九段・居合道範士八段・杖道は教士八段と三道を極められています。また、全国的にも三道を極められている先生が多少おられます。しかし、二道範士でもひとつは、教士八段・教士七段であり、中山先生・木村先生のように三道範士の先生はそうは見当たりません。

徳島県剣道連盟会則第一章総則第二一条に連盟は、徳島県の剣道・



中山博道



木村栄寿

居合道及び杖道（以下「剣道等」という。）の愛好者（以下「会員」という。）をもって組織し、公益財団法人全日本剣道連盟及び公益財団法人徳島県スポーツ協会に加盟するとあります。剣道とは、この三道を持って「剣道」であると認識をし、剣とはなにかと考えた時にやはり刀・日本刀であり、日本刀を持つから「剣道」であって、日本刀を離れて剣道はなく、道を離れて剣道はありません。正に剣の一字が基本であります。

私が再度、剣道を習い始めたのは二十二歳の頃で、近くに研心館道場館長滝下勝先生（剣道教士七段・居合道範士七段）がおられ、剣道と居合道の指導を頂きました。先生は、居合道を学ぶことによって、多岐にわたる刀法（技）、奥深い精神的な面も含め

て、形にとどまることなく、古来の流派も併せて修練すべきであるとされて、剣居一体の修練に励みました。丁度、私が居合道初段に合格をした時に、滝下先生から「青木君、段を取ったのだから、模擬刀から真剣に変えなさい。」と言われました。「あくまでも模擬刀は模擬刀、本当の居合道を修練するならば真剣を使わなければ、真の刀の操法を習熟することはできないよ。」と言われ、私は滝下先生に日本刀を作っていたくようにお願いしました。私の日本刀による修練は居合道初段を取得してからです。私にとっては剣道は表の修業、居合は裏の修行であります。杖道の修行においては、平成六年頃からであり、香川県観音寺市玄武道場にて杖道教士七段池原一義先生に指導を頂き、さらに東京の杖道範士八段西岡常夫先生、また福岡県の【故】杖道範士八段波止成徳先生には、私の自宅にまでお越しいただきご指導を賜りました。このことは私の生涯の誇りであります。その際の御縁がありました。波止先生から「神道夢想流杖術第一巻（表）・第二巻（中段）・第三巻（彰）・第四巻（仕合口）（奥）・第五巻（中和流短剣術十手）・第六巻（神道流剣術）・（内田流短剣術「ステッキ）・（一心流「鎖鎌術（くさがま）」のDVDを頂いたことは、私にとっての宝物であります。

四十歳過ぎまで三道一体の修練を目指して鍛錬を重ねておりましたが、なかなか仕事・家庭等の予定が重なり三道を学ぶということに時間がだんだんととれなくなり、三道の修練がどれもこれも中途半端になってしまいました。僭越ながら、先人の先生方や



波止成徳

現在三道の修錬を続けられ、高段者になられている先生方は大変素晴らしい快挙だと思います。私は、六十五歳で定年退職をいたしました。退職をしてからが私の「剣・居・杖一体」の修錬です。徳島県剣道連盟においては、令和三年から杖道部会が発足をいたしました。今後、徳島県剣道連盟の剣道部・居合道部・杖道部が益々発展することを祈念しまして、結びとさせていただきます。今後とも引き続きご指導の程を宜しくお願ひ申し上げます。



中西 康

《特報ニ》 新八段誕生

「縁」と「感謝」

警察支部 山名 信行

この度、令和五年十一月に行われた東京での八段審査に合格できましたのは、今までご指導下さった先生方を始め、関係各位の皆様のご支援のお陰だと思えます。この場を借りてお礼申し上げます。

私は、京都府出身で徳島県に初めて訪れたのは三十年前の東四国国体になります。当時私は高校三年生で、小松島市立体育館において京都府代表選手として出場しましたが、緊張のあまり何も出来ず終わってしまったことを鮮明に覚えています。

その後、千葉県にある国際武道大学に進学し、平成十年に徳島県警察官を拝命しました。警察学校卒業後は、平成十一年四月から、平成二十七年三月末までの十六年間、剣道特練員として勤務させていただきました。私が警察官になろうと思ったきっかけは、「大学生までせっかく続けた剣道を生かした職業に就こう。」という至極単純なものでした。

ですので、自分にゆかりのある場所として、地元である京都府と大学の所在地である千葉県の採用試験を受けることにしました。

京都と千葉の採用試験は、春と秋に一回ずつの計四回の試験となっていました。しかし、春の両府県での試験に早い段階でつまづいてしまい、このままではまずいと思い、全国の警察官採用試験を調べ直したところ、徳島県の採用試験が夏であることを見つけました。国体で訪れた場所であること、大学時代大変お世話になった先輩が徳島県の方であったことから、不思議な「縁」を感じ、徳島県警を受験することにしました。結果、秋の京都・千葉の試験にも失敗し、徳島のみが合格となり、徳島県の警察官として社会に踏み出し、今日に至ります。

私は右二刀の構えをとっています。私は大学二回生から三回生にあがるタイミングで二刀を構えるようになりました。きっかけは、ただ単に選手になりたかったからというものです。

私の通っていた国際武道大学の剣道部は一学年約百人で、部員数約四百人という大所帯でした。レベルも当然高く、高校時代国体に出場した程度では、まったく通用するものでは有りませんでした。稽古に取り組むも、レギュラークラスの同級生や下級生にも歯が立たずにいました。このままでは、せっかく高い授業料を納めてくれている両親に対して申し訳なく、何か結果を残したいと考えていました。

そんなもやもやとした中、二回生も終わろうかという授業中の出来事です。古い資料映像に二刀剣士が映っているのを目の当たりにしました。自分の中で「これだ。」という直感が働きました。私が最大の目標としていた全日本学生大会に繋がる関東学生大

会は春先に行われます。現状では三回生での出場は不可能。最後の四回生での出場に賭けるしかないという強い思いと、周りにも誰も取り組んでいないことからチャンスがあるかもしれない。また、選手選考期間等を考えると、二回生から三回生に上がるこのタイミングしかないと考え、その足で先生方に直訴し、了承を得て二刀の稽古を始めました。私が二刀に取り組み始めた当初は、インターネットも今のように普及しておらず、授業で見た資料映像と、大学の図書館で見つけた二刀に関する書籍をもとに試行錯誤の稽古を行っていました。

そんな中、二つの奇跡的な出会いがありました。

一つ目は、二刀の稽古を初めて三週間位が経過した頃、大学の同級生の紹介で、二刀の第一人者と言われていた戸田範士との出会いでした。この時、僅かな時間でしたが稽古をお願いし、その中で太刀、小太刀の基本操作と関係性、二刀をとるに当たったの心構えについてご指導していただきました。

二つ目は、戸田範士からご指導いただいた後、実家の京都へ帰省し、武徳殿へ稽古に行った時のことです。一つ年上の木佐さんという同志社大学の方が二刀で稽古されていました。その方は、右に太刀を持つ、右二刀の構えをされていました。

この時まで、戸田範士が左手に太刀を持つ左二刀の構えをとられていたことから、右二刀の存在を知りませんでした。実は私も左二刀で稽古を行っていましたが、踏み込み足と太刀の振りを左に作り替えるのに大変苦労していました。木佐さんからの助言を

受け、右二刀に構えを変えると、自分の中でしっくりと収まるものが有り、この日から今の右二刀の構えをとるようになりました。今思えば、このお二人との出会いがなければ、今回の八段拝受などあり得なかったと思います。

その後、二刀を構えて様々な場所に出稽古に行きました。二刀を構えることで、沢山の方が名前を覚えていただき、そこから新たな稽古場を紹介していただきました。稽古の甲斐もあり、四回生時にはあと一步のところまで全日本学生には届きませんでした。個人選手として関東学生大会への出場を果たしました。

そして徳島県警奉職後は、剣道特練員としての指名を受け、数多くの全国規模の大会に徳島県代表として出場する機会を頂きました。

また、京都大会に出場した際には、戸田範士のご紹介で、戸田範士に続き、史上三人目となる二刀で八段審査を合格された山口県の藤井先生とも引き合わせていただき、また、正しい二刀の普及にご尽力されている東京の宇賀神先生とも引き合わせていただきました。それがきっかけで、アメリカにいく経験もさせていただきました。このように、過去を振り返ると様々な奇跡のような「縁」が紡がれ、今回の合格に至ったのだと思います。

おわりに、各道場で少年少女のご指導をされている諸先生方にも、お礼を申し上げます。私自身、これまで数多くの全国規模の大会に出場する機会に恵まれましたが、どのような選手でも最初は、町の少年剣道教室がスタートだと思います。そこ



で指導される先生方の大半は、仕事を退職された年配の先生方や、仕事をしながらボランティアで指導して下さる先生方だと思います。私は、日本の剣道を支えて下さっているのは、これら諸先生方の地道な活動があってこそと考えております。私自身がこままで剣道を続けられたのも、そこがスタートであり、また、思い悩んだときに帰る場所として町道場があり、剣道を通じて諸先生方との出会い「縁」を大切に育んでいけたからだと思います。

今後とも「縁」と「感謝」の気持ちを忘れず精進していきたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻よろしくお願いたします。



祝二刀流剣道八段誕生

元徳島県警剣道師範 近 藤 巨



最近二刀流という言葉をよく耳にします。野球「大谷翔平選手」の影響が大きいです。しかし、本家本元の二刀流と言えば「二天一流」剣豪宮本武蔵のことです。

現在剣道界において二刀流を遣う剣士が増えつつありますが、存命の二刀流の剣道八段保持者となるとこれまでにたった一人山口県の藤井良一先生しかいません。二人目の剣道八段が、徳島県警察官の山名信行氏です。

令和五年十一月二十二日東京都で行われた剣道八段審査において、受審者九百九十五名のうち合格者五名、合格率0・5パーセントという超難関を見事合格されました。

山名氏は京都府出身、国際武道大学を卒業後、平成十年徳島県警察官を拝命しました。警察学校卒業後、徳島東警察署（現徳島中央警察署）に配属となり、翌平成十一年剣道特別訓練員（特別員）に指名されました。当時、県外出身の特練員は希で、勿論二刀流の剣士は山名氏が初めてでした。

私はその時、機動隊勤務で特練監督を務めていました。山名氏の二刀流は左手に小太刀、右手に太刀を持つ正二刀の構えです。

私は二刀流と対戦するのは初めてのことで、いかに攻めたら良いかわからず散散な目に合いました。平成十二年山名氏は機動隊に異動となり、ここから本格的な剣道修練が始まりました。

平成十三年に四国管内警察剣道大会、全国警察剣道大会（第三部）が開催され、山名氏も出場しました。両大会とも徳島県が優勝し、しかも山名氏は二大会とも全勝賞を受賞するなど大活躍をされました。その時、山名氏には勝負に対して「何が何でも勝つ」といった信念を強く感じました。山名氏をどのポジションにつけるか作戦を立て、思い通りにいったときは監督冥利に尽きる場面でありました。

その山名氏も十五年間の特練生活に終止符を打つ時が来ました。平成二十六年、石井警察署（現徳島名西警察署）に異動となりました。山名氏は勤務の傍ら剣道を続け、全日本選手権大会・国体・都道府県大会県予選など積極的に試合に出場し、実力の維持向上に努めていました。異動で勤務地が変わろうとその姿勢に変わりはありませんでした。

阿南警察署で勤務をしていた令和五年、山名氏は鹿児島国体に副将として出場しました。試合では東京都と対戦し、警視庁の強豪選手に引き分けになりましたが、本人にとっては納得のいく試合ができたようでした。国体終了後一ヶ月あまりで八段審査に臨みました。審査前に国体という大きな舞台を経験できたことが良い結果に繋がったのではないのでしょうか。審査当日のお昼前、山名氏から「一次審査に合格しました。どうすればいいですか」と

電話がかかってきました。「まさか」私は正直驚きつつも「集中あるのみ」と答え、二次審査までの過ごし方など話しました。その日の夕刻でした。「山名、八段合格」との第一報が入りました。後日、立合いの動画を拝見すると、気迫のこもった攻めから機会を捉えた捨てきった技が随所に出ている見事な立合いでした。

徳島県剣道連盟では、これまで大澤孝彰先生（範士八段）はじめ九人の剣道八段が在籍しています。恩師吉田祖先生が生前に「徳島に剣道八段を十人つくらんといかん」とおっしゃいました。徳島に多くの剣道八段を育成し、活性化を強く促されていたことを思い出します。山名氏は徳島県十人目の剣道八段となります。

これまで私は、恩師故堀江幸夫先生（範士八段）をはじめ諸先生方が築いてこられた稽古のできる環境、身を以て示していただいた道標のお陰で、迷いなくこれまで歩ませて頂きました。感謝しかありません。先人の諸先生方のご意志を思い、これからは私達あとに続く者が一致団結して、徳島県剣道連盟発展のために邁進していかなければなりません。身が引き締まる思いです。

山名氏の剣道八段ご昇段をお祝いすると共に、今後一層のご精進をご祈念申し上げますとお慶びいたします。



祝 剣道八段ご昇段

山口県剣道連盟 藤 井 良 一



山名先生、この度は剣道八段ご昇段誠におめでとうございます。

令和五年十一月二十一日～二十二日に日本武道館で行われた審査会において、受審者数一九二三名・合格者九名・合格率0.47パーセントという超難関の審査を見事合格されました。しかも、二刀での八段合格は七年振りであり、過去を遡ってみても合格者は極少数であると思われます。

山名先生は、皆様ご承知のとおり、平成十九年に徳島県代表として全日本剣道選手権大会に出場されるなど、全国規模の各大会でご活躍されている二刀の第一人者であります。

私は山名先生こそ、二刀という伝統文化の継承発展を担うべき人材であると確信しておりましたが、本人は八段の受審資格を得る前から「自分はこれまで試合試合でやって来た弊害で、姿勢の悪さやリズムをとって打突する癖がなかなか治りません。」と話していました。長年積み重ねてきたものは、一朝一夕に治せるものではありませんし、二刀は片手打ちのため、繊細でバランスを崩しやすい、どこかを矯正すれば今までのような技を打てなくなることが多いため、矯正には時間がかかるだろうとは思っていま

した。ところが、今回の審査会の一か月前に行った二刀講習会において、山名先生の稽古に悪癖はなくなっており、よくぞこの短時間に矯正したものだ大変驚き、さぞかし目標に向かってご努力されたのだろうと感服した次第です。

さて、私が山名先生と初めてお会いしたのは、十数年前の京都大会でした。引き合わせて頂いたのが、故戸田忠男範士で、そのとき二人に「人と違ったことをするのは中々大変だが頑張ってる。」とのお言葉を頂いたのです。

その年から毎年、京都大会の期間中、京都武道センターで剣を交えております。二刀を遣う者同士の稽古は、一刀対二刀・二刀対一刀・相二刀・相一刀の四種類の稽古ができますので、様々な形で稽古をお願いしたものです。そんな我々の稽古風景を傍らから故戸田忠男範士が見て微笑まれておられたのを忘れることができません。

その後、剣道二刀の正しい普及発展のため、故戸田範士に講師をお願いし、毎年一回剣道二刀の研修会を開催して頂きました。全国（海外からの参加者もあり）から二刀剣士が多い年は七十名、少ない年でも四十名以上の参加があり、その中でも山名先生の人気・実力は抜きんでており、他の研修生からの質問攻めにあっていました。

また、私はアメリカの剣友が主催する剣道二刀セミナーに招かれ、平成二十年から令和元年まで毎年参加しておりました。このセミナーには、故戸田範士とも平成二十六年～二十八年の三回ご

一緒させて頂きました。山名先生とも、故戸田範士がお亡くなりになられた翌年に、一緒に参加しております。その際、山名先生に一点だけ「理屈抜きに、ただ山名先生の二刀を世界の剣士に見せてほしい。」とお願いました。外国の方々には凄いものは凄い、良いものは良い、と見たものを素直に受け入れるところがあるからです。

セミナーが始まると、受講生は山名先生の基本打ちの示範に感嘆し、指導稽古においても山名先生の一打一打に感激しておりました。令和二年からコロナ禍になり、二刀セミナーも中断しておりますが、再開した際にはまた一緒にしたいと思います。

ともあれ、山名先生も故戸田忠男範士から「正しい剣道二刀の継承発展」という重大なお役目を託されていますし、八段になりますと、二刀だけではなく、剣道にかかわる多くのお役目を果たして行かなければならないと思います。今後ますますご精武されまして徳島県剣道連盟はもとより剣道界発展のためご尽力されることを大いに期待しお祝いの言葉といたします。



平成29年 アメリカでの二刀セミナーにて（子供を抱いているのが山名先生）



令和元年の二刀研修会 東京大学七徳堂にて
（前列向かって左から2番目が山名先生、5番目が筆者）

八段合格おめでとう

阿南支部 榊 山 紹 生



この度八段審査合格に心からお祝い申し上げます。毎年合格率が厳しい中、二刀流で十年振りの合格とのことで大変喜ばしいことと思います。

私と山名君は、同じ『国際武道大学』の出身で千葉県勝浦市と言う南房総の自然豊かな町で学生時代を過ごしました。開学から四十年を迎える大学です。剣道部の motto は「百錬自得」です。正しい剣道を学び、国際的視野をもった指導者の養成を理念としており、剣道技能の向上を図ることはもちろん、将来剣道の指導者となるにふさわしい人材になることを目標にしています。

山名君が大学で二刀流に取り組むことは、幅広い指導者を育成する目的の先生方には、好ましく思われていませんでした。しかし、彼の情熱と意思の強さに大学3年の終わり頃に二刀での稽古が許可され、4年次にはレギュラーとして活躍されました。そして卒業後、徳島県警に奉職し「全日本選手権」「国民体育大会」など多くの大会に出場し「二刀流の山名」の名を全国に広めました。

そんな彼とは十歳の年の差があり、京都府出身で職場も地域も

違い、あまり会う機会もありませんでしたが、彼の奥さんが阿南市の出身とのことで、一緒に里帰りした際に阿南支部の稽古会に時折参加し、剣を交えることがありました。私は、二刀の相手との剣道が不慣れであった為、「後輩でありながら、苦手だなあ」と思いながら、急いで二刀対策を考えました。稽古は圧倒的に打たれ、散々なもので、稽古後本人から二刀対策を教わる始末でした。山名君は剣道に対し熱心で誰が相手でも気を緩めることなく剣道に取り組んでおり、それが八段合格に繋がったのでしよう。

これから、二刀流八段としての歩みは注目度も増し、大変だと思いますが、これまで同様、謙虚で感謝の気持ち忘れず、徳島県の剣道の発展、また後輩の指導にと、今後益々のご活躍を期待してお祝いの言葉といたします。本当におめでとうございました。



《特報三》

徳島県初全国スポーツ少年団
剣道交流大会三位入賞

監督 中西 実

令和五年十二月三日に、鳴門武道館で全国スポーツ少年団徳島県予選会があり、見事阿南市スポーツ少年団剣道チームが優勝し、今年三月に行われる第四十六回全国スポーツ少年団剣道交流大会の出場が決まりました。開催県は群馬県です。会場はアルソックぐんま総合スポーツセンターで三月二十九日（金）～三月三十一日（日）までの三日間でした。

阿南の子供達の実力が全国に通用するか楽しみにして、二月に兵庫県に遠征し、三月には大阪・京都・姫路と練習試合に行ってきました。何より本番まで子供達が怪我なく元気で試合に臨めることができ、良かったです。

徳島県から群馬県までは前日の二十八日から、飛行機・新幹線を乗り継ぎ、夕方には宿舎到着しました。翌二十九日は、午後から開会式・交流会と稽古会に参加して夕方ホテルで子供達と打合せをして、三十日の試合に望みました。午前中が小学生団体戦、午後からが中学校男女個人戦となり、すべての予選はリーグ戦となります。

まず、小学生の団体予選リーグでは、長野県に四一〇で、秋田県にも四一〇で勝ち、一本も相手チームからとられませんでした。

この三ヶ月で子供達のチームワークが抜群に良かったと思いました。

午後からは、中学生男女個人戦選手は、小松島少剣クラブの橋本あいさん、男子も小松島少剣クラブの津島ゆうきさんの出場となります。試合は、二人とも惜しくも予選リーグを突破する事は出来ませんでした。一試合、一試合見応えがあり、よく頑張ったと思います。それに三日間小学生の面倒を見てくれ素晴らしい二人だったと思います。

いよいよ決勝トーナメントが始まり、第一試合は愛知県との対戦です。先鋒は敗れましたが、次鋒・中堅・副将・大将と勝ち、強豪の愛知県に勝利しました。準々決勝の相手は前年度準優勝の愛媛県、今年も優勝候補筆頭です。是が非でも今年優勝しかないと愛媛県の監督・子供達にはこちらが見て分かるくらいピリピリ感がありました。私は剣道の実力は三軍ですが、ただ自慢できるのは子供達の目線で、やる気を起こさせる自信はあります。この三日間剣道の技とかは、一切言わず、とにかく子供達には、「出来る、いける、出来る、いける」と呪文のように言ってきました。実力がある子供達なので、やる気だけ植え付ければやってくれると思っていました。その結果、先鋒・次鋒・中堅で勝負ありとなり、決まった瞬間、言葉にならないくらい喜びが込み上げてきました。こんな素晴らしい子供達の監督が出来、本当に感謝しかありません。準決勝は、優勝の大阪に負けましたが、全国大会三位という素晴らしい大会になりました。



これも、徳島県剣道連盟の先生方、阿南少剣の須藤先生、剣清塾の河田先生には大変お世話になりました。



最後に、子供達の遠征など私のわがままでたくさん試合に引率してくれた保護者の方には、感謝しかありません。ありがとうございました。これからも宜しくお願いします。

この三日間、私は本当に幸せ者でした。今後とも微力ではありますが、徳島県の少年剣道を盛り上げていければと思います。

令和五年度 顕彰一覽

地域文化功勞（文化庁）

○ 坂本 憲一（徳島県剣道連盟居合道部会）

居合道八段の修錬とともに刀剣への見識を深め、平成六年から文化庁より銃砲刀剣類登録審査委員に任命され、平成十四年から徳島県審査委員に就任し、郷土刀の刀工研究に尽力している。

剣道有功賞（全日本剣道連盟）

○ 三 木 毅（徳島県剣道連盟名誉会長）

昭和三十六年に徳島県警察に奉職し、警察官として活動する傍ら、少年剣道教室での剣道指導を積極的に推進し、県下でも優秀な選手を育成した。

また平成十五年から徳島県剣道連盟の理事長、副会長を歴任、平成二十七年には徳島県剣道連盟会長に就任し、令和二年度までの六年間徳島県剣道連盟の運営に尽力し、その貢献は大である。

少年剣道教育奨励賞（全日本剣道連盟）

○ 立江剣道教室（指導者代表 原 知永）

平成十四年九月一日に道場を設立してから二十一年間道場を運営してきた。立江剣道教室は、近年の少子化現象により剣道教室

の生徒も減少したが、指導者の熱意と地域の支援により今日に至っている。

現在は、小・中学生十一名と高校、一般を含め十六名の道場生が熱心に稽古に励んでいる。立江剣道教室は長年にわたり、剣道の普及発展に尽力し、生涯剣道の実践及び少年の健全育成に大きく貢献している。

○ 吉野川少年剣道教室（指導者代表 片山聖也）

平成二十四年、剣道の盛んな県西部に設立されて十一年間、青年の剣道育成に尽力してきた。生徒数も県下トップクラスであり、毎年優秀な選手を育成し、少年剣道の基盤の強化に大きく寄与している。指導者の技術も高く指導力も優秀であり、周辺の剣道教室と連携し合同稽古会を開催するなど地域との交流も重視し、その活動は県西部の中核として他の教室の模範となっている。

徳島県スポーツ功勞者表彰（徳島県スポーツ協会）

○ 竹 内 佳代子（徳島県剣道連盟常任理事）

徳島県の中学校教員として奉職し、全国大会等に選手・監督として出場するなど徳島県の剣道の普及発展に大きく寄与した。また、徳島県剣道連盟理事・女子部長として十八年間務め、徳島県における女子剣道の指導を先頭になって努め、連盟女子部の普及発展に大きく寄与しており、スポーツ功勞者として十分に値すると認め推薦する。

徳島県生涯スポーツ賞表彰（徳島県スポーツ協会）

○ 泊 利 治（徳島県高齢剣友会）

県職員として奉職してからも趣味として剣道を続け、現在は剣道六段を取得し、少年剣道教室で子供の剣道指導を継続して実施しているほか、高齢者の全国剣道大会等にも出場するなど剣道の奨励発展にも大きく寄与している。また、徳島県剣道連盟高齢剣友会理事を十二年間務め、八十二歳の現在も剣道に前向きに取り組む、全日本剣道連盟主催の剣道七段審査にも挑戦している。このように、徳島県における生涯剣道のあるべき姿として模範となるものであり、生涯スポーツ賞に値するものと認め推薦する。



地域文化功労

地域文化功労者表彰を受賞して

居合道部 坂本 憲一



令和五年十一月十六日、京都府立府民ホールにおいて、文化庁より文部科学大臣表彰として「地域文化功労者表彰」を頂くことになりました。今回の受賞は、

長年にわたり郷土刀の研究と徳島県銃砲刀剣類登録審査委員等を務め、地域文化の振興に貢献したことが評価されたものとされており。

私の日本刀研究は学生時代に始まります。郷土刀に興味を持ったのは、卒業を迎え郷里に帰る旨ご挨拶に伺った際の恩師からの言葉「郷土刀に関心を持って」でした。幸い勤務の仕事が、美術・歴史・民俗・文化財等に関わる仕事であったことから、郷土刀に関する文献等に接する機会も多く、関係資料を累積することが出来、これが郷土刀研究の始まりとなりました。

当時の研究は、刀の作風をみて作者を見分け、作風が似ているからこの系統というような鑑賞主義的なものを中心で、作者個々の出自や刀工の系統などについては解明されず不明な点が多くあ

りました。そこで先人が残してくれた郷土刀研究の鑿の部分文献（古文書・墓石・碑文等）で究明することが恩師の言葉に報いる近道と考えたのであります。

昭和六十年、公益財団法人日本美術刀剣保存協会徳島県支部に入会しました。これによって郷土刀の多くを鑑賞することが出来、押形の採取や調書の作成が容易になり、加えて多くの情報を得る機会に恵まれるようになりました。支部の月例会では阿波刀研究部長の立場から講師を務めさせて頂き、徳島県支部が昭和六十二年～平成四年三月まで五年間を費やし完成させた『阿波の刀剣』（徳島県文部平成四年発行）に立案・編集・執筆委員として参画させて頂きました。

平成六年四月、そうした実績が認められたのでしょいか、文化庁から銃砲刀剣類登録審査委員を拝命し、現在に至っております。なお、平成十四年四月からは事務取扱が地方に移管されたため、現在では、銃砲刀剣類登録審査委員は徳島県知事からの委嘱となっています。そのため令和二年に、多年に亘る徳島県銃砲刀剣登録審査委員として文化財保護に貢献にしたという理由で徳島県表彰を頂きました。

唐突に居合道の話になりますが、私が居合道を始めたのは昭和五十七年、三十五歳の時です。居合道を始めた理由の一つが刀法です。日本刀をただ美術品として鑑賞するということに疑問が湧き始めた頃のことでした。

刀はあくまで武器であって、当時の戦い方の所産物であり、其

の扱い方すなわち各時代の刀法を知らずしては刀のことは語れないというのがその頃の実感でした。実際、居合道を習い始めてから刀の見方が変わったのは事実です。

今後は研究をさらに進め、刀における下緒の結び方、登城の際の刀の差し方や外装の種類等、刀剣に纏わる数々の諸相を居合道の講習会などにも生かして行きたいと思っております。

文末になりましたが、郷土刀研究にご協力頂きました多くの愛刀家の方々や博物館などの各施設、受賞に至る労を執って頂いた徳島県未来創世文化部文化資源活用課の機関に対し、心よりお礼を申し上げ、結びといたします。



令和5年度 地域文化功労者 文部科学大臣表彰 令和5年11月16日 (中列左より3人目が筆者)

剣道有功賞

剣縁に感謝

徳島県剣道連盟 名誉会長 三木 毅

一、剣縁に五恩

この度、全日本剣道連盟から、剣道有功賞を拝受いたしました。推挙をしていただいた徳島県剣道連盟の関係諸氏に心から感謝を申し上げます。

価値あるこの賞を頂くに当って、一瞬にして、剣道人生を思い浮かべることになりました。剣道を始めて六十七年、振り返ると「剣縁五恩」であり、今後においてもこれまで続けてきた、剣道の伝承に思いを込めて進んでいきたいと考えています。

二、剣縁五恩について

私がいま感ずるのは剣縁五恩であります。端的にのべると

一恩 この年まで剣道ができる体に産んでくれ、育てくれた両親に感謝すること

二恩 剣道に出会えたこと

三恩 剣道の先生に出会えたこと

四恩 先輩・同僚・後輩に出会えたこと

五恩 稽古ができる道場たる場所があること
ということですが、そこで、受賞を機に私の剣道人生の一端を書きとどめておこうと思います。

一恩・二恩 両親に感謝・剣道との出会い

今を去る、六十七年前の昭和三十二年の中学二年生の春のことでありました。父の自転車の荷台に乗り、町内のある農家を訪問したのです。その時、父から、「剣道の平尾先生宅」と知らされたものの、剣道とは何かがわからないまま、頭を下げて挨拶をしたのです。

その後、夜の公民館に連れられ五人ほどの大人が、大声を出して剣道というのをやっているのを初めて見たのが、私の剣道の始まりであります。

三恩 六人の先生との出会い

平尾勝美先生

乾 壽夫先生

矢部武雄先生

出口嘉平先生

魚澤清太郎先生

堀江幸夫先生

中学校では、「竹刀競技部」があって、今でいう「フェンシン



グのような衣装」で「白い布袋に割竹を入れた竹刀」で打ち合いをするクラブ活動部があり、入部しました。顧問の先生は「乾 壽夫」先生でありました。部員は、三年生が三人、同期が三人、後輩が三人ほどの部であり、放課後の教室で、椅子机を後方に積み上げて板間の広場を作り、そこが稽古場となり、いわゆる叩き合いをするという稽古風景でありました。

一年間の竹刀競技部は、三年生になると剣道部と名称が変わったものの、乾先生は名西高校に転勤となり、剣道ができる顧問の先生はいなくて、現在の阿波市吉野町に在住しておられた、陸軍外山学校の剣道師範をされていた「矢部武雄先生」が毎日部活に足を運んでくれました。（徳島の剣道第十八号 十七頁 坂本功投稿「矢部武雄先生のこと」）

私は、一年間矢部先生にお世話になり、阿波高校に進みますと、矢部先生が部活に来てくれるようになり、顧問の「出口嘉平先生」と共に三年間稽古をつけていただきました。

高校二年生の時に、面打ちの早い先輩に打ち勝つ方法はないか

とそればかりを考えての部活でありました。とにかく先輩の早い面打ちよりも、もっと早い面を打つことに明け暮れた記憶があります。三年生になって、先輩に打ち勝つ早い出頭面が打てるようになり、団体戦では、大将の役目がめぐってきて、その責を果たす力を身につけていたのを覚えています。

徳島農業高校での大会の当日、徳島県警の剣道師範「魚澤清太郎先生」から「三木君、剣道を続けたいなら警察へ来い」と声をかけて下さいました。私は、自分の剣道を見てくれていたという最高のうれしさを持ち帰り、うれしさの気持ちを込めて父に報告したところ「わかった」と言ってもらい、昭和三十六年四月一日 徳島県警察学校に入校いたしました。

四恩 同僚と先輩に恵まれ、新たに堀江先生との出会い

いわゆる、初任教養の一年間の剣道授業は魚澤先生であり、幸いにも同期には、吉岡修一・川添貴義・篠原敏和・岩本（田村）敏明がいました。課外授業の剣道には県警機動隊の堀部武志（川田）・岡本憲三・桜田彦之（坂下）・松村克隆・鶴和孝一・斉木擁二・西秀夫などの先輩が足を運んでくれ厳しい稽古をつけてくれました。そのおかげで、警察部内外の県下剣道大会では、常に優勝できる成績であり、当時の校長は「河野勝義先生」で、勝負にこだわる有名な校長で、勝ち組の剣道部はいつも上機嫌で褒め続けてもらいました。

警察学校の一年間の初任教養での剣道歴では、常に勝ち組であっ

たことで痛快に過ごすことができました。

初任科教養を終え、阿南警察署に赴任となったところ、早々に、警察剣道特錬生に指名され、秋口ころまで、助任橋のたもとの武道館に稽古に通う生活が始まり、堀江先生と出会うことになりました。二年間阿南署から通いの稽古の後、県警機動隊に転勤となり、堀江先生から本格的な教養を受けることになりました。機動隊員としての訓練と剣道に明け暮れる生活をしました。

機動隊員としての特錬生時代には、大阪府警に一ヶ月かけて出稽古があり、多くの大先生や多くの剣士との出会いがありました。小牧市の中部管区警察学校では、全国から集められた中堅指導者専科の一員に選ばれました。一ヶ月の教養を受けた際には、警察庁の師範、各県の師範が来られて、それこそ厳しい稽古や取り組み姿勢の教養を受けました。小沢丘範士・滝沢範士は百六十センチほどの小柄の先生でありましたが、どんなに竹刀を振っても面・小手の打突が先生方にはまったく当たらず、ただただ体の疲れが襲ってくるのを今も覚えています。

全国からやってきた剣士の剣道への取り組み姿勢や稽古のやり方を見て、自分と大きく違いがありすぎ、自分が田舎者剣士に見える始め、ガッツの弱さをひしひし自覚したのを鮮明に思い出します。

帰県後の稽古では、ガッツある稽古につとめ、先輩に勝てる打法を身に着けることができるようになり、先輩を打ち負かせた日には痛快で身の軽さを感じました。ただ、その日は、血の小便が

出たことを経験しました。

五 恩 道場の充実

剣道を始めた中学時代は、教室の椅子と机を後方に積み上げ、稽古場を作った稽古でした。高校では木造の体育館で、バレー部・卓球部・剣道部が共有し、剣道部は四隅の一角が稽古場で狭いものでした。

警察に入ると、学校には道場があり、徳島市には県立武道館が新築され、また警察署にも道場が完備されて、徳島県下の中学校・高等学校には剣道部が創設されて、県下の剣道環境が整うという時代が到来しました。警察署対抗の剣道大会の度に、警察署選手候補者は地元高校へ稽古に出かけて大会に備えたものでした。存分な剣道稽古ができる痛快さは、道場への感謝の念を強く持った次第です。

三、新たな部門での始まり

阿南署からの通い特錬生を二年間過ごす中で、稽古オフの時期には、制服姿の警察業務に当たっていました。自分に下命された所管する地域での窃盗事件を何件か解決する実績ができ、刑事部門から高い評価を頂き、ある時「県警本部捜査一課主催のスリ班捜査専科生」に抜擢されました。

一ヶ月の教養期間に、一人でスリ犯人を見つけ出し、一人で取り押さえができる度胸と機敏さを身に着けることができた時には、

当時のテレビドラマの「七人の刑事」の一員になった気分であり、刑事警察官への憧れが生じていました。そのような憧れが生じた中、機動隊に配属されました。春の雑踏警備や阿波踊りの雑踏警備は機動隊の重要な年中行事でしたが、私はその時期は捜査一課のスリ班捜査班員として勤務することとなり、スリ犯を現行犯逮捕できる技能を身に付けていました。

機動隊で三年を迎えようとしたとき、捜査一課主催の刑事登壇門たる刑事専科という教養があり、機動隊員として初めて捜査専科生に抜擢され、しかも専科生十名の総代を命じられました。一ヶ月の教養期間中に、スリ犯・置き引き犯・万引き犯などの検挙を成し遂げ、専科生五人が本部長賞の栄誉を得ることができました。

三月の中旬ころ、刑事部長から「刑事にならないか」という誘いの言葉をいただいた。剣道特錬生を続けるか刑事警察官になるかの分かれ道となり、堀江先生に報告相談を申し上げた。先生も迷われていたが、人事のこととて私自身明確に意思表示できる度胸はなく、先生に判断をお願いしました。三月末、人事異動の内示があり、私は小松島警察署の刑事課勤務となりました。

こうして私は刑事警察の道へ進むこととなり、巡查部長への昇進に続き、警部補に昇任しました。警部補を二年過ごした時に、捜査一課の高田豊課長（剣道教士七段）が「善通寺の管区警察学校の刑事教官に行くように」との人事異動の話がありました。

管区学校の刑事教官を一年過ぎたとき、管区学校の剣道師範た

る「大久保正慶先生」が定年退職され、後任には香川県警から剣道経験者が来る予定であったが、人事異動がうまく進まず、管区学校の剣道師範が空白となりました。そこで吉田校長から剣道五段の私に「師範代理をせよ」との指示がありました。

大変なことになってしまいました。警察庁主催の各県術科師範会議に私が出席することとなり、東京に向いたところ、私は警察庁側の席に着く羽目となり、各県の師範先生は対面席でした。堀江先生始め顔見知りの四国の師範先生四人がいる席をみた時はその場から逃げ出したくなる気分となりました。会議の後は稽古会があり、各県先生と対等に剣道ができるはずがなく稽古場でもいたたまれなくなっていました。

その後、懇親会が催され、全国の警察師範の中で、席が決められており、私は上席に配置され、ここでもつらい気分でした。懇親会が始まると私は、まず四国の師範先生に御挨拶に行かなければならず、先生方には平身低頭の中で言葉が続かなかったことを覚えていきます。

管区学校では、四国四県の剣道大会があり、会場での席順が決められており私は上席であったため挨拶もあり、上席に伴う緊張やら恐縮やらの気分を味わうこととなりました。こんな一年を終え、「やれやれ徳島に帰れる」という時期を迎えた時、管区学校の教務部長から「三木さん、学校に残って剣道の師範を続けて欲しい」との要請がありました。この時ばかりはあるだけの勇気を絞って「私は徳島に帰って、やるべき刑事の仕事があります」と

明快に表明しました。やっと管区学校二年の務めを終え、帰県することができ、捜査第二課での暴力係刑事の仕事を始めることとなりました。

その後は警部に昇任し、警察大学校での教養を受け、その後において警察大学校の特別捜査幹部研修所（警察大学校の大学院のようなどころ）への入校も果たすことができました。

警視に昇任後は暴力団対策官・徳島東警察署刑事官・暴力団対策室長・牟岐警察署長・管区警察局生活安全課長・徳島県警察捜査一課長・阿南警察課長・県警本部生活安全部長の役職を務めることができました。

四、竹刀作りなどに挑戦

平成六年に牟岐警察署長に赴任し、二年間をすごした。もともと日曜大工が好きで、生活に便利な色々なものを作ってきたが、他に何かないのかを自問した結論は、初めての赴任地で意義ある「表札づくり」を見出した。桜の木やケヤキの木を手に入れて自前の電動工具を駆使して表札台を作り、差し上げたい人の名前を自筆して、彫刻刀で字堀りして、警察協力者に差し上げました。表札づくりが、噂になり意外にも、欲しいという意思表示される方が現れ、二年間で暑員や協力者六十人ほどの表札づくりをした結果、警察協力者や署員との親近感が一段と縮まったことを覚えていきます。

また、牟岐警察署での勤務では、わが人生でこれ以上のことは

ないという出来事が起こりました。それは、『徳島の剣道』第二十五号の随想欄に投稿した「子象物語」のことです。牟岐町に所在する「正観寺」住職の「堀江明徳氏」との出会いです。堀江住職より「スリランカから子象を正観寺に贈呈するとの話がありま

す。三木さん、象をもらってほしい。」との要請がありました。私個人ではなく、徳島動物園で対応できれば、大きな社会貢献になるのではと思うに至りました。

各方面にいろいろと働きかけながら私の思いを十二分に聞き入れていただき、平成九年に「スリランカから小象二頭（雄）とマリイ（雌）」をもらい受け、徳島動物園に寄贈することができました。二頭を譲り受けた理由は、「種の保存」のためです。しかし、残念なことにこの二頭から新たな命が芽生えることなく、ランガは平成二十年六月に十六歳で、マリイは令和三年七月に三十一歳でなくなりました。誠に残念でなりません。

小象二頭をもらい受け、徳島動物園に寄贈できたことは、私自身が一番の大きな社会貢献であると満足感をもっております。

平成十二年に、阿南警察署長に赴任し、二年間を過ごしました。この間にも何かを取得すべきと考え、管内に在住の「竹刀師・高橋國保氏」に出会い、氏が保有する道具を写真に収め、その全てを同じように自作し、竹刀作りの手ほどきを受けました。これは技術として習得したので今も体に残っています。

五、警察退職後の新たな役目

平成十五年三月のこと、私はそれまで徳島県警察剣道部会会長というお世話役をしておりましたが、退職後は脇町に所在する「パナソニック脇町工場」渉外部長に内定しておりました。

徳島県剣道連盟から、四名の役員が私宅に来られ「連盟の理事長をやって欲しい」との要請がありました。私は、子供の剣道指導に携わっていたものの、剣道錬士五段の肩書しかなく、理事長職は不似合いを理由にお断りしましたところ、「受けてくれるまで帰らない」とのことを述べられ、いやおうなくお受けすることになってしまいました。これもまた大変なことになりました。

全剣連では年に二、三回の全国会議があり出席するのですが、私の知る人は皆無でありました。そのうち、なんとなく、剣道五段の私を指し「徳島には人材がないのか」という声が聞こえてくるようになりました。よって稽古を詰め、六段を頂きましたが、人並みの七段を得るのは、年限を待たねばなりません。どうにか七段を頂きましたが、その間身が縮む思いが何回となくありました。

それでも、理事長を八年、副会長を四年、会長を六年務めることができたことは皆様のおかげであります。とても幸せなことであつたと感じております。在任中の記憶に残る事業は次のことを挙げることができます。

理事長を引き受けた直後の大事業は、全国ネンリンピック徳島

大会の開催です。剣道交流大会会場は、遠藤一美会長が絶大な支援をしてくれたおかげで完成したばかりの阿南市の総合スポーツセンターでした。

大会実施、宿泊先の調整、輸送計画、大会スタッフの役割展開など未知のことばかりでしたが、多くの方々の力の結集で成し遂げることができました。

全国中学校総体剣道大会が鳴門市の県立体育館で開催されました。準備には中体連の白木洋一先生が数年前から取り組まれ、これまた多くの方々の力の結集で無事に開催できました。

全国スポーツ少年団剣道交流徳島大会が鳴門市の県立体育館で開催されました。先催県に視察を行い、県体育協会の方々と歩調を合わせ、時間の迫りくる焦りを感じながらの企画実施でした。

平成十八年に教育基本法が改正され、武道が正課授業に取り入れられました。当時、教育委員会の石井博先生から適宜適切な事柄を教示されたことで、武道種目に剣道が含まれていたため、剣道連盟では、いち早く対応を考え、県下各支部長を主体として、管内中学校を訪問して剣道について啓発活動を行いました。その結果、県下中学校の六十八パーセントが剣道を選択し、武道授業がスタートできたことは全国的に見ても希有な実績でありました。渦潮高等学校において、スポーツ科学科が創設されましたが、創設当時は剣道は含まれていませんでした。そこで県教育委員会関係者に陳情を重ね、剣道が採用されることとなり、現在に至っています。

居合道の全国審査会並びに講習会の徳島県開催があり、事前に先催県への視察から準備活動を行い、徳島市立体育館で無事開催できたことも記憶に新しいところです。

六、有功賞は大きな節目

齢八十一歳が始まったところで、価値ある有功賞を頂いたことはわが人生にとって大きな節目となりました。これまで色々な支援をいただき、色々な経験を踏まえて今日がありますが、言葉にすると「剣縁は幸慶」であったと感じております。

年齢を重ねると、なってみないとわからないということがあります。身体的には、行動の遅劣が巡ってくるのがわかります。

ここで新たな気分で取り組んでいることを挙げると次の三つになります。

一つは、これまで続けてきた剣縁で得た全てを、子供たちに伝承していくこと、二つには、徳島の剣道史が形作られるように取り組むこと、三つには、徳島市内に全国大会が開催できる大武道館の建設を実現すること。

この三つの思いが、恩返しと使命であるとの思いで取り組んでまいる所存であります。



この胴は筆者が剣道を始めた時に使用していたもの

少年剣道教育奨励賞

少年剣道教育奨励賞を受賞して

立江剣道教室 代表 原 知 永



この度は全日本剣道連盟より立江剣道教室が「少年剣道教育奨励賞」を頂きました。推薦して頂いた剣道連盟の先生方に心より感謝申し上げます。

現在の立江剣道教室があるのは、明治四十二年に石丸米蔵先生が立江尋常高等小学校に勤務され、小学生に剣道を御指導されたのが始まりであります。昭和五十四年からは私の小学生時代の師である山越先生が御指導されておられました。

今も昔も指導者の先生方、保護者の皆様は仕事や家事の大変な中、子供達の為に貴重な時間を使って頂き、本当に感謝しております。

現在、立江剣道教室は火曜・土曜・日曜の週三回、立江小学校体育館を使わせて頂き、練習をさせて頂いております。

「剣道即生活」を理念に生徒も指導者も剣道の上達、指導の上達を練習中も練習外も考え、答えを探しております。

まだまだ私達は学ぶ事が沢山あり、日々精進して参ります。最後になりましたが、今まで立江剣道教室と剣を交えて下さった方々、御指導下さった先生方に心から感謝の気持ちを伝えたいと共にお礼とさせていただきます。



少年剣道教育奨励賞を受賞し

吉野川少年剣道教室 片山 聖也



この度、吉野川少年剣道教室（以下「当教室」という）が全日本剣道連盟より『少年剣道教育奨励賞』戴きました。大変名誉なことであり、指導者及び・団員・OB・保護者一同心より厚く御礼申し上げます。

申し上げます。これもひとえに徳島県剣道連盟会長の藤川和秋先生をはじめ多くの諸先生方と剣道関係者各位のおかげと心より感謝申し上げます。また、この受賞は当教室に関わる小学校及び地域の皆様のご支援、ご協力によるものでもあり、深くお礼申し上げます。

当教室は、平成二十四年に私の父である片山尊史が富永ますみ先生、上田裕則先生、鳴滝朝希先生の三名の先生と共に「直心是道場」の道場訓の下、先生、生徒、保護者計十六名により吉野川市で発足し、当教室のマークである『剣菊』は発足当時の人数である十六本の剣で構成されております。

発足時は十名ほど居た生徒が、少子化の影響もあり一時期は四名になったこともありましたが、令和三年、父から私へ道場を継承し、熱心に先生方が指導を行っていただいたおかげで、ありがたいことに現在は二十五名になりました。

当教室は発足当時から礼儀作法や道具の扱い方などを指導するとともに、剣道の基本を中心とした稽古を行っていましたが、新たに、私が幼少期に剣道を指導して頂いた平尾勝美先生、笠井恵之先生及び父の教えを軸に、人としての教育を加えて指導することを道場理念として制定しました。よって、この剣道教育を長く後世に継承していくことも道場の務めだと思っております。この多様性の時代にならない剣道教育と、一人一人に合わせた指導方法でたくさん子ども達が自立した立派な社会人になり、剣道を一生続けてくれることが私の願いです。

この度の受賞は、厳しい稽古を乗り越え、努力している子供達、また剣道指導にご尽力いただいている指導者の先生方、そしていつも子供達を応援しご協力くださっている保護者の皆さんへの賞だと思っております。

今後とも微力ながら、徳島県剣道連盟発展のために、道場全員で頑張っていきたいと思っております。

最後になりましたが、今回の受賞に際し当道場を推薦していただいた徳島県剣道連盟の先生方、並びに当道場で指導を行っていただいている指導者の先生方、また道場の活動にご理解、ご協力いただいております小学校を始め地域の方々に深く感謝し、今後益々のご発展と諸先生方のご健康とご多幸をお祈りいたしまして、受賞のあいさつとさせていただきます。



スポーツ功労賞

スポーツ功労賞をいただき

鳴門支部 竹 内 佳代子

この度、徳島県スポーツ協会功労賞をいただきました。ご指導をいただいたすべての方々への感謝の気持ちと共に、責任の重さも実感しています。ありがとうございます。

私は小学校二年生から剣道を始めました。今年で剣道歴五十四年になります。改めてその年月の長さを感じます。その間に、様々な方々との出会いがあり、多くのことを学ばせていただきました。剣道を続けてきて本当に良かったと心から思っています。

今年の一月二日、突然左膝を負傷しました。歩くこともままならない状態になり、とても不安でした。病院では、膝軟骨がすり減っていることによる痛みだからと、人工関節の手術を勧められました。その時頭によぎったのは、「剣道ができなくなるのではないか」ということでした。それから、剣道ができるようになりたいという一心で、鍼治療に通ったり、太ももの筋肉を鍛えるために筋トレを行うなど、様々なことを試みました。まだ痛みはあるものの、二ヶ月経ってようやく防具をつけて剣道ができるようになりました。まだ以前のように足を動かすことはできませんが、

剣道ができたことが嬉しくて、改めて私の生活に剣道は欠かせないものだと感じました。

年令と共に、できないことが増えてきます。剣道が続けられている多くの先生方も、怪我や体力の衰えをたくさんの方力で克服し、乗りこえてきたのではないのでしょうか。高齢の先生方が活躍されている影には、若い時以上の努力があることに気づきました。そんな先生方に少しでも近づけるよう、私も努力を続け、生涯剣道を目指したいと思っています。

私は、剣道の練習では自分自身に厳しさを求めています。それをのりこえた後に味わえる充実感が好きだからです。現在私は、再任用で大麻中学校に勤務しています。部活動の指導の中で、苦しくても手を抜かず、全力で取り組むことの大切さを伝えることで、生徒たちにも頑張った自分に出会える楽しさを感じてほしいと思っています。そしてそれは、不測の事態や困難に直面した時に常に希望をもち、自分ができるベストを尽くすことができる力につながると思っています。

そして今、改めて剣道を続けてきて良かったと思うことは、剣を交えることで年令や性別にかかわらず、人とのつながりがもてたということです。大学の先輩や同期の仲間と集まったの稽古会は、毎年の楽しみになっています。また、今教子と同じ職場で勤務をしていることも、私にとってはとても幸せなことです。SNSの普及やコロナ禍の影響で、現在は人とのつながりが希薄になつていると言われています。そんな時代だからこそ、生徒たち

にも剣道を通して、お互いに切磋琢磨しあえる仲間と出会ってほしいと思っています。そして人との温かいつながりを大切にできる人になってほしいと願っています。私自身も生徒たちとの出会いを大切にし、これからも剣道の指導を続けていきたいです。

スポーツ功労賞に推薦してくださった徳島県剣道連盟の先生方の思いに応え、少しでも剣道の発展に貢献できるようにこれからも精進していきます。今後ともご指導、よろしくお願い致します。



生涯スポーツ賞

生涯スポーツ賞を受賞して

高齢剣友会 泊 利 治



令和六年二月十一日、徳島県スポーツ協会より令和五年度生涯スポーツ賞を頂きました。昨年十一月、剣道連盟事務局の木下先生より電話があり、「受賞候補に挙がっています。申請書を送りますので早急に対応して下さい。」とのことでした。私の剣道歴は浅く、過去に受賞された先生方のように実績も功績もないので、受賞できないだろうと、軽い気持ちで書類を出しました。しかし、思いがけず受賞することとなりました。これも、徳島県剣道連盟の役員の先生方のお陰であり、厚くお礼申し上げます。

私の剣道との出会いは、不謹慎ではございますが、お酒です。昭和六十年、飲み友達と町内のスナックで飲んでいました、いつも豪快に飲んでいて高年齢のグループの人と会いました。飲んでいられるうち意気投合し、話していると剣道の稽古帰りとの事でした。毎週金曜日の夜で、その人は名西支部の重井好高先生、阿部善治先生、美馬政雄先生でした。私は剣道がしたくなり、一人では不

安なので飲み友達三人を誘って、美馬先生にお願いして名西支部で稽古する事になりました。

それは昭和六十一年一月の雪のちらつく寒い夜でしたが、支部の先輩の先生方は温かく迎え入れてくれました。その夜から素振りすり足の練習を始めました。始めてから一ヶ月位たったころ、そろそろ防具をつけてみたらと言われ、私は防具をつけましたが、私が誘った三人は次々とやめてしまい私一人となってしまいました。幸いにも私より六ヶ月くらい前に稽古を始めた人がいたので、その人と稽古を続けました。

しばらくすると美馬先生から「剣道を続けるためには、段は取らなアカン。」と言われ、挑戦することにしました。そこで、週一回の稽古では不足なので、もっと稽古をしなくてはと思い、徳島右武館の重井好高館長にお願いして入門させていただくことになり、火・木・土曜日と支部の稽古日と合わせて週四日稽古することになりました。右武館道場では、少年は午後六時から、大人は午後七時三十分が始まります。支部の先生方や、道場の先生方の熱心な指導により、二級から始まり四段まで順調に合格することができました。右武館では四段取得すると授業料は免除され、道場の教師となります。それからは六時から子供たちの指導に当たります。指導というより私が学ばせてもらうものがたくさんあったように思います。五段審査に合格したとき支部の野口直之先生が「歳いって始めて真面目によく頑張ったな。これ貰ってくれるで。」と言って範士九段、中倉清先生の色紙をいただきました。

今でも大切に飾ってあります。

私が高齡剣友会に入会したのは退職四日前の木曜日に道場で稽古をしているとき、阿部先生が高齡剣友会の役員会帰りだと言、「泊君。高齡剣友会に入会手続きして来たよ。」と言われました。その時はピンとこなかったですが、その二日後の土曜日、先生が急逝されました。私は高齡剣への入会の返事もせずそのままにしておりますと、事務局の南先生から「阿部先生の遺言と思って入ってください。」と言われ、入会して現在に至っております。

六十五歳からは徳島県スポーツ協会主催の高齡者剣道教室で白木先生の指導を受け、稽古に励んでいます。七段を目指し審査申請した七十四歳のとき稽古をしている最中に腕が痛くて上がらなくなり稽古が出来なくなりました。検査の結果、腱板断裂、剣道は無理、無理したら必ずまた切れると診断されました。毎日リハビリに通い、木曜日の稽古日には必ず見取り稽古に通うことに決めました。稽古を休んだのは三年間で三日ぐらいだと思います。その間、高齡剣友会とも切れてはいけないと思い、南部・西部錬成会には出席し、見取り稽古、夜の懇親会には出席しました。その席で阿波支部の出口先生が「早く元気になってくださいよ。」と励ましてくれました。また、笠井勝先生が亡くなった時の『徳島の剣道』の追悼文の中に私と笠井先生を六段昇段の目標にしておりましたとありました。こんな未熟な私でも目標にしてくれる人がいるのかと感動しました。心が折れそうだった時だけにこんなに思ってくれる人が居るんだったら私も頑張らなくてはと勇気

が湧いてきました。まだ、七段の目標は達成していませんが、目標に向かって体の続く限り頑張りますので皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



令和5年度 徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名	No.	女 子	学 校 名
1	大 和 希 輔	那 賀 川	1	樫 原 空	小 松 島
2	林 巧	那 賀 川	2	中 野 朱 音	小 松 島
3	北 村 直 路	那 賀 川	3	松 浦 遥	小 松 島
4	村 瀬 絆	徳 島	4	岩 谷 夢 羽	小 松 島
5	野 田 宗 佐	徳 島	5	西 村 渚	鳴門市第一
6	津 島 優 生	徳島文理	6	大 塚 仁 葉	鳴門市第一
7	浅 野 眺 永	徳島文理	7	吉 岡 未 徠	那 賀 川
8	大 濱 裕 輝	徳島文理	8	吉 岡 琴 祢	那 賀 川
9	渡 川 零	小 松 島	9	濱 田 百 合 愛	那 賀 川
10	川 人 陸	小 松 島	10	川 野 恵 奈	那 賀 川
11	松 本 奏 利	木 頭	11	殿 川 瀬 里	上 勝
12	坂 野 良 真	藍 住	12	六 條 瑚 子	石 井
13	豊 田 大 晴	鳴門市第一	13	北 島 光	徳島文理
14	中 川 遙 守	鴨島第一	14	米 倉 真 央	徳島文理
15	春 藤 悠 輔	松 茂	15	綾 部 杏 花	城ノ内
16	有 井 温 人	松 茂	16	前 田 優 莉	県立川島

令和5年度 徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	永 濱 聡 良	城 北
2	近 藤 正 獅	城 北
3	羽 坂 颯 真	富 岡 西
4	岡 崎 進 平	富 岡 西
5	川 口 寛 太	富 岡 西
6	細 川 賢 真	富 岡 西
7	徳 永 唯 吹	鳴門渦潮
8	受 川 諒	鳴門渦潮
9	撫 養 思 唯	鳴門渦潮
10	米 田 安 里	鳴門渦潮
11	井 川 凱 翔	鳴門渦潮
12	入 江 陸 男	鳴門渦潮
13	中 野 脩 大	阿 南 光
14	村 橋 烈	阿 南 光
15	吉 岡 健 心	阿 南 光
16	島 田 輝	阿 南 光
17	岡 輝 晟	阿 南 光
18	森 脇 康 生	徳島文理
19	内 海 翔 貴	徳島文理
20	横 手 良 祐	徳島文理
21	原 和 慶	徳島文理

No.	女 子	学 校 名
1	平 田 大 和	富 岡 東
2	武 藏 小 春	富 岡 東
3	岩 佐 ほのか	富 岡 東
4	村 田 七 菜	富 岡 東
5	玉 濱 智 花	富 岡 東
6	由 岐 中 千 智	富 岡 西
7	田 窪 飛 奈	富 岡 西
8	山 崎 光 月	富 岡 西
9	阿 井 楓	阿 南 光
10	入 江 美 帆	阿 南 光
11	古 賀 春 華	阿 南 光
12	西 崎 彩 乃	阿 南 光
13	村 田 梨 奈	城 北
14	小 山 田 奈 央	城 北
15	佐々木 希	徳島文理
16	長 尾 紗 弥	徳島市立

先生を偲ぶ

笠井選 先生を偲ぶ

阿波支部 塩 田 善 治

昭和四十八年に笠井医院を開設され、診察・在宅患者への往診さらに学校医等にと忙しい日々を送られました。後に内科を併設され笠井内科・整形外科病院として救急車の受け入れ、市場警察署の検案嘱託医などの依頼を受けて重要なお仕事をされました。晩年は孫さんの笠井弘起氏も外科医として勤務され三代に渡る医療体制が整いました。患者さんからも穏やかで気さくに悩みや話を聞いてくれて優しい人柄のお医者様と良い評判でした。

プロフィール

笠井 選

大正十三年五月十日生

徳島県阿波郡阿波町元町で生まれる

昭和二十四年三月 大阪市立医学専門学校（現 大阪市立大学

医学部）卒業

昭和二十四年四月 徳島医科大学病院インターン生として採用

昭和二十五年三月 同右終了

昭和二十五年九月 大阪市立医科大学 整形外科教室勤務
昭和三十一年十二月 大阪府高石市にて診療所開設

昭和四十五年三月 岡山県美作町 美作中央病院長として勤務

昭和四十八年三月 同右病院退職

昭和四十八年五月 現在地にて笠井医院を開設

令和五年一月七日 九十八歳で逝去される

先生が剣道を始められたのは、第三代阿波支部長の笠井博先生が実兄であり、その影響が大であったと思われます。旧制脇町中学校では範士八段の須見善富先生の指導を受けながら、滝下勝、柴田稔夫、後輩の下村富夫、細川昭典各先生方等と稽古に励まれたそうであります。卒業後は医学の道に進まれ、剣道を一旦は中断されたが、昭和四十八年に阿波町に居を構えられ、阿波支部入会後は再び竹刀を握られ、脇町の滝下先生の研心館道場において本格的に稽古を再開されました。

その後、細川昭典先生と二人で阿波少年剣道教室を設立され初代室長として少年剣士の指導育成に情熱を注がれました。基本を大事にする剣道を教えられて現在の剣道教室にもその教えが継承されています。お二人でライオンズクラブに入会し、子供たちのために西部地区少年剣道大会を開催され、その剣道大会は本年で四十九回大会として開催される予定となっています。また、先生は県剣道連盟監事として平成元年より十六年間の長きに渡りご尽力されました。

先生と出会って半世紀となりますが、先生にはお世話になったことばかりが思い起こされます。徳農生を連れて合宿をさせて頂いた時には、入院患者を移動させ、四階を生徒達の宿舎に提供して下さり、食事は病院の調理室で作って頂きました。また、中尾誠先生との阿波中・川島高合同合宿では人数が多く、地区の自治会館を借りて宿泊し、風呂と調理を先生にお願いして大変迷惑をお掛けしました。合宿最後の日には、お礼として病院の池の大掃除をさせて頂きました。ブラシで擦ってこけを落とし、大きな錦鯉を抱き上げたり、生徒と一緒に楽しい思い出となっています。また、徳島大学医学部剣道部の合宿も離れの部屋が宿泊所でした。現阿波支部長の安田先生も学生として参加し、勝沼先生も指導にいられていました。徳島県警特錬生も坂下先生引率で合宿をされていきました。

笠井先生は剣道の為に本当にお世話をして頂き、頭が下がることばかりでした。趣味も多才で刀剣・錦鯉・秋田犬・読書等、私も先生の蔵書の中から幾冊もお借りして読んだものです。ある日、先生の自宅に呼ばれて行くと、堀江幸夫先生がおいでになられていて、勝海舟・山岡鉄舟・高橋泥舟（幕末の三舟）の掛け軸を鑑賞されていました。

先生を先達として、四人で京都見物に行った思い出が今も心に残っています。有名な老舗旅館「俵屋」に宿泊して鞍馬の川床（川中に座敷を作り）に涼みながら食事をし、龍安寺・銀閣寺・池田屋などを散策したこともありました。

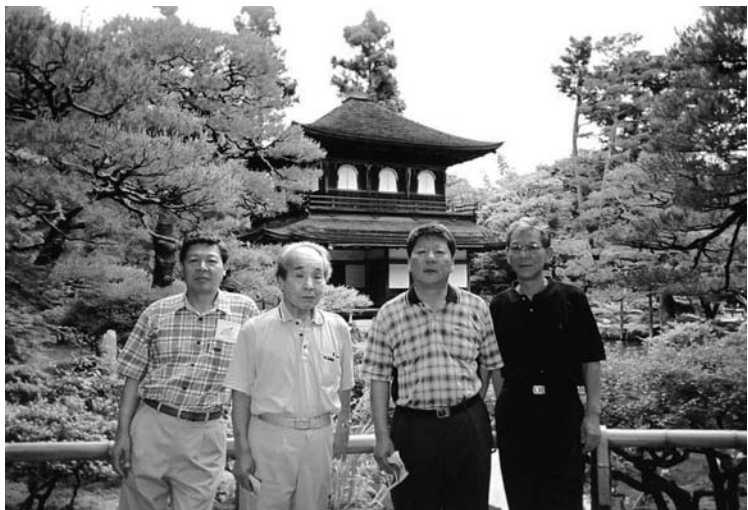
また、笠井先生には中尾先生と私がよくお供をしましたが、月に二回程風呂に行き、その帰りには手打ち蕎麦を食べて帰るのが常でした。桜満開の春には木屋平から土須峠を越えて神山の桜見物へと洒落た時もありました。

奥の深い先生を思うと私にとっては人生の師でありました。晩年の足腰が弱ってからは、娘さんに押された車椅子で吉野川の土手を散歩されるお姿を拝見しましたが、コロナの流行により一年程お会いできずに残念でありました。先生のご冥福を心よりお祈り致します。



心
あらまじ
礼
あや
あや





ありがとう笠井先生

阿波支部 藤井利一

九十八歳の天寿を全うされた笠井先生、ありがとうございました。

剣道具着装の稽古は十年程遠のいていましたが、時折、診察室まで押しかけて話す土用・中日稽古の様子、剣道に携わる諸兄と諸姉の活躍に笑顔で応じてくれました。年末、看護師さんに「先生はお元気ですか」と問いますと「はい」の返事でしたが、病院を出た所でばったり逢った近所の友人から「一年ぐらい前から調子が悪いようだよ」と聞かされ、心配していたところでした。この度、笠井先生を偲ぶ原稿依頼をお受けしたものの、たくさんの思い出があるにもかかわらず、締め切りを過ぎても納得できるものになりません。それで、笠井先生が阿波少年剣道教室室長を退任される際の謝恩会が、先生のご指導に感謝している様子を伝えるだろうと思うに至りました。お元気で面を着けての稽古指導をされていた頃です。共に偲んで頂ければ幸いです。

笠井先生への感謝の集い

平成十三年八月十二日 セントラルホテル鴨島

挨拶 阿波少年剣道教室室長 藤井利一

本日は笠井先生への感謝の集いを開催しましたところ、お

盆に関わりませずご参集頂きまして、誠にありがとうございます。本集いの世話役を代表してお礼申し上げます。

お集まりの皆様方にはお変わりなく、卒業生はたくましく、りっぱに成人してうれしい限りです。

さて、阿波少年剣道教室は昭和四十九年六月に発足しましたので、二十八年目を迎える次第です。また、朝稽古も二十六年に成ろうとしております。ライオンズ大会はこの春で二十六回を数えましたが、大会優勝に向けてしっかり練習したことで、親子での遠足をはじめとするレクリエーション等、喜怒哀楽を共にしてきたことが想い返されてきます。皆様方もそれぞれ回想されていることでしょう。まさにこの組織及び活動も成人し、次代を担う若者を育て続けています。これは偏に笠井先生が発足当初から室長として、また師範として諸先生方や保護者のご協力等の中心にあって、おおらかにご指導くださったお陰であると存じます。新年の鏡開きに始まり、建国記念日のライオンズ大会、彼岸の中日の錬成会等々、四季を感じ行事とかかわり、剣道の稽古をとおして、子供達も相手を思いやり、自己を律する人に成長してきたと思います。この度、いつも温かくお導きくださっている先生に敬意と感謝の念を表したく「笠井先生への感謝の集い」を開催した次第です。今後とも変わらぬご指導をお願いするとともに、想い出話や将来のことをおおいに語ってほしいものです。義

理人情に止まらず、子供達には夢や希望、高い志を持って新世紀を歩んでほしいのです。そして、本集いが決意も新たに次代を担う子供のために活動する二十一世紀の原点となれば幸いです。

後になりましたが、笠井先生の奥様には先生の送迎やら、私どもも何かと面倒をかけお世話になっております。いつも変わらぬお気持ちで応援してくださいましてありがとうございます。感謝いたします。

また、剣道教室保護者の方々には本集いの開催にお骨折りを頂きましてありがとうございました。お礼申し上げます。

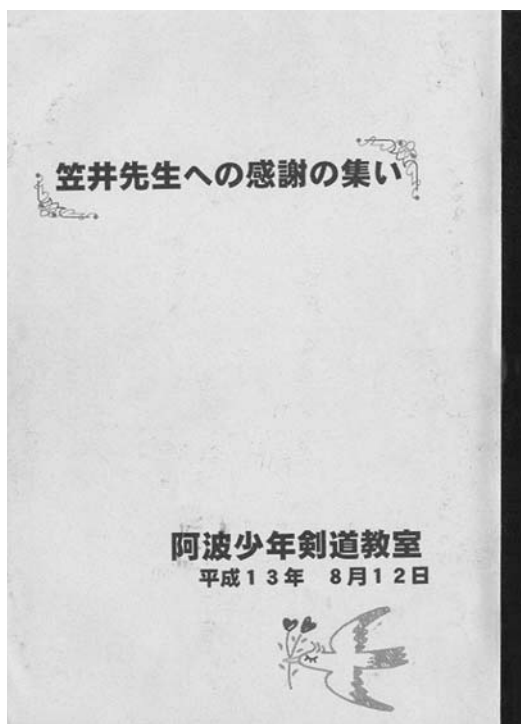
感謝の気持ちが伝わり、益々人と人との絆が強まることを祈念して、世話役の挨拶とさせていただきます。

笠井先生への感謝の集い 次第

- 一 開 会 少剣事務局 酒巻智志
- 一 挨拶 少剣室長 藤井利一
- 一 感謝のことはば
 - 小学生代表 石川雅俊
 - 中学生代表 寺井なつみ
 - 卒業生代表 兼松佳史
 - 保護者代表 酒巻義雄
 - 朝稽古師範代 中尾 誠
- 一 祝電披露

- 一 感謝状贈呈 少剣室長 藤井利一
- 一 記念品贈呈 少剣 石川雅俊
- 一 花束贈呈 林 穂奈美
- 一 国見明日香

- 一 笠井先生謝辞
- 一 乾 杯 塩田善治
- 一 開 宴 三木國弘
- 一 万歳三唱 塩田昭治
- 一 閉 会



参考 「笠井先生への感謝の集い」阿波少年剣道教室事務局がまとめた冊子。



お盆（平成13年8月12日）に笠井先生への感謝の集いを開催時、成人した阿波の剣士とかつての保護者、及びお世話をしてくださった剣道教室の保護者、中央は笠井先生ご夫妻。



笠井選先生を偲んで

阿波支部長 安 田 勝 裕

笠井選先生（剣道錬士五段、居合道錬士五段）は、令和五年一月七日にご逝去されました。先生は、昭和の時代に阿波少年剣道教室を開き、十数年にわたり指導され、多くの剣道家を育てられました。また、剣道連盟阿波支部のみならず、阿波中学校剣道部、川島高校剣道部を長年にわたり後援し、剣道連盟理事・監事を歴任され、徳島県の剣道界に多大な貢献をされました。

笠井先生との最初の出会いは、徳島大学医学部剣道部にてご指導していただいた時です。整形外科医だった先生は、土曜日の午後を休診し、その時間を利用して、蔵本地区の道場に稽古においてくれました。その時の師範が故下村先生、脇町高校の一年先輩が笠井先生でした。たまに、蔵本地区の割烹で、お酒をごちそうになりました。

四十五年前の大学時代、阿波町の春合宿に呼んでいただき、先生が経営する笠井病院の病室で寝泊まりし、阿波町民体育館で、川島高校の生徒の皆さんと、稽古した思い出があります。今では、この合宿も五〜十校の大学に声掛けして、盛大に行われるようになっていきます。

合宿途中で、下村先生が、笠井病院の離れにお越しになった際に、当時ご健在の笠井先生のお父様が、元軍人だったとのこと、

ノモンハン事件のことを話され、学生と下村先生もその話に聞き入っていました。

私が妻の実家の阿波町で、歯科医院を開業し、阿波中学校の朝練習に参加するようになり先生と、再び阿波支部で剣を交える関係になりました。

八十歳ごろまでは、竹刀を握っておられたのですが、脊椎の手術をされてからは、大会などで見に来ていただくのみでした。居合も、拝見者として、賀茂神社の正月集団演武に、参加されておりました。

先生の在りし日のご活躍、ご功績に敬意を表しますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

合掌



学生時代の唯一の写真です。後列左が、笠井先生。後列真ん中、勝沼先生。前列右端が筆者です。夏合宿打ち上げ時に

我が師匠「谷本修」を偲ぶ

徳島支部 谷本晃成

ここに、私が師匠からいただいた言葉や、師匠が剣道に懸ける想いを綴り、師匠を偲ぶ言葉として贈りたい。

小学三年生の少年が埃かぶった剣道具を身に着け、庭の木を相手に竹刀を振っている。「剣道やるか。」の一言が、佐古少年剣道クラブの始まりである。この少年が私であり、「剣道やるか。」と声をかけたのが、私の叔父であり師匠「谷本修」である。

叔父は、徳島県立徳島農業高等学校で、生涯をとおして師事した下村富夫先生に出会い剣道に打ち込み、当時は徳島刑務所で勤務していた。高校卒業後、愛媛県松山刑務所で刑務官として勤務する傍ら、剣道部に所属した。同期や先輩は、強者ばかりで全く歯が立たず、必死になって稽古に励んだと聞いた。数年後、実を結び「松山刑務所七羽鳥」と呼ばれるまでになったと嬉しそうに話したが、厳しい修練だったことは容易に想像できる。

先に述べた佐古剣道クラブの発足は簡単でなく、昭和五十年本格的に体育館を使用するまでには一年間を要した。体育館前で足幅や姿勢を崩さず、前後・左右・摺り足など足運びの稽古を繰り返し続けた。指導の基本は、小さく早く動かすことで、大人になっても同じ教えであった。「上半身は柔らかく優雅に見えるが、足は休むことなく常に水をかいている。水鳥をお手本にしなさい。」

の教えは、今でも教訓として生きている。私と弟（谷本浩志・現佐古少年剣道クラブ責任者）、近所の同級生や友達で立ち上げたクラブは、年々クラブ員数も増え、弟が六年生の時には、徳島県でも優秀な成績を収めることができ、松山刑務所勤務時代の繋がりでも、県外の大会にも招待されるなど、活動範囲を広げるとともに優秀な剣士を多数輩出してきた。

昭和五十七年、私が高校二年生の秋、高校の剣道場に師匠が現れ、さりげなく「仕事が終わったら駆けつけるので、一緒に稽古しよう。」と声をかけていただき、同級生九名は、月・水・金曜日の稽古を楽しみにした。元氣一杯の高校生九人を一人で相手し、懸かり稽古まで受けてくれた。一年経たず勝つことに無縁であったチームが、勝てるようにまで成長できたのは、師匠のお陰しか言い様がない。ちなみに、火・木・日曜日は、佐古剣道クラブの稽古日であった。

昭和五十九年、私が大学一年生の時、名古屋で開催された第一回全国剣道連盟対抗剣道優勝大会に、師匠が徳島県の大将として出場することを聞き、会場へ駆けつけて応援した。今でも思い出深い出来事が、鹿児島県の末野栄二選手との対戦である。世界選手権覇者との対戦を興味深く観戦していたが、双方ともに決定打がないままの終盤、観客席に聞こえるほどの打撃音がした師匠の小手が決まったかと思っただが旗は上がらず、末野選手の手で勝負が決まった。何よりも、観客席に戻ってきた師匠のもとへ末野選手が駆けつけ、「見事な小手を頂きました。ありがとうございます」

ました。」と、挨拶に来られ、笑顔で話をする様子は、今でも誇りである。二回戦の石川県とは大将戦となったが、二本勝ちで勝利を収めた。残念ながら、三回戦は地元愛知県との対戦で負けてしまうが、本大会の優秀選手賞（全参加者から八名）を受賞し、徳島県剣道連盟の活性化に貢献した。

今回を機に、師匠との思い出を振り返るが、試合に負けて怒られたことが一度もない。その横で大きな声で叱る私の父に、「兄貴よ。簡単に言うな。勝った者が強いし、勝つための指導をしていない。勝ち負けも必要だけれど、ずっと続けられる剣道の姿勢が何より大事だ。」と試合の度に言っていた。私の息子も、年長から小学三年生まで師匠が指導した。恥ずかしながら、試合後に声が出る私に、師匠の懐かしい言葉が、繰り返された。

「剣道を通して、人間形成する。」「剣道を愛し、真っ直ぐに向き合う姿勢」は、まさに剣道の理念である。今、求められる指導方法を、当時から一貫して実践した師匠はもう居ないが、その取り組みと想いは、弟子によって次世代へと守り引き継ぎたい。



全国講習会報告

令和五年度剣道中央講習会報告

試合・審判部理事 吉 田 茂 生

開催日 令和五年四月一日・二日

場所 神戸市立中央体育館

参加者 各都道府県連一名

関係団体(各一名)



令和元年まで東西に分けて実施されて

いた本講習は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和二年度の中止を挟んで令和三年度から規模を縮小し東西一本化され、役員、講習生を合わせ総勢七十名程度が参加して行われた。

開会式冒頭、網代全剣連会長から、「昨年(令和四年度)はコロナ対策を行いながら全ての行事を実施できた。本年も緊張感を持って事業を推進したい。」旨の挨拶があり、その後、各講師による分野別の講義が行われた。

講義内容

一 大会・審査会における面マスクの着用について

令和五年五月から新型コロナウイルス感染症が五類へ移行することに伴い、試合・審査会等での着用基準が示された。

ア 試合・演武大会

○選手

面マスクまたはシールドを着用

○審判

マスクを着用しない

ただし、控え席でのマスク着用は個人の判断

○大会役員・係員

マスク着用は個人の判断

イ 審査会

○受審者

マスクまたはシールドを着用

○審査員

マスク着用

ただし、控え室でのマスク着用は個人の判断

※演武大会、高段位審査会では、高齢者の参加が多いことから、七十歳以上はマスク及びシールドを着用することを推奨

二 感染症対策ならびに剣道の安全性について 宮坂講師

新型コロナウイルス感染症が五類へ移行するに当たり、今後コロナにどう向き合えば良いのか。ワクチン接種を受けることによるベネフィット(重症化しにくくなる・合併症を起こしにくくなる)とリスク(副反応)を天秤にかけて考えることが必要であり、その上で、稽古をする際は、面マスクとシールドのいずれかを使用すること。

さらに道場の通風と換気をすることが重要である。

三 コンプライアンスの徹底について 中谷専務理事

何故コンプライアンスは重要なのか。スポーツの場合、不祥事が起こると社会がスポーツを敬遠し、人気下落する。スポンサー企業の撤退により資金源を失う。只でさえ剣道人口は減少している。剣道指導者は、剣道の理念・剣道修練の心構え・剣道指導の心構えを肝に銘じ、正しい心で指導にあたること。

四 女子委員会報告

ア 幼少年剣道の活性化及び女子指導者の指導力向上

全国で活躍している若手有名選手による体験談や模範稽古を子供たちに見てもらうなど、やる気を持たせる施策を実施。

イ 女子審判員の育成及び審判技能の向上

全日本都道府県女子大会、全日本女子選手権で審判員となる者を対象に講習会を実施。

ウ 幅広い年齢層の女性が参加できる魅力ある大会の企画

令和四年度から全日本都道府県対抗女子優勝大会を七人制（以前は五人制）として、幅広い年齢層の女性が参加できる大会としたことで、大会が大いに盛り上がった。同大会では、保育室を設置するなど、子育て中の女性の支援も行い、参加者から高評価を受けた。

エ 広報活動の活性化

女性の果たすべき役割や女性の特性を活かした正しく、

美しく、穏やかな剣道を目指すとともに、今後女子の剣道愛好家に夢と希望が届けられるような広報活動に努める。

五 普及委員会報告

山梨県、福島県の代表者により、各県の普及活動報告を行った。

ア 山梨県

小学生から高校生まで参加する県下学年別剣道選手権大会にマスメディアを入れ、テレビ番組を通じて剣道の魅力を発信した。普及への即効性は無いが、今後も地道に続けていく。

イ 福島県

部活動の地域移行に向けた取組として、市、教育委員会、学校、地域指導者との連携による複数校合同による練習会を実施するなどしている。

六 指導法

ア 講話 濱崎講師

剣道の理念に従い、剣の理法（刀法・身法・心法）を意識した正しい剣道修行をすることは勿論のこと、剣道指導者として自らを律し、師弟同行を実践し、基本指導を中心とした生涯剣道の基礎作りに努めること。

イ 実技（幼少年指導要領） 軽米講師

子供たちに剣道に興味、関心を持たせるため、漫画ドラゴンボールの悟空がスーパーサイヤ人に変身するときの気合いを用いて、「腹から声を出す練習」や「摺り足じゃん

けん」など、気剣体一致を意識した稽古法の実践指導が行われた。

七 審判法 香田講師

新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な審判法の
変更点について 鏢迫り合い解消に至る時間は、

○変更前

正しい鏢迫り合いになってから目安として3秒以内に技を出すか、分れない場合は反則とする。

○変更後

互いに技を出し、身体接触があった後、3秒以内に分れない場合は反則とする。

◇三秒以内に技が出ない場合は、

- ・正しい鏢迫り合いをしているのか
 - ・打突する意志はあるのか
 - ・分かれる意志はあるのか
- を見極め反則とする。

◇三秒以内に出された技で有効打突の要件を満たしていれば一本とする。

暫定法は、感染対策を主眼として作られたものであるが、本来の目的は試合者に正しい剣道をさせるためのものである。試合者は、接近して近間、中間になった場合は、積極的に技を出すこと。そして反則ぎりぎりの試合をするのではなく、できるだけ反則から遠いところで正々堂々と試合をす

ることを期待する。

◎まとめ

指導者は、自らが正しい剣道をし、剣道の指導を通して子供たちに人間力を高めさせることが大事である。そのために、

- ・礼法をしっかりとする。
- ・相手への感謝と思いやりの気持ちを持つことを心がけること。

八 日本剣道形 中田講師

講師から、所作・構え・理合などについての細やかな指導があったほか、「共通理解」についての説明を受けた。大切なことは、

○日本剣道形解説書及び剣道講習会資料を熟読すること。

○剣道形を指導するには、まず自ら修練を積み重ね、示範する（やってみせる）こと。

○伝統文化である剣道形を次世代に正しく伝承してほしい。
以上三点をご教示いただいた。

この内容は、令和五年五月七日（日）、ソイジョイ武道館での伝達講習会で参加者に伝達しております。この講習会には、当年度の全剣連の指導方針等が盛り込まれております。各方面の指導者の方々には、是非ご参加頂き、剣道指導に活かして頂くようお願い申し上げます。

剣道授業協力者講習会の所感

小松島支部 青木博志



令和五年九月九日、十日の両日、私は、日本武道館研修センター（千葉県勝浦市）において開催された、全日本剣道連盟（以下「全剣連」という）主催の「剣道授業協力者指導充実・資質向上講習会講師中央オリエンテーション」に参加させていただきました。

同年五月、藤川剣道連盟会長から直々に、「九月に千葉県で全剣連主催の同オリエンテーションがあるので参加してほしい。」旨の打診をいただき、二つ返事で承諾させていただきました。しかし、私自身は、「授業協力者って何？」というほどの知識で、それから九月まで藤川会長からレクチャーを受けたり、頂いた資料を読み込んだりして、同オリエンテーションに備えたのです。武道必修化の流れは、平成二十四年に全国の中学校で武道が必修となり、柔道、剣道、相撲のいずれかを選択して授業を受けることになりました。その後、平成二十九年に、中学校学習指導要領が改訂され、令和三年から全面実施の運びとなり現在に至っているという経過で、中学校からの要請により、剣道連盟が授業協力者を派遣しているのです。

私自身は、その間、少年剣道に携わっていて、中学校の剣道の

授業に、高段者の先生が指導に行っていることを何となく知っていたものの、前述のような流れで中学校の授業が変わっていることについては、あまり関心が無かったというのが実情でした。今思うと、もう少し関心を持つべきだったと反省しています。それが今回、このような形で私自身に巡ってきたことで、全剣連が真剣に取り組んでいる重要な施策であることを肌身に感じる機会を得ることができたのです。

開講に当たり、全剣連の中谷専務理事からの挨拶の中で「全剣連はこの取り組みに力を入れている。皆さんの力添えが必要。充実した講習にしたい。」というお話がありました。剣道人口の減少を食い止めるための「ガバナンスの強化」と「コンプライアンスの徹底」について熱く話されていたことが非常に印象に残り、「このオリエンテーションの肝はここやな。」と直感しました。その後は、百鬼先生、軽米先生等、各先生の講話や、山神先生の実技指導が続きました。

二日目は、各県における授業協力者の運用状況について討議したり、公開授業の報告などがありました。授業協力者の要請がない府県が多数あることがわかり、まだまだ前途多難な制度であると感じました。全剣連が、スポーツ庁委託事業として受け、国民に剣道の良さを再認識してもらうための取り組みとして漕ぎ出した施策であると、わたしは認識していますが、この施策を成功に導くには、当たり前のことですが、これに携わる全ての関係者が真摯に取り組む姿勢が必要であると感じました。

折しも、台風十三号の影響を受け、初日の開講時刻が三時間も遅れ、予定の時間割が大きく変更されて、時間にして六、七時間程度の講習ではありましたが、実に内容の濃い、有意義な講習でありました。

今回、走り走りの座学と実技指導で、さわり程度しか授業を受けられなかったことと、予定されていた他県の先生方との回り稽古が出来なかったことが、大変残念でなりませんでした。それでも、鳥取県剣道連盟理事長の山根國弘先生と相部屋になり、剣道談義などして有意義な時間を過ごせたことはよかったと思います。

今後、この施策がどのように進展し、中学校の剣道授業の充実と相まって、剣道人口減少に歯止めを掛けることができるか。なかなか難しい課題であり、根気のいる作業ではありますが、創意工夫と努力により、何とか成果を挙げなければいけないと感じているところです。



第四十七回全国高等学校・中学校 剣道（部活動）指導者研修会

高体連 河野 寿 仁

期 日 令和五年十月七日（土）～九日（月）（二泊三日）

会 場 日本武道館研修センター

参加者 高体連・中体連からそれぞれ各都道府県一名ずつ

この度、日本武道館・全剣連・全国高体連剣道専門部・日本中体連剣道競技部の主催で行われる本研修会に、中体連の谷口拓馬先生（木頭中）とともに参加させていただきました。コロナ禍により、ここ数年は中止や規模を縮小して高体連のみで実施するなどの状況でしたが、久しぶりに従前の形での実施となりました。また、以前は年始の一月四日から六日に実施されていましたが、今回から十月開催と日程変更になりました。

以下、今回の研修会の内容を簡単にご報告させていただきます。

一 日 目

○開講式

・本研修の日程や内容、歴史や意義についてのお話、講師紹介があった。

・主任講師の畷末範士をはじめ、谷範士・山中範士など、十九

名の講師の先生方に三日間ご指導いただくこととなった。

○教養講座「部活動の地域連携・地域移行と

地域スポーツ環境の整備について」

特別講師・スポーツ庁 奥田 敬 先生

・少子化・人口減少にともない、部活動の継続は困難になっている。↓それにより、中学校における合同部活動実施チームは増加傾向にある。

・部活動の意義、課題を改めて考えることで、将来にわたり、生徒がスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保してあげることができる。

・また、そういった環境を整えてあげることが、地域住民にとって「まちづくり」にもつなげることができる。

・各都市の実際の事例にふれることで、今後の地域移行の具体的なイメージをもつことができ、部活動指導に役立てることができると感じた。

○実技指導法 講師・畷末秀一範士

・まずは構えの要点から、素振りを意識するべきこと（振りかぶりや剣先が下がらないこと・先の振り込みなど）をご指導いただいた。

・面をつけてからは、二人一組となって、基本技（メン、コテ、ドウ、ツキ、二段技等）を行った。一つ一つの基本技で意識するポイント（間合い取り、間の詰めや攻め入り、有効打突の要件を意識すること、刃筋正しく、等）をご指導していた

だった。

○実技研修

・まず、受講生を年齢・段位に分けて回り稽古を行った。その後、講師の先生方が元立ちになり、指導稽古を行った。全国の八段の先生方に稽古をお願いできるありがたい機会でした。最後に、「恒例」の打ち込み稽古、かかり稽古、追い込み稽古を行い、終了した。

○その他

・今回、宿舍の部屋割は同校種・同世代の四人部屋となっており、日頃あまり接する機会のない他ブロックの先生方とも情報交換をしたり親睦を深めることができた。

二日目

○朝稽古

・朝六時より全体で準備体操等を行い、講師の先生方に指導稽古をしていただいた。

○日本剣道形・木刀による剣道基本技稽古法

講師…谷 勝彦範士・山中洋介範士

・初めに日本剣道形についてのお話をされた。現在、日本剣道形は、「昇段審査のために行う」といったイメージをもっている人も多い。しかし、実際の形の稽古は、剣道の技能等を向上するために必要なことであり、形の理念や歴史、所作事や刀法などを意識して日頃から稽古すべきであるといったこ

となどをご指導いただいた。

・その後、一本ずつポイントをご指導いただきながら、実際に形を行った。形を行った後の指導稽古では、相手と合気で構え合う中で今までの自分とは違った感覚があり、形の必要性について実感することができた。

○審判法

・初めに寫末範士から、まず大原則として、剣道試合・審判規則の第一条に則って行うこと。そして、有効打突の見極めが最重要であり、そのために三人の審判がしっかり連携（位置取り、有効打突についての意思疎通など）をして行うこと、などについてお話があった。

・その後、中学校・高校に分かれて、試合者・審判・係員に分かれて実技を行い、様々な場面についてその都度細かくご指導いただいた。まずは所作事を正しくすることや先読みをした適正な位置取り、最も重要な有効打突の見極めの要点（要件を満たしているか。開始直後の技や引き技を見落とさない。後打ちの技の見極め。など）。また、新型コロナウイルスが収束するまでの暫定的な試合審判法の要点などについて再認識することができた。

○実技研修

○情報交換会

一、【研修】体罰、セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント等の禁止について具体的な行動や過去の事例に触れ、

絶対に行ってはならないことを再認識することができた。

二、【情報交換会】今後の部活動のあり方について

・中学校・高校で五〜六人程度のグループをつくり、情報交換を行った。

・少子化問題にともなう部活動の存続については、団体戦に出場できない問題や、専門の先生の不在にともなう指導力の偏りなどの意見があがった。

・部活動指導員制度の導入や地域移行による部活動の存続については、肯定的な意見も多かったが、更なる格差問題や、怪我をした際の責任の所在などの課題があがった。

・現在の部活動が抱えている諸問題については、生徒の数の減少や、働き方改革にともなう教員の負担などがあげられた。

三日目

○朝稽古

○実技指導法

・昨日の基本技の確認をした後、応じ技を行い、間合い取りや技前の攻め、出端技・擦り上げ技・返し技などのポイントをご指導いただいた。

○実技研修

○閉講式

・三日間の研修を終了した証として、修了証をいただき、嵐末範士より講評をいただいた。その後、日本中体連剣道競技部

長の山下克久先生よりご挨拶をいただき、全日程を終了した。今回の研修会に参加し、素振り・基本技・応用技・日本剣道形・木刀による剣道基本技稽古法・審判法や八段の先生方による指導稽古などを通して、日頃、生徒たちに指導をしていることを、改めて自らが体現することで、まさに初心に帰る思いでした。今後の生徒たちへの指導と自らの剣道修行に生かしていきたいと思えます。



剣道に役立つ医学知識

マメができる原因と対処方法

徳島県剣道連盟 医・科学委員長 佐々木 克 哉



剣道は全身を防具で武装しているため比較的大きな怪我の少ないスポーツと言われています。しかし、基本的に裸足で行い、常に竹刀を握りしめていることから足裏、手の内にマメができて潰れて非常に痛い思いをすることは剣道を続けていると誰もが経験していると思います。今回はマメができる原因と対処方法について簡単に説明いたします。

マメとは足の裏や手の内が短期間で擦れ、そこに体内の水が集まってできるもので火傷の一種です。左足で踏み込むたびに摩擦により皮膚に力が加わり、皮膚の表面の表皮部分と奥にある真皮部分が剥がれます。擦れた皮膚は火傷のように赤くなり、隙間に水が溜まってマメとなります。マメが酷くなると水ぶくれや出血、痛みを伴う外傷になるので早めに対処する必要があります。皮膚の痛覚神経は真皮にあり、通常は表皮で覆われているため接触しても痛みがありませんが、マメが破れて真皮が露出すると激しい

痛みがあり、十分にパフォーマンスを発揮できなくなります。マメを放置しておくことで傷口から雑菌が侵入して化膿や壊死を引き起こす可能性もあるので注意が必要です。

長期間剣道から離れていた人が復帰して急に激しい稽古をするとう皮膚が摩擦に慣れていないため容易にマメはできてしまいます。特に夏場は道場の床も温度が高いため火傷の一種であるマメは発症しやすくなります。日頃から毎日のように稽古を積んでいる人でも夏合宿などで短期間に長時間の稽古をすると発症してしまうので注意が必要です。

マメを作らないようにするには、足裏も手の内も摩擦を軽減することです。足袋の装着は有効です。久しぶりに長時間の稽古をするときは予め足袋を履いて稽古するか、足裏に異常を感じたらすぐに履けるように足袋を準備しておくことも勧めます。また、籠手の手の内の皮が損傷していると竹刀との摩擦で容易に発症してしまうため、防具のメンテナンスも重要です。また、剣道では正しい足技と足の使い方が重要です。足裏のマメを予防するためには、体重移動や足裏の使い方を適切に行う必要があります。足の裏全体を均等に使い、摩擦や圧力を分散させることで、マメの発生を軽減できます。また、稽古や試合前には、適切な準備運動を行うことも重要です。足裏の筋肉をほぐし、柔軟性を高めることで、マメの発生を予防できます。足裏のストレッチやマッサージを取り入れると良いでしょう。

マメができてしまった時の対処法は、基本的には水疱は破らな

の方がいいです。水疱の中には皮膚を修復する成分が含まれているためそのままにしておく方が治癒は早くなります。しかし、マメができて稽古を続けると必ず裂けてしまいます。裂けたときは創部を清潔に保つことが大切です。裂けた穴から雑菌が入ると化膿して重症化することもあります。清潔に保つには水道水による水洗いで十分です。以前はイソジンなどの消毒液で創部を消毒することが推奨されていましたが、最近の知見では消毒液は創傷治癒遅延をきたすことが知られており推奨されていません。稽古が終わるとお風呂で洗浄するのが望ましいです。洗浄した後に清潔なガーゼなどを当てておく、あるいは市販のキズパワーパッドのようなハイドロコロイド製剤を貼り付けておくのもよいでしょう。マメが裂けた状態でも稽古を続ける必要がある場合は、創部をしっかりテーピングしてその上から足袋を履くことを勧めます。稽古が終わると放置せずに洗浄して創部の清潔を保つように心がけてください。また、マメから白い膿汁のような液が出てくると感染している可能性があるので早めに皮膚科専門医を受診しましょう。



大会・行事所感

令和五年度

「骨太」四国ブロック講習会報告

理事長 福 多 雅 英

全日本剣道連盟では、全国各都道府県の中核として次世代を担う男女青年層の剣士を選抜し、我が国の伝統と文化に培われた高い水準の本質的な地力を備え、剣道を正しく伝承・奨励しうる骨太な剣士を育成する事を目的として、全国を九ブロックに分けて講習会を実施しています。四国ブロックでは本年度、徳島県が担当し開催しましたのでその概要を報告いたします。

期日 令和五年十月二十一日(土)・二十

二日(日)

場所 鳴門ソイジョイ武道館

全日本剣道連盟講師

古川和男範士、東良美範士、石田利也範

士、平尾泰教士、村山千夏教士

主管剣道連盟指導者

近藤巨教士、平野誠司教士

開催県役員

米倉滋副会長

講習生 四国各県から選抜された二十七歳

以下の男女各二十名以内(各県男

女五名以内)。三十八名参加(香

川十名・愛媛八名・高知十名・徳

島十名)

十月二十一日

13:30開講式

・古川強化本部長挨拶

・徳島県剣道連盟 米倉副会長挨拶

準備体操

・庄野受講生の号令により場内をランニン

グした後、準備運動を実施。

礼法・素振り(平尾講師) 13:50

・正座、座礼、立礼、提刀等の礼法の確認。

「素振り指導」

・『前進後退正面素振り』

振りかぶりは約四十五度。足捌きは素早

く引きつける。発声を意識。刃筋を意識

し、右手は肩の高さに左手は水月まで下

ろす。

・『左右面素振り』

握りを変えず刃筋正しく。相手をつくつ

て刃筋の確認をする。

・『足を左右に開いて正面打ち素振り』

目付を下げない。肩に力を入れない。

・『早素振り』

早く振っても振りかぶったときに剣先が

下がらないようにする。

・『股割り素振り』

足を開いて膝を曲げて足指の方向に腰を

下ろし、竹刀は水平に下ろす。

・『足を左右に組み替えて素振り』

早く振っても振りかぶる際には剣先を下

げない。

基本稽古(平尾講師) 14:50

「切り返し指導」

・遠間から発声し、攻めて一足一刀の間合

いから足を継がずにすり足で打つ。正面

打ち、前進四歩、後退五歩で左右面を打

ち、最後に正面打ちをし振り返って残心。

・早く振るより正しく、大きく行う。刃筋

正しく四十五度の角度で打つ。

・切り返しは元立ちが主であるのでしっかり受ける。

「基本打突」

・『一足一刀の間合いから面打ち』足を継がずに踏み込む。

・『一足一刀の間合いから小手打ち』攻めて空けてくれたところを打つ。

・『一足一刀の間合いから胴打ち』打突したとき左足の太ももを立てるようにする。

・『一足一刀の間合いから突き』竹刀の表鍔で相手の竹刀を表から押え、押し返されたところを裏から突く。逆に裏から押さえ押し返したところを表から突く。

・基本打突は姿勢を崩さない。顎を上げないこと。隙をつくらない。

互格稽古 15・40

「受講生による回り稽古」

・短い時間で縁を切らないで攻防する。引き上げをしない。

指導稽古 16・20

・『講師元立ちによる指導稽古』四十分実施。面を着装した状態で早素振り百本。

十月二十二日

8・30 第二日目開始

・庄野受講生の号令により場内をランニングした後、準備運動を実施。

基本稽古

「素振り指導」(東講師) 8・50

・『正面打ち素振り』前後左右に足捌きをしなが実施。一拍子で行う。

・遠山の目付を意識して行う。足捌きが伴うと効果が上がる。

・『前進後退左右素振り』臍下丹田を意識し、肩の力を抜く。

・打突の時右手を絞すぎない。右手に力が入りすぎると刃がなくなる。

・『左右開き面打ち素振り』必ず左手は正中線に置く。姿勢がよくなるようにする。

・『早素振り』振り抜くことが大事。足捌きをおろそかにしない。

「剣道具についての注意」

・袖の短い稽古着、短い面垂れ、筒の短い小手は怪我の原因となる。

・面紐は結び目から四十cmの規定。腰紐は真結びや縦結びはだめ。

・不備な竹刀は使用しない。

面を着装 9・40

「仕掛け技」

・送り足での切り返しと踏み込み足での切り返し。一呼吸の切り返しを行う。

・『正面打ち』

攻めて前に↓相手が後退後少し前になる↓ためて面を打つ。

・『小手打ち』攻めて前↓相手が後退後手元を上げて前になる↓ためて小手を打つ。

・『突き』表から攻めて下から裏に回して突く。

「応じ技」

・『面すり上げ面』『面返し胴』『小手擦り上げ面』『小手返し面』実施。

・最初すり足で行い、踏み込み足で打つ。元立ちはしっかり打突部位を打つこと。

・『面体当たり引き面』『面体当たり引き胴』実施。元立ちが半歩踏み込み体当たりをしっかり受け止める。

「打ち込み稽古」元立ちが技を引き出す。

「掛かり稽古」自分から一本を取りに行く。元立ちは捌く。

互格稽古 10・40

「受講生による回り稽古」

- ・ 相手をつくり三回実施。鏝競り合いからは早くしっかり間合いをとること。

指導稽古 11・00～11・30

「講師元立ちによる指導稽古」三十分実施。

午後の部

基本稽古（平尾講師） 13・10

- ・ 庄野受講生の号令により場内をランニングした後、準備運動を実施。

「素振り指導」

・ 『前進後退正面打ち素振り』

足の引きつけに注意し一拍子で打つ。後退するときに足裏を見せない。

・ 『前進後退左右面打ち素振り』

刃筋正しく、目の前に相手がいると想定して実施する。

・ 『前進五本後退五本正面打ち素振り』

振りかぶったときは、剣先を下げない。鏡を見て修正する。

・ 『前進しての正面打ち素振り』二十本連続

振り下ろしを素早くする。振りを大きく

左手の小指をしめる。

・ 『早素振り』

足捌きを前後大きく。自分の剣道が小さくならないようにすること。

面を着装 13・30

・ 『切り返し』

一回目はすり足で、二回目は踏み込み足の切り返し。

・ 『一息の切り返し』

振りを大きく、回数多く振ること。常に呼吸を意識する。

「仕掛け技」

・ 『攻めて相手が後退したところを面打ち』

素早く振り返り次の体勢をつくる。

・ 『攻めて相手の手元が上がったところを小手打ちと胴打ち』

・ 『表を攻めて裏から突き』、『裏から攻めて表から突き』

「応じ技」

・ 『面すり上げ面』『面返し胴』『小手擦り上げ面』『小手返し面』実施。

決まらない場合は次の技を出すこと。胴

打ちは諸手でしっかり打つ。

互格稽古 14・15

「受講生による回り稽古」三十分回り稽古を実施

- ・ 自分の間合いを意識して打つ。思い切った技を出す。応じ技もしっかり打つ。一本勝負のつもりで緊張感を持って稽古する。

る。

「打ち込み稽古」しっかり強く打つ。元立ちは体勢を崩さない。

「掛かり稽古」疲れたときに蹲踞等の礼法が疎かになっている。

・ 一息の切り返しと面を装着した状態で早素振り五十本で稽古終了。

閉講式 15・00～ 全日程終了

・ 受講生代表の徳島県庄野受講生に古川強化本部長より修了書が交付された。――

・ 古川強化本部長挨拶

「二日間、熱心に受講していただき、礼法を始め基本技等において格段に良くなっている。身に付いた正しい基本を持ち帰り、立派な剣道を伝達して欲しい。」

総評

四国各県から選抜された二十七歳以下の

受講生に、全日本剣道連盟から派遣された講師陣と地元講師から二日間にわたり指導が行われた。実施内容は、講習会全般を通して、礼法・所作の徹底や基礎・基本動作についての一貫した指導であった。講師からの丁寧な説明と的確な助言、さらに基本に忠実な示範によって受講生にとっては、大変理解しやすく剣道の基礎・基本を学ぶ良い機会となった。

また、指導稽古においては、講師の先生方の『正しく・強く・美しい』剣道を体感することができ、今後の剣道修行上の大きな糧となったと思われる。

本講習会は、若手剣士の競技力の向上だけだけでなく、地方における正しい剣道の普及・発展においても重要な意味を持つ取り組みであると考えられる。受講生は、講習会で学んだ事を今後の自分の剣道修行に役立てると共に、各地に持ち帰り、基本に忠実な正しく・立派な剣道の普及・発展に努めていただることを期待する。

ドイツ・ニーダーザクセン州 剣道連盟との剣道交流

理事長 福多雅英

徳島県とドイツ・ニーダーザクセン州は、二〇〇七年九月に友好交流提携を結び様々な分野で交流を進めています。スポーツ交流の一環として剣道についても交流事業が実施されています。

コロナ禍による中断を経て、本年度ドイツから五年ぶりに四回目の交流団をお迎えし、剣道交流を実施いたしました。これまでの剣道交流は、二〇一三年にドイツから四名が来県して始まりまして。二〇一四年に徳島から米倉滋先生と近藤亘先生が訪独。二〇一五年にドイツから三名が来県。二〇一六年に徳島から米倉滋先生と私が訪独。二〇一八年にドイツから四名が来県して剣道交流をしています。来年度（二〇二五年）、本県からドイツに派遣される予定です。

この事業は、徳島県未来創生文化部のスポーツ振興課が担当し、一週間の滞在期間

中に県庁への表敬訪問や徳島県内の旧跡名所の訪問等、徳島の文化・自然にふれる体験も含まれています。私が同行しました剣道交流について報告いたします。

ニーダーザクセン州剣道連盟から来県されたのは、会長のセバステイアン・ポート氏五段（三十五歳）、大橋英治氏五段（六十八歳）、クリステイアン・シュウエットマン氏三段（四十九歳）と女性のアナ・シャイト氏二段（二十八歳）の四名です。

セバステイアン会長は前回に続いて二度目の来県です。大橋氏は仕事の関係で四十年以上ドイツ・オルデンブルク市に在住されて剣道をされています。今回の交流では徳島県ダイバーシティ課国際交流員のラスマス・ブルクマー氏が通訳として帯同されていました。剣道交流の場では、剣道の理合や専門用語等の解釈においては、大橋氏のおかげで意思の疎通がはかれたと思います。

訪問団は十月二十四日の最終便で徳島空港に到着し、翌日から交流をスタートさせました。剣道交流事業については以下のと

おります。

25日(水) 16時30分から18時

城北高校にて高校生と交流稽古

26日(木) 19時30分から20時30分

中央武道館にて強化稽古会に参加

27日(金) 16時30分から18時

徳島中学校にて中学生と交流稽古

28日(土) 午前中

ソイジョイ武道館にて県中学校剣道一

年生大会を見学

14時から15時

松茂第二体育館にて徳島県杖道講習会

の見学と体験

19時から21時

吉野川市立川島中学校にて麻植支部少

年合同稽古会に参加

29日(日) 18時から19時

中央武道館にて徳島県剣道連盟主催の

交流稽古会に参加

30日(月) 7時25分徳島空港発の便で帰

国

交流団の皆さんには滞在期間中、時差による疲労や過密スケジュールの中、大変意

欲的に剣道交流に参加していただきました。

当初二十六日(木)の強化稽古会への参加

は予定にはなかったのですが、ご希望によ

り急遽参加となりました。基本に忠実な剣

道をされ、技だけでなく理合についても深

く学ぼうとされている姿勢に感銘を受けま

した。

学校での剣道交流では、徳島中学校・城

北高校の校長先生のご理解により部員の皆

さんと稽古することができました。

県下中学校一年生大会では、県中体連の

先生方にご協力をいただき、観戦させてい

ただきました。

徳島県杖道講習会では、貴重な講習会中

にもかかわりませず、講師の黒郷範士のご

厚意により杖道体験までさせていただきま

した。

麻植支部少年合同稽古会では、原井吉野

川市長さんが出席され、指導者の三木名

誉会長・藤川会長をはじめとした先生方や

少年剣士達と保護者の皆さんのご協力によ

り盛大に交流会を実施することが出来まし
た。

最終日の剣道連盟主催稽古会では、多く

の皆さんに稽古に参加していただき、無事

剣道交流を終えることができました。

今回の剣道交流を通して、本県剣道界に

とっては、大変有意義な事業であると思

いました。剣道試合・審判法は世界共通であ

りますので『交剣知愛』の精神のもと、竹

刀を交えて言語を介さない国際的な交流が

できます。老若男女、小学生から高齢者ま

で男女が一緒に稽古することができます。

また、少年剣士や中高生にとっては、わが

国の伝統と文化に培われた剣道が、ドイツ

剣士と稽古することで国際的に発展・拡充

していることを知る貴重な経験になったと

思います。

今後益々、交流事業が継続されます事を

祈念いたします。

最後になりますが、この度ご協力いた

きました皆様に誌面をお借りして心よりお

礼を申し上げます。ありがとうございます

た。





第二十七回

女子剣道審判法講習会

徳島支部 金 野 裕 美

令和五年一月十四日から十五日の日程で、兵庫県立武道館に於いて、全剣連主催第二十七回女子剣道審判法講習会があり、徳島県からは、平野悦子先生と私の二名受講させていただきました。

この講習会は、正しい剣道の普及・発展を考え、各都道府県の中核的指導者の立場となる女性を対象として、より高い剣道の試合・審判技術を備えた女性審判員の養成を図ることを目的として、全国から八十四名が集まり開催されました。

役員、講師の先生方は次のとおりです。

役員

全日本剣道連盟

副会長

専務理事

常任理事

神谷明文

中谷行道

試合・審判委員長（兼講師）

香田郡秀

講師

剣道範士 山崎 尚

剣道教士 清野 忍

開講式の後、香田委員長から試合・審判規則の解釈と運用についての講義がありました。

講義の内容は次のとおりです。

○審判は、試合内容を正しく判断すること。
試合者は公明正大に試合をし、審判員は適正公平に審判すること。

○有効打突を正しく見極めることが大切である。有効打突の要件・要素に当てはまるかどうか。また、技の違い（仕掛け・応じ・引き技）によって一本の質的価値を判断し決定していくこと。

○新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法運用の解説を、特につば競り合いの禁止行為の判断について、『剣道試合・審判・運営要領の手引き』9ページ2「つば競り合いについて」の文言の具現化が感染症予防に効果が大いことから、つば競り合いを正しく理解して規則を運用することが大切で

ある。

その後は二会場に分かれ、第一試合会場では山崎講師、第二試合会場では清野講師、二日目には講師が入れ替わって、お二人の講習を受けることが出来ました。受講生同士で試合を行い、審判をしながら有効打突の見極め、位置取り等の審判実技を二日間徹底のおこないました。

剣道試合・審判規則 剣道試合・審判細則を熟読して正しく運用し、試合による全ての事実を正しく判断し、決定していかなければならないと思えました。有効打突としての一本の質的価値や、剣道の特性を見落としてしまうことのないよう、判定の重大さを認識し、審判技術の向上に努めたいと思います。

今回この講習会で指導していただきました講師の先生方、ご協力いただきました本県剣道連盟の先生方に感謝を申し上げます。報告とさせていただきます。

最後の寺西杯

少年剣道大会を終えて

光武館 館長 寺 西 明 弘

令和五年十月九日、最後の第二十六回寺西杯争奪近県選抜少年剣道大会が開催されました。思い起こせば二十六年前、パーキンソン病を患いながら剣道を指導している初代光武館館長（父・寺西慶裕）の姿を見た一父兄から「館長先生のため、寺西杯を開催しませんか。」との提案がありました。そこで、保護者のあいだで、大会開催の有無についての話し合いが行われたのです。

当時、光武館は夏にモーターボート競走剣道大会を開催しており、保護者から「年間二回もの大きな大会を開催するのは負担が大きい。」との反対意見もありました。しかし、手足を震わせながら指導する父の姿に感銘を受けた保護者から「大会を開催して、恩返しをしましょう。」との意見がでて、大会を開催することになったのです。そして、平成十年十二月二十三日、近隣

の道場、中学校を招致して、第一回大会が鳴門市民会館で開催されました。第二回、三回大会はソイジョイ武道館で県下大会として開催しました。

特に、第三回大会では個人戦の参加人数を制限していなかったことから、閉会式が午後七時三十分になり、多くの人にご迷惑をお掛けしたのを覚えています。

第四回大会は保護者の方から「せっかく大会を開催するのであればもっと大きな大会にしてはどうですか。」との意見が出たので、検討した結果、四国大会として四国四県の道場、中学校に案内を送付して大会を開催しました。

平成十八年一月七日、第八回大会の前日、大会長である寺西慶裕が突然亡くなりました。大会開催をどうするか、かなり悩みましたが、父が楽しみに待っていた大会でもあるうえ、多くの方たちの支えと協力のおかげで大会を開催することが出来たのです。その結果、我が光武館道場が小学生団体戦の部で優勝を飾ることができ、父へのなによりの供養になったと思えました。

第十回大会は、徳島県の少年剣士に少しでも多くの県外チームと試合をさせたいとの思いから、西日本の道場、中学校に案内状を送付し、県下一大きな大会と変わっていったのです。

この大会が二十六年もの長きにわたり開催できたのは、参加していただいたチームみなさん、来賓、審判の先生方、お手伝いいただいた高校生のみなさんのご支援、ご協力のおかげです。心から御礼申し上げます。

また、この大会は毎年、保護者、OBのみなさんによって何ヶ月も前から広告料のお願いに企業、商店を回っていたり、大会の準備等で夜遅くまで作業していただき、保護者の皆さんの御支援無しでは運営できない大会です。本当に感謝の気持ちばかりありません。しかしながら、来年度、光武館道場は門下生が五名となり、大会運営が困難なため、やむを得ず大会を終了することにしました。みなさん本当に長い間ありがとうございました。心から御礼申し上げます。

第二十六回寺西杯争奪近県選抜少年剣道大会の結果について

小学生団体戦低学年の部

- 優勝 印南剣道場 A (兵庫)
- 準優勝 昇龍館一福道場 A (岡山)
- 第三位 京都太秦少年剣道部 A
- 洗心道場 A (愛知)
- 敢闘賞 昇龍館一福道場 B (岡山)
- 和歌山砂山少年剣友会
- 青春英龍館道場 (広島)
- 福田道場 (岡山)
- リビングヨシオカ賞
- 和田島少年剣道クラブ A (徳島)

小学生団体戦高学年の部

- 優勝 洗心道場 A (愛知)
- 準優勝 福田道場 (岡山)
- 第三位 光龍館 (香川)
- 印南剣道場 B (兵庫)
- 敢闘賞 浅羽少年剣道教室 (静岡)
- 十河剣道スポーツ少年団 (香川)
- 昇龍館一福道場 A (岡山)
- 青春英龍館道場 (広島)

中学生団体戦男子の部

- 優勝 勝賀中学校 A (香川)
- 準優勝 昇龍館一福道場 A (岡山)
- 第三位 徳島中学校 A
- 春日台剣友会 (兵庫)
- 敢闘賞 蓮昌寺道場 A (岡山)
- 浅羽少年剣道教室 (静岡)
- 青春英龍館道場 B (広島)
- 徳島文理中学校 D
- リビングヨシオカ賞
- 那賀川中学校 A (徳島)

中学生団体戦女子の部

- 優勝 洗心道場 (愛知)
- 準優勝 鳴門市第一中学校 (徳島)
- 第三位 京都太秦少年剣道部
- 光龍館 (香川)
- 敢闘賞 日亜錬心塾 (徳島)
- 小田中学校 A (愛媛)
- 印南剣道場 (兵庫)
- 福田道場 (岡山)

リビングヨシオカ賞

林剣道スポーツ少年団 (香川)



開会式の状況



唯一、徳島県で入賞した、
 中学生女子の部 準優勝 鳴門市第一中学校
 中学生男子の部 第3位 徳島中学校A



大会の準備等、お手伝いいただいた、鳴門市光武館道場関係者、
 鳴門市第一中学校、大麻中学校のみなさん

各種大会に参加して

第七十一回全日本都道府県

対抗剣道優勝大会に出場して

徳島文理高校 内 海 翔 貴



私は二〇二三年

四月二十九日に大

阪府のエディオン

アリーナで行われ

た第七十一回都道

府県対抗剣道優勝大会に徳島県代表の先鋒として出場しました。結果はチームとして

はベスト十六、個人としては三試合で二勝

一分けでした。また全体から十人しか選ば

れない優秀選手賞に選出され、全国大会と

いう大舞台でとても手応えを感じる事が

できました。

都道府県対抗剣道優勝大会は先鋒が高校

生、次鋒は大学生、五将から大将までは職

業、年齢、段位で分けられた一チーム七人

により構成される全四十七都道府県が参加するトーナメント戦です。

私は団体戦での全国大会は今回が初めてだったので、緊張しすぎないように心がけ、いつも通り今までやってきたことをすべて出し切れるように努め、日々お世話になっている先生方や家族、チームメイトに恩返しをするつもりで臨みました。

一回戦目の新潟戦は技を次々と出していく相手だったので、自分の試合の型を崩さず先を掛け続けました。試合中盤に私が場外に出てしまい、一旦試合が切れた後の初太刀に半歩間合いを詰めたとき、相手の手元が少し浮いたのを逃さず打ち、一試合目は一本勝ちを納めることができました。

二試合目は京都との一戦で、相手の選手が大きく回して小手にきていたので、出鼻を捕らえられと確信しました。駆け引きをする中であえて少し左足を引いてタイミングを計っていました。考えていたとおり、相手に小手に入ってくるところに出鼻面を二本取ることができ、二試合目は二本勝ちを納めました。



三試合目はこの大会で最終三位に輝いた千葉との一戦で、互いに試合中盤まで一步も譲らない試合展開となりました。しかし、試合終盤に相手が面返し胴か出小手を狙っていると感じたので、二段面（フェイントを入れてからの面）を打ったところ、相手が小手にきたので上から面を打つことがで

きました。しかし、その後、間合いを詰めて打った面を上手く返され、三試合目は引き分けに終わりました。

残念ながら、チームはその三試合目一本差で敗れましたが、私はこの試合で団体戦での一本の重さを強く実感しました。今回の試合を通じて、日々努力を続け、このような全国大会でも自分の剣道を思い切っ
て出す、チャレンジするということを忘れなければ、自ずと結果はついてくる、自分の力も全国に通用するんだと思いました。また、その中でも多く見つけた自分の課題や弱いところに目を向け、このような大舞台にまた立つことができるように、これからも初心を忘れず努力を続けていこうと思いました。

最後に、私は中学生の時、新型コロナウイルスの影響で試合がなくなり、高校に入っても体が小さく思うような結果を残せず、悔しい思いをし続けましたが、負けず嫌いな自分の性格も相まって、日々努力することを続けてきました。その努力に体もついてきたのか、最終的には良い結果を残すこ

とができました。このように毎日続ける愚直な練習に勝るものはなく、雨垂れ石をも穿つというように、これからも上に行くために必要なことを明確にし、コツコツと努力を続けようと思います。

〈一回戦〉

徳島 二 ― 一新潟

(先)内海 ⊙ ― 高橋

岩原 × 早川(仁)

菅 ⊕ ― ⊗中山

(中)白木 ― ⊗吉田

本田 ⊗ × ⊗早川(伸)

江口 × 高橋

(大)吉田 ⊗ ― 藤塚

〈二回戦〉

京都 一 ― 二徳島

(先)豊嶋 ― ⊗ ⊗内海

政岡 ― ⊗岩原

森本 × 菅

(中)小川 ⊗ × ⊗白木

井上 × 本田

久保 ⊗ ― 江口
(大)工藤 × 吉田

〈三回戦〉

徳島 一 ― 二千葉

(先)内海 ⊗ × ⊕阿部

岩原 ⊗ × ⊗中田

菅 ⊗ ⊗ ― 本間

(中)白木 ⊗ ― ⊕ ⊗甕

本田 × 染谷

江口 × ⊗近藤

(大)吉田 ― 鈴木

《優秀選手》

1	三将	竹下洋平	大分県
2	先鋒	内海翔貴	徳島県
3	大将	鈴木剛	千葉県
4	大将	吉留秀俊	静岡県
5	五将	山崎将治	大阪府
6	副将	林田浩志	福岡県
7	中堅	鳶村高志	広島県
8	先鋒	井上康太朗	香川県
9	大将	宮本貴之	東京都
10	大将	楠本晴之	岡山県

第十五回全日本都道府県対抗 女子剣道大会に参加して

監督 白木洋一

令和五年七月九日、東京・日本武道館で第十五回となる全日本都道府県対抗女子剣道大会が開催されました。昨年に引き続き七人制の団体戦で行われました。

本県選手団は先鋒「中村莉音」選手（富岡東）、次鋒「岩原千佳」選手（筑波大学）、五将「松本美紗樹」選手（警察支部）、中堅「長谷川愛実」選手（阿南支部）、三将「長地千景」選手（阿南支部）、副将「前田奈々枝」選手（阿波支部）、大将「竹内佳代子」選手（鳴門支部）の七人です。試合は一回戦シードで、岡山県対栃木県の勝者と対戦になります。この試合は選手全員でどちらが勝ち上がるか固唾をのんで見ていました。世界選手権出場者や全日本選手権に出場者が選手になっている強豪岡山県に対し、昨年度国体で優勝した成年女子のメンバーを要する栃木県の対戦は、大将戦で

栃木県が取り返し代表戦になりました。最後の引き分け者が代表戦になる本大会のルールで、副将同士の対戦で引き面・引き胴の打ち合いの結果栃木県の引き面が一本となり勝敗が決しました。徳島県は令和三年の第十三回大会においても、国体を翌年に控えた栃木県と対戦しており、代表戦の結果勝利しています。何か因縁めいたものも感じていたのは私だけだったのかも知れません。

試合は前半戦拮抗し、中堅・三将の勝利でリードし、大将が引き分けてまたしても栃木県に勝利することができました。これまでの強化練習や遠征が実を結んだ勝利だといえます。三回戦は大阪府との対戦で、胸を借りる思いで試合をしました。結果は四対二で敗れましたが、堂々と戦い徳島県らしい基本に忠実な剣道を貫き、ベスト十六に進出したことは今後に繋がるものだと確信しました。

最後に、今大会に向けてご支援をいただいた全ての方々へ感謝を申し上げ報告とさせていただきます。

第15回全日本都道府県対抗女子剣道大会 試合結果

〈2回戦〉

	先鋒	次鋒	5将	中堅	3将	副将	大将
徳島県	中村	岩原	松本	長谷川	長地	前田	竹内
	⊗			⊗ ⊗	⊗ 一本勝		
栃木県				⊗		⊗ ⊙	
	大河原	高松	竹中	荒井	大竹	関口	山田

〈3回戦〉

	先鋒	次鋒	5将	中堅	3将	副将	大将
徳島県	中村	岩原	松本	長谷川	長地	前田	竹内
		⊗ 一本勝		⊗ 一本勝		⊙	
大阪府	⊗ ⊗				⊗ ⊗	⊙ ⊗	⊗ ⊗
	平瀬	寺本	北井	有本	辻	近藤	川内

全日本剣道連盟より画像提供

第15回
全日本都道府県対抗
女子剣道優勝大会



とき 令和5年7月9日(日) 日本武道館
午前9時20分 開会 午前10時試合開始

主催 公益財団法人全日本剣道連盟/読売新聞社 主審 一般財団法人東京剣道連盟
後援 スポーツ庁/公益財団法人日本武道館/日本武道協議会/日本テレビ放送網/朝日新聞社
協賛 ...A7P&E

スポーツ振興基金助成事業
実行委員長 日本スポーツ振興センター



○先鋒 中村 莉音

試合前、私はとても緊張していました。「先鋒」というポジションはあまり経験したことがなく、どう戦えばいいのだろうかと考えていた時に、チームの皆さんに、「思いきって行ってきな！」と励ましていただき、緊張が一気に解けました。

初戦の栃木県との対戦では、後ろの選手の間で頼もしさで、ワクワクした気持ちで思いきって試合に臨むことができました。粘り強く全員で繋いだ結果、二対一で勝利することができました。二回戦は、大阪府に惜しくも四対二で敗れてしまいました。自分の不甲斐ない試合に悔しさが残りましたが、このチームで出場できて本当に良かったです。

この夏、私はとても大きな経験ができました。この経験をバネに、また一つ成長した自分になれるように稽古に励みたいです。

○次鋒 岩原 千佳

私は大学生として、また徳島県代表としてこの大会に出場するのは初めてであり、

少し緊張しながら大会を迎えました。

初戦となる二回戦は、強豪岡山県に代表戦で勝ち上がってきた栃木県との対戦でした。私の相手は、高校時代に何度か対戦したことのある選手でした。勝利がほしい場面でしたが、決め手に欠き引き分けでした。しかし、先輩方の活躍で見事勝利しました。

三回戦は大阪府との対戦でした。初戦で貢献できなかった私は、粘りの中でなんとか一本を取得することができました。チームは二回戦に続き、どちらが勝ってもおかしくない試合展開でしたが、あと一本というところでの惜敗でした。

私はこの大会に参加させていただき、試合で勝つことはもちろん、監督の白木先生や諸先輩方から、剣道に対する取り組みや考え方、これから自分が成長するための沢山のご指導をいただきました。このご指導を生かし、これからも徳島県選手団の一員として、徳島県に貢献できるように頑張っていきたいと思えます。ありがとうございます。

○五将 松本美紗樹

今年の五月から新型コロナウイルスが5類に移行し、試合をする上での規制も緩和された中での大会となりました。

大会当日の竹刀検量は全員が無事に合格し、残り試合に集中するのみとなりました。

初戦の相手は栃木県でした。先鋒、次鋒が良い動きで繋いでくれたため、私も負けないと強く思い、良い流れで後ろに繋ぐことができ、チームで勝利することができました。

次の対戦は大阪府で、結果は二対四で敗退し、ベスト十六という結果だったので、最後まで手に汗を握る試合でした。今回試合に出場して、技術面はもちろん、団体戦で戦う楽しさを学びました。この舞台で学んだことを今後を生かし、これからも精進していきたいと思います。

○中堅 長谷川愛実

中堅として、全日本都道府県対抗女子剣道大会に出場させていただきました。久し

ぶりに、日本武道館で試合することができ
てよかったです。

試合中はとにかく必死でした。これまで
多くの先生方に稽古していただき、その成
果を発揮することができたと思います。そ
して、私たちはチームワークの良さを発揮
し、栃木県に勝利することができて本当に
嬉しかったです。

今大会を通して、とても良い経験をさせ
ていただきました。ありがとうございました。
これから稽古に励み、次の目標に向
かって頑張ります。

○三将 長地 千景

三将として、全日本都道府県対抗女子剣
道優勝大会に出場させていただきました。
昨年の反省を踏まえ、足を使ってしっかり
攻めきる、打ち切る剣道を求めて、一年間
稽古に励んできました。栃木戦では、前の
選手たちが掴んだ流れを途切れさせないよ
うに、四分間必死で戦いました。チームで
繋いだ流れのおかげで栃木戦を制すること
ができました。大阪戦でも同じような気持

ちで戦うという気持ちの一方で、相手の強
さに怖じ気づき、気持ちで負けてしまっ
ていました。一番の敵は、自分の弱い心だ
と思いました。

たくさんの先生方のご指導、ご支援、そ
して共に稽古に励んでくださる仲間の支え
や励ましがあってこそ乗り切ることができ
た大会でした。まだまだ未熟ではありますが、
これからも真摯に稽古に励んでいき
たいと思います。今後もしも指導よろしくお願
いします。

○副将 前田奈々枝

今年度の都道府県大会は、ベスト十六ま
で勝ち進むことができました。しかし、個
人的には、チームの足を引っ張ってしまう
結果となりました。もっと勝ちにこだわ
った試合展開をしなければいけないと感じた
二試合でした。

大会に参加して毎年感じることはありません。
それは、徳島県チームの仲の良さです。
先鋒は高校生から、大将は五十歳以上と、
幅の広い年齢層で、なかなか全員が集まっ

て練習をすることができませんが、監督の
白木先生がチームをまとめて下さり、ベテ
ランから若手までが仲良く、笑顔の絶えな
いチームとなっていました。(白木先生に
はたくさんの気苦労をかけてしまっている
と思いますが・・・)また、選手だけでな
く、支えて下さる仲間がたくさんいて、稽
古の時にはいつもたくさんのアドバイスを
いただいたり、体調面を気遣った温かい声
かけをいただきました。

自分が思ったような試合と結果を残すこ
とができませんでしたが、また来年、頑張
ってこの舞台に立ちたいと思いました。次は、
ベスト十六の壁を破ることができるように、
徳島県チームの一員となれるように、まず
は次の予選に向けて稽古に励みたいと思
います。

○大将 竹内佳代子

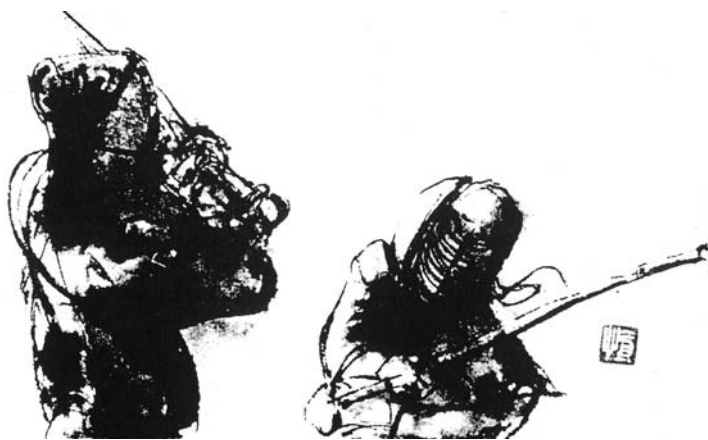
強豪岡山県を代表戦で破った栃木県との
初戦、チームのみんなが頑張ってくれ、私
が引き分けだと勝ちという状況で試合がま
わってきました。チームの心が一つになり、

それぞれが自分の役割を精一杯果たし、大将まで繋いでくれたこの一戦、絶対に負けるわけにはいかないと、その気持ちだけでした。あれほど四分が長く感じられたことはありません。内容は決している試合とはいえませんが、引き分けにすることができ、チームに貢献できたことはうれしく思います。次の試合は、大将までに勝負が決まっていたので、私の人生最後の公式戦を自分らしくと思い試合に臨みました。完敗でしたが、後悔はありません。

本大会、私が最年長でした。この年令で本大会に出場できたこと、日本武道館で最後の試合ができたこと、本当に幸せです。試合後、審判をされていたある方から、「いいチームですね。」と言ってもらいました。白木監督の「足を使って積極的な剣道を。」というご指導を、みんなが大事にした試合展開、チームの心のつながりが試合を通して審判員に伝わったことがとてもうれしかったです。白木監督を始め、チームの皆さんには感謝しています。

これからは、今までしていただいたご恩

を少しでも返すことができるよう、自分ができることを考え、少しでも女子剣道の発展や、大会に出られる選手の方々の力になれたらと思っています。今まで本当にありがとうございました。



第二十一回全日本選抜剣道 八段優勝大会に出場して

徳島支部 玉田 晋 作



令和五年四月十日、名古屋市枇杷島スポーツセンターにおいて行われた全日本選抜剣

道八段優勝大会に出場させていただきました。この大会は昭和五十二年から平成十四年まで行われた「明治村剣道大会」を平成十五年より全剣連が継承し今回で二十一回目となる伝統ある大会です。勝負を争うのは勿論ですが、高い水準の剣技による格調ある試合が期待され、全国の剣道人から注目される大会です。八段受有後五年を経た六十五歳以下に該当する者の中から、選考委員会より選考された三十二名に出場権が与えられます。出場する選手は各種大会で活躍し、剣道界に名を馳せる方々ばかりで、これといった実績を残していない私には無

縁であり、出場できるとは夢にも思っておりませんでした。大会の約二ヶ月前に全剣連より選考されたという知らせを受けたときは全身の震えがとまりませんでした。私が選考されたのは、前年の「とちぎ国体」で二十九年ぶりに成年男子の部で徳島県が四位に入賞し、その大将を務めたことが認められたからだと思います。一緒に戦った当時のメンバーと強化に携わっていたいただいた先生方には感謝の気持ちで一杯です。


一回戦は光栄にも開会式直後の第一試合で、対戦相手は元警視庁主席師範の寺地種寿先生でした。誰もが認める剣豪を相手に胸を借りるつもりで攻め続け、無我夢中で打った面と小手を連取し、勝利することができました。

二回戦は、前回の優勝者である千葉県警師範の染谷恒治先生との対戦でした。一回戦で想定外の結果を得た私でしたが、染谷先生の堂々とした構えに為す術なく、面と小手を連取され、敗退となりました。

勝負の世界に「勝ちに不思議の勝ち有り、負けに不思議の負け無し。」ということば

がありますが、振り返ってみると正にそのとおりです。一回戦は、無欲から無心の技を出すことができ自分でも驚きの結果です。しかし、二回戦は、「勝ちたい。」という気持ちから、相手と対峙することなく自分勝手に間合いを詰め、染谷先生の懐には全く入ることができませんでした。これまで多くの試合を経験してきましたが、このときほど間合いが遠く感じたことはありませんでした。大会終了後多くの方々から「よく頑張った。」とお褒めのことをいただきましたが、改めて自分の「心の弱さ」を知ることができました。今後、少しでもその「心の弱さ」を克服できるよう「心の修行」に励みたいと思います。

最後に、いつも稽古のお相手をしてくださる、剣道連盟強化練習会に参加される先生方、徳島支部稽古会に参加される先生方、セント歯科道場の稽古会に参加される先生方、そして毎日一緒に汗を流している徳島文理中高剣道部の教え子達にこの場をお借りしてお礼申し上げます。



内閣総理大臣杯授与
第二十二回 全日本選抜
剣道八段優勝大会

日時
令和五年四月十六日(日)
午前九時二十五分開会

会場
名古屋市枇杷島スポーツセンター

全日本剣道連盟より画像提供

全国高等学校 剣道選抜大会に出場して

城北高校 近藤 正 獅



令和五年三月二
十六日から二十八
日にかけて愛知県
春日井市総合体育
館にて全国高等学

校剣道選抜大会が開催されました。一人一人が自分のベストを尽くし、みんなで揃んだ選抜への出場権、心を一つに大会に照準を合わせ日々の稽古に取り組みました。

そして迎えた大会当日、一回戦は京都代

表久御山高校との対戦。先鋒から副将まで有効打突はなかったものの、必死で後ろにつきなぎ引き分けて回ってきた大将戦、自分が大将としての責任を持って絶対にチームを勝たせるという強い思いで試合に臨みました。五分の状態でも回してきてくれたことで、無理をせずじっくりと攻め、ここという時には思い切って技を出すことを繰り返



していきました。試合開始から二分を過ぎたところ、相手が得意の小手を打ち終わって油断したところに自分の得意技である面が決まり、一本勝ちし、一一〇で二回戦に駒を進めました。

二回戦は和歌山県代表和歌山工業高校との対戦で一〇〇と不利な状態で回ってきた大将戦では相手を崩しきることができず引

き分けとなり敗退してしまいました。

この大会に出場して、緊張感の中で不利な状態から一本を取ることの難しさを痛感するとともに、攻撃力を高めるために自分がどんな稽古を求めていかなければいけな

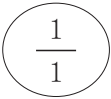
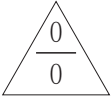
いかを考え工夫するきっかけをいただきました。そしてその取り組みが県総体、四国総体につながっていったと思います。

今回選抜大会に出場させていただきこのような貴重な経験ができたのも、支えてくださったっている方々のおかげだと思っています。剣道は自分たちだけでできるものではなく、毎週末バスを運転し自分たちの課題と向き合えるよう遠征に引率してください。大石先生、ご指導いただいた松浦先生、稽古をしてくださった先生方、先輩方、声をかけてくださる連盟の先生方、強化していただいた高体連の先生方、いつも応援してくださいる保護者の方々、関わっていただいているすべてのみなさまに感謝の気持ちです。本当にありがとうございます。また、普段の稽古や学校生活の中でお互いを高め合い信じ合い心を一つにしてがんばった同級生や後輩達にも感謝しています。

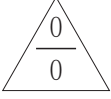
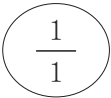
私は剣道を通して様々なことを経験することができました。これからも周りへの感謝の気持ちを忘れず高校三年間で学んだ経験を生かして自分の夢に向かって突き進んでいきたいと思っています。

試合結果男子（城北）

1回戦 第三試合場 1日目 第1試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
城北 (徳島)	篠原	橋本	永濱	藏本	近藤	
	引き分け	引き分け	▲	引き分け	一本勝	
久御山 (岐阜)	工藤	鈴木	高島	谷山	豊嶋	
	引き分け	引き分け	引き分け	引き分け	引き分け	
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

2回戦 第二試合場 1日目 第8試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
城北 (徳島)	篠原	橋本	永濱	藏本	近藤	
	引き分け	引き分け	引き分け	一本勝	引き分け	
和歌山工業 (和歌山)	森下	久世	光岡	中石	木村	
	引き分け	引き分け	引き分け	引き分け	引き分け	
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

全国高等学校

選抜大会に出場して

富岡東高校 村 田 七 菜

令和五年三月二十六日～二十八日にかけて、第三十二回全国高等学校剣道選抜大会が愛知県春日井市総合体育館にて開催されました。監督一名、引率責任者一名、学校関係者十五名（選手含む）という制限がありながらも、二〇一九年以来四年振りの観客を迎えての開催となり、活気にあふれる大会となりました。大会開催にあたり、ご尽力いただいた関係者の皆様にご場をお借りして厚くお礼申し上げます。

新体制となってから県内外の試合や多くの練習試合に参加をさせていただきました。今の自分たちに足りないものを探しながら日々稽古に励みました。答えが見つからなまま迎えた、四国高等学校剣道新人大会は五年振りの優勝という嬉しい結果でした。これがチームの励みとなり、自信と弾みがつきました。

私は昨年度の選抜大会において補員として出場し、初めて全国の舞台を経験しました。「来年は必ずこの舞台に選手として出場し活躍するぞ」という思いで応援していました。そして今大会では、自分たちのできることを全て出し切ろうと意気込んで臨みました。

山口県代表、山口県桜ヶ丘高校との一回戦。先鋒から副将まで両者一步も譲らず、大将戦へ。試合後半、中村の相手が引き技で下がったところの飛び込み面が一本となり、勝利することができました。しかし、全体的に体の動きが固く「自分たちの剣道ができていない」と感じた私たちは、キャプテンを中心にお互いに声を掛け合い、気持ちを集中させていきました。

二回戦は長崎県代表、島原高校。富岡東は大將以外のオーダーを変更して挑みました。先鋒を任された私は、チームの流れをつくるために「相手よりも先に仕掛けて相手の剣道をさせない」という気持ちで臨みました。しかし、相手も勢いよく攻めてくるためなかなか一本が決めきれず引き分け。

全体としては、〇―二で敗れました。

試合終了後、先生から「後ろに回す試合ではなく、前で取り切る試合でないといけない」とアドバイスをいただきました。不甲斐なく悔しい気持ちが入み上げてきて、私たちのチームはまだまだ強くなれると心の中で強く思いました。この気持を夏のインターハイに持っていくと皆で誓い合いました。

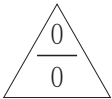
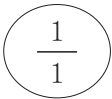
私が高校の進路に悩んでいた中学三年生の春、地元ニュースとして上がっていたYouTube動画を偶然見た時、心がパッと晴れてこの学校で強くなりたいという気持ちが湧き、富岡東高校を志望しました。親元を離れ、徳島で過ごした三年間は、私の生涯の宝物になりました。熱くご指導いただいた長井先生をはじめ、学校や寮の先生方、いつも温かく支えてくださった保護者の方々、苦業をともし一喜一憂した部員たち、さらには剣道に携わる全ての皆様に心より感謝申し上げます。この御恩をいつの日かお返しできるようにこれからも精進して参ります。



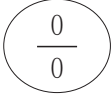
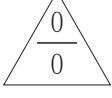
最後に、温かく背中を押し、徳島へ送り出してくださった中学校と道場の恩師である先生方、そして私の我儘を受け入れてくれた両親、本当にありがとうございました。

試合結果女子（富岡東）

1回戦 第五試合場 1日目 第9試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
山口桜ヶ丘 (山口)	茂刈	植木	福山	志熊	桐山	
	引き分け	引き分け	引き分け	引き分け	一本勝	
富岡東 (徳島)	▲				×	
	平田	村田	岩佐	武蔵	中村	
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

2回戦 第四試合場 1日目 第16試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
島原 (長崎)	山田	峯	寄田	久田	寺川	
	引き分け	引き分け	×	一本勝	×	
富岡東 (徳島)	▲					
	平田	村田	岩佐	武蔵	中村	
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	



インターハイに出場して

城北高校 永 濱 聡 良



私たちは令和五年八月三日から六日に、北海道帯広市で開催された第七十回全国高等学校剣道大会に出場しました。三月の全国選抜大会での悔しい思いがあり、もう一度全国の舞台で戦いたいという強い気持ちがあったため、この大会への出場が決まったときは本当に嬉しく思いました。

私たちは、昨年の県高校総体で、先鋒から大将まで引き分けとなり代表戦で敗れ、準決勝敗退という悔しい思いをし、自分たちの攻撃力の弱さを痛感しました。そのため、新チームが変わってからは、どのポジションでも一本、二本を取ることができ、攻撃力のあるチームを目指し、日々稽古に励んでいました。六月に開催された県総体では危ない場面もありましたが、メンバー

一人一人が取るべきところで一本、二本を取ることができ、優勝することができました。また、その二週間後に開催された四国総体でも、自分たちが目指していた攻撃力のあるチームを実感することができた大会となり、城北高校として初優勝をすることができました。この結果に自信を持ちながらも、私たちはインターハイベスト八以上という目標があったため、そこから約二ヶ月間、更なる攻撃力の向上を図り、今まで以上に互いに刺激し合いながら厳しい練習に励みました。

そして、ついに迎えたインターハイ。私たちはもう一度全国の舞台で試合ができるというワクワク感と少しの緊張感を持ちながら試合に臨みました。予選リーグ一試合目は静岡県代表の浜名高校と対戦しました。試合は取って取られての接戦となりましたが、惜しくも敗れてしまいました。悔しい思いもありましたが次の試合が控えていたため、私たちはすぐに気持ちを切り替えていました。続く二試合目は山口県代表の山口鴻城高校と対戦しました。この試合も、

同様に接戦となりましたが、勝利を掴むことはできませんでした。チームの集大成として挑んだインターハイという舞台で、一勝もすることができなかった悔しさはありましたが、自分たちの剣道をする事ができたため、そのような面では、二試合とも良い試合をすることができたと思っています。

私たちはこのように剣道を続けることができたのは大石先生をはじめ、松浦先生、城北高校OBの方々からの熱心なご指導や、保護者からの応援やサポートがあったからだと思います。自分たちの代は新型コロナウイルス感染が緩和され、多くの遠征に行くことができました。そのことが剣道の技術力の向上やメンタルの向上をすることができ、またチーム力も高めることができました。

この恵まれた環境を当たり前だと思わず、感謝をしなくてはならないと改めて実感しました。これらの経験を大切にし、これからも剣道を続け、苦しくなったときは厳しい練習を仲間と共に乗り越えた努力の日々

を思い出し頑張っていきたいです。本当に
ありがとうございました。



男子団体予選リーグ結果 (Bリーグ)

Bリーグ	城北 (徳島)	浜名 (静岡)	山口鴻城 (山口)	得点	勝者数	総本数	順位
城北 (徳島)		$\frac{3}{1}$	$\frac{3}{0}$	0	1	6	3
浜名 (静岡)	$\frac{4}{2}$		$\frac{5}{3}$	2	5	9	1
山口鴻城 (山口)	$\frac{4}{1}$	$\frac{1}{0}$		1	1	5	2

Bリーグ 第1試合 (第一試合場 第1試合)

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
城北 (徳島)	篠原	橋本	永濱	藏本	近藤	$\frac{3}{1}$
	メ	引き分け	一本勝	メ	引き分け	
浜名 (静岡)	コ	コ	▲	ド	ド	$\frac{4}{2}$
	引き分け	一本勝	引き分け	一本勝	一本勝	
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

Bリーグ 第2試合 (第一試合場 第4試合)

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
浜名 (静岡)	井口	天野	前嶋	鈴木(真)	藤江	$\frac{5}{3}$
	▲	▲	ド	メ	ド	
山口鴻城 (山口)	メ	引き分け	一本勝	メ	ド	$\frac{1}{0}$
	一本勝	引き分け	一本勝	引き分け	ド	
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

Bリーグ 第3試合 (第一試合場 第6試合)

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
城北 (徳島)	篠原	橋本	永濱	藏本	近藤	$\frac{3}{0}$
	▲	メ	メ	メ	引き分け	
山口鴻城 (山口)	ド	メ	コ	メ	引き分け	$\frac{4}{1}$
	▲	引き分け	引き分け	引き分け	引き分け	
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

北海道インターハイ

富岡東高校 平 田 大 和



私たち富岡東高校女子剣道部は八月三日から六日に北海道で開催された第七十回全国高

等学校総合体育大会（インターハイ）に出場しました。

六月の県予選に向け、新チームとなってから長井監督率いる女子剣道部員の十七名が一丸となり、かおるファミリーとして「繋ぐ」というスローガンの下、チームワークを大切にし、日々稽古に取り組んできました。県予選八連覇という先輩方が築いた伝統を背負ったプレッシャーの中、試合に挑みました。

前年の県予選に出場した時には、後に先輩方がいるから大丈夫という安心感から勝敗を意識することなく、思い切った自分の攻めで一本を取りに行くことができました。

しかし、三年生になると高校生活最後の県

予選に懸ける想い、ゲームキャプテンとしての責任感、他の部員からの自分に対する期待などから、プレッシャーに押し潰され、

自分本来の攻める剣道ができませんでした。チームメイトに助けられて苦しみながらも九連覇を果たすことができました。この大会を機に私は、自分自身の弱い心に打ち勝ち、インターハイではチームに恩返しできるよう、毎日の稽古に打ち込みました。

インターハイの前哨戦でもある四国総体では準優勝という結果に終わりましたが、私たちのスローガンである「繋ぐ」試合がチームに浸透し始め、私自身も試合に対する恐怖心が無くなってきました。

そして迎えたインターハイ、開催地が北海道ということで、普段と違った気候や環境に加えて会場の広さに自然と緊張感が高まってきました。一試合目の鈴鹿戦はよく

練習試合をしていることもあり、お互いの手の内を知る中での試合になりました。予期せぬ一本負けでチームに不穏な空気が流れたまま、いつもの自分たちの力を出し切

ることができずに黒星となり、頭の中に

「予選リーグ突破できない」という文字が浮かび、涙が溢れてきました。しかし、試合後のミーティングで監督から「ここで諦

めず気持ちを作り直せ、勝てるチャンスがくるかもしれない」という言葉をいただき、次の試合に向けて自分たちの気持ちを奮い立たせました。予選は富岡東、鈴鹿、小牛田農林の三校によるリーグ戦で、一位のみが決勝トーナメントに進出でき、次の試合

で小牛田農林が鈴鹿に勝利したことで、富岡東に予選リーグ突破の可能性が出てきました。このチャンスを絶対に逃さないという気持ちで迎えた小牛田農林戦では、中堅の一年生の山田が開始数秒で面を決め、一本勝ちから流れを作りました。続いて副将

の岩佐、大将の中村も勝利を収め、予選リーグ突破を果たしました。チームのスローガンであった「繋ぐ」という言葉に合う戦いでした。決勝トーナメントでは、次鋒の村田が予選リーグでの悔しさを晴らす一本勝ちでチームに貢献しましたが、相手チームの追い上げに思うようなペースが作れず、

ベスト八目前での敗退となりました。

この大会でこれまで掲げてきた自分たちの目標であった全国制覇を果たすことはできませんでしたが、チームワークや諦めない気持ち、一分一秒の大切さ、攻め続けることのできる人の強さを学びました。また、苦業をともにした仲間たちと全国の舞台上で戦うことができる喜びを味わうことができ、一生の宝となる良い経験ができました。

三年間、親元を離れて徳島県で寮生活をして苦しいことも多かったけれど、剣道部員はもちろん、剣道以外の部活生や他校の生徒とも親睦を深めることができましたし、これからの人生で必要となるスキルを身につけることができたので、得ることのできたものの方が多かったと感じます。私が剣道に集中できる環境へ送り出してくれて、いつも私の味方で前をむいて進めるように支えてくれた両親へ感謝し、これから恩返しできるように頑張ります。後輩たちに自分たちが高校時代に叶えることのできなかつた全国制覇という夢を託し、次の全国大会で自分たち以上の結果を残してもらいたい

です。私は大学進学後も剣道を続けるので、自分自身も全国制覇を目指し、取り組んでいきます。



女子団体予選リーグ結果（Kリーグ）

Kリーグ	富岡東 (徳島)	鈴鹿 (三重)	小牛田農林 (宮城)	得点	勝者数	総本数	順位
富岡東 (徳島)		$\triangle \frac{0}{0}$	$\bigcirc \frac{4}{3}$	1	3	4	1
鈴鹿 (三重)	$\bigcirc \frac{1}{1}$		$\triangle \frac{2}{1}$	1	2	3	2
小牛田農林 (宮城)	$\bigcirc \frac{0}{0}$	$\triangle \frac{3}{2}$		1	2	3	2

Kリーグ 第1試合 (第三試合場 第7試合)

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
富岡東 (徳島)	平田	村田	山田	岩佐	中村	$\frac{0}{0}$
鈴鹿 (三重)	浅岡	山本	奥村	喜多	伊藤	$\frac{1}{1}$
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

Kリーグ 第2試合 (第三試合場 第9試合)

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
鈴鹿 (三重)	浅岡	山本	奥村	喜多	伊藤	$\frac{2}{1}$
小牛田農林 (宮城)	高橋	江面	瀬戸	儀間	千坂	$\frac{3}{2}$
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

Kリーグ 第3試合 (第三試合場 第11試合)

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
富岡東 (徳島)	平田	村田	山田	岩佐	中村	$\frac{4}{3}$
小牛田農林 (宮城)	高橋	江面	瀬戸	儀間	千坂	$\frac{0}{0}$
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

1回戦 第三試合場 3日目 第2試合

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	対戦結果
富岡東 (徳島)	平田	村田	山田	岩佐	中村	$\frac{1}{1}$
健大高崎 (群馬)	相田	杉久保	福田	久保谷	大駒	$\frac{3}{2}$
試合時間	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	4分0秒	

第五十三回全国中学校 剣道大会に出場して

那賀川中学校 大 和 希 輔



私たち男子剣道部は県総体を優勝し、令和五年度全国中学校体育大会・第五十三回全国中

学校剣道大会に出場しました。

私たち三年生五名は中学生としての最後の大会になるので、悔いの残らない試合をしようと決め、大会前のミーティングで「全国ベスト八」を目標としました。その目標に向けて精一杯稽古に励んできました。

昨年度参加した釧路全中では予選リーグがありませんでしたが、今年度は予選リーグ制に戻っていました。予選リーグ第一試合は富山県代表の奥田中学校と対戦しました。奥田中学校は全中常連校で、結果として一人も勝つことができず負けてしまいました。予選リーグ第二試合は兵庫県代表の

加古川中学校と対戦しました。加古川中学校は近畿二位の強豪校で、この試合でも一人も勝つことができずに予選敗退となりました。

予選リーグ敗退後、私たちは全員で決勝リーグを見学しました。決勝リーグに勝ち残っている選手の足の使い方や間合いの詰め方などが非常に上手で、私たちにはできない動きでした。私たちは県総体で優勝し一定の満足をしていました。ですが、愛媛全中を終えて、次は全国大会で活躍したいと強く思うようになりました。

私は那賀川中学校での生活環境や指導者・保護者の皆様に恵まれてここまで強くなることができたと思っています。那賀川中学校に入学したこと、那賀川中学校剣道部に入部できて本当に良かったです。

予選リーグ 三位

一回戦

奥田中学校（富山県） 三〇で敗退

二回戦

加古川中学校（兵庫県）二〇で敗退



全国中学校

剣道大会に出場して

小松島中学校 岩 谷 夢 羽



私は、幼稚園の頃から剣道を始めました。幼稚園から中学校までの十年間、素晴らしい

先生方と出会い、熱心なご指導のもと、今まで頑張ることができました。十年間剣道をしていく中で、つらいことや苦しいこともたくさん経験しました。しかし、指導して下さった先生方や、ともに励まし、高めあってきた仲間、そして、いつもそばで支えてくれた家族がいたから乗り越えることができました。本当に感謝しています。

入学する前は、学校が自宅からは少し離れていたこともあり、通学への不安や、うまくやっていけるのかという漠然とした不安がありました。しかし、武道場を見学しに行った際、先輩方や先生方が一丸となっ

て一生懸命に練習している姿を見て、私も「もっと強くなりたい。」と強く思いました。そして、その時に小松島中学校への入学を決意しました。

入学した当初、厳しい練習についていけるか不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、先輩方が優しく声をかけて下さったり、丁寧に教えて下さったりしたおかげでその不安はいつの間にか消えていきました。また、ともに励まし合い、苦しさを乗り越える仲間のおかげで、厳しい稽古も乗り越えることができました。環境にも恵まれ、一年生の時から団体のメンバーとして試合に出させていただきました。そして、たくさんの方で優秀な結果を残すことができました。どの大会でも「絶対勝って決勝に行くぞ!」という強い気持ちで挑みました。二年生の時、先輩と出場できる最後の試合である県総体の決勝戦。勝敗が決まらず、代表戦となりました。そのとき監督から代表者に私が指名されました。「勝って絶対に全国へ行く。」という強い気持ちで挑みました。仲間も私の背中を叩いて「絶対大

丈夫。」「落ち着いて頑張れ!」と声をかけてくれました。しかし、一歩及ばず、敗退。とても悔しい思いをしました。そして、その悔しさをばねに、一年間、仲間とともに今まで以上に心を燃やして練習に励みました。総体までの稽古は想像していたよりも体力的にも精神的にもきつく、途中でしんどくなったり、けがをしてしまったりと自分たちが思うように練習ができない日もありました。しかし、その中で「絶対に全中に行く!」という一つの目標が私たちのチームを一つにしてくれました。そして迎えた三年生の県総体。今まで以上に緊張していました。決勝戦まで順調に進み、迎えた決戦。先鋒から大将まで気持ちをつなぎ、全力で挑んだ結果、みごと優勝することができました。優勝したときに「今までこのチームでやってきて本当に良かった。」と、うれしい気持ちが入り込みました。私の目標は、「最高の仲間と共に全中に行く」でした。この目標は素晴らしい環境があったから叶えることができたと思っています。また、剣道を通して仲間の大切さや、自分

君の夢 四国の蒼空で咲きほこれ

「暴力0(ゼロ) 心でつなく
スポーツの絆」

令和五年度全国中学校体育大会
第五十三回全国中学校剣道大会

会期:令和5年8月18日(金)~20日(日)
会場:愛媛県武道館

主催: (公財)日本中学校体育連盟 (公財)全日本剣道連盟 愛媛県教育委員会 松山市教育委員会
主 管: 四国中学校体育連盟 愛媛県中学校体育連盟 (一社)愛媛県剣道連盟 松山市中学校体育連盟
後 援: スポーツ 全日本中学校長会 全国高等学校体育連盟 全国町村教育委員会連合会
(公財)日本PTA全国協議会 日本私立中学校連盟等学校連合会 NHK 全国剣道社事業協議会
毎日新聞社 徳島県 松山市 愛媛県中学校長会 松山市中学校長会
(公財)愛媛県スポーツ協会 (公財)松山市文化・スポーツ振興財団 愛媛県PTA連合会
松山市小学校PTA連合会 愛媛新聞社 高知テレビ
特別協賛: 大塚製薬株式会社 管公学生産株式会社

やチームを支えてくれる多くの方々への感謝の気持ちを学ぶことができました。私がおこまで夢中になり、頑張ることができたのも、数多くの素晴らしい先生方にご指導いただいたおかげです。また、ここまで支えてくださった保護者の皆さんや先輩方にも心から感謝しています。そして、一つの

目標を達成し、いろいろなことを乗り越えてきた仲間は一生涯の宝物です。中学校で三年間剣道を続け、たくさん貴重な体験をさせていただきました。支えてくださったすべての方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも日々成長していきたいと思います。

Cリーグ	小松島中 (徳島)	潮田中 (神奈川)	筑紫野南中 (福岡)	得点	勝者数	総本数	順位
小松島中 (徳島)		$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$	0	1	2	3
潮田中 (神奈川)	$\frac{2}{2}$		$\frac{5}{3}$	2	5	7	1
筑紫野南中 (福岡)	$\frac{4}{3}$	$\frac{2}{1}$		1	4	6	2

全日本女子剣道 選手権大会に出場して

阿南支部 河野 菜々子



令和五年九月三日、奈良県ジュエテクトアリーナ奈良で開催された第六十二回全日本女子

子剣道選手権大会に出場することができました。小学一年で剣道を始め、ただひたすらに強くなりたい、勝ちたいと高みを目指し、剣道づけの日々でした。毎年、高校総体の後、那賀川のスポーツセンターで行われていた全日本選手権の予選を見に行き、いつかこんな大会に出場したいという希望に胸を膨らませていたことを思い出します。高校で日本一を目指しましたが、あと一歩で悔しい思いをしました。現在、日本体育大学で先輩方や仲間とともに大きな目標に向かい努力を重ねる日々です。憧れの大舞台に出場することが決まり大学での稽古も

より一層気の引き締まったものとなりました。日本体育大学からは卒業生も含め多くの先輩方も出場されており同じ舞台に立てる喜びと緊張がありました。

初戦の相手は、高校の先輩でもあり世界大会で優勝者の、松本弥月さんでした。恩師の方々も笑顔で見守ってくださいました。試合直前、勝ちたいと思う気持ちより、緊張で何も考えることができませんでした。始まってからは、これまで感じた事がないほど正しい剣道ができていくような不思議

な感覚の試合となりました。やはり世界一の攻めは強く、打つ技が全て潰されたと感じました。せっかく徳島代表で出場させていただきましたが結果は、初戦敗退となりました。これで終われない、そして来年も再来年もこの大会に出場すると言う強い思いだけが残りました。この大会で優勝されたのは、日本体育大学の先輩である、渡邊タイさんでした。皇后盃を手にした先輩と同じ舞台に立つことができ大変光栄であり、次なる大きな目標となりました。

全日本選手権と同月に関東女子学生剣道優勝大会、十一月に全日本女子学生剣道優勝大会が終わり、今は剣道を振り返る時間を作っています。一呼吸置いてみた時、昨年の貴重な体験を生かすために初心に戻ってみるべきだと気付きました。幼いころから私の背中を押し続けてくれた「難しいことを考えるな。面で突き進め」と言う教えを胸に抱き来年こそはという思いで邁進します。

徳島に帰省するたび、必ず母校の那賀川中学校や、少年剣道時代お世話になった、那賀川剣道教室わかあゆ会で稽古をさせていただいています。自分が剣道を始めてからずっと支えてくださる先生方や先輩方に励まし応援していただいています。その中で、剣道は他のどの競技よりも、人と人とのつながりが大切であると実感しています。わかあゆ会で必死に、竹刀を振り、元気な声で頑張っている小さな剣士たちと、その保護者を前にすると、この人達のために次は自分が、今まで憧れてきた先輩のような存在になることで、つながりを作りたいと

強く思います。剣道と言う一本の道の「心・技・体」すべてにおいて身につけてきたことを念頭に、初心に立ち返り、第六十三回の全日本女子選手権大会の出場を目指し、日々精進してまいります。

【試合結果】

一回戦

松本 弥月コ(延長) × 河野 菜々子
(神奈川) (徳島)

第62回
全日本女子剣道
選手権大会

【とき】令和5年9月3日(日)
午前9時20分開会／午前10時5分試合開始

【ところ】ジェイテクトアリーナ奈良

【主催】公益財団法人全日本剣道連盟 【主協】一般財団法人奈良県剣道連盟
【後援】スポーツ庁／奈良県／奈良県教育委員会／公益財団法人奈良県スポーツ協会
【協賛】橿原市／橿原市立宮／奈良県神社


<https://www.kendo.or.jp>

全日本剣道連盟より画像提供

パナソニック杯

第十八回全日本都道府県対抗

少年剣道優勝大会に参加して

小学生の部 監督 山 本 泰 史

令和五年九月十七日おおきにアリーナ舞洲において、表題の大会が盛大に開催されました。本大会は、相手の優れた点を学び、友情を深め、県の代表としてふさわしい模範となる試合運びやマナーでの日本一も目指す大会です。今年も昨年同様、予選を勝ち抜いた五名が代表として選ばれました。

先鋒…棚橋 爽斗（徳島剣清塾）
次鋒…水口 萌香（徳島剣清塾）
中堅…坂本 圭吾（誠武館道場）
副将…平田 愛芽（徳島剣清塾）
大将…坂口 潤 （日垂鍊心塾）

「上位進出を見据えた取り組み」

・八月十一日 近県選抜強化錬成会

於…岡山県倉敷市中山体育館

・八月二十六日 四国選抜剣道強化錬成会

於…愛媛県帝京第五高校

・九月三日近県選抜強化錬成会

於…パナソニックエレクトリックワークス社 松武館

全体をとおして、勝率は負け越しとなりましたが、チーム一丸となって、岡山県・兵庫県に勝利し、全国道連優勝メンバーを擁する滋賀県とも内容の濃い試合を展開できました。また遠征を重ねるうちに子供たち同士のコミュニケーションもとれはじめ、良い雰囲気となってきました。愛媛遠征では錬成後の指導稽古や代表同士の互角稽古は積極的に攻める姿勢でのぞんでいました。大阪遠征では、徳島県少年剣士の技量向上を目的に強化メンバーも加え、のぞみました。

大阪府剣道連盟会長の長榮先生からの御指導や全国七段戦優勝の大阪府警の友井先生、実業団日本一のパナソニックの先生方との指導稽古は実り多い経験となりました。三つの遠征で得た経験と課題を強化稽古や各道場で稽古を積み、万全の状態でのぞみ

ましたが、結果は予選リーグ敗退。子供たちにはこの悔しさを経験にして、「理想は高く、姿勢は低く」いつまでも謙虚で感謝の気持ちを忘れず、立派な人に成長してくれることを願ってやみません。

最後に、本大会にあたり徳島県剣道連盟の先生方をはじめ、たくさん関係者の方から温かい御助言、御指導、激励の言葉を頂戴しました。本当にありがとうございます。また、大阪の錬成にお声がけいただいた、大阪堺桂志館の桂木先生、大阪府代表監督の友井先生、パナソニック剣道部監督の勝見先生。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

捲土重来。徳島県の子供たちが姿勢・技量ともに全国トップクラスで名を馳せることができるよう、自分に与えられた分を尽くし、地域社会に貢献していく決意です。



小学生の部リーグ戦結果（Oブロック）

	徳島	三重	秋田	得点	勝者数	総本数	順位
徳島	△ 1 — 0	△ 1 — 0		0	0	2	3
三重	○ 4 — 3		○ 2 — 1	1	4	6	2
秋田	○ 4 — 2	○ 4 — 3		2	5	8	1

第8試合場 - 1試合目

	徳島		三重
先鋒	棚橋爽斗		水谷倉之典
次鋒	水口萌香		安藤司希
中堅	坂本圭吾	下引分	堀木竣介
副将	平田愛芽		笠原孝斗
大将	坂口潤	引分	川端桜大良

第8試合場 - 3試合目

	徳島		秋田
先鋒	棚橋爽斗	引分	原田彩未
次鋒	水口萌香	下引分	児玉柑奈
中堅	坂本圭吾		三浦咲
副将	平田愛芽		兔沢真里亜
大将	坂口潤	引分	杉山大心

第8試合場 - 5試合目

	三重		秋田
先鋒	水谷倉之典		原田彩未
次鋒	安藤司希		児玉柑奈
中堅	堀木竣介		三浦咲
副将	笠原孝斗	引分	兔沢真里亜
大将	川端桜大良		杉山大心

〈生徒の感想〉

先鋒 棚 橋 爽 斗

ぼくは、この大会に出場して、まだまだ自分には努力が必要だなと感じました。全国大会は、各県の代表者が出場しているだけあって、打ちだったり、立ち回りだったり、まだまだ劣っているなと改めて思いました。しかし、この大会をきっかけに、たくさんのことを学びました。まず、三重戦では、ぼくの相手は、ガンガン攻めてくるような剣道で、惑わされてしまいました。ここではぼくは、攻めの大切さを感じました。攻めることで、相手に打つ前から、迫力を感じさせ、そう簡単には打ってこないようになります。そして、相手が気を抜いた瞬間に、攻めて打つという剣道を学ぶことができました。ぼくもその時、相手の迫力で、自分から攻めていくのが怖くなっていて攻めることができませんでした。これからは、攻めて相手のすきをつくような剣

道も見習っていいこうと思います。そして、

次の秋田戦の相手は、ぼくが面をねらおうとするとそれに反応して、出小手を打ってこようとしてきました。ここでは、相手をしっかりと観察する大切さを知りました。今までぼくは、あまり相手を見ることができていなかったと思います。相手を見ることの良さは、次にどんな技を打ってくるか、この相手の強いところ、また弱点を見つけることができることです。ぼくは、しっかりと観察をして、どう立ち回ればよいか考えながら行動したいなと思いました。

ぼくが、とてもうれしかったことが、この大会を通してあります。それは、頼れる仲間、友達ができたということです。選抜メンバーで遠征に行き、数多く試合をしたこと、剣道以外の話をしたり、一緒に食事をしたりしてたくさんのおいしさができました。

ぼくの剣道はこれからも続くので、仲間たちと力を合わせ自分も、もっともっと強くなってみんな「勝ち」を取りに行きたいです。

次鋒 水 口 萌 香

わたしは、五年生でこの大会に出られて、うれしさと、おどろいた気持ちでいっぱいでした。選ばれた時は今より強くなって一本でも多く取って、チームにこうけんできるようになるうと心に決めました。体の大きな六年生相手に少しのこわさはありましたが、徳島県の代表として、思い切った試合をしようという強い気持ちで大会にのぞきました。

当日会場にはとても多くの人がいきました。強そうな相手がたくさんいて、今までどの試合よりきんちょうしました。しかし、仲間が近くにいると安心しました。最初はこんな強そうな相手に一本も取れないかも、と思いました。しかし、苦手な返し胴を中心にして打ち方を練習してきました。しっかりとせめ、面を返し胴を打ち取る事ができました。その事はとてもうれしかったけれど、引分となり、次につないでいけなかった事がくやしかったです。

この大会で勝ちたいという気持ちや、足

の速さ、前に行く強い気持ちがあるかの選手より足りませんでした。これからの練習、試合ではこのような気持ちを持って取り組んで行きたいです。五年生でこのような大事な経験をできたことをわずれずに来年、もう一度全国大会の代表選手に選ばれるように努力していきたいです。

同じチームだった仲間、つれていってくださったほごしゃの方、教えてくださりついてきていただいた先生方にかんしゃの気持ちでいっぱいです。

中堅 坂本 圭吾

僕がずっと夢見てきた全国大会の舞台に立つことができました。一年生のとき、父の影響で剣道を始めました。剣道の楽しみを知り、必死にけい古していく中で、僕の夢への気持ちはどんどん大きくなっていきました。しかし、試合にはなかなか勝てませんでした。剣道をやめたいと思う時もありました。それでも前を向いてけい古を続けました。

そして、今年ついに小学生生活最後となりました。絶対に県大会で「あの切符」をつかみ取ると決心し、必死に取り組みました。

七月三十日、ついに負けられない戦いがやってきました。とてつもないきんちょうを乗り越え、ベスト八で選考会に出場することができました。選考会一回戦目は一本勝ちし、二回戦目では宿敵に対して延長戦で面を取り、「あの切符」をもぎ取りました。ついに全国大会出場の夢がかなったしゅん間、言葉にできない程嬉しかったです。

初めての岡山遠征では、全く歯が立たない強者ばかりでした。その後、愛媛、大阪と遠征をかさね、中堅としての戦い方を知り、何よりもメンバーとの絆が生まれまし。僕はこのチームで勝ちたいと強く思いました。

今まで感じたことのないプレッシャーの中本番をむかえました。三重戦はピンチで回ってきました。遠征で助けてもらってばかりだった僕は、今度は僕がピンチを救いたいと思ひ、無我夢中でした。返し胴を決

めた時は、僕の剣道人生で一番嬉しい一本でした。秋田戦では、とにかく必死に攻めたが負けてしまいました。そんな僕を温かくむかえてくれたチームのみんなには本当に感謝しています。

僕が今まであきらめずに剣道を続けて来られたのは、周りの協力と助けがあったからです。いつも僕を支えてくれる先生と仲間から感謝しています。そしてどんなときも僕を信じて味方でいてくれた両親に全国大会で試合をした僕を見てもらえたことが嬉しいです。そして大阪まで応援に来てくれた誠武館のみんなにも心から感謝しています。今回の経験を僕は一生忘れません。これからもけい古に精進し、あの舞台にもう一度立つと心に決めました。

副将 平田 愛芽

私は第十八回都道府県対抗少年剣道優勝大会に九月十七日に出場しました。場所は、大阪市おおきにアリーナ舞洲に全国から四十八チームが出場し、徳島県では剣清塾か

ら三名、他の道場から二名の五名で出場しました。前日から大阪に行き、会場の見学をして、当日ウォーミングアップをして、五人で「勝つぞ」と気持ちを作り試合に臨みました。

開会式に集まった剣士の中には、今まで県外の大会や練習試合で何度も戦った強い剣士もいて、その剣士とも試合をするのかなと思うと、だんだんきん張してきました。私達、徳島県チームは八コートの第一試合（三重県）と第三試合（秋田県）との試合でした。

五人が面を付け円じんを組みこぶしを合わせ「行くぞオー」と気合を入れました。私は、副将で試合に臨みましたが負けてしまい、チームも予選リーグ敗退となってしまいました。せっかく県代表という責任ある試合に出場しましたが、すごくくやしう試合でした。「あそこで打っていれば……」「もっと打ちが強かったら……」など終ってから何度も思いました。日々のけい古に一生けん命打ち込み、来年、私が六年生になる時には、また徳島県予選を勝ち抜いても

う一度、徳島県の代表として全国大会に出場し、絶対に勝って、徳島県チームで予選リーグを突破したいと思っています。

最後に、今まで教えてくださった先生方や応援してくださった剣清塾の友達、さえてくれた家族に感謝します。

日本一の剣道女子に、私はなる！

大将 坂口 潤

ぼくは、徳島県代表で大将をさせていただけました。いつもとはちがう仲間と一緒にのチームになり、まずはチーム作りから始めました。今までライバルだったのに急に今日から同じチームで助け合うなんて、どうすればいいかわかりませんでした。最初はお互い話もしませんでした。チームワークをよくするために自分からみんなに話かけることを意識しました。すると、会う回数を重ねるたびに話をするようになり、いつの間にかみんなと一緒にけい古をするのが楽しくなっていました。県外へ遠征に行つて強いチームを相手に戦って負けてしまっ

た時はみんなではげまし合ったり、昼ご飯やおやつを食べたりして過ごした時間は、ぼくにとって大切なものとなりました。大阪での本戦では予選リーグ敗退となってしまいました。一人ひとりが自分の得意な技を出せたい内容の試合ができたと思います。また、ぼくのことをいつも近くで支えてくれるお母さんやおばあちゃん、お姉ちゃんも一緒に参加できたのも嬉しかったです。

都道府県の大会は終わってしまいました。これで終わりではなく、これが始まりです。今回の経験を胸に、また次の目標に向かって日々けい古を頑張りたいと思います。いつかまた同じチームで徳島県代表として試合に出られる日を楽しみに、これからも剣道が続けていきます。ぼくに関わってください。本当にありがとうございます。そして、これからも頑張ります。

第六十九回全日本東西 対抗剣道大会に出場して

徳島支部 吉 田 茂 生



令和五年九月二
十四日(日)沖繩
県立武道館におい
て、第六十九回全
日本東西対抗剣道

大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症が五類になり、久しぶりに観客を入れての開催となりました。女子九試合と男子三十一試合が行われ、私は平成二十九年以来の出場で、五将を任されました。選手発表されたのは七月下旬で、相手は全国制覇を幾度も果たしている北海道の栄花英幸選手であることが分かりました。コロナの影響で二年半ほど稽古ができなかった中、稽古を再開してから約一年後の出場となった本大会。稽古をしている中で勝負感がなかなか戻らず、さらに夏場に自分がコロナに感染するなど、気の焦りが先行し、竹刀

を振ることばかりを意識して相手との攻め合いを無視した稽古となってしまいました。大会の日は刻々と近づいていましたが、稽古をしておれば何か気づきがあるだろうとも思っていました。

ある日、私にとっては天からの囁きとも言える有り難い言葉が心に刺さったのです。大会の二週間前、広島県で行われた中四国稽古会に参加した時、閉会式で参加者全員にお話しされた藤原崇郎範士の一言でした。「皆さんは、相手と構えあったとき、何を考えますか。どうやって打ってやろうかと自分のことだけを考えてませんか。まず、相手がどうしたいかを覗ってから戦術を立てることが大事です。」

当たり前のことを仰っているみたいですが、悩んでいた私にとっては新鮮なお言葉で、今の自分に言ってくれていると感じました。

藤原先生の一言で気持ちが楽になり、一番では、「自分も相手も試合を見ている人も納得ができる良い試合をしよう」と思い大会に臨みました。試合は、西軍が断然リ

ドしている状況で私の出番となりました。試合時間は五分と三分の延長で勝負が決しない場合は引き分け。機会を窺いながら起りの一打を試みようとしたが強者相手に思い切った技が出せず、あっという間の八分が終了し引き分け。相手の懐に入るには思い切りが必要であり、技前で勝っておくことが何より大切ですが、分かっているても難しい。「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」しっかりと準備をし、「ここだ」と思った時に身を捨てる。今後も修練を通じて自得したいと思っています。

試合には「気づき」があり、修練の過程において必要なものであります。私自身、残り少ない試合を真剣勝負し、まだまだ先の長い剣道修行の糧としていく所存であります。

全日本剣道連盟より画像提供



第六十九回
**全日本東西対抗
剣道大会**

日時 2023年 9月24日 午前9時30分開会

会場 沖縄県立武道館 アリーナ棟
沖縄県那覇市奥武山町52

主催 公益財団法人全日本剣道連盟 主管 一般財団法人沖縄県剣道連盟

後援: 沖縄県・那覇市・沖縄県教育委員会・公益財団法人沖縄県スポーツ協会
一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー・沖縄タイムス社・琉球新報社
NHK沖縄放送局・琉球放送・沖縄テレビ・琉球朝日放送



第六十五回全国教職員 剣道大会に参加して

阿南支部 濱田 諒

令和五年八月十日、島根県松江市総合体育館に於いて第六十五回全国教職員剣道大会が開催されました。私は教員を目指し始めてから、「いつかは全国教職員大会の代表選手になりたい。」という思いを抱いていました。本大会の団体戦へ次鋒としての出場が決まった時には、一つの夢が叶ったように感じ、大変嬉しく思いました。それと同時に、徳島県を背負い、全身全霊で戦おうと心に誓いました。

私は現在、阿南市立那賀川中学校で社会科教員として勤務しております。本校の剣道部には、全国大会に出場し、活躍することを夢見て、毎日一生懸命に稽古をする子どもたちがたくさん在籍しています。大会に備えて、私は子どもたちへの指導の傍ら、子どもたちともに追いかみ稽古や技の研究を行ってきました。中には私の自主練習に

付き合ってくれる子もおり、とても助かりました。

大会当日は、体の調子は良く、精神的にも落ち着いていたように思います。勝負する技のイメージも具体的に持つことができていました。一回戦の相手は山口県でした。対戦相手は東亜大学出身の選手で、大学時代同じ中四国ブロックで活躍していた方でした。試合開始から数十秒後、相手のかっぎに対して左足を下げたしまい、体勢が不十分になったところへ面を打ちこまれました。このときに、「一本を取るしかない」と腹を括り、終盤、相手が小手にもぐったところへ出頭面を打ち、同点となりました。その後、追加の一本を奪えず、引き分けとなりました。徳島県チームは三〇で敗れ、一回戦敗退でした。

私自身の試合を振り返ってみると、一本にできる場面を作り出せたにも関わらず「惜しい」で終わってしまう技が数本ありました。打突の決定力をさらに強化するとともに、有効打突の機会をもっと勉強していきたいと思えます。

結びになりますが、こうして徳島県の先生方とチームを組んで戦うことができ、今後の剣道人生における貴重な財産となりました。今後、子どもたちの技術向上に励むとともに、自身の剣道をさらに磨いていきたいと思えます。また、本大会にご尽力いただきました先生方や関係者の皆様から感謝申し上げます。



「かごしま国体」に出場して

成年男子の部 監督・大将

徳島支部 玉田 晋作

令和五年十月九日、鹿児島県霧島市牧園アリーナで行われた「かごしま国体 剣道競技 成年男子の部」に出場しました。前回の「とちぎ国体」では二十九年ぶりにベスト四に進出し、前回に引き続いての上位進出の期待を背負っての国体となりました。四月に国体選手選考予選大会が行われた結果、前回の五人のメンバーから、大将の私以外の四人が入れ替わりました。これは各年代において切磋琢磨している表れであると思います。今回も前回と同様に実力者揃いの選手構成となりました。コロナ禍による練習の制限も緩和され、強化練習をする機会も増え、また成年女子も十年ぶりに四国ブロック予選を勝ち上がり、前回以上の盛り上がりの中、十分な準備をして鹿児島に出発しました。

前回ベスト四に入ったことから、今回は

第四シードで二回戦からの出場でした。初戦の相手は、一回戦で愛知県に三〇で勝利した東京都です。東京都のメンバーは全員が警視庁所属で、前三人が世界剣道大会や全日本選手権大会等で活躍している星子選手、竹ノ内選手、畠中選手。後二人が警視庁指導陣である小関選手、笹川選手で固めるといふ盤石の布陣です。

徳島県対東京都の対戦。先鋒・岩原選手、

次鋒・浅田選手、中堅・大石選手は

強豪選手を相手に果敢に攻め込みましたが、健闘空しく中堅戦で敗戦が決定しました。破れはしましたが、

試合内容は決して悪くはなく、五分以上の戦いでした。しかし、星子選

手、竹ノ内選手、畠中選手には簡単に打たさない鉄壁の守りがありました。その守りから一瞬の隙を捉え、

その技が有効打突になるかどうか微妙でも、有効打突に持っていく能力に長けているように見えました。惜しくも敗戦となった岩原選手、浅田

選手、大石選手は、この大舞台で一

流選手と対戦することができたという経験を今後に生かしてもらいたいと思います。

団体での勝敗は決しましたが、副将戦は、山名選手が小関選手に対して、堂々たる二刀流の構えから面を引き出し、その面を小太刀で受けると同時に太刀で左胴を打ち、これが見事に有効打突となりました。その後胴を返され引き分けとなりましたが、その内容はすばらしく、この約一ヶ月半後の



八段昇段審査においての合格は納得のいく結果であると思います。山名選手には全国の二刀流普及発展に活躍されることを期待します。大将戦は、私と笹川選手との対戦でした。「ここは勝敗にこだわることなく、自分の剣道を表現しよう。」と落ち着いて試合をした結果、小手返し面と面すり上げ面が有効打突となり勝利することができました。

最終結果は三ー一で東京都に惜敗しましたが、前回大会に続いて徳島の剣道の底力を見せることができたのではないかと思います。「各年代において切磋琢磨している表れである。」と前述しましたが、さらに多くの方々が国体等の全国大会出場を目指し、徳島の剣道がなお一層活性化することを期待します。また、今回は成年女子と一緒に出場できました。次回は成年女子と少年男女が揃って四国ブロック予選を勝ち抜けるよう願っています。



《メンバー》

総監督	福多 雅英	徳島北高校 (教)
先鋒	岩原 潤哉	鹿屋体育大学
次鋒	浅田 光貴	徳島県警察
中堅	大石 真也	城北高校 (教)
副将	山名 信行	徳島県警察
大将 (監督)	玉田 晋作	徳島文理高校 (教)

かごしま国体 試合結果

2回戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
東京	星子	竹ノ内	畠中	小関	小笹
	メ	メ コ	コ コ	ド	
徳島				ド	メ メ
	岩原	浅田	大石	山名	玉田

国民体育大会

第四十四回四国ブロック大会

大将 前田 奈々枝

令和五年八月二十七日に、国民体育大会第四十四回四国ブロック大会が愛媛県武道館で行われました。

徳島県成年女子

監督 白木洋一（石井中学校教諭）

先鋒 岩原千佳（筑波大学）

中堅 長地千景（那賀川中学校教諭）

大将 前田奈々枝（阿波中学校教諭）

この大会で一位になったチームのみが、鹿児島県で行われる、特別国民体育大会に出場することができます。今年は、大将として初めて大会に出場させていただきました。コロナ禍で試合のルールも変わり、延長戦がなくなりました。勝敗の決しない場合は、大将による代表戦となっています。少年男女の試合が終わり、成年女子の試合が始まりました。緊張している二人に、「負けたら大将の責任！みんなで思い切っ

て試合をしていこう。最後は大将に任せと
き！」

と声をかけさせてもらいました。

一試合目は、香川県。少々緊張感が漂う中で試合が始まりました。一勝一敗の大将戦となり、監督の白木先生から、「じっくり落ち着いて、とにかく一本に集中すること。」と声をかけていただきました。何としても勝って次につなげることを考え試合に挑み、二本勝ち。二対一でまずは一勝することができました。

二試合目、愛媛県。勢いにのる先鋒は、二本勝ち、中堅は、長地先生の小手のようにも見えましたが、面をとられ、一本負け。大将戦は、引き分けとなり、一対一で引き分けとなりました。

最終の三試合目。二勝している高知県と、一勝一分けの徳島県。勝った方が本戦に出場できます。先鋒戦、接戦でしたが、安定の試合運びで一瞬の隙をつき、面を決め、一本勝ち。中堅戦、別の大会で大敗した相手に試合が始まって間もなく見事な相小手面を決めます。二本目、相手の出ばな思

い切った面を打ち込みましたが、小手を取られてしまいました。一進一退の攻防が続く中、長地先生の攻めに相手が小手を打てきます。すかさず相小手面。見事な試合でした。この瞬間、徳島県の十年ぶりの本戦出場が決まりました。まだ、自分の試合が残っていたのですが、思わず、応援に来てくださったっていた竹内先生、金野先生と共に涙を流してしまいました。大将は引き分け、二対〇で勝利することができました。

試合が終わって、会場にいらしかった先生方が目に涙をためて「おめでとう」と声をかけてくださり、また、試合後にたくさんメッセージをいただき、みんなの夢をかなえることができた喜びでいっぱいになりました。

私は常々、指導する生徒に、「稽古は嘘をつかない。頑張って練習すれば、剣道の神様が見てくれている。」と、話しています。今回、練習熱心な長地先生がそれを証明してくれました。また、試合前に二人に声をかけた「負けたら大将の責任！みんなで思い切っ

て試合をしていこう。最後は大将に任せと
き！」

この言葉は、歴代大将として出場されて
いた先生方が私にかけてくださったと言
葉です。この言葉に何度も勇気をもらい、
励ましてもらいました。自分がこのような
言葉をかけるには、まだまだ未熟な部分
が多いのですが、少しでも先輩方に近づく
とができるように精進していきたいと思
います。

何度も負け、悔しい想いをし、もうやめ
たいと思ったことは何度もあります。それ
でも、こうして選手として頑張ろうと思
うことができたのは、そのたびに励まして
くださる先生方や仲間、ともに練習に励む
生徒たちのおかげです。

いつも稽古を共にする女子部の先生方、
環境を整え、支えてくださる剣道連盟の先
生方本当にありがとうございます。今後も、
ご指導のほど、よろしくお願いたします。

国民体育大会 第44回四国ブロック大会 剣道競技

【成年女子】

令和5年8月27日(日)
愛媛県武道館 道場

第一試合	県名	先鋒	中堅	大将	大将	勝敗
	香川	宮本	安田	松永	1	2
	徳島	メ	一本勝ち	コメ	2	3
岩原		長地	前田			

第二試合	県名	先鋒	中堅	大将	大将	勝敗
	愛媛	御堂	柳原	川野	1	2
			メ	メ		
	徳島	メ	メ		1	2
岩原		長地	前田			

第三試合	県名	先鋒	中堅	大将	大将	勝敗
	高知	岡部	津野	松本	0	2
	徳島	メ	一本勝ち	メ	2	4
岩原		長地	前田			

成年女子	区分	愛媛県	香川県	徳島県	高知県	得点	勝者数	総本数	順位
	愛媛県		$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{1}{1}$	0.5	3	4	4
	香川県	$\frac{2}{1}$		$\frac{2}{1}$	$\frac{1}{1}$	1	3	5	3
	徳島県	$\frac{2}{1}$	$\frac{3}{2}$		$\frac{4}{2}$	2.5	5	9	1
	高知県	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{0}$		2	2	6	2

特別国民体育大会に出場して

中堅 長地 千景

令和五年十月八日〜十日、鹿児島県霧島市牧園アリーナで行われた特別国民体育大会に参加させていただきました。令和二年に開催される予定であった第七十五回大会が特別国民体育大会として開催されました。ブロック予選を勝ち抜き、十年ぶりの本選出場という貴重なこの大会に、監督、選手と共に挑めたことは私の人生における大きな財産となりました。

ブロック予選が終わってからの稽古では、得意技に磨きをかけること、足さばき、メンタル面の強化を意識しました。予選で、試合の運び方、メンタル面に課題が残ったため、少しでもレベルアップを図ることが目的でした。大会前の最後の稽古では、たくさんの先生方にご指導いただきと共に、激励の言葉もいただきました。より一層本戦でも頑張ろうと身の引き締まる思いでした。

大会当日。一回戦の相手は岐阜県。稽古の様子から引き技を警戒しなければならぬとアドバイスをもらい、試合に臨みました。立ち上がり、面で勝負を乗り切ることができず、試合は流れていき、途中で引き面を先取されました。相手の得意技を知っていても、足が止まってしまったために防ぎることができず。そして、中間距離で居着いたところを飛び込み面で二本取られてしまいました。短い試合時間で、何もすることができなかった、と悔しさが残る試合となりました。試合でどうすればいいのか、何をすればいいのか分からないという不安が先行し、自分主体で試合を展開させることができませんでした。

国体選手として出場することが決まった四月からを振り返ってみると、充実した稽古を積み重ねることができました。やはりそれは、たくさんの方々の支えがあったからこそです。

チームに元気と流れをもってくる先鋒、チームの柱として頼りになる大将、そして、選手個々のことをよく見て、ご指導してく

ださる監督、共に汗を流した先生方、応援し励ましてくださる先生方、感謝の気持ちでいっぱいです。

この二年間の稽古で、私は本当に人とのつながりに恵まれていると感じました。監督のお話の中に「時間を共有する」とありました。共に稽古した時間が、関係性や信頼関係の構築に繋がったと思っています。

大会は残念な結果で終わりましたが、得たものは多く、これで終わりではありません。機会を見つけて稽古に参加し、自分の剣道の確立をめざし、自身の課題に向き合いながら精進していくつもりです。今後もご指導、ご鞭撻よろしくお願いいたします。

〈試合結果〉

一回戦

徳島	○	対	二	岐阜
先鋒 岩原	一	コ		外山
中堅 長地	一	メ	メ	猪俣
大将 前田	引き分け			中川



令和五年度

全国警察剣道大会を終えて

剣道特練員監督 山 室 雅 幹

令和五年十月二十四日、日本武道館において全国警察剣道大会が開催されました。

本大会は、一部七人制の十二チーム、二部六人制の十八チーム、三部五人制の十八チームで争われ、毎年、勝敗により各部が入れ替わります。

徳島県警は二部に於いて大分県警、和歌山県警との試合になりました。二部では、三県が六リーグに分かれ順位を決めます。一位通過した三県が二次リーグに進み、そこで二位以上の四チームが昇格し、次年度一部から降格した四チームと入れ替えとなります。

一次リーグの一試合目は大分県警、二試合目は和歌山県警と対戦しました。まずは先手を取って流れを掴んでいきたいところでしたが、二試合ともに苦しい試合展開が続き、大分県警には三〇〇、和歌山県警に

は四一〇で破れ、有効打突を取ることに難しさを改めて痛感しました。

有効打突には氣勢・姿勢・刃筋・残心などの要件があります。これらのうちどれかひとつでも欠ければ、なにか物足りない印象になり一本に繋がりません。要件ひとつひとつが決定力の根本になり、それらの練度を上げることによって、一本に近づけることができます。

また、どの技を決める際にも、自分の打ち間をつかみ、相手を崩し、あるいは誘い、『ここだ!』という機会をつくった瞬間、適切な間合いで打突することが重要になります。

試合を振り返ってみますと、竹刀が相手の打突部位を捉えていたにもかかわらず、気剣体一致や冴えについて考えたときに、余分な力みにより、有効打突を奪うことが

令和5年度
全国警察剣道大会
[第67回]



日時 令和5年10月24日
午前9時～午後6時

主催 警察庁

会場 日本武道館

後援 (公財)日本武道館

できなかったと反省しております。

したがって、日々の厳しい稽古を積み重ねるとともに、打ちたい、打たれたくないという内面を鍛えること、また余分な力みが生まれないようにすることが、今後の課題になると考えます。

令和六年度開催の全国警察剣道大会に向けて特練員を鍛え直し、一年で二部へ昇格できるよう精進してまいります。

今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしく
お願い致します。

全日本剣道選手権

大会に出場して

警察支部 山 本 義 征



令和五年十一月三日、日本武道館において開催された第七十一回全日本剣道選手権大会

に出場しました。七月に行われた予選では、心と体が充実しており、自分の理想とする剣道を発揮することができ、九年ぶりに本大会の出場権を得ることができました。

この九年を振り返ると、前回大会は二十五歳であり、警察官拝命二年目で、剣道特別訓練生に指定を頂いた年でした。その後、警察大会三部三位、西日本大会優勝など、各種予選会を勝ち抜き県代表として出場させていただいた大会は多々ありましたが、全日本選手権大会からは遠ざかり、気付けば剣道特別訓練生の最年長となっていました。

また、子どもが二人生まれ、いつも試合には応援に来てくれる家族に、日本武道館という誰もが憧れるこの大会の舞台で試合をしている姿を一回でも見せたい思いが強くなってきました。いろいろな思いを持って挑んだ予選でしたので、本大会の出場が決まった時は、とても感慨深い思いになりました。

大会直前には、全国警察大会があり、遠征等で本大会に出場する選手と試合をする機会もあり、個人的に納得する内容で本番を迎えることになりました。

一回戦の相手は、東京都代表、警視庁の矢野選手でした。多彩な技を持ち、勝負強い選手なので、勝負の機会は多くないと考えていました。結果は、間が詰まったところに面を打ち抜かれてしまいました。先を掛け、攻勢

の持続が大切で、間が詰まった際に、居つくことなく、触刃から交刃までに心気を充実させ、その瞬間に勝負することが如何に大切かということを感じさせられました。今後、このような舞台で自分が理想とする剣道が発揮できる修練を積み、また、この舞台で、試合できるよう精進してまいります。大会出場に際し、ご支援いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



全日本高齢者武道大会に参加して

高齢剣事務局 松 本 憲 二



令和五年六月五日
第四十五回全日本
高齢者武道大会
が日本武道館で開
催されました。第

四十二回から第四十四回まではコロナウィ
ルス感染拡大の為中止となり四年振りの大
会となりました。今大会出場者は最高齢九
十七歳、九十歳以上の選手四名の他全国か
ら約六百名が参加し、本県からは十三名が
参加しました。

団体戦には大将・澤井勝之、副将・三木
毅、中堅・東徳美、次鋒・吉田昌彦、先鋒・
武田俊文が出場しました。

一回戦の対戦相手は静岡県、二勝一敗二
分けで勝ち上り、二回戦対戦相手は今大会
優勝した愛媛県、愛媛県は今年全国ねんり
んピック開催地であり、士気高く強豪でし
た。善戦しましたが、一勝四敗と負けてし

まいました。しかし、大将戦において澤井
選手は開始早々片手突きを決め、見事一本
先取しました。その後はお互い有効打突が
ないまま時間切れで一本勝ち、愛媛県に一
矢報いた一本でした。

個人戦には寿B組（八十〜八十四歳）澤
井勝之、高島稔之、三木毅、特組（七十五
〜八十歳）美馬勝行、A組（七十〜七十四
歳）兵頭新平、東徳美、藤本辰夫、松村和
宏、乾清隆、B組（六十五〜六十九歳）吉
田昌彦、武田俊文、木下裕康、C組（五十
五〜六十四歳）松本憲二が出場、善戦健闘
するも予選リーグを勝ち抜き決勝トーナメ
ントに進めたのは吉田選手、藤本選手の二
人、吉田選手は一回戦「勝負に勝って試合
に負けた」悔いの残る試合内容でした。藤
本選手は一回戦、二回戦と勝ち進み、次勝
てば三位以上となるも、面を二本取られ敗
れてしまいました。

翌日は、三木先生の計画で、全員でつく
ば科学博物館、スペースドームで日本の宇
宙開発プログラムに関する展示館（人工衛
星、ロケットの模型、宇宙ステーション実

物大モデル）を見学して、宇宙について学
ぶことができました。

以上二泊三日と短い中での全国大会の日
程ではありましたが、中身の濃い充実した
日を送ることが出来ました。次はより良い
試合結果が出せるよう精進していくつもり
です。

追伸 歌手のASKAさん（本名・宮崎
重明）が、B組に出場し、優勝しました。



日本武道館にて



つくば科学博物館にて

第二十九回徳島県健康福祉祭 (県ねんりんピック)開催状況

高齢剣事務局 松 本 憲 二

実施年月日 令和五年九月二十三日(土)

開催場所 松茂町第二体育館

参加人数 チーム数 十五チーム
(内、一チーム欠場)

選手数 五〇名(内、五名欠場)

開催状況

第二十九回県健康福祉祭剣道交流大会には、徳島県高齢剣友会の各支部等から会員四十五名が集い、盛大に開催されました。今大会は、十四チームが参加する団体戦(年齢制限なし)と年齢に応じて組み分けしての個人戦が行われました。

大会結果

〈団体戦〉

優勝 徳農・城西剣友会(佐藤佳宏、

高木壽史、森 直行)

準優勝 合同C(富田 正、出口正春、

澤井勝之)

第三位 麻植(尾脇広美、柳谷照男、藤

川和秋)

剣友会(武田俊文、松村和宏、

東 徳美)

〈個人戦〉

特組(七十五才以上)

優勝 谷 博

準優勝 中村稔裕

第三位 澤井勝之、美馬勝行

A組(七十才〜七十四才)

優勝 藤川和秋

準優勝 藤本辰夫

第三位 東 徳美、長崎秀信

B組(六十五才〜六十九才)

優勝 吉田昌彦

準優勝 木原資裕

第三位 木下裕康、住友久夫

C組(六十才〜六十四才)

優勝 高木壽史

準優勝 近藤浩文

第三位 鈴木啓三、森肥佐雄



第29回徳島県健康福祉祭剣道交流大会



個人入賞 特組 (75才以上)



団体優勝 徳農・城西剣友会



個人入賞 B組 (65才~69才)



個人入賞 A組 (70才~74才)



個人入賞 (60才~64才)

ねんりんピック

愛顔のえひめ二〇二三

剣道交流大会に参加して

監督・中堅 木原資裕

(鳴門支部)

標記大会が令和五年十月二十八日(三十
日)までの間、愛媛県武道館で開催されま
した。

この大会には次の出場規約があります。
「参加者の年齢は六十歳以上とする。ただ
し、チームの選手は七段以下とし、競技す
る五人のうち六十五歳以上が一名以上、七
十歳以上が一名以上含まれるものとする。」
この規約に基づき、徳島県チームは以下の
選手で出場することになりました。

先鋒・佐藤佳宏(六十一歳) 徳島支部

次鋒・木下裕康(六十八歳) 板野東支部

中堅・木原資裕(六十八歳) 鳴門支部

副将・栗野佳明(七十三歳) 徳島支部

大将・谷博(七十六歳) 鳴門支部

私は愛媛県東予市(現在は合併して西条

市)出身で、前任大学の聖カタリナ大学
(松山市)に七年半勤務しておりました。
そのようなことも考慮された上ででしょうか、
高齢剣事事務局より、私が今回の徳島県チー
ムの監督をするようにとの指示がありまし
た。

二つのチャレンジ

監督を担うに当たって、次の二つのこと
を計画しました。一つは選手そろっての稽
古を増やすことです。高齢剣では第二・第
四土曜日が稽古日になっていますので、さ
らに第一・第三土曜日に鳴門教育大学で稽
古を行うようにしました。しかしながら、
選手の中には体調不良により稽古できない
時期もあり、また、腰痛・膝痛等や年齢的
な問題があり、無理をせず、調子のピーク
を大会本番に持って行けるよう各自にがん
ばってもらいましたが、チームの稽古量は
全体的に不足していたように思います。

もう一つは、私はかつて松山に住んでい
ましたので、大会会場や宿泊ホテル等のこ
とは熟知しており、大会期間中に大会本部

が準備する循環バス(時間がかかる)を利
用するよりも自分の車を使いたいと思いま
した。しかし、行きの貸し切りバスを使用
しないで別行動をとると県からの補助金が
大幅にカットされます。また、帰路は各競
技種目ごとで各自移動しなければならぬ
ことを考慮して、県全体の団結式後に貸し
切りバスで松山へ出発する前日に松山の宿
泊ホテル近くの駐車場に私の車を移動させ
ることにしました。大会期間中は私の車を
利用することで時間的余裕を持つことがで
き、松山から徳島への帰路も重い剣道具・
竹刀と荷物に煩うことなく、松山観光も効
率よくすることができたと思います。

試合結果

この大会は出場チームを四または五チー
ムごとの予選ブロックに分け、予選リーグ
戦を行い、各ブロック一位のチームが決勝
トーナメントへ進出します。ただし、この
大会の予選リーグ戦はリンク方式という形
式で、予選リーグ表に並べられた前後のチー
ムと二試合を行います。二試合しか行いま

せんので、予選リーグの中で対戦しないチームがあり、昨年の神奈川大会での徳島県チームのように、予選リーグ負けなしでも、同じリーグの中で他に同じ勝ち数のチームが存在する可能性も高く、その場合は勝者数・取得総本数等によって、決勝進出チームが決定します。昨年の徳島県チームは取得本数二本差で決勝トーナメント進出を逃しています。

予選ブロックは表のようになり、予選ブロック初戦の茨城県対熊本市は引き分けでした。いよいよ、徳島県の出番となり、相手は静岡県です。選手は徳島高齢剣での練習試合では確実に一本となるような技を出しながらも、ねんりんピック審判員(愛媛県)の旗は重く、中堅・木原の二本しか取得できませんでした。結果として、静岡県

予選リーグ 第4ブロック
茨城県
熊本市
静岡県
徳島県

との戦績は4(6)対1(2)で緒戦を落としてしまいました。この時点で、決勝トーナメント進出はできないことはわかっていたのですが、私は監督として「ともかく、次戦の茨城県に勝とう!」と選手を鼓舞しました。しかし、茨城県の決勝トーナメントへの執念がすぎましく、その勢いに圧倒され、戦績は5(10)対0(0)の完封負けを喫してしまいました。茨城県はその後勝ち続け、ベスト四(三位入賞)となりました。

大会を終えて

優勝は地元・愛媛県Aでした。そのメンバーは先鋒と次鋒には六十歳の元県警剣道特錬で全日本剣道選手権出場経験者を据え、大将は七十歳なりたての勝負強い私の地元の先輩でオーダーを組み、さらに強化練習を数多くこなしています。この大会も国体同様に地元が勝つのが当たり前と言われていますが、当事者や関係者の並々ならぬ努力に敬意を表する次第です。

この大会に出場するにあたって、徳島高

齢剣の皆様より、多大なご支援を頂戴し、誠にありがとうございます。ご期待に添えず、申し訳ありませんでしたが、選手一同、貴重な経験を積ませていただき、感謝いたします。今後は、この経験を活かし、さらに精進したいと決意しております。今後ともよろしく願います。



第35回全国健康福祉祭えひめ大会
ねんりんピック愛媛のえひめ2023
ねんりんを重ねた愛顔 伊予に咲く
令和5年10月28日(土)~31日(火)

剣道交流大会 プログラム

会場 愛媛県武道館(主会場)
会期 令和5年10月28日(土)~30日(月)
主催 厚生労働省 愛媛県 一般財団法人長寿社会開発センター
ねんりんピック愛媛のえひめ2023実行委員会
松山市 ねんりんピック愛媛のえひめ2023松山市実行委員会
共催 スポーツ庁
主管 一般社団法人愛媛県剣道連盟
後援 公益財団法人全日本剣道連盟

随想

口は災いの元？

徳島支部 網師本 誠 司

全てはその一言で始まった。
「今やっても負ける気がせん。」

山川スポーツ少年団、阿波少年剣道教室を経て阿波中、脇高とずっと一緒だった一つ下の後輩、十川存夫（もりお）君は、子供の頃から大人びた剣道をしていた。試合時間を目一杯使い、得意技というよりも相手のクセを徐々に浮かび上がらせ、最後にそこを攻めて（責めて）勝つ。終了間際に練習では一度もやらない逆胴で決めた試合は今でも覚えている。

優れた後輩は、大学でも剣道を続け、社会人になっても忙しい中、稽古を続けていると話す立派な社会人剣士だった。一方の私は、高校以来竹刀を置いたままだったのにも関わらず、「今やっても負ける気がせ

ん」などと馬鹿なことを言ってしまったのは、今書いていても恥ずかしい限りだが、その時は案外本気だったかもしれない。

まあその程度のレベルだったというわけだが、そんな失礼な発言に対し、十川君は、怒りも笑いもせず、確か、ただこう言ったように記憶している。

「それはないわ」

たわいもない酒席の一コマだが、結果としてこの失言が私の剣道再開につながった。

「悪いこと言ってしまった」という自責の念と共に、「実際に試してみたい、一度竹刀を交えてみたい」との思いがリアルに高まってきたのである。

その後、奇遇にも脇高の先輩に当たる吉田昌彦先生が指導されている徳島市の月曜会に入門させて頂き、その一年後、東京から帰省してきた十川君に稽古をつけていただく機会を得たのである。

結果は、剣道をなさっている皆様には全く説明無用のことと思うので割愛するが、ただ、蹲踞から

立ち上がり対峙した時に湧き上がってきた高揚感は、言葉にできない位、素敵な体験だった。

再開して今年で十年目、曲がりなりにも続けて来られたのは、またいつか彼と、あるいは懐かしい面々と稽古をしてみたいからだと思う。その結果、そのままと気づくことがなかった剣道の奥深さの一端を、少しながらも感じることもできたのだから、あの暴言は、災いの元ならず、幸い元になったのではないだろうか。AI（人工知能）なら絶対に選ばない悪手が、良い結果につながるのだから人間の世界は面白い。



筆者と十川君(右)

私が剣道を始めたきっかけ

海部支部 谷口 順 二



私は海部郡由岐町木岐で生を受け、木岐小学校・由岐中学を卒業し、学業が嫌いで和歌山

の叔父の所に大工として弟子入りをしました。しかし、叔父から高校は出ておこなければいけないと言われ、和歌山県立和歌山工業高等学校定時制に入学しました。勉強と大工見習いで四年間過ごし、その後二年のお礼奉公をしてやっと一人前の大工にしてくれました。

昭和四十七年に今の家内と結婚し、翌四十八年四月に長男が誕生、その年に牟岐にかえって参りました。昭和五十年に次男が生まれ、平凡な生活を送っておりました。それから昭和五十五年三男が誕生し、家庭が大変賑やかになりました。

私は建築業で請負仕事をしており、その

時に取引先の製材所の張西政春先生に材料を配達して頂いておりました。いつも配達に来て頂いた時には色々世間話をしており、私が子供達に何かスポーツをさせたいと話したところ、「牟岐に剣道を教えてくれる所が有りますよ。私も剣道をしていません。剣道はとっても良いですよ。」と私に剣道を勧めてくれました。

当時、牟岐中学校体育館で丸岡英明先生、美馬和義先生、福田文久先生が剣道を指導されていました。私は子供達とともに見学に行き、そこで、先生とお話をしたところ、丸岡先生は生コン会社の運転手をされておられ、現場で時々お会いしています。又、美馬先生は建材店に勤務しており、現場に材料を配達して下さっていました。福田先生は私の兄と同級との事で話が弾み、子供達のことをお願いしました。

それから週二回の稽古に私が子供たちを連れて行き、基本から始め、竹刀を振る練習と進むにつれ、私が道場で色々子供に注意をいたしました。これが私の剣道を始めるきっかけになるとはその時にも思

わなかったです。私が色々子供に注意していた所、丸岡先生から「剣道をしていない人がとやかく言わないで下さい」と注意を受けました。私もそのままおとなしく先生の注意に従っておればいいものを福田先生が「おまはんも剣道したら」と誘われ、思わず「一丁やったるか」が後の祭り、それから子供と一緒に、まず礼儀作法、構え、足運び、これだけの事をするだけで軽はずみに「剣道をする」と言ったことに後悔すでに遅いです。

私は何かをし始めると当時から一生懸命になるたちで、愚痴も言わず子供達が次々と進歩をする中、私も子供達に追いつくと一生懸命頑張りました。やがてそれなりに格好になり「郡内の大会に出場しませんか」と先生に勧められ、初めて個人戦に出場しました。一回戦は由岐剣道教室の保護者の方と試合し、初めて一勝しました。でも二回戦は剣道教室の先生と対戦し、見事に敗戦です。その時、保護者の方がビデオを撮ってくれており、後でその時の自分の立ち姿と試合の様子を見て愕然となりました。自

分の剣道をする姿を初めて見たショックに自分ながら驚きと恥ずかしさでいっぱいでした。幸いにも牟岐剣道クラブの先生方及び子供達はそれぞれに上位の成績を残してくれました。

それから、まず自分の立ち姿、肩に力が入ってガチガチな姿を直す事から始め、鏡でいつも姿を写して直していき、やっと肩の力が抜ける様になるのに十年掛かりました。子供達と一緒に稽古し、子供達を見本に早く追いつくことを念頭に頑張りました。特に美馬先生からは名指しで稽古をつけて下さり、それからの掛かり稽古が苦しく一番印象に残っております。掛かり稽古の後、最初は小便がスイカを絞った色になり、その後は回数を重ねるとチョコレート色になり、初めて見た時はショックを受けた記憶があります。

その後、新しい中学校に武道館ができ、その横にB&G海洋センタープールができ、美馬先生が水泳の管理人になられた関係で、水泳に来る子供達に剣道を勧めて下さり、部員も大変多くなりました。その頃、丸岡・

福田・美馬・平瀬・藤井の各先生に加え、牟岐署に勤務の畑山先生も加わり、大変な賑わいでした。平成六年〜七年間、牟岐署の署長として三木毅先生が赴任され、剣道教室に小笠先生とともに子供達、私たちと指導者を指導に来て下さり、楽しく稽古ができたことを思い出します。

しかし、その後、指導者の先生方の都合により、美馬先生と私の二人で指導することになりました。子供達の戦績が下がり気味となり、そこで美馬先生が子供達を出稽古に連れて行こうと提案され、郡内各剣道教室、又県下の強豪である鳴門光武館の寺西先生、大野剣道部の西岡先生、相生龍虎館当時の儀室先生にお願いし、各道場の練習時間に合わせて、よく稽古に行かせていただきました。

兄弟子の六尾哲さんの子供さんが和歌山の野崎剣道教室に通っている事を知り、連絡を取ったところ夏休みに一泊二日の合宿を承諾して下さい、子供を連れて合宿に参加しました。又、室戸剣道教室と牟岐自然の家で郡内各剣道教室とともに交流をし、

子供の技術向上に大変役にたちました。また、各大会に招待され、成績がそこそ残せる様になりました。

話はさかのぼり、私事ではありますが、美馬先生と私と二人で子供達と色々な剣道練習場所へ行き、多くの指導者の方々に稽古をつけて頂き、又牟岐の道場で月二回海部郡の指導者の稽古会をしたおかげ様をもちまして五段まで昇段する事が出来ました。ひとえに剣道連盟各指導者の先生方特に美馬先生にはひとかたならぬお世話になりました。また、社会体育指導者の初級、中級と、美馬先生の勧めで一緒に受け、資格をいただきました。

私の子供達は長男が中学二年生の時網膜剥離を起こし、医者に剣道をしないようにと言われ、後少して中学卒業なので三年生の総体まで剣道を続けさせました。次男は中学卒業後阿南工業高校の剣道部へ入り、当時長男が中部大学におり、次男が高校卒業の時には坂本先生、曾根先生が中部大学を推薦して下さいましたが、本人は剣道ではなく、仕事がしたいと言い、就職をし

した。三男は小学六年の時スポーツ少年団の大会で全国大会に出場する事になり、美馬先生が監督に選ばれ、県内剣道教室で稽古をお願いし、強化が実り、全国三位となりました。中学に入学の時に選手が揃っていたので影山美雄先生に牟岐中学に来て下さる様に希望を出して下さいと頼んだところ、幸いにも牟岐中学に赴任をしてください、剣道部を盛り上げてくださいました。中学卒業後、本人の意思で富岡西高等学校を希望しており、影山美雄先生御骨折りで富岡西高等学校剣道部に入る事が出来ました。西高剣道部にスポーツ少年団の全国大会と一緒に出場した長谷川君もおり、とてもビックリしました。監督が本田敦彦先生であり、西高は県内で常に上位の成績を収めていると聞き楽しみにしていました。

強豪校に入ると、遠征が大変多く、監督の本田先生を見ていると大事な休日を生徒のために家庭を犠牲にして一生懸命努力して下さいる事を非常に感謝いたしております。おかげ様で四国大会、全国大会を見せて頂き、自分の指導の手本になると共

に子供達が剣道を始めたらせてめて高校まで剣道が続けられる様に指導をしていきたいと強く思いました。

これまで色々と剣道に携わってきましたが、残念ながら牟岐の少年剣道教室は平成二十八年に少子化により入部者がなく、休部に追い込まれました。今まで剣道を通じて剣道教室、各保護者の方、学校の先生方、剣道連盟の指導者の方、遠征先の保護者の方、また遠征先の先生方、本当にお世話になりました。今後は剣道連盟に微力ながらご奉公させていただきます。さらなる徳島の剣道の発展と繁栄をお祈りします。



人工股関節と剣道

徳島支部 栗野 佳明



去年令和五年十二月に九州大学病院で、年に一度の定期診察を受けました。五十八歳の

時に、左大腿骨頭壊死のため、人工股関節の手術をして十四年になります。前回医師に、私が剣道をしている動画が見たいと言われましたので、今回お見せ致しました。先生は、「どちらの足が悪いのかわからない」と言われました。もともと過激な運動はしてはいけないのですが、生活の質QOL（クオリティー・オブ・ライフ）の観点から、自己責任で剣道をして良いと言われていました。今回「あなたは、剣道をやる事が良い方向になりましたね。」とってもらい、そろそろ私の人工股関節の取り替えの時期が近づいていると思っ

たので安心してました。あと三十年持つてく

れたらと思っています。人工股関節にすると、運動で関節部が損耗してくずが出て、関節が動きにくくなります。また、転倒して関節がはずれると、手術しなければなりません。ころばない事、股関節に過度な負担をかけない事、そして筋肉をつけて関節を守る事が大切です。左足で強く蹴る事も良くないです。

大きな手術をしたりすると、安静にしている事が多いと思いますが、体力や筋力を大きく弱め、関節の動きも悪くなります。私は、手術後ごく早い時期から車椅子、松葉杖となり、両足で歩くようにしました。

一ヶ月間の入院生活の後半には、毎日二回、七階からエレベーターで一階に降り、非常階段を昇りました。廊下も速めに歩いていたので、看護師さんに、「あの人、入院の必要があるの？」と言われていたようでした。この事が、体力と筋力の維持につながったと思います。また、上半身は、手だけで素振りをしました。

退院後は、軽めに剣道の稽古をし、ジムに行って筋トレをしました。数ヶ月後には

試合も始めたと思っています。

徳島には六十歳になって、平成二十三年だと思いましたが帰って来ました。道場の稽古とジムでかなり体調も剣道も良くなりました。平成二十五年四月に京都で六段、令和四年二月に山梨で七段に合格しました。蹲踞はまともにも出来ませんでした。良き道場の先生方に、私の体を理解して頂き、根気よく御指導していただいたおかげと感謝しております。

去年愛媛でねんりんピックに出場させて頂きましたが、良い経験をいたしました。それにしても、いくつになってもお元気な先生がおいでになるのには敬服いたしました。

今は体調も良くなく、筋力も落ちています。冬も終わり、春も来ましたので、再度剣道に強く励みたいと思っています。先生方の御指導をよろしくお願い申し上げます。

難波津に咲くやこの花冬ごもり

今を春べと咲くやこの花

人生の分岐点

警察支部 佐賀博史

「明日から防具着けて稽古やってくれ」

私の中学校時代の恩師（剣道部監督）である吉田輝昭先生（元相生中学校長）のこの言葉が私の人生を大きく変えた。鳴門市第一中学校へ入学した昭和五十一年四月のこと、私は、武道関係の部活に入部しようと思ひ、最初に近所に住む二学年上の幼なじみがキャプテンを務める柔道部の見学に行った。その時に幼なじみのキャプテンとは、柔道部に入部することを約束していた。そして、次の日には剣道部の見学に行った。その時、私と同じように剣道部の見学に来ていたのが、私と同じ新生生の平野誠司君（徳島県剣道連盟副理事長・教士八段）や柿梯宏君（東海大浦安高校剣道部監督・教士八段）ら当時の鳴門少年剣道教室（現鳴門市光武館）で既に剣道を修練し、全国大会などでも活躍していた同級生達であった。

吉田先生は、事前に平野君ら経験者が入学してくることを知っていた様子で、私を含めた新生生達に冒頭の言葉を投げかけてきた。私が剣道初心者だと分かっていたなら、私にまでそのように言うはずもないが、吉田先生は、私のことも平野君らと同じ剣道経験者だと思ひ込んでいたようであった。私を除く剣道を経験している同級生達は、吉田先生の言葉を聞き、「はい」と返事していたものの、私はエツという感じで、『剣道やったことないのに、いきなり防具着けていけるんかなあ。防具着けたら格好ええだろうな、着けてやってみよう。』といった興味本位の思ひが湧いてきたことを覚えている。

私は、吉田先生のその一言で、単に『剣道防具を着けてみたい』といった軽い気持ちで、剣道部に入部することを決めた。帰宅後、私は両親にねだって近所のスポーツ店で、剣道防具を買ってもらい、翌日、新品の防具を持って登校した。

そして、放課後の部活の時間となり剣道場へ行ったものの、私が初心者だと気づい

た吉田先生からは、当然防具を着けることは許されず、正座や礼法、すり足や竹刀の握り方といった剣道初心者の誰もが通る手の基本を教わることとなった。私の『防具を着けてみたい』という憧れは先延ばしとなった。

それからしばらくの間、吉田先生から手の基本をみっちり指導して頂き、ようやく防具を着けて稽古となった。防具を着けて稽古は、私の『憧れ』を吹き飛ばす想像以上の苦しく厳しいものであった。

当時、吉田先生は二十五歳、元氣いっぱい熱意あふれる厳しい稽古が連日繰り返された。二・三年生の先輩や同級生達も経験者ばかりであり、私は必死の思ひで稽古についていくのが精一杯であった。朝稽古にはじまり、放課後の稽古、そして稽古後は稽古着のままタイヤを引っ張ってのダッシュや階段を使つての筋力トレーニング等々毎日、真っ暗になるまで汗を流した。

中でも吉田先生が、部員一人一人を受ける掛かり稽古は、気迫に満ちあふれた非常に厳しい稽古であった。順番を待っている

間、恐怖と緊張からか、その場から逃げ出したいと何度も思った。この中学校の三年間では、吉田先生から剣道の基礎的なことを教えていただくとともに『剣道の厳しさ』というものを教えて頂いたように思う。

中学校を卒業後、私は鳴門高校へ進学し平野君らとともに剣道部へ入部した。さらに、三年間、剣道を続け高校を卒業後、徳島県警へ就職した。六年間剣道を続けてきたことが、警察官を志した理由のひとつでもある。警察官となった私は、二年後の二十歳の時に『剣道特練員』に指名され、三十歳まで機動隊で剣道を続けた。

その間、二十八歳の時に妻と結婚した。妻も高校時代剣道をしており、剣道の関係で知り合った。子供は、長男・長女を授かり、二人とも成人し独立している。平凡ではあるが、これまで幸せな人生を送れている。

もし、あのととき吉田先生のあの言葉が無ければ、私は柔道部に入部していたかもしれない。柔道をやっていたらどんな人生になっていたか想像もできないが、オリンピック

クに出場して『金メダル』を取っていたかもしれないし、大怪我をして警察官になっ
ていないかもしれない。

もちろん妻とも巡り会っていないだろうし、そうなると子供達とも会うこともない。そんなことを考えると、不思議というか怖い思いがする。そのような話を吉田先生にしたことがあるが、先生は、「そんなこと言うたか」と笑いながらお答えになった。

あのとときの吉田先生の一言で私は剣道部へ入部することとなり、私の人生が大きく変わったことには違いない。まさに私の人生の大きな分岐点であった。といって、そのことを恨んでいるわけではない。

それどころか、剣道という素晴らしい世界へお導き頂き、妻や子供達と巡り会うことができ、幸せな人生を送っている現状を考えると、吉田先生のあの『勘違い』とは言わないが、あの言葉に感謝・感謝と申し上げるしかない。



昭和53年 8月 四国中学校総体で優勝



平成23年 2月26日 吉田輝昭先生の退職を記念して鳴門第一中学校剣道場での稽古会

称号・段位合格者

七段に合格して

徳島支部 佐々木 克 哉

このたび令和五年四月三十日に京都会場にて剣道七段に合格する事ができました。今までご指導頂いた諸先生方、先輩、同輩、後輩方に心より感謝し、私のこれまでの剣道歴を振り返りたいと思います。

私は小学校二年生で剣道を始めました。当時は森田健作主演の「おれは男だ！」というテレビ番組が流行っており、砂浜で胴着を着て竹刀片手に裸足で走る姿がモテ男の象徴のような時代で、剣道を志す子供は非常に多かったと思います。私は故笠井選先生が立ち上げた阿波少年剣道教室に入門させて頂きました。当時の教室には網師本先輩や、北海道学生を制した十川先輩、関西女子学生を制した長瀬先輩など田舎の剣道教室としては非常に優秀な先輩方が揃っ

ていて、剣道を始めるにはとてもいい環境だったと思います。

中学は阿波中学校に進学し剣道部に入部しました。中学二年の時に塩田昭治先生が就任されました。当時の阿波の子供達にとつて塩田先生と言えば川島高校に勤務されていた塩田善治先生と並んで泣く子も黙る塩田兄弟として恐れられており、楽しくて楽な部活動を夢見ていた私の夢は破れました。三年生になると故中尾誠先生が就任され、当時はほんとしんどい稽古の毎日だったと思います。今思い返すとこの中学の二年間、塩田先生と中尾先生に厳しくご指導頂いた事が無ければ今こうして剣道を続けている事は無かったと思います。苦勞を知らずぬくぬくと育っていた私を心身共に鍛えて頂き、多少の事では挫けない忍耐力を養うことができました。二人の先生に改めて感謝致します。

高校は脇町高校に進学しましたが、勉強に専念するため剣道は休止しました。大学は徳島大学に進学し剣道を再開しましたが、ここで出会ったのが故勝沼信彦先生でした。

勝沼先生は徳島大学酵素科学の教授だったのですが、これまでの人生でこれほど豪快な人には出会った事がなく、ほんとに衝撃的な出会いでした。剣道と酒をこよなく愛し、学生時代は朝まで連れ回される事も多々ありましたが、何事にも動ぜず自分の信念を貫く姿に人としての生き様を学んだと思います。また大学剣道部の師範として毎週月曜日に大澤孝彰先生にご指導頂きました。大澤先生との稽古では、蹲踞して立ち上がり構えるだけで息が上がってしまう感覚が記憶に残っています。今思えばあれが範士八段の気位の高さだったのだと思います。学生時代の自分とはかく打ち込んでいくのに必死だったので、六年間大澤先生にご指導頂いた事は本当に自分の剣道人生において貴重な経験であったと思います。

大学卒業後は仕事が忙しかった事もあり、約十年間剣道から離れました。剣道を再開するきっかけは息子に何かさせようと思った時にやはり剣道をさせようと思った事でした。道場を探して行き着いたのが蔵本少年剣道クラブでした。ここには偶然に同級

生の吉田茂生先生が子供をかわせており中
学以来の再会でした。吉田先生は八段になっ

てからも剣道の指導と公私ともに懇意にし
て頂き、本当に感謝しています。また、同

じく同級生の井村行宏先生も参加してくれ
るようになり同期の三人で稽古できる事が

モチベーションとなっています。当道場では
長崎先生、東先生、藤本先生、佐藤先生、

月岡先生など、多数の先輩剣士が集まり毎
週勉強させて頂いております。当道場は誰

でも参加可能です。基本稽古からしっかり
やっているので昇段を目指す先生方は是非

お越し頂ければと思います。また、稽古を
再開してから大学の医歯薬剣道部の稽古に

も参加するようになり、新たに師範となら
れた河田清実先生にもご指導頂けるように

なりました。河田先生の指導力はすばらし
く、初心者で始めた学生も驚くほど上達す

ることにOBとしても非常にありがたく思っ
ています。私もこの年になっても指導して

頂ける事に感謝する次第です。また、昨年
から玉田晋作先生を中心とするセント歯科

の道場にも稽古に参加させて頂くようにな

り、玉田先生の強い攻めに翻弄されながら
も稽古を積ませて貰っています。

このように振り返ると私の剣道人生は多
くのよき指導者に恵まれていたと思います。

おかげで七段の合格を得る事ができました。
ご指導頂いた先生方に感謝の気持ちを忘れ

ずこれからも精進して参りたいと思います。
今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願

いいたします。



七段に合格して

鳴門支部 谷

博

私は令和五年四月三十日、京都での七段審査において無事合格する事が出来ました。

思い起こせば平成二十四年四月に京都にて六段合格をして以来、体力の減退と腰の状態が年々悪くなり、建設業にも支障をきたして、職人も手離して何も出来なくなっていました。

この時七十二歳になって長い間、剣道する事が出来た事に感謝する意味で鹿島神宮と香取神宮へお参りして来ました。

昨年テレビで腰の薬の事を聞きのみ始めた所、調子がよくなり、腰も治まって来たので道場へも行けるようになり、鳴教大の木原先生、徳島中央武道館の西谷先生、生田先生、東先生を始め諸先生方、鳴門ソイジョイ武道館の松本先生方、あちこちと練習をさせて戴き、又指導して戴きましたが、体調を造る事が出来ず最後まで「行ってもあかんのでは？」と迷い廻ったのですが、

審査会場に入って、「もう二度と受ける事は出来んだろう、最後の挑戦だ、負けられん。」と気合を入れなおして審査会場に立ちました。

一人目は私より少し背の低い人でした。

まず先手は渡さない気で、追い込んで小手を打った所、うまく打てたので、もう一本打った所で面にねらいを替えて、相手に前に出かけた所へ先に面を二本打った所で終りました。二人目も小手を二本打った頃から体力の限界が来始めたので、今度は変な事を考えず小手を四本打った所で終了となりました。

前回（六段の時）は終わってすぐに形の審査になり、頭がボーとして形の順番もまちがいかけたので、今度はすぐに廊下で一人で形のおさらいをして準備をした所、何とか実技が合格と発表され、形の方も無事合格となって、帰る事が出来ました。

十年位前から自分はどんな剣道をしたらよいか考え始めましたが、テーマを「何時打つか。」と決め、条件として

一、先手、先の先は自分が取る。





一、無拍子でせめる。
一、年を取って体が動かない分、気力で押す

等、自分流に考えて、練習時には五〜十本で気力がある間のみ掛って行くがつかれたらすぐやめる事になっていますので、一日三〜五人でやめるようにしました。

色々と書きましたが、諸先輩方に指導をされてこれまで来る事が出来ました。

私にとって仕事が一番、剣道は一番と言ったりしていましたが、これは両輪であり仕事と剣道によって私の今現在がある事は大変な幸であります。

この後は、体と相談しつつ、老後を過ごすと思っています。



七段昇段祝賀会

七段審査に合格して

警察支部 松 本 慎 二

令和五年十一月十三日名古屋市枇杷島スポーツセンターにて行われました剣道七段審査に合格することができました。これまでお世話になりました先生方やいつも稽古をしていただいている藍住剣道スポーツ少年団の子供達に厚くお礼申し上げます。

令和四年八月の福岡市での審査では、自分勝手な剣道で不合格。その後の十一月の名古屋での審査では、相手に先を掛けながら打突できたと思いましたが、これまた不合格。いったい何をどうすればいいのだろうと思いましたが、めげずにもう一度自分の剣道に向き合い、合気の中で生じる一打を目指し、先生方のご指導を受けながらひたすら稽古を続けました。

今回の審査には、妻も一緒に来てくれました。前日の午後に名古屋に向けて出発し、夕方到着すると、妻は、緊張している私を見透かしていたかのごとく、すぐに旨いもの

を求め、私を名古屋駅周辺へと連れ出してくれました。緊張していい振りをしていましたが、頭の中は翌日の審査のことでいっぱいでしたので、本当にありがたかったです。

そのおかげもあって、特に緊張せず、普段どおりの朝を迎えることができました。立会までの少しの時間も緊張せず、落ち着いて待つことができました。

立会が始まると、二人とも、初太刀の面をとらえることは出来ませんでした。思い切って打ち切ることができました。その後の流れは覚えていませんが、相手と気を合わせ、相手より少し早く打突につながることができたかなあという感じはしました。実技審査の合格者に私の受審番号があるのを見つけた瞬間、ほっとしました。すぐに剣道形の審査へと移りましたが、なんとかやり遂げ、合格することができました。

今でも、いったい何がよかったのか分かりませんが、一緒に来てくれた妻や普段から稽古をつけてくださった先生方の支えがあったからこそ、合格することができたの



は確かです。ありがとうございました。

不合格だった期間、自分の剣道に悩みましたが、今までにない剣道の楽しさをたくさん感じる事ができました。ほんの少しですが、成長した実感もありました。

これからも一生懸命稽古に励み、少しでも徳島県剣道のお役に立てるよう頑張りますので、変わらぬご指導をよろしくお願ひします。

七段審査に合格して

麻植支部 尾 脇 広 美



剣道の教えを受けている時は全てが勉強で、子供とする時は八割が勉強である。子供とは普段できない稽古をしないという教えがあります。私の稽古相手は、主に小学生、それに中学生、高校生が混ざり、一般の方との稽古はわずかな時間です。そして、年に三〜四回、若者が後ずさりする高齢剣の先生方に稽古をお願いしていますので、この教えのとおり子供との剣道が大人ともできるようなと思います、次の三点に気を付けて稽古をしています。

一点目は、休まずに稽古を続けること。

六段に昇段してから六年間で定年退職、再就職、二回の入院手術、新型コロナウイルスによる稽古の中止や自分自身の感染がありました。一旦稽古を休むと億劫になるので、兎

に角、剣道着に着替えることにしました。

二点目は、力まずに素直に打つこと。私は右手で押さえるような打ちをする癖があります。それが子供であれば、力まず素直な打ちができていたので、それが大人にもできるように稽古しました。

三点目は相手の攻めを見過ぎないこと。私はいつも攻めを見過ぎて、初太刀を受けていました。相手より先に気づくりをする稽古に心掛けましたが、これが私の最大の難題でした。少しかだけ表現が違いますが、二点目と三点目は、六段に昇段した時と同じ私の課題でした。

名古屋での審査の前日は、早めにホテルへチェックインし、相手より早く気づくり（小雨の中、店先に並んで開店を待ち）をして、焼酎のお湯割りで手羽先をグイグイと攻めて事前審査を終えました。そして、審査を忘れてぐっすりと寝ました。

私の受審番号は「369D」であり、付け焼刃の剣道はせず、自分の剣道をするつもりで臨みました。Cさんとの初太刀は、私の面で、次に小手抜き面を打ちましたが、

不十分な打ちでした。どうしても一本が欲しいので、間合を詰めると面に来たので胴に返しましたが手元の打ちになってしまいました。Aさんとは、表から軽く抑えるのと押し返してきたので小手、続いて同じように攻めると面に来たので胴に返しました。その後、出鼻を裏から払って小手を打ちましたが、摺り落されて面を打たれ、私の立合が終わりました。

結果発表で私の番号がありました。感動する間もなく、形審査となり、それも無事終了しました。剣道七段は、一般剣士の最高位であり、それに挑戦できるだけでも有り難いことです。これは、ひとえに麻植支部や高齢剣友会の先生方のご指導や、面を打たせてくれた子供達のお陰であり、この文面にて御礼申し上げます。

次の目標を「生涯剣道」として、初心に戻り基本を大切にしたい素直な剣道に心掛けたいと思いますので、今後ともご指導をお願い致します。

剣道七段に合格して

麻植支部 原 田 敏 也



令和五年十一月十一日、愛知県名古屋市の審査会において、剣道七段審査に合格させ

ていただきました。これもひとえに日頃よりお世話になっております麻植支部の先生方、東みよし淳志館の先生方、大塚製薬剣道部の先生方、そして稽古をつけていただきました全てのみなさんのおかげです。この場をお借りしまして、心よりお礼申し上げます。

六段合格からの年月はあっという間に過ぎました。小学校教員としての毎日に加え、徳島県スキー連盟教育部としての活動、小学校でのタグラグビー部監督としての活動は多忙であり、七段審査に向けての稽古が十分とは言えない毎日でした。これを自分の稽古ができない事の言い訳にしていたよ

うな気がします。七段審査は「いつかは審査に行って合格したい」と考えるに留まっていたいました。

転機は鳴門教育大学大学院への二年間の研修を経て、教頭職をいただいたことでした。環境が大きく変化したことで、剣道へ向かう意識が変わりました。勤務先も東みよし町へと変わり、タグラグビー部の監督は退任。毎朝五十分かけて勤務先の小学校へと向かい、六時過ぎには校舎中の窓を開けて回る日々が続きました。しかしこれをプラスに考えようと、日々の生活の中で、できる稽古を心がけました。体育館には大きな鏡があり、窓開けの最後に十五分ほど鏡の前で構えのチェックや打突の姿を確認しながら素振りを繰り返しました。勤務が早く終わった週二日ほど、幸運にも東みよし淳志館で稽古をさせていただくことができました。また稽古のない日には、家の周囲をランニングすることにしました。

七段審査は三度受審しました。一度目は一年前の名古屋で、この時は自分勝手に攻めを展開してしまいC評価。二度目は今夏

福岡でした。このときは逆に見過ぎてしまいB評価。しかし立ち合いの動画を先生方に見ていただき、アドバイスいただいたことが、合格したことへの大きなきっかけとなりました。

今回の審査で心がけたことは「説明のできる立ち合いと打突をすること」「構え過ぎず、攻めの気持ちを充実させること」「審査員の先生方に、横方向から見ただくこと」です。一人目の方には立ち合いを掌握できたと実感有り。二人目の方とは互角の展開でした。立ち合いのコントロールはできたと思いましたが、不安要素の残る三分間でした。しかし「やることはやった。不合格ならばらしく受けるのは止めておこう。」と思い発表を見に行きました。自分の番号を見つけたときには、この上ない喜びが湧いてきました。同じ組で合格された剣道形の相手の方から、「いい立ち合いでしたね。見ていました。」と言われ、実技合格を初めて実感しました。剣道形を終え、合格の連絡を受けた時には、喜びと同時に七段としての責任を大きく感じまし

た。

今後はお世話になった皆さんや、剣道に
対して理解・協力してくれる家族への感謝
の気持ちを忘れず、七段に相応しい剣道の
実現に向けて、また徳島県剣道連盟の発展
に向けて、日々精進していく所存です。今
後ともご指導のほどお願いいたします。



六段に合格して

刑務所支部 秋 山 雄 治



令和五年四月二
十九日、京都審査
において、剣道六
段を拝受しました。
四度目の挑戦にし

てようやく合格を頂くことができ、これも
ひとえに、日頃から共に稽古させていただ
いている方々のお陰であり、職場である徳
島刑務所の諸先輩方、後輩諸君に、また、
職場外では寶壽館道場の皆様に、心より感
謝申し上げます。

私は、たしか平成二十七年の京都審査、
平成二十八年の京都審査及び愛知審査と三
度不合格となり、諦めるつもりはありません
でしたが、平成二十九年四月に高松矯正
管区への転勤・単身赴任生活となり、十分
な稽古量を確保することができなくなった
ことを言い訳にし、令和三年三月に徳島刑
務所へ戻るも、新たに配置された業務での

多忙、職場におけるコロナ禍の稽古制限を
も言い訳にしながら（実際のところ、四度
目の失敗を恐れて踏み出せなかったという
のが本音ですが）、受審を見送ってしまし
た。しかしながら、職場後輩の片山将志君
が今回の六段審査を受審するつもりである
と聞き、後輩に先を越されるわけにはいか
ない（既に住友直城君には越されてしまし
たが）と奮起して、四度目の挑戦を決意し、
令和五年の新年の抱負に『今年こそ六段昇
段！』を掲げました。

私は、これまでに先生や先輩方から、
『攻めが足りない』『せっかく攻めているの
に、なぜそこで打たないのか、なぜそこで
下がるのか』などと何度も指導を受けたこ
とがありますが、未だにこの『攻め』とい
うものを頭でも体感としても理解できてい
ません。しかし、昇段に向けて『攻めて打
つ』『攻めて、相手が出てくるところ、相
手が居着いたところを打つ』ことが必須で
あると考え、これらを常に意識して稽古に
取り組むことにしました。

審査当日は、早めに現地入りし、開館ま

六段に合格して

刑務所支部 高橋 伊織



令和五年四月二十九日、京都府において実施された六段審査に合格することができました。

これもひとえに日頃から指導頂いている徳島刑務所の諸先生方、そして同僚の支えのおかげであると感謝しております。心よりお礼申し上げます。

の間、体育館周辺の散歩やストレッチ等によりリラックスして過ごし、その後、共に受審した職場の高橋伊織先輩と片山君と合流して会場入りしました。幸い、四度目の挑戦ということで、会場内の独特の雰囲気には特に緊張することなく審査に臨むことができました。肝心の実技審査の内容はというと、必ずしも満足できる立合いではありませんでしたが、これまでで一番『攻めて打つ』を体現できたのではないかと感じることで、実技審査通過の発表に自己の受審番号を見つけたときは、本当に嬉しかったです。結果、高橋先輩と片山君と揃って合格することができました（お二人は一発合格）。

四十歳台となり、今後の剣道人生、自己の剣道を高めていきながらも、剣道をより楽しんでいきたいと考えるようになりました。今後も引き続き、諸先輩方に指導を仰ぎながら、後輩諸君に鍛えてもらいながら、おこがましくも、六年後以降の七段審査に向けた『攻め』の習得のため修練を積みながら、剣道を楽しんでいきたいと思えます。

ですが、娘がお世話になった北井上剣道教室の先生方や職場の先生方が背中を押してくれたおかげで再びチャレンジする決意が固まりました。

審査当日、あまりにも緊張してしまい、前田先生、金野先生から色々と指導していただいたのですが、頭が真っ白になったまま実技へ。正直、二回共、立ち会いはほとんど覚えていません。ただただ、大きな声を出して無我夢中に行っていました。

そして、合格発表。同僚三人で受けたのですが、全員合格。そこから、他の実技合格者と共に日本剣道形の審査会場へ。無事に形もやり終え、「六段合格」となった訳ですが、何か信じられないような気持ちでした。

後日、立ち会いの動画を見ていただき、これからの課題がたくさん見つかりました。まずは真の六段としての高みを目指し、自分をより成長させ、精進していきたいと思えます。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

剣道六段審査に合格して

阿南支部 大 城 健 作

令和五年四月二十九日、京都での審査において六段に合格することができました。これも偏に日頃からご指導いただいたいます阿南支部の先生方をはじめ、徳島至誠館の関係者の方々のおかげだと感謝しております。この場をお借りしまして心よりお礼申し上げます。

私は旧木頭村北川小学校剣道クラブで小学一年生から剣道を始めました。全校生徒三十人足らずの地域で、放課後は学校のクラブ活動として剣道をしなければならぬ、それ以外の選択肢はない、というのが始まったきっかけでした。もちろん毎日稽古があり、それが当たり前の生活でした。沢山の先生方に教わりながら、高校まで剣道中心の充実した生活を送ったことで、卒業後は自分の中ではやり切った感もあり、竹刀を握ることをやめてしまいました。しかし、子供が徳島至誠館でお世話になることとな

り、私の剣道生活は再スタートを切ることとなったのです。子供の元立ちぐらいであれば、と軽い気持ちでの再開でしたが、中山繁輝先生から指導者としての立場を仰せつかり、

「昇段にもチャレンジしてくださいよ。」
とのお声かけに背中をおされ、研鑽を積むこととなりました。

剣道における六段への昇段は、その厳しい審査と高い技術要求から、多大な努力と精進が求められる極めて困難な挑戦だと思っております。また、コロナ禍において仕事が多忙を極め、加えてガラスの腰をいたわる必要もあり、稽古時間を多くとるのことは困難なことでした。しかし、こんな私の状況を十分理解してくださっている高木先生、武藏先生にチャレンジしたいことを伝えると、限られた時間の中で厳しくも温かいご指導、ご支援をくださいました。やれることはやってやる、と前向きに思考回路を変え、家では六段審査合格のチューチューを何度も見返し、今の自分と何が違うのか、と妻と剣道談義もしました。少ない稽

古量ではありましたが、自分は誰よりも内容の濃い稽古を積んできたから大丈夫だ、と自分自身に言い聞かせることで、審査当日はどことなく落ち着いて臨むことができました。審査では相手を引き出して打つことを心掛け、何とか合格点をいただきました。

さて、六段合格をいただいたことで、自分は高段者のお仲間入りを果たし、剣道の何たるかをさも理解した気になっておりました。しかしながら、昇段後、稽古をつけてくださった高木先生から稽古内容で厳しいご指導をいただき、自信過剰になっていくことにすぐさま恥じ入りました。昇段審査の合格はある意味でひとつの到達点でしたが、同時に新たな始まりでもありません。単に形や試合技術の向上だけでなく、礼儀、敬意、謙虚さといった精神的な修練が重要であり、絶えず自己を見つめ直し、技だけではなく心も研鑽し続けなければなりません。剣道六段としての重責と誇りを胸に、これからも日々稽古に励んでいきたいと決意を新たにしています。今後は自ら

の経験を生かして、子供たちの手本となり、彼らが同じように昇段できるように手助けすることも、私の大切な役割だと感じています。

最後になりましたが、改めて私の昇段を支えてくださったすべての方々に感謝を述べたいと思います。本当にありがとうございます。剣道を通じて得た多くの教訓と経験は、道場から日常の生活へ、そして社会へと活かしていきたいと思えます。これからも更なる高みを目指し、精進して参ります。

六段に合格して

鳴門支部 河村 知志



令和五年八月二十七日に福岡市総合体育館において、六段をいただくことができました。

これもひとえに、これまでご指導いただきました、大麻錬成館の藤本雅史先生を始め道場の諸先生方、また、誠武館道場の先生方にもご指導いただき、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

私は十年前にも六段の審査に臨んだことがあります。その頃は仕事も忙しく、ともに稽古ができない状態が続いておりました。正直その時は何度か受審すれば受かるだろうと思っていました。その後、転勤等も重なり、しばらく剣道から遠ざかる時期が続きました。稽古を本格的に再開したのが約四年前、子供が剣道を始めたことがきっかけでした。その後、道場の先生方か

らの後押しもあり、約八年ぶりに同年四月の京都審査会より受験いたしました。

京都審査会では、不合格でした。久々の審査ということもあり、その雰囲気は圧倒され、焦り、自分が動かされる立ち合いとなっ てしまい、自分の剣道が全くできませんでした。それからは「自分から仕掛け、相手を動かす」ということを意識し稽古をしました。審査直前の立ち合いの稽古でも、初太刀の焦りは常にありました。先生方にも、落ち着いて相手を動かし、機会が無いときの打突は常に応じる気持ちで構えるように、とご指導いただきました。

今回の福岡の審査当日は前回と異なり、気持ちも落ち着いていて良い緊張感をもって会場入りすることができました。十分な稽古はできたとは思っていませんでしたが、焦りはなく、普段の稽古を思い出し、立ち合いに臨むことができました。

一人目の立ち合いは私と同じくらいの背丈で中心を攻めてくる方でした。初太刀は、攻防のあと相手の手元があがったところを、小手。二本目は合気になったところで面、

最後は相手を面に誘い返し胴で終了しました。二人目の立ち合いは背の高い方で、初太刀の相面は中心をとらえることができ、二本目は強引な打突に対して摺り上げ面、最後は出頭の面でした。

審査を振り返ると、自分の納得のいく立ち合いができたと思いました。しかし、自分の剣道ができたという達成感の一方で、審査員にはどのように見えたのかという不安がありました。実技審査の合格を確認したときは嬉しさで一杯になったことを今でも覚えています。

形審査では相手の方の間違いもありましたが、互いに落ち着いて修正しながら形を終え、無事に合格することができました。一時は剣道から、審査から遠ざかっていましたが、今回の六段審査は自分を見直す良い機会であったと思います。剣道六段は「剣道の精義に練達し、技術優秀なる者」とされます。これに恥じないよう、稽古に取り組み精進して参りたいと思います。

また、自分の稽古だけではなく、大麻錬成館での指導を通じ地元の剣道発展のため

に微力ながら貢献できればと思います。引き続きご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。



六段に合格して

板野東支部 櫻 井 一 志



令和五年十一月
十二日、名古屋市
枇杷島スポーツセ
ンターにて、六段
審査に合格するこ

とができました。これまでに直接の稽古や稽古会などをご指導頂いた先生方、昇段審査受験にあたりアドバイスを頂いた徳島の先生方に深く感謝申し上げます。先生方から「一発で合格するよ」とお声掛け頂いており、自分自身もそれなりの覚悟を持って挑んだのですが、審査開始前までは非常に緊張しました。これで落ちてしまったらカッコ悪いな、落ちて戻ったら周りの先生方も気を遣うやろうな、などなど。しかし、審査が始まってしまえばそんなことを考える余裕もなく、一人目の立ち合いは目の前の相手に対峙するだけで終わってしまいました。

昇段試験にあたり多くの先生方からアドバイスを頂きましたが、その中でも特に参考にさせて頂いたのは、吉田昌彦先生と木下裕康先生からのご指導でした。吉田先生からは、審査時間を三分割して臨む心構えを教えて頂きました。最初の二十秒は焦らずに攻めて有効打突一本を目指す、そこで有効打突がなければ次の二十秒も同様に攻めるが有効打突があったなら相手をじっくり見て技を出す、これまでの四十秒で有効打突があったなら最後の二十秒はじっくり構えて相手を見る、有効打突がなければ最後の二十秒も攻めて有効打突を目指す、このような指導でした。一人目は立ち上がり

の緊張で教えの通りには行かずに最初から最後まで攻め通してしまいました。二人目は吉田先生のアドバイスを多少なりとも表現できたのではないかと思います。木下先生からは、蹲踞から立ち上がった時に必ず右足を前に出すことでした。すつと立ち上がり、足を動かさないとこの考え方もあるのかもしれませんが、少しでも足を前に出すことで攻める気構えを自分の中に作れ

ましたし、相手や審査員にも示すことができましたのではないかと思います。吉田先生、木下先生、紙面上からはなりますが、アドバイス頂いたことに改めて感謝申し上げます。

もう一つ、合格の要因としては、順番がCだったことかと思えます。審査はA→B、C→B、C→D、D→Aの順に進みます。最初にBの立ち合いを見てから一人目に挑むことができたことが大変参考になりました。できれば七段審査もCかDであればと願っています。

今回の審査は日頃から稽古をしている岩井先生も参加されていました。二人とも午後の部後半の審査順番でしたので、他の受験者の立ち合いを見ながら、「あれじゃ打ち急ぎすぎて受からんね。」などと失礼ながら率直な感想を言い合っていました。一人でも審査会場に知り合いがいると気が紛れていいですね。審査がほぼ同じタイミングでしたのでお互いの立ち合いを撮影できなかったのは残念でしたが、立ち合いが終わって剣道形の審査会場に移動した際、

岩井先生も同じ会場に入ってこられて、お互いに祝福し合えたことが非常に嬉しかったです。双方合格で嬉しさも倍増でした。

昨年、大学時代の指導教官恵土幸吉先生、高校時代の沼田敏先生が他界されました。六段昇段をご報告できなかったのが非常に残念ではありますが、両先生ならびにこれまでにご指導頂いた数々の先生方のご恩に少しでも報いられるよう、引き続き精進していく所存です。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



審査会場風景

剣道六段審査に合格して

板野西支部 岩 井 睦 司



二回目の挑戦で、
令和五年十一月、
愛知県で行われた
審査会に於いて剣
道六段に合格する

ことが出来ました。これもひとえに日頃より稽古を付けて頂きました板野西稽古場の皆様をはじめ、剣道連盟各支部の先生方のご指導、ご鞭撻により成し取ることが出来ました、心より感謝申し上げます。

私は、鳥取県出身で五歳の保育園児から剣道を始めました。小学生を中心とした少年剣道で、道場の広さは約十八畳程度の狭いものでした。当時は上級生の体当たりで壁まで吹き飛ばされたりしました。中学・高校と学校の剣道部に所属し、県大会の新人戦（個人）ベスト八、インターハイ県予選（個人）準優勝と、あと一步、行くことが出来ず、悔しい思いをしました。進学し

てからは剣道と無縁になってしまい就職も中国四国地方を点々と異動する職種となり、約十五年の歳月が経過しました。健康増進として何か体を動かさなければならぬと思うようになり、再度、剣道を始め、現在に至っております、お陰様で中国四県と四国一県の垂ネームがコレクションとなっております。色々な県で稽古が出来て、それぞれ違った剣風を感じる事が醍醐味となっております。

さて、冒頭にて「二回目の挑戦」と記載していますが、初回は令和五年八月に新潟県で六段審査を受審しました。審査会場は午前と午後の部と別れていますが、受審者で溢れ返っていて、人の多さに圧倒され、規模の大きさを痛感しました。立ち合いについては、初太刀を取る思いでしたが、我慢できずに面を打ってしまい、相手の面をかすめただけとなり、二本目、三本目も打突部位には竹刀が当たっていました。有効打突では無かったと思いましたが、攻めについても、相手を引き出すような攻めが無かったため、結果的に不合格となりました。

後で考えると自分勝手な立ち合いだったと深く反省しました。次の審査まで三か月しか無いため、とにかく毎日稽古（可能な限り）する。攻め、溜め、打突刀、捨て切って打ち切る事に重点を置き、目標を持って取り組みました。稽古では、高段位の先生から「まだだ、まだ、我慢、我慢、今ではない、ここで出よ。」「自分が出てから動いているので振り遅れている。」など、多くの助言を頂き、日々修正していきました。

名古屋での六段審査は自分でも落ち着いた状態で立ち合いが出来ました。「合気を作り、打つべき所でした。」「合気を決める」と三点を肝に銘じて臨みました。一人目の立ち合いは、初太刀相面、二本目面摺り上げ面、三本目出小手、四本目返し胴と四本とも決まり、二人目は、初太刀面、二本目出小手、三本目抜き胴と三本とも決まりました。立ち合い後に、両相手に挨拶し、「今まで六段審査を受け、打たれることはあったが、完全に打たれました。」「小手が見事でした。」と言われました。立ち合いの発表はコート別ですが、十二名しか

書いて無く、殆どが前半の番号でしたが、最後に自分の番号が記載されていました。何度も垂の番号と結果表を見比べ、確信に思った際には、思わず歓喜に湧きました。余韻に浸る間もなく、合格者のみ整列し、二階から一階に降り、形会場に行き、日本剣道形の審査を受けました。全員の剣道形が終わり、審査員より「全員が合格です。」と言われ、ほっとしました。更衣後、会場から出て初めて「全国審査の六段に合格した。」という実感が湧き、いつまでも喜びが込み上げました。

この度、剣道六段審査に合格出来た事は、先生方から審査への心構えや所作・審査内容を丁寧に教えて頂いた事、特別に立ち合い稽古をさせて頂いた事、毎日どこかで剣道が出来る環境のある剣道のメッカ「徳島の剣道」があった事です。これからも次の目標である七段合格を目指して日々精進して参りますので、引き続き、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願ひします。



六段に合格して

日和田 朗子



二〇二三年十一月、名古屋での六段審査会において六段の合格をいただきました。私に

とって審査会場のある名古屋という土地は大変思い出深いところです。大学時代を愛知県で過ごし、審査会場の枇杷島体育館も学生時代足を運んだこともありました。懐かしく親しみのあるところで合格をいただけることは、非常にうれしいことでした。

私の六段審査への挑戦は今回二回目でした。一回目は二〇二二年の十一月、名古屋での審査でした。息子を出産後、剣道からは四年ほど離れていましたが再び竹刀を握り、稽古を積む中での受審でした。今考えるとこの時は、体の感覚を取り戻しながら今までの剣道とは違う形を意識し始めたところで、まだまだ手探り状態だったように

思います。結果は不合格。審査会場に来られていた大学時代の恩師である大嶽将文先生から、「自分から攻めてとにかく我慢をし、相手が出てきた機会をとらえて打つこ

と、特に玄妙な技をしっかり稽古するように」とアドバイスをいただきました。二回目の受審は一年後、再び名古屋で受審することに決めました。週一〜二回の稽古の機会を確保しながら、玄妙な技を意識して稽古を積みました。一回目の審査の時は稽古

再開からあまり十分な準備ができていないという思いもあり、稽古回数をできるだけ多くとることを意識していました。結果、体への負担もあって審査後に体調を崩してしまいました。その経験から、二回目の受審を決めてからは、稽古時間や回数は少なくても質の高い稽古を意識して取り組みました。

審査当日の朝、宿泊したホテルの近くの公園で少し体を動かし、審査に臨みました。審査では大きな声を出して落ち着いて攻める、相手を引き出して技を出すことの二点に集中しました。立ち合い後、自分のイメー

ジしていた動きができたという感覚があったので、合格がわかった瞬間ほっとしました。

今回の六段審査では自分の課題に気づいて挑戦し、クリアしていく面白さを味わえたように思います。このような経験ができたのは、稽古先でのご指導くださった先生方、稽古仲間の存在、家族の支えや応援があったからだと思います。改めて感謝申し上げます。

振り返れば私が剣道を始めたのは小学二年生の時、祖父や父も指導者として子どもたちに剣道を教えていた大分の三芳少年剣士の門をたたいたのが始まりでした。小、中、高、大学、大学院時代、そして社会人になってからも剣道を通じて多くの方と出会ひ、今でも剣道を楽しめているのはとても幸運なことだと感じています。今後もこの縁に感謝しながら、精進して参りたいと思います。

私の歩んだ剣の道

徳島支部 久保 雄 二



令和六年二月、
長野県ホワイトリ
ングススポーツアリー
ナにて行われた審
査会において、六

段に合格することが出来ました。これもひとえに、月曜会の吉田昌彦先生、木曜会の臼木崇先生、高齢剣友会のみ馬勝行先生、並びに同会の剣友の先生方に、稽古で色々のご指導を頂きましたおかげと、改めて心より感謝申し上げます。

私が剣道に入門した時の年齢は四十三歳。非常に遅い入門でした。ここまで来るまでには、本当に大勢の先生方、また剣友の皆様方の沢山のお力添えを頂きました。ここで、私が剣道界に入り、どのような歩みを経てこの度の六段審査にて合格出来たのか、お話をさせていただきます。

剣道界に入ったきっかけ。それは、長男

が小五から剣道教室に通い始め、仕事帰りにそのお迎えに行っていたことでした。観客席に座り、稽古が終わるのを待っていた時、あるお二人の先生方が、「待っとるだけじゃなく、一緒にやろうだ。」と、声をかけてくださったことで、私の目の前で剣道界への扉が開かれました。その後、長女・次男・三男と、他の子供達が剣道を始めていき、気が付けば、それに伴い私も剣道着を着て、腰に両手を当てつつ、すり足の指導を受けていました。そこから二年が過ぎ、私が初段審査に合格した頃、私を誘ってくださったお二人の先生方は、六段審査に合格されていた。その頃の私にとって、六段というのは、「自分が生きているうちに手にすることは絶対ないだろう。」と感じられるほどに遠いものでした。数年後、子供達が中学生や高校生になると、保護者として遠征に同行しましたが、そのときにも、先生方から剣道のことを教わり、ますますその面白さ、奥深さにのめり込んでいきました。

そうこうしているうちに、三段までは合

格することができましたが、四段の壁が私を待ち受けていました。モヤモヤしたものを心に抱えていたころ、臼木先生がご指導してくださっている木曜会を紹介していただきました。そこで臼木先生から「私は久保さんに生涯剣道を通じて、息子さん達ともいつまでも稽古ができる剣道を教えたい。」と言っていたのです。それは一体何なのか：自分では、若い方々の様に体力とスピードを基にした一本から、年齢に応じた厚みのある剣道のことであり、基本を理解して身に着け、気の充実に満ちた崩れない構えからの打ち切った技が出来るよう稽古を積んでいくことだと考えております。現在も、それを頭の中に置き、常に悩みながらも稽古を続けております。

六十歳からは高齢剣のメンバーの方々とも稽古をさせていただき、私の剣道観も、四十から五十代の剣道への見方や楽しみ方から変わって来た様に感じています。そんな私が気が付けば六十六歳となり、自分には雲の上の段位のように感じていた六段審査が自分自身の立場として挑戦させていた

だけるようになっていたのです。当然のことながら、簡単に合格できる訳はなく、三度不合格になりました。そんなとき、吉田先生より、「これを読んで審査というものを研究してみてください。」と、『剣道昇段審査合格術』という本を貸していただきました。今から思い返してみても、非常に役に立った本でした。またある先生には「六段に合格するためには、六段に求められている要素が充分身に付いているかどうかというのを見られている。」と教えていただきました。

四回目の審査会当日。自分の順番が来るまでに、「六段に求められている要素」として、「剣道は『刀法』『心法』『身法』の三法であり、それを正しく身に付けていることが大切だ」という意識を頭に抱きつつ、自分より前の方々の立ち合いを見ることが出来、またそれにより、これまでの審査よりも気が付く点が多かったように感じました。

そして自分の順番がやってきました。落ち着いて入場、立礼、蹲踞、立ち、構え、

発声、攻め、捨て身で打ったときの崩れのない姿勢、打突後のうち抜け、そして残心：これら全てが、自分としてはこれまでの審査の中では一番満足の出来る初太刀となりました。その後は一分という時間があっという間に過ぎ、二人との立ち合いの中で、技は四本ほどしか出さなかったように思います。自分自身で満足出来る技としても、一人目の方への初太刀の面、二人目の方への出ばな小手ぐらいです。それでも、楽しく立ち合いが出来たように感じられました。結果、自分の番号が張り出されているのを見たときは、心に熱いものがこみあげてくるのを感じました。

四十三歳という年齢から剣道界に飛び込んだ私が、この様に剣道の虜になり、ここまで前に進んでくることが出来たのは、年上も年下もなく、たくさんの方々の先生方や剣友の方々が色々とお気を付けてくださり、私に限界を少しずつ越えさせてくださったおかげです。高齢から始めたとしても生涯楽しめる『剣道』を、これからも学んでまいります。

どうぞ今後とも宜しくお願いいたします。



人を育てる剣道

警察支部 近藤 正章



この度、剣道教士の称号を取得することができました。これも平素よりご指導いただき

ております徳島県剣道連盟の先生方のおかげと感謝しております。この機会をお借りしまして深くお礼申し上げます。

私は現在、地元の石井町で小学生を中心とした少年剣道クラブの指導者をしていきます。しかし、私自身がまだまだ未熟で、日々試行錯誤、反省の連続であり、むしろ子ども達から教わることの方が多いのが本当のところだと思います。子どもたちに教えられたらいいなと思っています。剣道の楽しさ、試合に勝つ喜び、周りの人に感謝できる心です。そのために自分も常に学ぶ姿勢を持ち「平常心是道」の精神で修行しております。

私は小学生の時に剣道を始め、これまで多くの先生方に稽古をつけていただき今の自分があります。その中でも恩師である西谷肇一先生につけていただいた稽古は私にとって一生忘れることのない思い出となっています。私は城ノ内高校剣道部で三年間、

西谷先生にお世話になりました。その当時徳島県は地元開催の東四国国体に向けての強化で大変な盛り上がりとなっていました。

西谷先生は少年男子の監督で、私は国体選手としてもご指導いただきました。国体と言えば地元開催が上位入賞を果たしているというのが近年の常識とさえ言われており、その情報がいつしか雑音となり高校生の肩にプレッシャーとしてのしかかってきました。当然私もその一人であり、今でもすだちくんを見ると当時のプレッシャーを思い出し吐きそうになるぐらいトラウマになっています。当時の私は県外遠征でも思うように勝てず、本番が近づくにつれ気持ちの弱さから「もし地元開催で負けたらどうしよう」という不安や「早く本番が終わってほしい」というような考えになっており

精神的に追い詰められがんにがらめになっていきました。しかしチームの士気が下がってはいけない、そんな気持ちを悟られまいと、態度には絶対に出さないようにできる限り平静を装っていました。

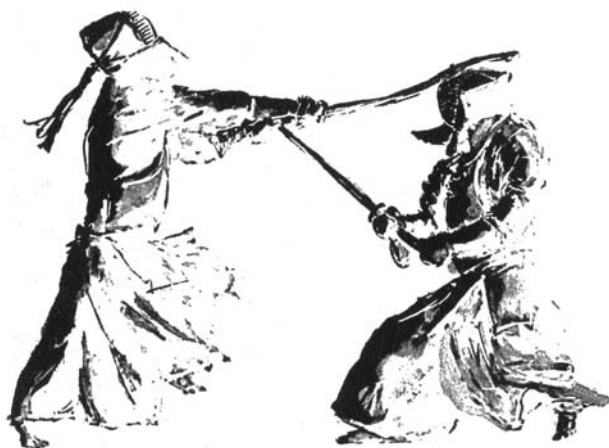
モヤモヤとした気持ちのまま不安いっばいで迎えた本番前日、国体の剣道競技会場最後の指導稽古が行われました。私は自信が持てないまま、不安な気持ちを払拭するかのようにならぬまま、空回りしながらも西谷先生に打ち込んでいきました。しかし気持ちばかり焦ってしまい、一体何が自分に起きているのかわからないほどでした。すると先生は突然「今日はここで終わるから」と言って私の後ろに並んでいる選手に声をかけると全員下がらせ、最終日の稽古の時間を全て私一人への指導に当ててくださったのです。そうして稽古の中で少しずつ見失いかけていた自分の剣道を取り戻すと、不安や迷いは消え、国体本番では自信を持って自分の実力以上の力を発揮することができました。隠していたはずの不安な気持ちに気づいてくださり自信を持てるよ

う導いていただいたことで私は救われました。あの時期にいただいたご指導は私の中で今も生きており、ありがたかったと感謝しています。

それから私は少年剣道を指導することになり今に至ります。数年前西谷先生に剣道の指導についてアドバイスをいただける機会があり、そこで先生は「稽古は大体やることは決まっているんだ。毎回毎回同じことを反復して行っているうちに正しいことから外れてしまうことがある。それをまた正しい道に引き戻してやるのが指導だ。」と教えてくれました。この言葉を聞いたとき、あのとときの稽古を思い出しました。そして見失いそうになっていた私の剣道を軌道修正する、先生の熱いご指導だったのだと改めて理解し、自分は幸せだなと感激しました。

これまで自分を支えてくださった方々から感謝し、目標である西谷先生に少しでも近づけるよう大きな目標を掲げてこれからも剣道に精進していくとともに、少年を指導し次の世代を育て徳島の剣道をもり

立てていくお手伝いをしていきたいと思えます。これからも。



剣道称号「錬士」をいただいで

鳴門支部 塚原 裕美



令和四年四月に
六段に昇段し、令
和五年五月に称号
「錬士」をいただ
くことができました

た。段位は「技術的力量」を、称号は「これに加える指導力や識見などを備えた剣道人としての完成度」を示すものとして審査を経て、授与されるものと伺いました。

令和五年二月の徳島県称号推薦選考会(通称、予備審査)の受審者は、高校の先輩と私の二人が受審するために、先輩と二度立ち合いをさせていただきました。そして、五月には、小論文を提出しました。小論文では、剣道指導の心構えの要点に対する私なりの考えと、今後の剣道修行への取り組み方を述べました。称号審査を受けるといふことは、改めて自分を見つめ直し、反省できる良い機会であったと思います。

私の息子はバスケットボールをしています。その姿から、私は、剣道に通じることがあるように思い、少しこのことをめぐって述べさせていただきます。バスケの練習を横で見学していると、保護者の立場と指導者の立場でコーチの言葉が耳に入ってきます。コーチが視線の働かせ方や体の動かせ方などのポイントを分かりやすく言葉で伝え、そのトレーニングを行ってくれます。身体の動きの根本も見せてくれます。こうすれば上手くいくという言葉による解説を加えてくださると、やる気が増してくる息子の姿をみることができます。それは、息子が学んでいることが、本人の腑に落ちて自分の身体と心で表現できるのだと思います。「○○したらいけない(ネガティブな言葉)」ではなく、「〽すれば上手くいきやすい、(失敗したとしても)〽はできていた」とポジティブな言葉がけから、安心感とやる気が満ちてくると私は思います。剣道修行の場には心のあり方が大部分をしめています。意識や心の部分は目に見えないからこそ、いかに言語化して見えるようにしていくのかの追求は、剣道指導の際につ

ねに心に留めておきたいです。これまで感覚で行っていた部分を他者に伝達しようとするれば、自分の中で整理が必要になるし、その過程で重要事項を再確認でき、新たな改良点を見いだすこともあります。理解が不十分で迷惑をかけることも多々あるのですが、これからもさまざまな工夫を重ねて、指導力のさらなるレベルアップを図りたいと思っています。剣道に対する心構えや技術面の教えを、小・中学生にいかに「言語化」して伝えるか、ということが今の私のテーマです。そのためにも、剣道に関わるすべての方々との繋がりがりやその方々からの学びは欠かすことができないと私は考えています。同時に、自問自答、自己との対話をくり返すことによって、剣道の修行をより充実させる私でありたいと決意を新たにしています。

これからが錬士修行と捉えて、精進していきたいと思っています。これまで関わってくださった方々のご指導に對しまして深く感謝申し上げますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻の程、よろしく願っています。

令和五年度 | 剣道 |

称号・段位合格者一覧

【剣道教士】

五月六日

近藤 正章

十一月十五日

江口 大祐

玉田 真理

【剣道錬士】

五月六日

塚原 裕美

紅露 喜代美

【剣道八段】

十一月二十二日

山名 信行

【剣道七段】

四月三十日

佐々木 克哉

谷 博

松本 慎二

十一月十一日

原田 敏也

尾脇 広美

【剣道六段】

四月二十九日

秋山 雄治

高橋 伊織

大城 健作

松田 正稔

八月二十七日

河村 知志

十一月十二日

湯村 潔喬

日和田 朗子

鳴滝 朝希

岩井 睦司

櫻井 一志

令和六年

二月十八日

久保 雄二

【五段】

五月二十一日

小川 虎太郎

東 正人

米崎 信弥

八月六日

大寺 恒輝

榎本 陽介

佐藤 奈那子

中尾 優香

十一月二十六日

佐藤 謙誠

石村 元義

平田 慎太郎

笠井 利求二

令和六年

二月十一日

井川 友暉

大道 史郎

川野 敏治

鳥澤 武志

山本 千尋

【四段】

五月二十一日

富田 孔明

福山 花純

八月六日

大西 修平

尾田 正和

大野 和則

玉置 香織

十一月二十六日

松本 喜起

松本 高史

高橋 岳

山口 祐二

松尾 敏文

西岡 卓馬

小西 智也

令和六年

二月十一日

花川裕基
松田匠輝
野村翔輝
西村光司
武田俊文
村中花音

【三段】

五月二十一日

川原瑞葵
桑田隆希
小川莉奈
八月六日
檜原陽
西村翔
徳永唯吹
篠原翔
榎本翔
谷口真
櫻木快毅
豊田雄大
齊藤信吾
三宅柚衣
大久保音夢

十二月二十六日

四宮真一郎
森本理希
吉岡隼
瀬戸遥人
増尾優輝
和泉皓大
渡邊大樹
篠原翔騎
石川元喜
面岡優太
橋本和馬
山下悠人
山原嵩也
篠原望海
藏本恭朗
片岡恭二
加藤雅樹
玉垣一樹
板東煌真
入江陸男
佐藤千夏

鈴江海音

令和六年

二月十一日

森長未來
福岡詩
後藤彩祢
小柏美音
山崎春菜
村田梨奈
岩佐真夏花
正木歩
米田有輝
大和優星
原那由多
岩本響輝
尾畑涼月
入江亮太
中原光翼
福池謙信
熊澤翔生

石村静香

【二段】

五月二十一日

山田希稟
大和希輔
古賀大翔
春藤悠輔
敦賀龍平
原田慎也
有井温人
林井温人
中村颯亮
原田勇輝
原田和輝
藤永聡真
古津勘汰朗
三宅海誠
坂野倅輔
大森立也
野中優汰
内原瑠哉
三木一晃
中村貴也

山口珠生 川野惠奈 六條瑚子 綾部杏花 西尾育真 八月六日 川添将義 坂本楓 中岡亮仁 北村直路 伊藤幸之心 彦上諒太朗 佐藤誠之介 立木亮 田中侶太 川原彦知 大塚仁葉 甘利惟 大谷心海 西村渚

中山惠里衣 古田埜乃佳 谷珠菜 武田朱里 山田優唯 米田美知子 川原里美 橋由希子 鹿子桂子 十一月二十六日 柏原健人 大和智哉 鹿子陽史 三木琉真 尾畑伶音 渡辺多津磨 西岡葵士 阿井輝 近藤瑠太 谷本遙

矢野大馳 高橋優魁 岸田敏春 山本瑛太 山下将人 大崎遥稀 福岡鈴 條辺有香 大高千明 松浦遥 北島光 糸谷心 岸本愛 森内菜々子 秋月藍子 井下瑠菜 内田美心 蔭山久美子 蝶々恵子

令和六年 二月十二日 大谷陸 坂井蓮 近藤偲文 川野滉治 佐々木陽 西海理都 三木洋一 瀬戸夏希 篠田源 木村仁 田岡京三 三宅和壺 岸東次 大濱裕輝 豊田大晴 山崎俊太郎 岡田洋典 眞貝ももの 橋本愛生

桑田愛加 長尾悠世 片岡穂香 松端佑香 六車奈緒美 多田優子

四月二十九日 藤井陽斗 原瑛大 美鳥桜佑 石川健人 隅田葵 杉本賢音 藤本梨玖 玉井虎ノ介 南柊成 浅野眺永 佐古雄紀 藤井禎 木村蓮 坂東孝哉 大津暖翔 板東駿平 宮本侑磨 福田将希 西岡瑛介 河野友祐

【初段】

岩浅花 茨木里音 上村優亜 鎌倉花凪 秋月祐子 西田柚咲 浅野心花 久住心実 佐藤和心実 小島みわ 北條琴音 札場琉葦 寺澤美羽 兼子華奈 則武杏奈 溝淵さくら 河口夏步 込山怜采 宮畠絢香 重田結衣

六月二十五日

赤瀬裕作 上野夢翔 早澤晃輝 福本光聖 高橋和貴 岡田響希 西川慧太 高倉直希 笹川千耀 久保秋大地 藤川駿 栗本翔太 竹本侑土 谷西恭輔 大塩蒼舗 森東歩夢 本間千裕 豊島遼大 榊泰誠 佐藤奏仁

九月二十四日

大栗肇介 岩本竜弥 西尾蒼空 東羽士稀 天羽煌征 前山大翔 中山丈太郎 岡本依空 黒上虎太郎 福永颯太 龍田彪 逢坂愛 藤本千佳 古川香伯 速水輝羅菜 十川もび 北田有里 富永さくら 橋本佳央梨

山名統也 野根比那太 植松大翔 高井遼 盛田旺佑 前田蒼依 松本晃季 箕谷誠太 増田時士 三井輝星 マッカライ マッキンリー 大西華 谷彩寧 本庄媛鞠 川端日和 福本芹奈 湯浅逢李 松田夏美 高尾美由姫

令和六年
一月二十八日

大黒冬真 和泉元亮 中川旺亮 近藤和真 六車崇汰 岡部誠也 吉田瑞希 篠原瑛騎 七條湊 松本羽太 瀬戸晃人 湯川千暉 武田悠希 日根啓輔 川口源太 堀口優生 赤池孝之輔 川原梓翔 東根悠

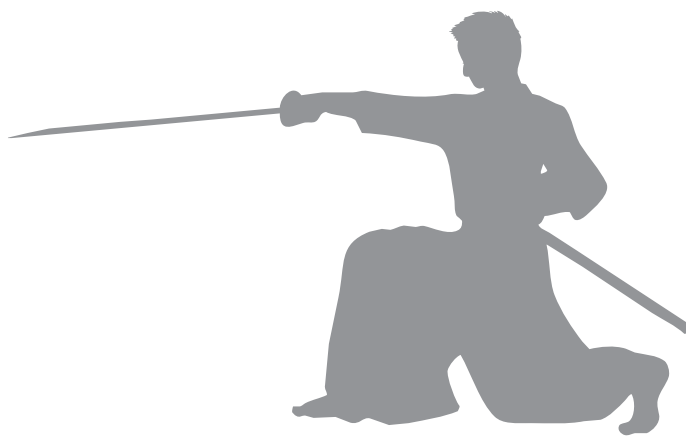
西谷惟吹 原田千廣 谷田部楓 津田莉央 谷崎柊二郎 切原壮喜 小椋愁仁 松尾岬 千葉准一 蔭山慶守 道浦悠斗 岩佐仁誠 内田颯人 内田颯人 岩田颯月 岩田颯月 糀田涼介 三田拓真 下泉敬尚 山下敬尚 山出直樹 赤松誠二 井上健次郎 天満栳

天満百華 増尾美織 園田光織 橋本愛菜 高瀬智菜 廣瀬芽生 清水咲希 坂東真帆 岡崎蒼 坂口凜 出口絢葉 割石叶愛 瀬尾さくら 多川寧音 平田妃奈 石井柚衣 酒井夢華 西村彩花 加統美羽 岸上琉愛那 西岡青空

柳田紗季 瀬川彩心 奥畑聖椰 中阿地美桜 小松えり 高橋夏乃音 伊月美心 岸本玲 大原実結 木野華依羅 三角紗良 元木璃子 井口和佳奈 久次米佳央里 虫上初果



居合道部会コーナー



特別寄稿

徳島県の居合道

徳島県剣道連盟 顧問 原 田 勝

徳島県の居合道においては、大正、昭和にかけて活躍された代表的な指導者は、須見善富先生と尾形郷一先生であった。須見善富先生は昭和十五年頃より、当時交通事情の不便な時、徳島市より海部郡の穴喰経由で高知県甲浦港より船に乗り年二回程度、高知県へ足を運び、藩政時代に土佐藩の藩主・山内容堂公の近習出頭人であった無双直傳英信流居合谷村派第十七代目大江正路昭和二年没享年七十五歳)の直門で第十八代目で、容堂公の孫にあたる子爵・山内豊健の指導を受けた。

また、尾形郷一先生は香川県の剣道範士・居合道範士の無双直傳英信流下村派第十五代目細川義昌(大正十二年没)の直門である第十六代植田平太郎の指導を受けた。後に全国居合道連盟の名称で居合道の組織を作り、その宗家となり神傳流と名乗る。徳島県における居合道の大半の方は居合道連盟の組織の中で活躍していた。

昭和二十七年十月に全日本剣道連盟が結成され、同三十一年に居合道が居合道部として全日本剣道連盟の傘下に加わった。その

結果、全国居合道連盟に残る者と、全日本剣道連盟に移行する者に分かれた。宗家を名乗っていた尾形郷一先生の門人の多くは全国居合道連盟での活動を継続した。それ以外の者は無双直傳英信流等を名乗り剣道連盟に移行した。

しかし、徳島県においては徳島県剣道連盟の初代会長に尾形郷一先生が就任したため、昭和四十年代までは剣道連盟傘下の剣道大会でも、両組織に属する者が共に居合の演武を行っていた。昭和二十九年から昭和三十三年頃の剣道の各大会の記録には、「居合道連盟所属」で無双神傳抜刀術を名乗り、【教士】尾形郷一、清原 栄、小川和男、尾崎弘明、三木只雄、坂野 清、川添頼弘、川添義弘、「剣道連盟所属」では無双直傳英信流等を名乗り、吉田 祖、福井勝彦、【錬士】川添敏弘、【教士】石丸米蔵、【教士】石井隆介、【教士】須見善富、【教士】山本忠蔵の先生方が演武を行っている。

全剣連の指導により徳島県剣道連盟主催の第一回県下居合道段別選手権大会が昭和五十三年四月二日、県立旧武道館で行われた。役員等は次の通りであった。【名誉大会長】高島永吉、【大会長】三木只雄(剣連会長)、【大会副会長】清原 栄・中川虎雄、【大会委員長】堀江幸夫(剣連理事長)、【大会副委員長】大澤孝彰・稲本紀一、【大会総務】山田新六郎、【審判長】下村富夫、【審判員】滝下 勝・田村楚一・平尾勝美・張野久晴・松島 隆・大澤孝彰 【参加者】初段十四名、二段六名、三段十一名、四段四名、五段四名、特別演武【六段の部】張野久晴・平尾勝美、

【七段の部】 滝下 勝・下村富夫

昭和五十二年に全日本剣道連盟より剣道連盟以外の組織で居合をする者は、各都道府県の剣道連盟の役職に就いてはならないとの通達が出ていたが、徳島剣連ではそれに従う事はなかった。

(一部の方はそれより平成の末まで居合道連盟に代表的な指導者として籍を置きながら剣道連盟の役職にもついていた。) 当時剣道連盟で主に活躍されていた代表的な先生方は、教士七段 下村富雄先生、教士七段 滝下 勝先生、当時錬士六段で後に範士八段となる平尾勝美先生、錬士六段で後に教士七段となる張野久晴先生であった。

徳島県から全日本居合道大会への初めての参加は、昭和四十六年に香川県で行われた第六回大会であった。選手は七段の部に下村富雄、六段の部に滝下 勝、五段の部に平尾勝美、その後は選手不足により参加は中断されていた。

昭和五十一年第十一回の福島大会より参加が再開された。七段の選手が監督を兼務して参加をした。選手は七段の部に滝下 勝、六段の部に平尾勝美、五段の部に原田 勝の三名での参加した。そのメンバーでの参加が数年ほど続き、成績は常に全国十位前後であった。

昭和五十一年より当時の徳島剣連会長であった、三木只男先生と理事長の堀江幸夫先生の計らいにより「徳島県剣道連盟会則第一章、総則(目的)第3条に基づき」徳島剣連の居合道発展のため、県外講師として大阪より剣道範士九段で居合道範士九段の坂

本吉郎先生、居合道範士八段の福田一男先生(後に九段)を招いて全剣連居合の春季講習会を開催し、秋には高知県より居合道範士八段 沢田友信先生を招いて古流無双直傳英信流居合の秋季講習会を開催していた。

徳島剣連の居合道部会においても特に平尾勝美先生が一般会員に合わせ、少年の居合道普及発展に努めると共に全体の合同稽古会においても多大なる尽力をされ、徳島剣連における居合道の運営も軌道に乗りかけた矢先、執行部の運営方針が変わった。居合道は居合道連盟ですれば良いのではないかとの意見により、年2回の県外講師の受け入れが中止され、連盟主催で行っていた県下居合道大会も実質的に中止同様の状態になった。その後も県下大会、春季講習会、秋季講習会共に一時中断したが、居合道部員の尽力により復活し、小規模ではあるが、連盟主催として継続できるようにしている。現在は会長、理事長の理解により正常な方向に向かいつつはあるが、先進県に比べると大きな遅れをとっているのが現状である。



原 田 勝

平成八年七月に広島の(故)中西康先生(剣道九段範士・居合道八段範士・杖道教士八段)より頂いた手紙の一部です。

(原文のまま) この青眼の記事はかつて剣道新聞(山本隆幸先生投稿)に掲載されたものです。味わいがありますので、山本先生のお許しを得て同封させて頂きました。玩味願えれば幸甚に存じます。

青眼「無心にして而して自然の妙にはいる」とは常に剣談で(故)玉利範士が説かれていたところである。「無心」と言えば、良寛さんを思い出す。良寛さんは優れた詩人であり、また歌人でもあり、現在でも一休さんと並んで子供達のファンも多い。この良寛さんの詩に「無心」と言うところがあり、良く無心の心を歌いつくしている。

花は無心にして蝶を招き、蝶は無心にして花を尋ね、花開く時蝶来たり、蝶来たる時花開く、吾も又人を知らず、人も又吾を知らず、知らずして帝則に従う。花も蝶も無心の縁のままに精一杯咲き、又精一杯振る舞っている。無心とは心なきことでもなく、単なる無邪気な事でもない、また妄念を去ることでもない、自然のままに「花開く時蝶来たり、蝶来たるとき花開く」のである。



中西 康先生

自然とは因縁の法則のままに生き生かされることである。花開くとき蝶が自然に尋ねてくる。蝶が舞うとき自然と花の咲く時期である。

これと同じように、私たちも他のことを思い知らず、他もまた私に關しては同じで、ただ会うべくして会い、別れるべくして別れる。因縁の法のままに生きるだけだと良寛さんは言っている。

自我のはからいを捨て、エゴを去り払い、そのまま真理にかなうもので、剣道においても打とうとも思はず、打たれまいとも思はず、無心になれたら自然に道に合うもので、これこそが剣道である。剣居は一体であり道理は同じです。

一日も早く剣術の世界から飛躍し、真の剣の道を行じて行きたいものである。(無くなられた熊本の一川格治先生が入院しておられた国立病院のベットの上でメモされたものです。)



三谷義里先生

我が師匠 三谷義里先生

原 田 勝

三谷義里先生、明治三十四年四月、高知県長岡郡大豊町に生まれ寿山と号す。

早くより剣の道に精励し、日中戦争以前から第二次世界大戦終結まで軍籍に身を置き、剣道・居合道を修業、その間、無双直傳英信流十八代（子爵）山内豊健、（三道具範士）中山博道、無双直傳英信流下村派十八代 植田平太郎、同 谷村派十九代 甲田盛夫ら著名な先生方の指導を受け、昭和四年全陸軍、御前試合におい

て、台湾軍代表選手として団体優勝、個人では準優勝の栄光に輝く。

昭和七年四月から昭和十七年七月まで香川県の尽誠学園（旧尽誠中学校）の剣道師範、今も尽誠学園には三谷義里先生の胸像がある。合わせて大日本武徳会善通寺支所剣道師範、その後は朝鮮黄海道・信川農業学校剣道師範を歴任、生涯をかけて剣の道に勉勵研鑽に努めた。

戦後は無双直傳英信流十八代政岡壹實、同十九代山本晴介らに師事し、昭和五十年に居合道範士、また昭和五十八年には剣道範士を受称した。更に、昭和五十六年五月、斯道界最高の居合道範士九段に昇段、居合道九段範士正岡壹寛、同九段範士山本晴介と共に土佐の誇る、居合道範士九段三傑の一角を担う。劍禪一如を体現し、高潔なる人格をもって居合道の神髄を如何なく發揮し、観る人に感銘を与えた。その後も全国的に剣道・居合道の指導発展に専念した。全日本剣道連盟居合道委員、高知剣連居合道部長、審議委員、相談役を務めた。昭和六十年五月逝去 享年八十四歳

活動報告

居合道部会活動報告

居合道部会 満壽良史

居合道講習会

春季居合道講習会は令和五年五月十四日松茂町第二体育館で開催し、全日本剣道連盟居合及び日本剣道形の講習を行いました。参加者は二十二名でした。

令和五年七月一日・二日の両日高知市において「第五十回居合道中央講習会・地区講習会」が開催され、中央講習会には坂本憲一先生が、地区講習会には会員十三名が参加いたしました。

この講習会では、初日に全日本剣道連盟居合の「指導上の留意点」に沿って全体説明が行われ、その後、段別に分かれて実技講習が行われました。二日目は午前中に審判実技及び審査法の講習、午後からは居合道各流派の技である古流の研究が行われました。講習会の内容は令和五年九月十日に松茂町第二体育館で伝達講習会を開催し、坂本憲一先生を講師として会員に伝達しました。参加者は二十九名でした。

秋季居合道講習会は令和五年十一月十日松茂町第二体育館で開

催し、全日本剣道連盟居合及び日本剣道形の講習を行いました。参加者は二十二名でした。

四国四県合同稽古会

令和五年六月十八日、愛媛県新居浜市で開催された「四国四県合同稽古会」に会員十二名が参加、令和六年二月十二日に高知市で開催された「四国四県合同稽古会」には会員十名が参加し、他の参加者と交流しながら全日本剣道連盟居合の研鑽に取り組みました。

全日本居合道大会

第五十八回全日本居合道大会は令和五年十月二十一日に東京武道館において開催されました。

本県からは、森将夫監督のもと五段の部に山田師正、六段の部に徳山豊、七段の部に満壽良史の三名が出場し、総合成績は三十三位でした。

居合道県下大会

令和五年度居合道県下大会は、令和六年二月十八日に松茂町第二体育館で開催し、(参加者二十四名)次の方々が優秀賞を受賞されました。(敬称略)

優秀賞 黒川翔太郎 尾華裕貴 木村起真

大森春奈 西岡悠天 岡山博之

山田師正 徳山 豊

居合道部会合同練習会

居合道部会会員相互の技術向上と親睦を図るため、合同練習会を令和五年五月から令和六年三月まで合計二十一回開催し、延べ一七二名の会員が参加しました。

今後も引き続き、講習会や合同練習会を通じて部会全体のレベルアップを図っていききたいと考えていますのでご支援くださいますようお願いいたします。



講習会報告

第五十回居合道中央・地区講習会報告

居合道部 坂本 憲 一

令和五年度の全剣連主催第五十回西日本中央講習会・地区講習会は、七月一日・二日の二日間、高知県立県民体育館で開催された。

参加者は西日本（近畿・中国・四国・九州地区）の全剣連に所属する五段以上の居合人三八三名。中央講習会・地区講習会共に講習内容は同じ。中央講習会には八段の私が参加した。講師陣は、中村正人・佐々木幹彦・山崎明正・国方孝之・無津呂博之・勝瀬文孝・糸田孝博の各居合道委員である。

一日目、十時からの開講式では、藤原崇郎全剣連副会長と渡邊三則高知県剣道連盟会長による激励と歓迎の挨拶、その後、役員講師の紹介、草間委員長との挨拶と続き開講式は終了した。

十一時から始まった「全剣連居合」の講習では、礼法を含む一本目から六本目までを勝瀬文孝講師、略式礼を含め七本目から十二本目までを糸田孝博講師が演武し、草間純市居合道委員長が配布資料の「指導上の留意点」に基づき、要点を押さえてより分かりやすい説明をおこなった。

「指導要点」が「指導上の留意点」に改められてはや二年、「指導要点」が初めて提示された時点では質問事項が多く紛糾する場面もあったが、今回の講習会は、そうした質疑は少なく、留意点に対する理解度と普及の高まりが感じられた。

午後からは、段別の実技指導となり、範士・八段の部に参加。草間講師から全剣連居合の全体説明を受けたのち、各範士の個別指導となった。指導法は、各範士を巡り希望する業（一、二本）を伝えて演武し、範士が是正箇所を指摘するという形で行われた。私が高知の三谷範士の指導を受けた時、腰痛を押さえて演武したものの、簡単に気付かれてしまい労りの言葉を頂く一齣もあった。二日目の午前中は、審判講習となり、冒頭、中村講師から、審判時の姿勢等、立ち居振る舞いと審判基準の説明があり、その後草間講師総括のもと、八段が審判要員となり、四段・五段の班員がそれぞれ行う模擬試合を通じて詳しい審判実技の指導が行われた。

十一時三十分からの古流研究会は、四流派（無双直伝英信流・夢想神伝流・伯耆流・無外流）の代表者二、三名が、流派の特色ある技を二本程度選び解説を付けて演武した。

最初に行われたのは無双直伝英信流の演武である。三谷昭雄範士解説のもと、丸岡昭仁・亀井洋祐両教士八段が行う「浮雲」は、組太刀宜しく斬り役斬られ役の実敵を見立てての構成で、特に斬られ役の迫真の演武には、どよめきが起こり場内が大いに湧いた。閉講式では、草間居合道委員長の挨拶の後受講生代表に修了証

が手渡され、最後に小倉昇審議員の挨拶で全日程を終了した。
なお、本県においては九月十日（日）に松茂第二体育館において伝達講習会が開催され、講師は私が務め、二十九人の参加者を得て、午前中は全剣連居合を、午後には審判講習を行い午後四時講習会の全日程を終了した。



大会・行事所感

第五十八回全日本

居合道大会に出場して

居合道部 森 将 夫



第五十八回全日本居合道大会都道府県對抗優勝試合が令和五年十月二十一日に東京武道館において開催されました。徳島県チームの監督として出場させていただきました。ここに大会の概要と反省を述べたいと思います。

この大会は、各県代表三選手（五・六・七段各一名）を各段別に三試合場に分けて、各試合場でトーナメント方式により試合を行い、優勝者を決めます。試合は、対戦する二人が紅白に分かれて、古流二本（自由）と全剣連居合三本（指定技）の計五本を同

時に演武をします。審判員は三人いて演武の優劣を判定し、良いと思う方の旗（赤または白）を上げます。二本以上の旗の上があった方が勝者となり、勝つごとに一点を与える。各県三選手の得点（勝ち数）の合計点で団体成績が決定されます。

徳島県チームは、監督・森将夫、副監督・吉岡修一、選手は七段の部・満寿良史、六段の部・徳山豊、五段の部・山田師正でした。試合結果は、満寿選手が一回戦で敗退、徳山豊選手が（一回戦シード）二回戦で敗退、山田選手が二回戦で敗退という結果に終わりました。結果、総合順位は四十七都道府県中三十三位となっていました。

原田勝先生、坂本憲一先生、一村昌和先生ご指導の元、強化練習を重ねましたが、昨年度に続き、不本意な成績となりました。

この大会はYou Tubeに掲載されていま



すので皆様も見てください。各段の全試合が映像として残っています。この映像を見て各段の選手は対戦相手のレベルが分かると思います。今回の結果を反省し、全員がもっと稽古に取り組まなければなりません。私自身も昨年の第五十七回の大会に七段の

部で出場していますが、一回戦で敗退しています。

居合の判定は「正しい礼法・作法による、充実した氣勢と適正な姿勢をもって、正確な技術と刀法に基づいた気・剣・体一致の技前と心構えの優劣によって、勝敗の判定を決定する。」と居合道試合・審判規則にあります。これらを修得することが稽古の基になっています。はたして私たちはこれを稽古をしているのか甚だ疑問です。抜きつけ、切りつけが居合の命で全身全霊を込めて演武をしているか。抜きつけまでの気攻めが重要で敵の動きが浮かび上がるまで間を取っているか。仮想敵を意識して抜いているか。足腰を使ったスムーズな動きが出来るか。演武全体が一連の流れになっ

ているか。独自の呼吸、間合、残心を身につけているか。臨場感のある居合ができています。等々は先輩先生方が言っている事です。

私もこれらの事を守って歳を忘れ、がんばりたいと思います。最後になります、ご支援をいただきました徳島県剣道連盟、ご指導いただきました諸先生方、応援いただきました居合道部の皆様に心からの感謝とお礼申し上げます。

令和5年10月21日(土)
午前9時25分開会
東京武道館

主催／公益財団法人 全日本剣道連盟 主管／一般財団法人 東京都剣道連盟

令和五年度 — 居合道 —

称号・段位合格者一覧

【七段】

七月二十一日
満 壽 良 史
内 海 直 弥

【三段】

十一月十二日
森 本 理 希

【六段】

十二月十日
村 井 恒 治

令和六年

二月十八日

三 谷 典 史

【五段】

十一月十二日
木 原 資 裕

【二段】

五月十四日
大 森 春 奈

【四段】

十一月十二日
西 岡 利 治
岡 山 博 之

【初段】

五月十四日
中 西 由 美
樫 地 千 恵 美

称号・段位合格者

居合道七段審査に合格するまで

鳴門道場 満 壽 良 史

令和五年七月二十一日、栃木県小山市で行われた居合道七段審査に合格することができました。五度目の挑戦でした。

この度の合格は、多くの先生方から長年にわたり、ご指導いただいたお蔭であると心より感謝いたしております。

七段審査に初めて挑んだ令和三年度は新型コロナウイルス感染症の流行で居合道行事の多くが中止となり、指導を受ける機会がほとんどありませんでしたが、令和四年度からは県内での講習会や部会の練習会、四国四県合同稽古会が開催されるようになりましたので出来る限り参加したほか、全国から訪れる高段者を指導されていた原田勝先生にお願いして、週に一度ご自宅の道場「大和養心館」に通わせていただきました。

そして、人前で居合を抜く機会を増やし自分では気づかないことを指摘していただくとうとしました。

練習会等では実に多くの指摘をいただきましたが、最大の課題は振りかぶった刀を切り下ろす時に剣先が下がる「二度かぶり」のくせをなくすことと切り下ろした刀を静止させることの二点でした。

原田先生からは『全剣連居合七本目「三方切り」で左の敵を切るときは二度かぶりになっていないが、六本目「諸手突き」と十本目「四方切り」は二度かぶりが特に目立つ。振りかぶりから切り下ろしまで一挙動（一拍子）で切れ』と教えられました。

さらに、この二つの技では敵に向き直る動作がぎこちないと言われ、自分でもそう感じていたので、敵に向き直って切り下ろすまでの動作がスムーズにできるような足幅や重心の移動、足の踏みかえと踏み込み、向き直る動作に連動した振りかぶりから切り下ろしまでの動作が淀みなくできる方法を求めて試行錯誤を繰り返しました。

やがて、振りかぶりから切り下ろしまで

一挙動で行わなければならないのは全ての技に共通することだと気づき、全ての技において一挙動で切ることを心がけました。

なかでも全剣連居合一本目の「前」では抜きつけ後、左膝を進めながら振りかぶり右足の踏み込みと同時に切り下ろす動作が一挙動となるよう繰り返し練習しました。

体と刀を連動させることが出来たときは剣先が走り、切り下ろした刀も止まるようになりましたが、原田先生からは「審査本番では普段の半分しか出来ないから、百回やれば百回ともできるようにしなければいけない」と言われました。

確かに審査会では、緊張しすぎて思うように体が動かないことが度々ありました。また、思いも寄らないことも起こります。令和四年十一月の審査でのことでした。

審査の順番を待っていると進行係の人から「前の組の審査が終われば休憩に入り、審査員が退席するので立ち上がらずに座っててください」と言われました。

前の組の審査が終わり、審査主任から立つよう合図がありました。私達受審者は

事前に言われたとおり立ちませんでした。進行係の人が審査主任に何か告げ、前の組までの審査票を回収し始めました。

私は事前の説明どおり休憩に入るものと思いましたが、審査票の回収が終わっても審査員は退席せず、再び審査主任が右手を上げました。「またか」と思い、座っていました。審査主任は手を下ろしません。

しばらくして両側の受審者が立ち上がり待機線に進む気配がしました。私も慌てて立ちましたが、私が立ち上がると同時に入場の合図がありました。

しまったと思いました。これで審査は終わったと思った私は完全に平常心を失っていました。開き直って演武に打ち込んだものの不合格となった私は臨機応変に対応できなかった自分の未熟さを痛感しました。

後日、剣窓で「もう一步の受審者」欄に自分の番号を見つけた私は自分の居合を評価してくださった審査員もいたことを知り合格の可能性はあったと思いましたが、次の京都で行われた審査も不合格でした。

その日、私は審査員の目を気にし過ぎて

仮想敵への意識が疎かになっていました。七月、原田先生から「運が良ければ受かる」と言われ、栃木での審査に臨みました。

審査当日、審査委員長から指定技が発表されました。「前」「柄当て」「諸手突き」「三方切り」「四方切り」「総切り」の六本で、重点的に練習してきた「諸手突き」と「四方切り」が含まれていました。

続いて委員長から次のような注意がありました。「居合道は武道であることを念頭に審査に臨んで下さい。いくら所作が正確でも技が細切れでは武道とは言えません。」

審査の判断基準だと思いました。そして細かいことは気にせずに、仮想敵に意識を集中しようと決めました。

審査には徳島から内海直弥さんも来ていました。待機場所から一組目だった内海さんの演武が見え、合格したと思いました。

あまり緊張はしませんでした。順番が近づくにつれて気持ちが高ぶってくるのを感じました。一本目「前」の抜きつけをした時、気負い過ぎて右拳が流れましたが、前に出ながら一挙動で切り下ろしました。

最後まで仮想敵に集中できませんでした。一方審査会で人の目が気にならなかったのは初めてでした。

審査を終えていた香川の受審者の方から「よかったよ、受かったん違う？」と言っていたいただきましたが、どんな居合だったのか自分では分かりませんでした。

合格者番号のなかに自分の番号を見つけた時、ようやく一区切りついたと安堵し、しみじみ思いました「運が良かった」。

お世話になった先生方に私と内海さんの合格を報告し終わった時、カンカン照りだった天気が急転し、雷鳴伴う土砂降りに。まさしく青天の霹靂でした。



居合道七段を拝受して

内海 直 弥



令和五年七月二
十一日に栃木県で
開催された居合道
七段審査会におい
て、居合道七段を

拝受いたしました。

ご指導いただいた先生方、いつも応援し
てくれる同輩・後輩諸氏、こころよく稽古
に送り出してくれる家族等、多くの方々の
支えのおかげと心より感謝しております。

六段をいただいでから六年のうちに様々
な環境の変化がありました。コロナ禍によ
り居合道の大会や講習会の開催がなくな
り、稽古をするのも難しい時期がありまし
た。私生活では三男が生まれ、育児にも手
が取られるようになりました。

大会等にも参加できず、大人数での稽古
も憚られる時期には、来る七段審査のため
と、子供の通う学校の体育館を借りて一人

で稽古をしていましたが、モチベーション
を維持することが思いのほか大変でした。

好きでやっていることなので、一人でも平
気だろうと思っていました。上達のため
の指導、指摘をいただく機会もなく、客観
的に演武を見てくれる人もおらず、鏡とビ
デオだけが頼りの稽古は寂しいものです。
居合の稽古もやはり人との繋がりがあって
こそなのだ実感しました。

世の中がアフターコロナへ移るとともに、
大学の居合道部の先輩、後輩から稽古に誘
われるようになり、また、再び開催される
ようになった大会や講習会にも（子供の世
話を妻や両親に任せて：）参加できるよう
になりました。あらためてこの日常のあり
がたさをかみしめています。

おかげさまで、かねてからの目標であっ
た七段を拝受し、今後は指導者としても成
長していかねばと心をあらたにしている
ところです。指導者としては、かつて師匠に
説かれた「師は弟の三倍を要す」を旨とし
て取り組みたいと考えています。師匠によ
ると「師は弟の三倍を要す」とは、弟子を

指導し、どのような疑問にも的確に答え、
啐啄同機を実践するためには、師匠は弟子
の三倍以上の力量が必要になるという指導
者としての心構えのことです。指導者とし
ての経験も少なく、自身の技量もまだま
だと自覚していますが、最近では長男が一緒
に居合をやるようになったので、長男に指
導しながら、ともに稽古を積んで、七段位
に恥ずかしくない居合道家として、また、
指導者として成長してまいりたいと思いま
す。今後とも引き続きご指導のほどよろし
くお願い申し上げます。

六段に合格して

村井 恒 治



私は、四度目の
受審になる令和五
年十二月十日の東
京都で開催された
審査会で、なんと

か六段に合格することができました。これも、なかなか上達しない私を辛抱強く、熱心に指導してくれた阿波居合伝習会の坂本憲一先生を始め、伝習会の皆様、ご一緒にお稽古していただいた先生方のおかげと心より感謝しています。

さて、ここでは審査前から当日までの様子を少し紹介したいと思います。令和五年度は四度目の審査ということもあり、自分としては、かなり熱心に稽古を重ねました。他の三回の審査とは異なり、審査日が近くにつれ、緊張感が増していきました。お世話になってる先生方の期待に応えたいという思いもあり、プレッシャーもかかっ

ていたのだと思います。ある人に、「お稽古をすればするほど、審査などの時には緊張するものだよ。それだけ真剣にとりくんでいるということだよ。」とお教えいただいたのを覚えています。私も、年齢が五十四歳です。仕事でも、それほど緊張することがなくなってきたこともあり、非常に新鮮な感覚でした。

東京には少しでも落ち着けるように審査前日に向かったのですが、徳島の空港で刀を入れるジュラルミンケースがなく、東京から取り寄せるため、一便遅らすというアクシデントに見舞われました。空港の受付の方にも、このようなことは、珍しいのですが・・・と言われました。また、宿泊は浅草だったのですが、せっかくなので、浅草寺にお参りに行きました。おみくじを引くと「凶・願い事かなわず」でした。このように、笑い話のようにツキのない前日でしたが、逆に少しリラックスできたような気がします。

当日は、早めに会場近くまで行き、公園で軽い昼食としました。その間も、技の注

意点、自分の悪い癖などの修正方法などを頭の中で反芻しました。会場の江戸川体育館に入り、道着に着替えて、受付時間になるまで待ちます。審査会場の体育館で受付、その後、注意事項等の説明があります。実際に会場に立つと、緊張も増してきます。

演武の順番は、年齢の若い方からになるので、私は後半です。自分の審査になるまで、短い呼吸にならないように、ゆっくりと深く呼吸をするようにし、気持ち落ち着けました。しかし、なかなか緊張は抜けず、緊張をしたままの演武となりました。

審査は、四人が横一列で審査員の前で、礼法から始まり、指定された六本の技を演武します。礼法も終わり、いよいよ一本目「前」を抜くのですが、真っ向から切り下した後に、緊張で力が入り、剣先が震えてしまいました。いかん・・・と思いましたが、その後は、いっそ、開き直って技ができたと思います。しかし、自分がどのように技を抜いたのかは、ほぼ、覚えていません。演武が終わった後は、どっと疲れがでて、息が切れるほどでした。緊張して、真剣に

演武するところまで疲れるのか・・・というのが、終わった感想でした。私が演武してから、一時間ほどたってから、審査結果が発表されました。受験番号が張り出されるのですが、自分の番号を見つけた時は、ほっとしたというのが実感でした。

審査前日から当日の様子を書いてみました。このように、審査前から終了まで緊張の連続でした。しかし、真剣にお稽古に励めば、真剣に緊張でき、心地よい疲れを感じ、充実した感覚を得ることができるよう感覚が実感でき、よい経験になったと思います。これからも、真摯にお稽古に取り組み、真剣に緊張していきたいと思っています。そして、なかなかよいなあと思っています。ただける技を目指して、精進してという決意を新たにしました審査会でした。



随想

日本剣道形と居合道

副会長 一村昌和



一 はじめに

範士八段の原田勝先生より、居合道部での居合の上達に活かせる日本剣道形の指導を命じられた。剣道教士七段を受領しているものの、審査用の付け焼き刃的な順序どおりに間違わないことに終始した剣道形しか修得していなかった。ましてや一般的な剣道形の指導ではなく、居合の修行に役立つ剣道形の指導となれば躊躇せざるを得なかった。しかし、正しい剣道形の普及の重要性については痛感していたし、私自身の剣道人生に課せられた使命と受け止めて取り組むことにした。

剣道形は、剣道・居合道・杖道を結びつける「三本の矢の要」と思っている。幸いなことに剣道・居合道・杖道と古伝組太刀・太刀打の位を修練する中で多くのことを学んだ。そのことを少しでも剣道形の研究に活かし、その真髄に迫ることができればと思いつき寄稿することとした。

私の剣道形は道半ばであり、これを機にご指導をお願いしたい。また、この愚考に対し多くの剣友から批評や意見を賜りたいと思っている。

二 五輪書における形稽古の本質

古来剣術の形は二人一組で行い、打太刀の打突に対して仕太刀がいかに応じ、いかに勝つかのやり方を決められた形で稽古をしてきた。形稽古は、技のやり方を示すものであった。しかし、武蔵は形稽古の本質を、太刀の道を知り、拍子を覚え、敵の太刀を見極めることであるという。つまり、太刀を遣うときの感覚を磨くことであり、敵に対する対応法ではないのである。

本当の剣道形は、相手の動きをどう捉え、

どう動くかを検証し、正しい刀法を学び、相互理解と剣技の向上を探求するものではないだろうか。

三 居合を活かした剣道形と

剣道形から学ぶ居合

崇高な理想はあるものの、自分の身の回りの事柄から地道な稽古を積み重ねていく必要がある。剣道形を通じて、剣道・居合道・杖道の相互理解と補完関係の推進を図りたい。

(一) 個人的見解として剣道のみを修行している人に比して居合の有利な点。

- ① 帯および袴の結び方等、刀を差すための正しい着装ができる。
 - ② 刀の所作(帯刀・抜刀・納刀)が円滑にできる。
 - ③ 進退の歩みに心配りができる。
 - ④ 正しい刀の操作ができる。
 - ⑤ 打突後や残心の間が適正にとれる。
- (二) 居合のみを修行している人が剣道形から学ぶべき点。

居合は単独動作で仮想敵を斬撃して倒す

技を習得する。しかし、斬撃の機会や間合は演武者の理合に応じて異なる。相対動作の剣道形を学ぶことにより、仮想の敵を実敵として捉え、理合にあった演武ができることを目指す。

- ① 仕太刀と打太刀の関係を理解する。
- ② 間合、打ち間を見極める。
- ③ 打突の機会を捉える。
- ④ 物打ちが打突部位まで確実に届いている。
- ⑤ 打突と発声を合わせる。

四 日本剣道形解説書・講習会資料

居合では、古来より伝承されている各流派の居合・古流と全日本剣道連盟居合（解説）を基にした全剣連居合（制定居合）を修行している。全剣連居合では解説書で述べられている要義や動作を遵守し演ずるのであるが、修行の深さにより百人百様である。

また、それぞれの解説書は各項目が簡潔に記されていることが多い。作成時、常識的なものは割愛されてきたものであろうが、

現代の我々にとっては親切な説明が必要である。

高段者の先生は「解説書の行間を読み」とか「深読みをしる」といわれる。順序よく解説されているが、文面からだけでは理解できない部分もある。説明のしきれていない各術技に秘せられた真意を解する必要がある。

剣道形も解説書や講習会資料で全てを解説することは困難である。究極は、打太刀と仕太刀の阿吽の呼吸や沈黙の会話から本當の剣道形が生まれるのではなからうか。

五 立会

(一) 帯刀

解説書では「互いの礼をしてから、刀を腰に差し」としか記されていない。刀の項で「正式には刀（刃引）を用いる。」「練習には木刀を用いる。」と述べられているが、低段者はともかく高段者の練習には同じ木刀でも鞘付き木刀で行う必要があると思う。刀には鞘が付きものであり、剣道形の起点で刀の最低限の操作で

ある帯刀・蹲踞・抜刀・納刀・脱刀の習得に繋がらない。

(二) 蹲踞と抜刀

解説書では「蹲踞しながら抜き合わせる」とされている。私的な解釈で二歩進み、三步目を踏み出す時、右手を柄にかけ、左手の親指で鯉口を切り、刀を抜きつつ抜き合わせながら、蹲踞してきた。何故、蹲踞しながらなのか考えてみた。

講習会資料の補足説明で刀の差し方と木刀の腰への取り方が記されている。刀の鐙を腹部中央部に送って帯刀し、鐙がへそ前に来るようにする。当然、柄は右斜め前にある。居合の心得がない者が、差しなりに刀を抜くと柄頭は正面の相手に向かわず刀を抜き合わせることになる。解説書の「蹲踞は、右足を前にして右自然体になる」ようにして抜けば、右手の持つ柄頭は自然と正面の相手に向かっていく。

鞘のない木刀は、体の中央で左手に持ち替え、左腰にとる。柄頭は正中線になるようにするため、相手に向かって抜い

ていける。また、鞘がないため制約を受けることなく簡単に抜き合わせられる。

講習会資料に「抜いてから蹲踞するのはなく、蹲踞しながら横手あたりを交差させて抜き合わせる」とあり、相互の刀の抜き方や蹲踞をする時宜と速度について工夫し、抜き合わせる。互いに気を合わせ、堂々とした蹲踞を行う。

③ 納刀について

解説書に「蹲踞して互いに刀を納めて立会の間合にかえる」とされているが、刀の操作に慣れていない者にとっては、最後に最大の難関となる。鞘のない木刀では正しい納刀の習得につながらない。納刀は左手の役割が大である。鯉口は中指で握り、親指と人差し指で鯉口を小さく覆う。そこに刀を乗せ、右手は右斜め前方に伸ばし、左手は左腰近くにおく。切っ先が鯉口に入れば柄頭と鞘が一直線になるように鞘の角度を左手で修正する。つまり、右手の柄頭は上下左右に動かさず、左手で鞘を調整する。当然、正しい蹲踞の姿勢を保ち、前傾姿勢にはならな

い。形の仕上げとして、ゆっくり堂々と納刀する。

「日本剣道形を正しく継承し、次代に伝える」ことを重点事項に掲げているのであれば、日本剣道形は鞘付き木刀で行うことも考慮する必要があるのではなからうか。

④ 歩みについて

解説書には「互いに右足から大きく三歩踏み出して」「互いに左足から五歩退き」とされている。前進は大きく一・二・三と同一歩幅で歩むものではない。一歩目は身体がぶれないよう小さく、二歩目は中ほどに、三歩目は大きくと歩幅を変え、相手に臨む。当然速度も変化していく。後退も五歩とも同一歩幅ではない。一歩目は油断なくわずかにひく。以下、少しずつ歩み幅を変えていく。五歩目の左足には右足が伴うようにする。前進の三歩は攻めの気位で、後退の五歩は慎重に残心の延長線上にあるべきである。同じ距離を、三歩で出て、五歩で退く意味を考えてみたら理解できるだろう。

⑤ 構えを解く

解説書には「自然に相手の左膝頭から三ないし六センチ下、下段の構え程度に右斜め下に下げる」、また「剣先を下げる」とは、構えを解くことである」と記されている。

五輪書の「有構無構のおしへの事」において、太刀は縁により、場により、情況に従い、どの方向に置いたとしても、その敵を切りやすいように持つということが表されている。つまり「構えはありて構えなし」は、いつでも敵を切れる状態にあらねばならない事を意としている。あえていえば、中段の構えを解いた「構え」であり、構えのない「構え」という認識を持つべきであると考え。

簡単に構えを解き、何の配慮もなく後退する姿に気位や形の重厚さは感じられない。

六 太刀の形 一本目

(一) なぜ相上段の形から始まるのか。相上

段の意義を考える。

① 上段は攻めの構えであり、相互の気迫・気位・気力の昂揚と体幹・体軸・体勢の充実がはかれる。

② 打太刀は大きい上下の切り下ろし、仕太刀は面抜き面の正しい打ちができる。

③ 相手との距離を刀で測ることなく体感で知る。打ち間を知ることの重要性を習得する。空間認識能力、奥行知覚（空間内にある諸物体の遠近差を知覚する）を養う。

(二)「打太刀は機を見て」について

剣道講習会資料に「相上段から先の気位で進み、先々の先で仕太刀が勝つ」と要義が記されている。解説書には「打太刀は機を見て右足を踏み込み、仕太刀の正面を打つ」とされ、講習会資料に「機とは、相手の「心」と「体」と「術」の変わり際に起こるとき「きざし」である」と説明されている。さらに、「この場合、打太刀が仕太刀に勝つ機会を教えているもので、仕太刀の十分になったと

ころを見て打つ」と表されている。

仕太刀が攻めの機を発し、その機を打太刀が見て、仕太刀の正面を打たなければ形が成立しないと思う。打太刀は機を見て打つのであり、仕太刀の十分になったところを見て打つのではない。仕太刀の攻めに乗ってやり、勝つ機会を教えるべきであろう。

冒頭に記されている仕太刀が先々の先で勝つということの整合がはかれる。

「機を見て」と同義と思われる禅の教えに「啐啄同時」がある。啐は鶏の卵が孵化するとき、殻の中の雛がつつく音。啄は母鶏が殻をつき破ること。悟りを開こうとする弟子に、師のはたらきが合致することをいう。「啐啄の機」は逃がしたらまたと得がたい好機をいう。仕太刀の「啐」に打太刀が「啄」で応えると捉えたい。

(三) 打太刀が正面を打った後やや前傾姿勢になることについて

解説書では「打ち下ろした剣先は、下段の構えよりやや下がる」とし、講習会

資料の補足説明で「上体はやや前傾するが、顔だけ上がる姿とはならない」となっている。

頭頂部でなく前額に正しく打つためであり、身長差があっても、打太刀が前傾姿勢を調整することにより、両腕を適切な高さに伸ばして面が打てる深遠な配慮が窺える。

正面の打ちは厳しくとも、仕太刀の身長に合わせた前傾姿勢をとれる打太刀の優しさが求められる。

(四) 打太刀が前傾のまま二歩ひく理由

解説書には「打太刀の正面を打つ。打太刀が剣先を下段のまま送り足で一步ひくので、仕太刀は十分な気位で打ち太刀を圧しながら、剣先を顔の中心につけ、打太刀がさらに一步ひくと同時に左足を踏み出しながら、諸手左上段に振りかぶり残心を示す」、「打つということは切るという意味である」、「顔の中心とは両眼の間をいう」という注釈から、正面（前額）を寸止めではあるが、眉間まで切り込んでいる状態の表現であろう。打って

から改めて顔の中心につけるのではなく、切り込んだ刀が顔の中心に向かって割り込んでくる。打太刀は、仕太刀の剣先が眉間にくるよう、また縁が切れないよう最小限の後退をする。講習会資料の補足説明で打太刀は「二歩退くときの歩幅は仕太刀との間合によって大小あることを注意する」、「仕太刀の気位が十分に充ちたときに引くようにする」となっている。

一歩目は、正面を打たれたら眉間まで切られたように小さく速くさがる。二歩目は、眉間の剣先を十分に利かせる間を取る。面を打たせた以上に大きな見せ場であるので、安易に後退しない。顔に剣先が追いかけてくるように残心を取らせ仕太刀を引き立てる。

打太刀の仕太刀を引き立てる最大の所作は、正面を打った後も、反撃の意志を失わない姿勢を示すことである。

⑤ 仕太刀の残心について

解説書の補足説明に、仕太刀は「残心を示すとき、顔の中心を突き刺すような

氣勢で圧しながら行う」となっている。形だけの上段の構えにならず、いつでも振り下ろせる気迫と体勢が重要である。打太刀が前傾を解きながら中段になろうとするまで上段の残心を示し、打太刀の下段から中段になると、仕太刀の上段から中段になるのを合わせる。互いに中段の構えとなり、構えを解いても残心を解くことなく打太刀に従って静々さがる。

七 むすび

剣道形の講習を始めてから数年になるが、年二・三回、一・二時間のうえ、教える私の資質や技倆に問題があるのか実が上がない。形を効率よく教えればよいのであるが、一本目を重点にしながらか居合に役立つ剣道形にこだわりすぎて、くどい説明と反復練習で遅々として進まない。

剣道形の研究と共に指導法についても更なる工夫が必要である。人生の日暮れ時を迎えようとしているのに「日暮れて道遠し」の感である。しかし、剣道形を指導するようになつて剣道・居合道・杖道への取り組

みが何となく向上してきているように思われる。

武蔵の兵法の道を学ぶ心がけが気に入っている。道を鍛錬する所。広く諸芸にも触れること。目に見えないことを覚って知ること。わずかな事にも気をつけること。これらを、心に留め置き、自分のため、剣友のため、徳島県剣道連盟のために精進したい。

参考文献

「宮本武蔵 五輪書」魚住孝至 NHK出版
 広辞苑 岩波書店

剣道と居合に出会って

川 人 政 利



私が剣道に出会ったのは、息子が小学四年生の時でした。北島少年剣道教室で剣道を習っ

ていた友達に誘われ、息子と一緒に体育館に見学に行きました。興味を持った息子は、入門させて頂く事となりました。

毎回息子の付き添いで剣道教室に行っていたある日、指導者をされていた伊賀雅人先生から「お父さんも息子さんと一緒に剣道をやりませんか？」と声を掛けて頂きました。練習を見るうちに剣道に興味を持ち始めていた私は、喜んでお誘いを受ける事になりました。

北島少年剣道教室では、元徳島県剣道連盟の会長・(故) 範士 三木只雄先生、北島剣道教室館長・(故) 菊川克己先生、(故) 加藤源次郎先生、伊賀雅人先生、岡

田良人先生、多くの先生方から指導を受け、厳しくも楽しい練習の日々でした。

剣道を始め一年後、居合の誘いを受け、何も解らぬままに、居合の基本、形等を教えて頂きました。(故)居合道範士八段・平尾勝美先生、(故) 教士七段・高橋憲司先生には、熱心に指導、稽古をして頂きました。右手で力任せに振り下ろすのではなく、筋力に頼らず技として、左手の操作を優先する。剣道も居合も左手が大

事だよ。とよく言われた事を思い出します。居合を始めた当初は、二月の居合道県大会、五月の居合道春季講習会、九月の居合道伝達講習会等、子供たちと共に参加しました。その都度、居合の抜きつけについて、右肩を上げないように、右足にしっかりと体重を乗せるようにと、私達の指導の至らない所を、先生方に指南頂き、正しく指導して頂きました。

私が昇段試験を受ける際には、(故) 居合道範士八段・平尾勝美先生、居合道範士八段・原田勝先生、居合道教士八段・坂本憲一先生、各高段者の先生方には、居合の

基本姿勢をしっかり身につけるよう、ご指導頂き無事五段まで受かることができました。

保護者の方とも、指導の仕方などを話し合いながら、事あるごとに意見を出し合ったりしました。

現在は剣道板野道場の指導者として、日曜日の午前中に、子供たちと稽古に励んでいます。これからも子供たちと一緒に良い汗を流したいと思えます。

道場紹介

阿波居合道伝習会

居合道部 坂本 憲一

阿波居合道伝習会の歴史

阿波居合道伝習会の当初の名称は阿波居合道同好会である。同好会設立の切っ掛けは、刀に興味を持った有志が、刀剣愛好家の庭先で刀の試し斬りをしたのが始まりで、それに剣道家数名が加わり、当時の会員は六名。師範として招聘したのが父（当時阿波支部長）の知人であった居合道教士七段（当時五段）の野口直之先生であった。

この頃隣の脇町には滝下勝先生の研心館道場、対岸の鴨島町には平尾勝先生の徹心道場があって、市場町からも数名がこの二つの道場に通っており、阿波居合道同好会の設立は二つの道場に割り込む形となり、段位が低い指導者ということもあって若干

の波風がたった。最終的には当時の三木只雄会長、下村富雄居合道部長の推薦を頂くこととなり、これを機会に阿波居合道伝習会と改称、新たな会員も加わり、一年後の昭和五十七年四月、会員数十三名で正式に発足した。現在までの入会員の推移は延べ三十五名である。

会名の誕生

居合道同好会から居合道伝習会に改称するとき、師範の野口先生から、師匠である岩田範士の話をよく聞かされた。師匠の口癖は、「居合道（全剣連居合・古流）を学ぶ」ということは、伝えられた業を正しく受け止めるということだ。それは形のコピーとはまるで違う。昔から師匠を頻繁に替えることを遍路稽古といったが、「遍路稽古はよくない」という戒めの言葉がある。今の遍路稽古は情報過多から、簡単にその人の居合が映像を通して見られる時代だ。これは居合道の修練には最も危険なうわべ取りの現象といえるだろう。

古の遍路稽古は師匠を幾人も替えるを良

しとしないまでも、情報摂取の不便さから、逆に師匠の所へ足を運び直接指導を受けざるを得ないという利点があった。そこには口伝という大きな収穫があったのだ。

先人が残した『口伝之覚』を紐解けば、その大きさを垣間見ることが出来る。

同好会から伝習会に改称するにあたっては、一つは伝えられた業を正しく受け止めること、二つ目は師匠を渡り歩かないこと。こうした内容に加えて直伝英信流の「直伝」という文字にも大きくこだわった。直接指導を受けこれを習い伝えてゆく。他愛も無いことだがこの三つの要素を含めて会名とした次第である。

阿波居合道伝習会の今

阿波居合道伝習会が発足して今年で早四十年が経過した。その間、会長も代を重ね初代木村正秀・二代石上宏・三代松村宏道・四代大島博、五代目は不詳私を受け継いでいる。

道場は、八幡小学校体育館・県立武道館・徳島市農業環境改善センターを中心に月曜

日は（県立武道館）、火曜日は（八幡小学校体育館）、水曜日は（徳島市立農村環境改善センター）、金曜日は（県立武道館）。

時間帯は十八時～二十一時をそれぞれの練習時間としている。

中でも火曜日の本部道場八幡小学校体育館では全剣連居合に加えて、火曜日だけは、古流の練習日と定め、無双直伝英信流の各技正座（十一本）立膝（十本）奥居業（八本）奥立業（十三本）番外（三本）、大江正路制定の居合形（七本）、加えて長谷川英信流古組太刀（立合之位）の練習を行っている。

阿波居合道伝習会の大きな行事としては、阿波支部が主催する春分秋分の剣道錬成会での公開演武、阿波町内の賀茂神社における奉納演武等がある。

賀茂神社の奉納演武は、厳粛な神事のと境内のお場で各自が演武・試し斬りを行い、一年間の成果・新たな取り組みを報告するもので、今年で四十三回目を迎え、賀茂神社の年中行事の一つとなっている。

阿波の北方に根付いて凡そ半世紀、阿波

居合道伝習会が、徳島県武道史の一コマとなれば幸いである。



加茂神社奉納演武
（古伝組太刀 太刀打之位 請込の形）



刀の試し斬り風景
(昭和46年 愛刀家の庭先にて)



奉納演武での祈念写真
(平成7年 阿波町 賀茂神社にて)

阿南市剣道連盟大潟道場

大潟道場代表 福井 勝

令和六年早々から能登地震の災害が発生し四国に住む我々も他人事ではないと思います。被災された北陸の皆様にお見舞い申し上げます。

さて、私の大潟道場は大潟の阿南市武道館で毎週日曜日九時〜正午まで練習に励んでいます。当道場で修業されている剣士を紹介いたします。

剣道と居合道

阿南高専一年生 剣道三段・居合道三段

森 本 理 希

私が居合道を始めたのは小学校三年生の時です。私が初めて大潟道場に見学に行ったとき居合とはかっこよく、私にも出きる気がしたので始めました。居合は形稽古なので決められた動作を何度も繰返し練習し、初心者の中に正しい形を覚えることが大切です。

「継続は力なり」根気よく取り組んでいけば必ず上達すると信じ努力しています。実際にはいない敵を相手にして刀を振る。身体をのびのびと使い大きい技を心がけるようにして速さの中に力強さが出るようにしたいです。

最後になりましたが、令和五年十一月二十六日実施された剣道審査会で三段に合格することが出来ました。お世話になっている高専剣道部監督、小西先生、顧問の松浦先生、朴先生、コーチの鈴木先生、高専剣

道部の皆様に深く感謝を申し上げますと共に引き続き精進しますので今後ともよろしくご指導、御鞭撻の程お願い申し上げます。

居合道との出会い

尾 華 裕 貴

剣道三段・居合道初段

大人になり、運動不足の日々を解消したいと思い、昔していた剣道を始め二〜三年が経過した頃、居合道があることを知り、その頃から日本刀の扱い方に興味が湧いていたので見学をした後すぐに入会を決めました。

剣道と居合道の両方をする自分にとって互いに良い影響を与えてもらい、特に精神面で大きな変化があったと思います。

居合道は始めて間もないですが、先生や周りの人達と一緒に長く続けていきたいと思えます。

居合道を初めて

檜 地 千恵美

剣道二段・居合道初段

福井先生ご指導の下、大瀧道場で居合を
始めました。今年は二段に挑戦する予定で
す。五年前、地区講習会で初めて居合道六・
七段審査会を目にした時に感じた居合道と
剣道との関係でした。刃筋・手の内・気・
剣・体の一致等々、今、正に実感していま
す。

兼好法師「徒然草」に「初心者でも、恥
を捨てて人前に出て一流の人に交じって学
ばねばならない」とあります。私も上手
な人に交じって、けなされても、笑われて
も、恥ずかしがらず稽古に励む所存です。
どうかよろしくお願い致します。

着付け講師と居合道

中 西 由 美

居合道初段

五十の手習い！居合道、女の人ができる
とカッコいい。子供が剣道形を先生に教え
ていただいている光景を見て思いました。
そんな単純な気持ちで始めました。

いざ携わってみますと自分と向き合い没
頭し楽しい一時です。着付け講師と言う仕
事柄通ずる事もあり、無駄な動きもなくな
り礼法なども勉強になります

まったくの素人ながら快く受け入れ、熱
心にご指導頂きました福井先生はじめお仲
間に感謝の気持ちでいっぱいです。これか
ら居合道を通じて何かを得ることが出来
ると幸いです。

まだまだ未熟で変わっている私ですが、
皆様のご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお
願致します。



徳島春風館道場

徳島春風館道場 館長

青木茂生



日本の幕末の剣術家で「剣・禅・書」の達人といわれた山岡鉄舟。鉄舟は「電光影裏に春風を斬る」と言われ、自身の道場を「春風館」と命名しています。弟子に香川善治郎・高野佐三郎・後に松崎浪四郎・白井六郎も鉄舟の門下に入門しています。

精神修養を重んじる鉄舟の剣道観は、近代剣道の理念に大きな影響を与え、鉄舟に私淑（ししゅく）する剣道家は非常に多くいます。平成十五年（二〇〇三年）、鉄舟は全日本剣道連盟の剣道殿堂に顕彰されています。

私も山岡鉄舟の剣道観に共感し、鉄舟と同じ道場の命名に致しました。全国にもいくつか「春風館」道場がありますが、四国

にはありません。それで徳島を入れ徳島春風館と命名をするこ
とにした訳であります。

徳島春風館道場は、昭和六十三年四月三十日に美馬市穴吹町の自宅敷地に創立し、早や三十六年の月日が経ちました。徳島春風館道場の居合道稽古日は、週一回木曜日午後七時三十分から午後九時、杖道も、週一回木曜日の午前十時三十分から正午まで、剣道は、週三回月曜日・水曜日・土曜日で午後七時三十分から午後九時まで稽古を行っております。

徳島春風館道場は、『明鏡止水』を銘訓にしております。武道の修行がだんだんと積まれ鍛錬されてくると、精神面も陶冶（とうち）されてくるものであり、『明鏡止水』というのは、無心の状態の境地に達した状態を意味しています。心に邪心、



わだかまりが起らないような精神修養を行
うと言った肝要から『明鏡止水』を春風館
道場では銘訓としておるところであります。
古歌に「うつるとも月も思わず、うつすと
も水も思わぬ猿沢の池」とあります。

剣道・居合道・杖道は、老若男女どなた
でも稽古を始めることができます。武道を
通して心の修行を行ってみませんか。
是非、機会を作って始めて下さい。
宜しくお願いを申し上げます。





杖道部会コーナー



特別寄稿

私の杖道観

— 徳島県剣道連盟杖道部会の発展を祈念して —

杖道教士七段・神道夢想流杖道免許伝
愛媛県剣道連盟理事・杖道部会長

清 家 権 一



杖道は、神道夢想流杖道（流祖）無双権之助勝吉により、今より約四二〇年前に創始された「杖術」が元になっています。

昭和三十年全日本杖道連盟を発足させ、戦後初めての本格的な古武道大会として「第一回各流武道大会」を開催し、以後の普及活動を急展開させています。一方、翌昭和三十一年に、全日本剣道連盟に加入し、傘下団体としての普及にも力を傾注することになりました。

全日本剣道連盟において、昭和四十三年に「基本十二本、杖道形十二本」を制定し、本格的普及活動に入っています。杖道形十二本の中には、初心者にも考慮した技（水月・斜面）を含め、神道夢想流杖道の技の中から厳選されたものであります。当時、私は国士舘大学杖道部三年生、「錬武館」本部道場の有志たちと、

合宿を行い、杖道の技の向上に努めていました。

杖道は、「傷つけず 人をこらして戒むる 教えは杖の外にはある。」（安政五戊午年十二月吉日、平野次郎國臣 詠 巻物・後目録）古歌にあるように、攻撃を主とせず、相手の攻撃に応じて変化し、制圧するのが特徴であります。杖道の動きは、ほぼ左右両側を使うので、バランス良く体を鍛えられ、姿勢がよくなり、健康で長寿の秘訣の元とされています。

「素朴な棒一本で剣を制す。」最近では、世相を反映し、学校でも杖道が普及しています。それは、学校への不審者の侵入に備えた取組みの中に「安全を守るための器具の備えに「杖」などが効果的である。」と明記されたからであります。（安全・安心な学校づくりのための文部科学省プロジェクトチーム第一次報告、平成十七年三月三十一日）

私自身も、文部省の委嘱を受け、「スクールガードリーダー」として、小・中学校を訪問し、不審者の侵入等に備えた活動をしています。最近では、中高年や女性に人気があり、且つ、大会での女性の入賞者が増えています。

杖道は、二人一組で行い、決められた打突の正確さや形で勝負する試合は、みるからに美であり、雅であります。また、男女平等で段別に試合を行う武道は、他に類がありません。

愛南警察署道場（毎月第三日曜日）には、剣道・抜刀道・合気道・空手道の有段者も訪れ、時には、「青空道場」で巻藁や竹を切ったり、真剣を用いて演武を行っております。

愛媛県剣道連盟杖道部会 「愛南杖道会」



後列左から

島内(徳)、島内(秀)、河内、松田

前列左から

若林、清家、沼田、萩山

会長：清家権一（師範・杖道教士七段）

▶練習日時

水曜日の 19:00～21:00

第3日用日の 13:00～16:00

▶練習場所 愛南警察署 4階
柔道・剣道室

愛媛の最南端ですが、風光明媚で海の幸、山の幸に恵まれています。愛南町に来られ、一緒に杖道をしませんか。

結びになりますが、徳島県剣道連盟杖道部会の更なる発展と、会員の皆様の益々の活躍を期して、筆を擱きます。

活動報告

杖道部会より

事務局長 米倉 武志

杖道部会の本年度の活動は、五月に新型コロナウイルスが五類に移行したこともあり、前年と比べて多くの活動を実施することができました。

五月二十日にケーブルテレビ徳島から取材をしていただき、六月九日にテレビトクシマ一一一chにて放送していただきました。また、YouTubeのテレビトクシマ公式チャンネルさまにて、放送した内容を動画として配信していただきました。令和六年一月の時点で約一万回の再生を頂いており、多くの人々にご視聴頂いております。

八月六日には愛媛県武道館にて、「令和五年度 杖道審査会」を開催し、十六名が昇段審査を受審しました。また同月十九日、二十日に兵庫県で開催された「令和五年度 第三十三回杖道中央・地区講習会」に三名が参加しました。

十月二十八日、二十九日には、徳島県剣道連盟主催の「令和五年度 杖道秋季講習会」を開催しました。講師には杖道範士八段の黒郷源慈先生をお招きし、徳島県杖道部会から十七名、愛媛県

杖道部会から四名の、合計二十一名が参加しました。

十一月二十六日には「第十回 広島杖道大会」に一名が参加し、惜しくも初戦敗退となりました。

現在、杖道部会は松茂町第二体育館にて毎月二回から三回を目途に稽古を行っております。来年度は今年度と同様、杖道の技量向上を目指して稽古に励み、また、杖道の普及発展のため、広報活動を実施していきます。



講習会報告

杖道中央・地区講習会を受講して

杖道部会 筒井 勇



杖道の全国的普及と技能の向上を図るとともに、「全日本剣道連盟杖道」の的確な伝達を行い、共通理解を得ることを目的とし、令和五年八月十九日（土）・二十日（日）に姫路市にあります兵庫県立武道館にて杖道中央・地区講習会が開講され、受講させていただきました。

私自身は令和四年八月の和歌山市、令和五年三月の東京での講習会に続く受講でしたが、今回は徳島県剣道連盟杖道部会から徳山豊先生と武田修典先生それに私の三名が受講しました。

講習会前には度重なる集中豪雨や台風六号・七号の襲来があり、またかつてないほどの猛暑が続いていましたが、当日は全国各地から三五〇名の受講者がありました。

開講式の際に、全日本剣道連盟副会長の真砂威先生から全日本剣道連盟では六月に役員改選が行われ、役員の若返りと女性の比率が大幅に上がり、杖道でも新しく女性の委員が入ったことが伝

えられ、受講者の皆様には正しく全日本剣道連盟杖道を学び、杖道の発展に寄与していただきたい旨の挨拶をいただいた後、新任の森本訓史杖道委員長から同じく新任の講師を務められる上田花代子・服部知司両委員の紹介が行われてから講習が開始されました。

一日目の講習は、まず全体講習として
・礼法について

解説 村上直隆範士

実技 上田花代子教士・服部知司教士

・太刀の構えと操作法について

解説・実技 藤崎興朗範士

・基本動作

解説 神代孝一範士

実技 単独基本 上田花代子教士

相対基本 (打) 大竹俊行範士(仕) 服部知司教士

講師先生方の実技を間近で拝見しながら、注意すべき点など解説を拝聴した後、八〇七段・六段・五段・四〇三段・二段以下の各段別のグループに分かれて、私のグループは、服部教士が講師を務められ、午前中いっぱい基本動作の実習が行われました。

午後からは、まず全体で釣賀敏郎範士の解説・(打)神代孝一範士、(仕)村上直隆範士の実技による全日本剣道連盟杖道形十二本の要点の解説の後、各段別のグループに分かれて形の実習が行われました。

二日目の講習は、最初に全体講習として、藤崎興朗範士から、一部修正された試合場（規準）と「杖道試合・審判運営要領」の試合者の仕・打交替要領及び試合者の入退場について説明を受けました。

私自身大会にも出場していませんし、修正された部分を正しく行えるように努めなくてはなりません。

全体講習の後、八〜七段受講者は、審判・審査員の心構えの講義及び審判実技講習にうつり、六段以下は初日の午後引き続き、各段位グループに分かれて全日本剣道連盟杖道形の実習講習が行われました。

私のグループでは習得している形の本数にばらつきがあり、（講習会の時点では、徳島では七本目までしか稽古をしていませんし、私は出稽古をとおして十一本目までは教わっていますし、グループの中には四本目・五本目を習得中という人も）実際に形として稽古をしたのは三本目の「引提」までで、その中で形を細分化して引落打の部分を通り返したり通付の部分を通り返したりしました。

段位別にグループ分けをしての講習の際に、隣の別グループの講師のほうが声が大きかったり、こちらのグループで講師が説明している時に別グループの発声があったりして、説明が聞きづらい部分も時折ありましたが、講師もグループを三分して左方・中央・右方と移動しながら同じ説明を三度通り返しながらグループ全体に伝わるよう工夫もされていました。

講習会の目的は冒頭でも触れているように、技能の向上を図り共通理解を得て自分のモノにしていくことだと思っています。

一つでも身につくよう、わからない部分や疑問に感じる部分はそのままにしておいてはならないと私は考えています。折角の学びの機会ですから、私自身の確認の意味も含めて積極的に発言や質問をしました。発言や質問の九割以上は私からのものでした。

後から知ったのですが、私の杖友の一人がグループの講師を務められた服部教士と普段一緒に稽古をされており、杖友から「服部先生が講習会で質問攻めされたから、顔と名前をすぐに覚えたいと言ったよ。徳島の筒井ってお前やないか」と。

講習会は私にとって大きな学びの機会となりました。また、講習会の前夜や一日目の夜には食事に繰り出して新たなご縁をいただきましたし、杖友との再会や談笑もとても楽しかったです。

現在私は徳島県剣道連盟杖道部会の理事長に就かせていただいております、定例稽古の際には青木茂生部会長、徳山豊副部会長の指導をサポートする機会もあります。

講習会で学んだことを杖道部会メンバーに正しく伝達していく責務も感じていますし、部会全体の技能向上のみではなく、杖道の普及発展にも一役買うことができたいと思います。

第二回杖道講習会開催

杖道部 武 田 修 典



令和四年度に第一回講習会（十月二十日・二十三日）二日間実施し、今回（令和五年）も第二回秋季講習会を開催することができました。前回は講師として

全日本剣道連盟杖道委員会委員長・杖道範士八段黒郷源慈先生をお招きしました。本年度も黒郷先生に全日本剣道連盟審議員として再度ご指導いただくこととなりました。

令和五年十月二十八日（土）・二十九日（日）と二日間にわたり松茂第二体育館にて開催し、愛媛より（森・藤田・岡部・益田各教士七段）先生指導のもと徳島受講生十五名の参加で実施いたしました。以下講習会内容を記憶の範囲内で記していきます。

第一日目開講一番、黒郷範士先生より杖道講話を拝聴いたしました。杖道は古流・神道夢想流杖術を母体とし、故清水隆次先生の理念のもとで、昭和三十一年に全剣連に正式加盟した武道であり、清水隆次先生・乙藤市蔵先生とともに旧福田藩に伝承された神道夢想流の継承者であったことから、現在の全剣連杖術十二本はいずれも神道夢想流の形をその原形としているが、古流をもとに清水先生が創始された形となっている。一般に全剣連杖道を以て神道夢想流と理解される向きもあるが、これは制定時の経緯において神道夢想流が中心的役割を果たしたことへの誤解から生じ

たものと考えられるとのこと。古流を現代杖道にアレンジしたもので古流の動きと現代の杖道は別物である（古流は六十四本有）古流には段・称号等はありません。

段階として、奥入書く初目録くご目録く免許く秘伝（免許皆伝）古流と現代杖道（連携形）は区別して修練する。剣道をやっていたら打った時の衝撃、手の内等杖に役立つ。また剣道形をしっかりとやってください（特に打太刀）☆師の位☆

講話終了後、模範演武から黒郷範士と藤田教士による形十二本
一本目…着杖 二本目…水月 三本目…引提 四本目…斜面
五本目…左貫 六本目…物見 七本目…霞 八本目…太刀落
九本目…雷打 十本目…正眼 十一本目…乱留 十二本目…乱合
拝見し、姿勢・拍子・打突・間合・見切り等何の無駄もなく圧倒される迫力でした。

模範演武のあと二人一組に分かれて仕・打交代で七本目まで（徳島受講生のはほとんどは七本目までの所作しか理解していません）出来不出来関係なくとにかく所作間違いないように一通り流す。一息ついた休憩後受講生全員木刀操作方法を学ぶ。

- ① 提刀く礼く木刀持ち替え
 - ② 木刀の抜き方（構え方）く中段へ
 - ③ 八相の構え方
 - ④ 左上段の構え方
 - ⑤ 一本目 着杖の所作（中段く八相く三步前く切付けく左上段く下がりながら解くく左足引いて構える。
- （詳細）右足を出し中段に構えさらに左足を出し八相に構える。

間合いに進み、振りかぶりながら右足を踏み込み、正面を水平まで切り下ろす。右足から引きながら左上段に構える。右足から引きながら太刀を右脇下におろす。左足を右足に引き付け構えを解く。点と線を区別すること（木刀の動いているところが線で止まったところが点）

ここで午前中が終り、午後は黒郷範士解説による藤田教士（打）益田教士（仕）形四本目まで太刀のみを事細かに指導いただく。

（打の要点・留意点）

一本目…着杖

一足一刀の間合いで一度立ち止まり、太刀が頭部に届くようにしっかり両手を伸ばして切ること。振りかぶって切り下ろす動作は一拍子のこと。また太刀を振りかぶった時、剣先を水平より下げないこと。

二本目…水月

仕に面對して下がるため僅かに右斜め後ろに退くことになるが、右足踵を外に出す気持ちで退がり踵を僅かに浮かし、着けないようにすること。

三本目…引提

打太刀の切付けの時前に寄り掛かる形になりやすい為両足の真ん中に重心があるよう留意し、剣の握りを固く握らない。また繰り付けられる時、柔らかく繰り付けられるよう心がけ両肘を両体側につけ、手元が下腹部の前にくるようにすること。

四本目…斜面

右足から退きながら太刀を右脇におろすが、右足が後ろにあるにもかかわらず、切っ先を右斜め前に下ろしてしまう傾向が

ある。切っ先方向は斜め後ろのこと。

全剣連杖道においては、構え方と基本動作は日本剣道形に準じている。ただし竹刀剣道にみられる手首のスナップを使った打をするべきでなく、居合道に見られる用法、態勢をもって動作する方が理にかなっている。

その後一本目から四本目まで二人一組で稽古（私は仕のみ）これにて一日目は終了。

第二日目、十月二十九日（約半日）まずは太刀のみでの所作で木刀を持たずに手を下げて動かさずに足のみで動きを確認する（形五本目…左貫で実施）以外と難しい！その後は指導陣が杖を持ち、受講生が木刀（打）で五本目から八本目…太刀落まで繰り返し稽古を積む。

以上が今回講習会で教わった内容ですが、全体を通じて杖の姿勢は原則としてやや半身か真半身であり、形の中での一部を除き、胸を相手に向け正対した姿はなく打太刀も仕杖も動作の大小、緩急は一拍子を原則とし、指定された部位を正確に打突すること。間合いにおいては一足一刀・二足一刀の間合いが要求され、相手の武器先が届かぬのに動いてはならない見切りの訓練であること。

今回の講習会についても有意義な奥深い内容をご指導いただき、今後の稽古においても教えられたことを思い出しながら解説書等を熟読し、精進していく所存です。

最後に黒郷範士先生始め各教士の先生方、お忙しいのにも関わらず我々未熟な受講生のために熱い熱いご指導有り難うございました。次回もどうぞよろしくお願い致します。

第十回広島杖道大会及び 交流稽古会に参加して

杖道部会 筒井 勇

令和五年十一月二十五日～二十六日、一般財団法人広島県剣道連盟の主催で、広島県立総合体育館武道場を会場に開催された、第十回広島杖道大会及び交流稽古会に一昨年（昨年）の第八回大会から三年連続で出場・参加しました。

東京からの参加者もいましたが、近畿・中国・四国・九州圏から二〇〇人弱の参加がありました。

初日は午後から随時自由参加の交流稽古会が行われました。交流稽古会の主旨は「杖道の修練者が集い、自力の見極めと平素稽古する機会の少ない他県の修練者と稽古することにより、技能の向上と相互の交流を深めることを目的に実施する」とあり、翌日の試合での指定技の稽古が中心にはなりませんが、高段位の先生方から直接ご指導をいただいたり、本当に多くの方に稽古をいただき、新たなご縁もたくさんいただくことができ、三時間の稽古時間はアツという間に過ぎてしまいました。ある高段者の先生からの厳しい稽古もありましたが、疲れよりも楽しくてワクワクした気分のほうが何倍もありました。

夜にはお互い近くのホテルに宿泊した者同士で合流し、過去の大会や講習会等でご縁をいただいた和歌山・大阪・高知の杖友と

食事に出掛け、杖道談義を楽しめました。

二日目、二十六日の大会は開会式に続いて小学生の演武（全日本剣道連盟杖道形より任意の五本）・六～八段の全日本剣道連盟杖道の演武（指定技は八本目「太刀落」から十二本目「乱合」までの五本）・古流の演武（任意の技で五本）と続きました。私は古流を学んだことはありませんが、迫真の演武に感動させられました。

個人演武が終わると、いよいよ個人トーナメント戦（段外の部から六段の部までの各段別）が四つの試合場に分かれて一斉にスタートしました。

私のエントリーした個人戦二段の部には二十名が参戦、私は最終試合者でしたので、他の選手の試合を全て見る事ができました。前回初段の部で優勝した選手や全日本大会で初段・二段と制覇した選手が早々と敗退するという大波乱の展開でした。

私はというと、前日の交流試合で先生方からアドバイスいただいたことを意識し、ひとつひとつの動作を丁寧に行うよう心掛けて試合に臨みました。

全く緊張することもなく、苦手な部分も上手いき、自分の中ではこれまでにないほどの最高のパフォーマンスでやりきった感がありました。二～一の判定で初戦となる二回戦で敗退しました。前回大会も二～一の判定での敗退でしたし、なかなか勝つ喜びを得られずにいます。

全ての個人戦が終わり、休憩時間が設けられていた時に、私の

試合の審判を務めてくださった先生（三道・居合道・杖道とも七段受有）から声を掛けられました。

「本当に判定に迷ったんですよ。最終試合者として試合場に入る時に足を引きずりながらだったのに、いざ試合が始まると足が悪いのを全く感じさせない体さばき・足さばきができていたし、杖の遣い方姿勢はむしろ相手よりもよかったと思う。それなのになぜ相手に旗を揚げたかというところだけど、二本目・三本目・五本目のように最後の引落打で極める形において、引落打そのものではなく、打ち終えたあとの左足の爪

先が外に開き過ぎた分、力が抜けてしまうし、下半身は完全に止まっている状態なので審判員もその部分に目が向いてしまうんですよね。左足の爪先の向きさえ開き過ぎていなかったら勝っていたと思う。今後に期待しての判定をさせてもらったら二―一という結果になってしまったけど、本当に丁寧な動作で立派な試合だったよ」と明確な課題をわかりやすく説明されたコメントをいただいたのは本当にありがたく思いました。

試合は結果を出せませんでした、二日間とにかく存分に楽しく過ごせ、多くの学びが得られたことはとても良い経験になりました。

ひとつだけ残念だったのは、それぞれに何か

しらの都合や理由もありましたが、多くの先生方から「徳島からは筒井だけなのが残念だな」と異口同音なコメントをいただきました。来年は徳島杖道部会チームを組み団体戦にもエントリーできればと思いますし、徳島県剣道連盟の会員の皆様にも剣道・居合道だけでなく杖道部会も頑張っているぞと報告できるようにしたいものですし、私自身も自己研鑽を積み、次回大会に向けて修業していく所存です。



第10回広島杖道大会



日時 令和5年11月26日(日) 9時15分開会
場所 広島県立総合体育館 武道場
主催 一般財団法人 広島県剣道連盟
後援 公益財団法人 広島県スポーツ協会

令和五年度 | 杖道 |

称号・段位合格者一覧

【二段】

八月六日

一	兵	清	塩	武	中	坂	筒	赤	綾	木	米	米	山	荒
村	頭	水	谷	田	尾	本	井	松	部	原	倉	倉	田	井
昌	新	俊	美	修	幸	憲	勇	睦	文	資	滋	武	師	勝
和	平	夫	千	典	雄	一			明	裕		志	正	志

【初段】

八月六日

久保隆司

称号・段位合格者

杖道昇段手記

杖道二段 塩谷 美千彦



杖道を始めた頃は、右も左も分からない中、杖道の姿勢、杖の構え方、基本技を覚えるこ

とから始まりました。それだけでも私にとっ
ては大変な事でした。しかしながら杖道で
は太刀が杖に相対する事となるため、太刀
の姿勢、構え方、解き方も覚えなければ
ならず、剣道や居合道の経験がない私にとっ
ては、八相の構え、上段の構えと言われて
も分からず、先生からひとつひとつ、手と
り足とり教えて頂きました。そんなふう
に稽古し、少しずつ色々な事を覚えながら、
稽古に励んでいました。

私が道場に通い始めた頃は、コロナの真

只中でそれ以前の昇段審査会が何回か中止
されて、その後コロナが収束しはじめたの
で、審査会が再開されることになったので
した。先輩諸氏に混ざって受験することと
なるのですが、経験のある先輩諸氏と一緒
に昇段審査会を受けるということにひどく
プレッシャーを感じた上、まだまだ形の動
作の順序をしっかりと覚える事さえできて
おらず、余裕はなかったように思います。

そんな中で、先生方から指導されたこと
は、解説書にも記されている正しい八相の
構えや正しい本手打といった「正しい」あ
るいは「正しく」という事に気を付けなが
ら稽古をするようにという事でした。残念
ながら、その頃の私にはそれを理解する事
も気を付ける余裕はありませんでした。

そうこうしているうちに、動作や順序を
しっかりと覚えることもできないままに、
昇段審査を受ける事となりますが、初段
への審査を受ける場合、実技の一本目から
五本目までの形を審査されます。審査会は
愛媛県の武道館で行われるため、徳島から
の受審者が車に相乗りして松山まで行きま

した。初めての県外受審だったので緊張もしましたが、稽古仲間が一緒なので心強く参加する事ができました。審査会では道場の先生方や先輩方の指導や助言のおかげで大きなミスをする事もなく、なんとか初段に昇段することができました。

翌年（令和五年）には二段の昇段を目指す事になるのですが、この回の審査会では形の二本目から七本目が審査対象となりません。それは、初段の時から二本増えるだけなのでそれ程、難しい事ではないように思われました。確かに、動作の順序を覚える事自体は時間もあり、それ程難しくはありませんでした。ただ、稽古を重ねていくうちに、杖と太刀を持つ姿勢、足の位置、間合など細かな部分を正しく行なわなければならぬ事に気が付いてきました。また、先生方が指導されている「正しい」や「正しく」という内容や意味が少しずつ理解できるようになってきました。

しかしながら、理解できたからと言って、それがすぐに出来る訳ではありません。細かな部分に気を付けるようにすると形の順

序を間違えたり、ど忘れしてしまい、順序を気かけると細かい所が疎かになったりと、なかなかうまく両者の兼合いが取れないまま、結局は順序を忘れないようにする事を優先しながら、二段の昇段審査会に臨みました。結果は何とか昇段する事ができました。

二段になった今でも、兼合いがうまくできるようなったとは言えませんが、少し

でもできるように稽古に励んでいます。そして、次の段階に進むため、八本目以降の形を習得し、さらに、理合に沿った正しい姿勢、正しい動作を常にできるような心がけ、初心に戻り稽古していきたいと思っています。



杖道雑感

―昇段手記に代えて―

杖道二段 赤松 睦



この度昇段手記を書くようご指示いただきましたので、これに代えて杖道について考え

てきたことを思いつくままに記したいと思っています。

徳島新聞の杖道を紹介する記事を見たのがきっかけで入会させていただきました、現在二年半余りになります、杖への思いは実は約五十年前にさかのぼります。

まだ東京で学生生活をしていた頃、空手をやっていたのですが、その仲間の剣道経験者から師範の話として、いろいろな道場破りを受ける中で一番苦戦した相手が棒術だった（今思えば杖術ではなかったかと思いますが、以下特に棒と杖の語の区別を意識せずに用います。）ということ聞きま

した。当時これを聞き、二刀流よろしく「徒手空拳と長物とを使えば怖いものなしだ。」などと密かに感動を覚えたものでした。

こんな不純で浅薄な動機から杖に興味を持つようになり、是非正式に習いたいと思うようになりました。しかし東京にいる間にはその機会もなく、三十歳で徳島に帰ってから空手についてはすぐ別の流派で続けることになりましたが、杖については入門のあてもなく、たまに本など買ってはみるもののがかったことは徳島には道場はないということでした。

そういうわけで今さら杖術もないなと思っ
て久しいそんな時期にあの徳新の記事に出会ったのでした。齡七十年、ここで会ったが百年目この機会逃がしてなるものか、とばかり歳も忘れて見学・入会となった次第です。

入会してみても驚いたのは先輩の方々が剣道や居合道の先生方、それもかなりの高段者ばかりということでした。武道経験者（武道とは剣道と居合道を指すらしい）で

なくてもやれるという言葉を受けたものの、足の運び、手の握り、姿勢、動作など慣れないことばかり。「あーちがう、ぜんぜんちがう」と言われてもどかがどう違うものやら。

杖に興味を持つようになったきっかけが上記のようなものでしたから武道の真髄を極めるなどという高邁な理想などさらさら頭になく、太刀の動きなどお構いなし、ただ杖を振り回せばいいものと勘違い甚だしく、杖のこの動作は覚えたと思ひ込み太刀を前にすれば認知力の低下も手伝って、たちまち記憶は消え失せ、頭は白くなるのみ。

「こらいかん、この先一回でも休んだらその次にはますますわからんよーになる。」と恐怖に似たあせりに襲われます。定例稽古は緑内障手術の入院を除いて休んだことがなく出席率がいいのはこのためです。

同時期に入った人の中には自分と同じように武道経験のない人も少しはいたようですが、（もっともその人たちは現在すべてやめてしまいました。）ひょっとして自分は場違いのところにいるのではないかと

思いがなくてもありません。

緑内障のせいもあり、距離感が問題で落打も空振りばかり。若い時からの習慣で腹筋は強い方なので水月を突かれてもあまり痛いとも思わないのですが、たまに杖先が目元をかすめれば、当たれば視力を失うかと肝を冷やしたり。

一方で、入会当初の頃感じていた「歳をとってもできる杖を使った体操風の動作を体系化したもの」といった杖のイメージはなくなり、模範演武など見るにつけいかに習熟を要するものであるかは練習を積むほどにわかってきました。

そんなこんなでいまだに自分の求めていたものが何であったかもよくわからないままに二年半余りがたちましたが、それでも青木先生、徳山先生、筒井先生をはじめとする先生方は、毎回熱心に指導してくださいます。(たまには覚えの悪さに呆れられますが。)

改めて、さて自分自身にとって杖道とは何だったのかと考えています。

若い頃に思っていたように護身その他類

似の実用的なものと考えるならば、たとえば最近はやりの住居侵入強盗犯に対応するにも杖は手ごろな護身用具としての利用価値は高く、一八〇センチメートルもある棒よりも室内での取り回しの点でもさらに有効だろうと思います。

しかし、これはどちらかという派生的付随的な価値のように思えます。最近なんとなくこれ以外の重要な目的なり効用なりがあるように感じています。精神論を前面に出すのは気恥ずかしくもあるのですが、最近受けた講習会にそのヒントがあるように思います。

まず黒郷先生の講習会では、点と線(静と動か)を通して自分の姿勢を客観的に反省すべきだと言ひ、ある意味ナルシストになれとおっしゃいました。なるほど杖道は精神を統一し、心を浄化する手段として、動く禅なのかと理解しています。

次に亀井先生の講習では、いかに効果的で効率的な動きをするかに重点を置いた杖を学びました。技術を磨くことを目的にすることもまた楽しいことのように思います。

さらに福田先生の古流は、より実戦的な杖で、連盟制定形では現実的でないと思えるような技が古流ではどうなるのかなど、これまた興味のある杖だと思ひます。

それぞれ杖道の持つ深みの一端を見せていただきました。ともあれこんなことを考えながらどこへ行き着くものやら、この先にあるものを追っいていこうかと思っています。

随想

日本の伝統文化である

武道の実践を

副会長 米倉 滋



「エイッ」「ホ
オッ」道場にひび
く大きな気合、広
げた両掌中に収ま
る丸木の杖、全身

を大きく使って杖先が杖尾となり杖尾が杖
先となる左右の打突を繰り返している
のは、ドイツ・ニーダーザクセン州の剣道
連盟会長以下四名の剣士であり、令和五年
十月二十八日土曜日、松茂第二体育館杖道
講習会での一コマです。

徳島県と友好提携を結んでいる同州とは
剣道、柔道、マラソンなどでスポーツ交流
を進めており、剣道は二〇一三年から相互
訪問を行い、同州剣道連盟の来県は二〇一

三年に始まり今回で四回目。

これまで本県剣道連盟会員との合同稽古
会、高校、中学校の部活動の視察などを行っ
てきましたが杖道の練習は今回がはじめて
となります。

武道の国際化が最も進んでいるのは柔道
です。一九六四年、東京オリンピックの柔
道無差別級で、オランダ人柔道家のアント
ン・ヘーシングが優勝しました。優勝が決
まった時、ヘーシングを祝福するために畳
の上上がるうとしたオランダ人スタッフ
を手で制止、武道としての柔道を実践しま
した。このことから「和」の心をもった柔
道家として賞賛され、柔道の国際的躍進は
この時から始まりました。

剣道は、一九七〇年（昭和四十五年）に
国際剣道連盟が結成されて以降、現在では
六十二カ国・地域が加盟し、剣道活動は約
百カ国を超えています。剣道等を志す外国
人の多くは、日本の伝統文化である武道に
魅力を感じ、武士道に由来する体系化され
た武技の修練による運動文化を通して、心
技体を一体として鍛え人格を磨き、礼節を

尊重する態度を養う等、人間形成を図ろう
としています。

剣道の世界各国への普及に伴い、居合道、
杖道ともに普及をとげています。ヨーロッ
パにおいてはヨーロッパ杖道大会が開催さ
れ、ドイツ代表選手も大会に参加している
とのこと、ニーダーザクセン州剣道連盟に
おいても今日の杖道体験をきっかけに剣道、
杖道ともに稽古に励んでいただき、日本の
伝統文化である武道を実践してほしいと願っ
ています。

がんばろう徳島

今年注目の剣道教室

徳島剣清塾活動報告

指導者代表 河田清実

この度、『徳島の剣道』編集担当者より、近年、徳島剣清塾の大会での活躍がめざましく、ぜひその模様を『徳島の剣道』に掲載してほしいとの要請がありました。僭越ではありますが、以下にその概要を列記することとします。

徳島剣清塾は二〇一八年六月一日発足しました。現時点（二〇二四年二月）で塾生は中学生六名、小学生二十名、幼稚園児一名の二十七名です。稽古は月・水・金の週三日で一九時～二十一時の間、阿南第一中学校剣道場で行っています。

二〇二三年三月からの大会成績

《県内大会》

①二〇二三年五月二十八日

徳島県道場連盟全国大会予選会

〈団体（三人制）〉

準優勝（日本武道館での全国大会出場）

棚橋爽斗・平田愛芽・河田淳紀

〈個人〉

五、六年男子の部

優勝 棚橋爽斗（全国大会出場）

三位 平田愛芽

中学生女子の部

優勝 岩浅花（全国大会出場）

②七月二十三日

第二十三回堀金旗争奪少年剣道大会

〈団体〉

優勝（野村拓未・岩浅晴・河田淳紀・平田愛芽・棚橋爽斗）

③七月三十日 第二回徳島県少年剣道選手権大会兼第十八回全日本都道府県対抗剣道大会選考会

一、二年生の部 優勝 岩浅晴

三、四年生の部 準優勝 清水春花

三、四年生の部 三位 上原穂花

五年生の部

準優勝 水口萌香

六年生の部

三位 河田淳紀

※都道府県大会代表選手

棚橋爽斗 平田愛芽

水口萌香

④八月十一日

第四十九回阿土少年剣道錬成大会

〈団体〉

小学生の部

準優勝（亀井心暖・高野愛叶・河田淳紀）

中学生の部

優勝（鹿島大雅・河田蒼生・水口新汰）

〈個人〉

一、二年生の部

準優勝 岩浅晴

三、四年生の部

三位 高野里絆

三、四年生の部

三位 上原穂花



⑤十月二十二日

第十六回文理科杯争奪剣道大会

優勝(棚橋爽斗・岩浅詩・水口萌香・平田愛芽・河田淳紀)

⑥十月二十九日

第六十八回清原杯争奪県下剣道大会

優勝(河田淳紀・岩浅詩・水口萌香・平田愛芽・棚橋爽斗)

⑦十一月五日

第五十三回徳島県少年剣道錬成大会

優勝(河田淳紀・岩浅詩・水口萌香・平田愛芽・棚橋爽斗)

⑧十一月二十三日

第六回有賀杯争奪剣道大会

一、二年生の部
優勝(岩浅晴・祖川結人・高野里絆)

三、四年生の部

優勝(清水春花・高橋明里・岩浅詩)

五、六年生の部

三位(河田淳紀・水口萌香・棚橋爽斗)

⑨十二月三日 第十六回全国スポーツ少年

団剣道交流大会県予選会

優勝 阿南Aチーム

徳島剣清塾から五名うち三名が全国大会に出場

先鋒 岩浅 詩

中堅 棚橋 爽斗

大将 河田 淳紀

⑩徳島眉山ライオンズクラブ結成六十年記念大会

〈団体〉

高学年の部

三位(棚橋爽斗・亀井心暖・水口萌香・平田愛芽・河田淳紀)

低学年の部

優勝(清水春花・野村拓未・高橋明里・上原穂香・岩浅詩)

幼稚園児の部

三位 亀井 心縁
二年生の部 優勝 岩浅 晴

準優勝 祖川 結人

低学年男子の部 三位 野村 拓未

低学年女子の部 優勝 清水 春花

三位 岩浅 詩

高学年男子の部 三位 河田 淳紀

高学年女子の部 三位 平田 愛芽

⑪二〇二四年二月四日

遠藤旗争奪第四十回少年剣道錬成大会

〈団体〉

優勝 剣清塾(炎)

(高橋明里・上原穂香・水口萌香・亀井)



心暖・高野愛叶)
準優勝 劍清塾(光)

(岩浅詩・清水春花・棚橋爽斗・河田淳

紀)

〈個人〉

一年生の部 優勝 岩浅 晴

二年生の部 優勝 祖川 結人

準優勝 高野 里絆

三位 水口 柑奈

三年生の部 優勝 野村 拓末

準優勝 亀井結之心

三位 祖川 穂花

四年生の部 準優勝 小山 一翔

《県外大会》

①二〇二三年三月二十六〜二十七日

第四十五回スポーツ少年団交流大会

(新潟県立謙信公武道館)

徳島剣清塾から五名中三名出場

先鋒 平田 愛芽

中堅 鹿島 大雅

大将 河田 蒼生

ベスト八(敢闘賞)

②四月二十三日

第十九回光龍杯争奪少年剣道大会

(香川県とらまる公園体育館)

小学生低学年の部 ベスト八

(上原穂香・野村拓末・高橋明里・岩

浅晴・岩浅詩)

③五月十四日

第四十一回三浦旗少年剣道大会

(愛媛県新居浜市市民体育館)

低学年の部

三位(上原穂香・野村拓末・高橋明里・

高野里絆・岩浅詩)

高学年の部

三位(棚橋爽斗・水口萌香・平田愛芽・

亀井心暖・河田淳紀)

④五月二十八日

第五十五回植田平太郎範士杯争奪少年剣

道大会(高松市総合体育館)

小学校低学年の部

優勝(上原穂香・野村拓末・高橋明里・

岩浅晴・岩浅詩)

⑤七月一日

二〇二三剣道in倉敷少年錬成大会

(倉敷市福田公園体育館)

二年生の部

優勝(岩浅晴・祖川結人・高野里絆)



低学年の部

準優勝（上原穂香・野村拓未・高橋明里・清水春花・岩浅詩）

⑥七月二日

第十六回若武者杯争奪少年剣道錬成大会

（高知県立少年センター）

低学年の部

三位 徳島剣清塾B（上原穂香・高野里絆・清水春花）

ベスト八 徳島剣成塾A（野村拓未・

高橋明里・岩浅詩）敢闘賞

⑦十二月九日～十日

第十一回道場連盟中国四国地区少年剣道錬成大会

錬成大会

〈団体〉

低学年の部

優勝（清水春花・高橋明里・岩浅詩）

〈個人〉

二年生男子の部 準優勝 岩浅 晴

ベスト八（敢闘賞）祖川 結人

二年生女子の部 優勝 高野 里絆

三年生男子の部 優勝 野村 拓未

四年生女子の部 優勝 岩浅 詩

準優勝 清水 春花

三位 高橋 明里

ベスト八（敢闘賞）上原 穂香

五年生女子の部

ベスト八（敢闘賞）水口 萌香

六年生男子の部

ベスト八（敢闘賞）河田 淳紀

⑧二〇二四年三月二十四日

全国選抜成武館道場創立三十五周年記念大会

大会

〈団体〉

一・二年生の部

優勝（岩浅晴・祖川結人・高野里絆）

〈個人〉

一年生の部 三位 岩浅 晴

六年生の部 準優勝 河田 淳紀



青年部発足

小松島支部青年部発足と

合同練習試合

部長 澤田俊介

この度小松島支部において四十歳未満の支部会員を対象として青年部が発足した。

毎年県内外の試合に出場しており心身ともに成長過程である青年剣士達の横の交流を深めることでチームワークを育み試合へのモチベーションを高めることが目的である。組織運営役員は以下のメンバーで構成される。僭越ながらこの度小松島支部青年部部長を拝命した為、発足

小松島支部	支部長	立川 信彦
青年部	部長	澤田 俊介
	副部長	橋上 和樹
	顧問	高木 壽史 園田 慎吾

および活動の報告として本書に一筆取らせていただいた次第である。青年部発足後第一回目の活動として、小松島支部・丹生谷支部・

日亜化学・大塚製薬との練習試合、合同稽古、懇親会が三月十六日に驚敷B&G海洋センターにて行われ、約四十名の剣士が集まった。練習試合は最初こそ和気あいあいと始まったものの、試合が進むにつれて各チームの熱量が高まり、選手の動き、応援共に公式戦さながらの緊迫感と熱気に包まれた。青年部の目的の一つであるチームワーク育みの収穫であった。合同稽古では各支部、会社の先生方が面を付けられ、青年剣士たちに熱心な指導をして頂いた。稽古中に私は所用の為に席を外して体育館の外に出ることがあったのだが、充実した稽古から生まれる外まで響き渡る掛け声と踏み込みの音を肌で感じた。会場手配・諸準備にご尽力頂いた丹生谷支部山下先生、富田先生、井村先生他、関係者様にこの場を借りて感謝申し上げます。

青年部の活動は何も剣道具を付けるのみではない。練習試合・稽古の後は『夢を語れ』と言うテーマで約二十名の剣士達が宿泊付きの懇親会で剣道談義を交わしながら横の交流を深めた。懇親会の中で「小松島

で社会人の剣道大会を開催したい。」という剣道愛と地元愛に満ち溢れた夢がある先生が語られた。青年部としては普段の稽古活動、対外試合の実績を積むことで実現をサポートしたいと感じさせて頂ける正に三方良しの夢であった。黒澤明監督の「七人の侍」で描かれている「世界は全ての人が主人公であり、人々の行動原理が交わった時のみ成功に向けて最大の効果を発揮する」という内容を現実世界で実感した稀有な体験であった。

「七人の侍」と言えば、組織論・リーダー論に関して描かれた映画でもあり、小松島支部青年部の目的である「モチベーションを高めること」に関しても言及されており、ハーバード大学のMBA過程でも教材として使用されている。MBAの経営学的観点では「モチベーションがあるから成果が出る」のではなく、「成果が出るといふ実感があるからモチベーションが上がるのだ」と言われている。よって、成果が出る実感、つまり、小さな成功体験を積み重ねることが継続的かつ自発的なモチベーション向上に繋がるとの事だ。

では、どの様に小さな成功体験を積み重ねるのだろうか。キーワードは「適切な目標設定」と「Interactive（双方向性）」であろう。最近スイスの研究者が「なぜ人は録音よりもライブ演奏で感動するのか」という疑問をMRI内での音楽鑑賞実験により、脳の働きを調べることで解明したことが話題になった。ライブ音楽を聴いた際、感覚刺激を特定の感情に結び付ける機能を持つ脳の左側の扁桃体の活動が活発化するようだ。これは生の体験が何事にも代えられない価値を持つということを示している。剣道に置き換えると試合という生の体験が普段の稽古より多くの刺激とモチベーションを与えることを意味する。更に、その中のチームとしての勝利体験が継続的なモチベーション維持に一役買うのであろう。もちろん稽古を否定する訳ではなく、普段の稽古の重要性は十分に理解した上で、モチベーションを高める起爆剤として練習試合が重要であるという意図である。

小松島支部青年部は先述の理由から、県内外への大会および練習試合への出場頻度、人数を増やしていくことを計画している。

特に、社会人剣士でどうしてもありがちな大会当日に団体戦のチームメンバーと「初めまして」状態になることを防ぎ、チームワークを深める為には、練習試合が効果的と考えている。

小松島支部青年部は地元愛、剣道愛をバックグラウンドとして、縦・横の繋がりを広げながらモチベーションを高く維持し続ける為の活動を継続する所存である。社会人剣士の活動が徳島県全体の剣道の活性化促進、並びに社会貢献の一助になれば心より幸せである。ゆくゆくは我々の活動が巡り巡って世界平和に繋がることを夢見て青年部発足および活動報告の結びとさせて頂く。



小松島支部青年部 発足おめでとうございます

日亜化学工業株式会社剣道部

コーチ 小野 勝

令和六年三月十六日(日)小松島支部からのお誘いを受け、驚敷B&Gで開催された練習試合に日亜化学剣道部は参加しました。後に知りましたが、どうやら小松島支部に青年部が発足していた様子で、その青年部がこの練習試合を企画立案したとの事です。今回の練習試合では関係各所の皆様大変お世話になりましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

当日は小松島支部青年部の門出を祝うような晴天で、柔らかな日差しを受けた驚敷の山々が春の息吹に満ち溢れているようでした。今後の小松島支部青年部のご活躍を期待しています。

練習試合には日亜化学剣道部から、呉羽、小野、福本、松本、岸野、富田、六名の選手が出場。日亜化学剣道部らしく礼節を尊

び、清々しく、爽やかな立ち合いをしました。剣道部コーチとして大変誇りに思います。

「剣道は変わらない方がいい 日本の武道らしく ひっそりと清々しく 薫り続けてほしい」

私は文献で見つけたこの言葉を気に入っていて、これからも剣道文化がそう在り続けてくれることを心から願っています。

ここで、日亜化学工業株式会社剣道部について簡単にご紹介させていただきます。日亜化学剣道部は今年創部二十二周年を迎える歴史ある実業団チームです。

〈部名〉剣志会 〈部訓〉三挑戦

〈旗印〉光明一途 〈部員数〉三十九名

〈平均年齢〉三十二歳

女性部員も在籍し、年齢層も幅広いため、とてもアットホームな雰囲気ของทีมです。

〈戦績〉

【団体】全日本実業団剣道大会ベスト十六

【個人】全日本都道府県対抗剣道優勝大会

出場、四国四県剣道大会出場(現剣道部監督)

山本泰史 教士七段

上記の栄光に加え、多くの部員が昇段審査をはじめ、全日本実業団剣道大会、西日本勤労者剣道大会、全日本剣道選手権大会予選、国体(国スポ)予選などに積極的に挑戦しています。また、剣道部の活動を通して、青少年の育成や地域社会への貢献活動も積極的に行っています。

二〇一八年四月には地域の人材育成を目的として、少年剣道が普及していない徳島市南部中学校区域を対象に日亜錬心塾(少年剣道教室)を開塾し、日亜化学剣道部の部員がボランティアで子供達に剣道を指導しています。

〈令和六年度体制〉

役職名	氏名
代表	岸 明人 専務
部長(兼監督)	山本 泰史
副部長	園田 慎吾
コーチ	小野 勝
	福本 正教
主将	多川 大智
	河田 真吾
副主将	松本 和起
	富田 涼太
主務	上田 勇輝
副務	岸野 賢太
	舛田 浩一

〈部訓／活動方針〉

三挑戦

その一…強い者に挑戦

その二…苦しい事に挑戦

その三…自分自身に挑戦

この三挑戦という言葉は、日亜化学剣道部前師範である遠藤 一美先生の御遺訓です。日亜化学剣道部がとても大切にしている言葉であり精神です。

最後になりますが、日亜化学工業株式会社剣道部 剣志会一同は、今後とも心技体に錬磨を重ね、力を合わせて、社業に社会に貢献していきたいと考えています。変わらぬご支援ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

感謝



大塚製薬剣道部の活動報告

部長 綾部 文明



大塚製薬剣道部は徳島県内のグループ会社に勤務している社員を中心に活動しています。

県内外の稽古会や剣道大会に参加し、その地道な活動を会社に認めてもらい二〇一九年正式にサークル活動として承認を受けました。発足当時十人だった部員は現在三十二人となり、老若男女一緒に汗を流しています。弊社には創業者から大切に受け継がれてきた経営哲学が三つあり、その一つ「流汗悟道」を弊部面タオルに刻み、たゆまぬ努力とさらなる飛躍を目指しています。これまでに、徳島県社会人剣道大会三位、清原杯争奪県下剣道大会三位、徳島県女子剣道大会三位の実績があり、昨年第二十回薬業剣道大会では創部以来初めて優勝の栄冠を手にすることができました。徳島県剣

道連盟の皆様方には日頃から御指導御鞭撻を頂き、この場を借りて深く感謝申し上げます。

剣道部発足十周年を迎えた二〇二〇年には、剣道教士八段米倉滋先生に弊部師範を引き受けていただきました。鳴門から驚敷まで広く分布している勤務地や社員の勤務形態が異なることから部員が集まって稽古する機会を作ることが難しかったのですが、二〇二一年コロナウイルス感染症による稽古自粛が明けてから米倉先生指導による大塚月例稽古会を開催し、弊部員と地域剣道愛好家の皆様と一緒に米倉先生に御指導頂いております。基本稽古や指導稽古、地稽古、回り稽古だけでなく、審査の立合い稽古、日本剣道形、コロナ禍ルールの周知や講話など毎回米倉先生の工夫を凝らした稽古内容が魅力です。大塚月例稽古会で一緒に汗を流した先生方が剣道大会や審査会でご活躍される姿を見ると、弊部員も刺激を受け、切磋琢磨に繋がるものと期待しております。師範を快く引き受けて下さっている米倉先生には、弊部の課題をご理解頂き

適切にご指導下さって心より感謝申し上げます。大塚月例稽古会は自由参加型の稽古会となっておりますので、ご興味ある方は弊社剣道部員までご連絡いただけます幸いです。

実業団剣士の皆さんは、会社の業務と家族との団らんの時間の合間を上手に活用し稽古を継続されていることと存じます。特に若い頃は、入社して仕事を覚えプライベートを充実させながら稽古時間を確保できるようになるまで苦労が絶えないのではないかと想像します。弊社でも稽古環境を自然に創ってあげることができればと思案していたところでしたが、去る三月十六日に小松島支部主催の練習試合に参加する機会を頂戴しました。参加チームは、小松島支部、丹生谷支部、日亜化学、大塚製薬で、主に若手メンバーを主体とした構成でした。弊社からも十代から三十代の七名が参加し、四チームリーグ戦の後は合同稽古会と懇親会にも参加させて頂きました。剣道を通じて世代を越えて人となりを知り合い、理解し支え合う人脈形成の場所を作っていただ

き、小松島支部 高木壽史先生、小松島支部長 立川信彦先生をはじめ、小松島支部の先生方、丹生谷支部の先生方、日亜化学の先生方、また鷲敷振武館の先生方、誠に有難うございました。引き続きこのような機会を大切にしてまいりたいと思っております。

これからも大塚製菓剣道部は、「流汗悟道」の精神のもと徳島の実業団剣道を活性化するために活動を継続してまいる所存です。今後とも弊社ひいては実業団剣道を温かく見守っていただき、ご理解ご協力頂きますと幸いに存じます。



専門部報告

事業部より

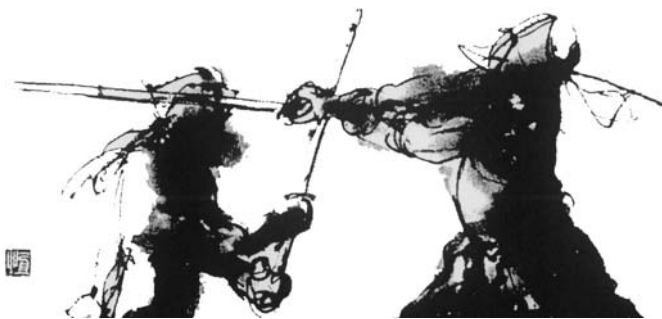
事業部長 平尾満紀

現在、事業部は二十名で活動を行っています。主な活動内容は、各種大会、講習会等、徳島県剣道連盟が主催する行事の開催・運営を主な業務としています。令和五年度の活動状況につきましては、新型コロナウイルス感染症対策が第五類となったことを受け、感染予防対策を施しつつ、各大会や講習会などを以前とほぼ同様に開催することができました。

中でも剣友の皆さんが日頃の稽古の成果を発揮する場である社会人大会や女子大会が、また、稽古始め、土曜稽古や寒稽古が、四年ぶりに開催されたことは大変嬉しいことでした。

これらの大会等の結果につきましては別紙大会記録をご覧ください。

また、各種大会等の開催にあたり、事業部以外からたくさんの方の先生方のご協力をいただきましたことを本紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。令和六年度の各種大会等が盛大に開催されることを願うとともに、引き続き先生方からのご協力をいただきますようお願い申し上げます、事業部からの報告とさせていただきます。



令和5年度 事業部の報告

1. 第78回 国民体育大会 予選会

令和4年4月22日 ソイジョイ武道館

区 分		第1位	第2位	第3位	第4位
男子	先鋒	岩原 潤哉 鹿屋体育大学	松本 尊灯 徳島大学	富永 涼介 国際武道大学	勝間 春輝 環太平洋大学
	次鋒	浅田 光貴 警察支部	平野 智将 警察支部	梶原 拓馬 警察支部	本田 将大 警察支部
	中堅	大石 真也 阿南支部	敦賀 晋平 阿南支部		
	副将	山名 信行 警察支部	山室 雅幹 警察支部	小野 勝 阿南支部	中尾 幸雄 徳島支部
	大将	玉田 晋作 徳島支部	吉田 茂生 徳島支部		
女子	先鋒	岩原 千佳 筑波大学	河野 菜々子 日本体育大学	佐藤 奈那子 鳴門教育大学院	山室 愛子 大阪体育大学
	中堅	長地 千景 阿南支部			
	大将	前田 奈々枝 阿波支部			

2. 剣道伝達講習会

令和4年5月7日、ソイジョイ武道館

参加者 71名
講師 教士八段 吉田茂生 先生
内容 審判法、木刀による剣道基本技稽古法、日本剣道形等

3. 第35回徳島県剣道選手権大会兼第71回全日本剣道選手権大会県予選会並びに

第26回徳島県女子剣道選手権大会兼第62回全日本女子剣道選手権大会県予選会

令和4年7月23日、ソイジョイ武道館

区 分	優勝	準優勝	第3位	第3位
男 子	山本 義征 警察支部	江口 弘純 小松島支部	西田 凌介 徳島支部	松本 喜起 徳島支部
女 子	河野 菜々子 日本体育大学	松本 美紗樹 警察支部	山室 愛子 大阪体育大学	岩原 千佳 筑波大学

参加者 51名

4. 第2回徳島県少年剣道選手権大会

兼第18回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会県予選

令和4年7月30日、ソイジョイ武道館

区 分	優勝	準優勝	第3位	第3位
小学1.2年生の部	岩浅 晴 徳島剣清塾	高野 里絆 徳島剣清塾	多田 晴菜 日亜錬心塾	山出 育弥 鴨島少年剣道教室
小学3.4年生の部	岩浅 詩 徳島剣清塾	多川 華音 日亜錬心塾	吉田 圭吾 和田島少年剣道クラブ	松本 蒼生 鷺敷振武館
小学5年生の部	平田 愛芽 徳島剣清塾	水口 萌香 徳島剣清塾	松浦 暖 日亜錬心塾	竹内 晴紀 日亜錬心塾
小学6年生の部	棚橋 爽斗 徳島剣清塾	坂口 潤 日亜錬心塾	山本 京 阿南少年剣道教室	河田 淳紀 徳島剣清塾

【県予選結果】 小学6年生の部優勝者 棚橋 爽斗(徳島剣清塾)

予選勝ち残り者 平田 愛芽(徳島剣清塾)、水口 萌香(徳島剣清塾)
坂口 潤(誠武館道場)、坂本 圭吾(日亜錬心塾)

※ 以上の5選手が第18回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会の徳島県代表選手に決定

5. 第50回 徳島県社会人剣道大会

令和4年9月17日、ソイジョイ武道館

区 分	優勝	準優勝	第3位	第3位
男子団体	北井上剣道教室A	刑務所支部	名西支部	鷺敷振武館
女子個人	前田 奈々枝 阿波支部	長池 千景 阿南支部	平山 安香音 小松島支部	玉置 香織 鳴門支部

6. 剣道秋季講習会

令和5年10月15日、ソイジョイ武道館

参加者 76名
講師 教士八段 平野誠司 先生
内容 審判法、木刀による剣道基本技稽古法、日本剣道形等

7, 第52回 徳島県少年剣道錬成大会

令和5年11月5日、ソイジョイ武道館

区 分	優勝	準優勝	第3位	第3位
団体戦	徳島剣清塾	日亜錬心塾	徳島少年剣道教室	阿南少年剣道教室

【優勝】徳島剣清塾(先鋒:河田、次鋒:岩浅、中堅:水口、副将:平田、大将:棚橋)

参加者 役員等含め 195名(団体27チーム、今大会は基本錬成は実施せず、試合錬成のみ実施)

8, 第40回 徳島県スポーツ少年団剣道交流大会

令和5年12月3日、ソイジョイ武道館

第45回 全国スポーツ少年団剣道交流大会 (徳島県予選会)

小学生の部(団体)	第1位	第2位	第3位	第3位
郡市名	阿南市A	阿南市B	板野郡A	阿南市C

【第1位】阿南市A(先鋒:岩浅詩、次鋒:山ノ井夏希、中堅:棚橋爽斗、副将:山本京、大将:河田淳紀)

中学生の部(個人)	第1位	第2位	第3位	第4位
男 子	津島 優生 小松島少剣クラブ	野田 宗佐 徳島少年剣道教室	豊田 大晴 鳴門市光武館	川添 将義 小松島少剣クラブ
女 子	橋本 愛生 小松島少剣クラブ	大塚 仁葉 小松島少剣クラブ	米倉 真央 徳島少年剣道教室	茨木 里音 徳島少年剣道教室

9, 第71回 全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会

令和6年1月14日、ソイジョイ武道館

第15回 全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会

次鋒の部 令和5年12月24日、ソイジョイ武道館

男 子	第1位	第2位	第3位	第4位
次 鋒 (大学生)	岩原 潤哉 鹿屋体育大学	江口 弘純 国士舘大学	松本 喜起 徳島大学	松本 尊灯 徳島大学
五将 (18歳以上35歳未満)	玉井 翔 刑務所支部	富永 涼介 名西支部	矢野 一輝 板野東支部	松本 好史 小松島支部
中 堅 (教職員)	西田 凌介 徳島支部	濱田 諒 阿南支部		
三将 (警察職員)	山本 義征 警察支部	浅田 光貴 警察支部	梶原 拓磨 警察支部	山室 和士 警察支部
副 将 (35歳以上)	敦賀 晋平 阿南支部	片山 将志 刑務所支部	舛田 浩一 丹生谷支部	澤田 俊介 小松島支部
大 将 (50歳以上教士七段以上)	北村 仁志 阿波支部	鳴川 善人 小松島支部	中尾 幸雄 徳島支部	

女 子	第1位	第2位	第3位	第4位
次 鋒 (大学生)	岩原 千佳 筑波大学	塚田 志緒 同志社大学	鳥海 明未 高知大学	山室 愛子 大阪体育大学
副 将 (40歳以上50歳未満)	前田 奈々枝 阿波支部	井後 恭子 麻植支部		
大 将 (50歳以上)	山崎 砂織 阿南支部	安藝 智子 板野東支部	玉田 真理 徳島支部	

女子五将・中堅・三将は、長谷川愛実(阿南支部)、西柚衣(徳島支部)、山本千尋(徳島支部)

参加者 役員等含め77名 男女とも先鋒は高体連推薦・男子三将は令和6年1月に別途実施

10, 第42回 徳島県女子剣道大会

令和6年3月3日、中央武道館

団 体 戦	優勝	準優勝	第3位	
	教員剣美会	剣遊会 梅	剣遊会 椿	

【優勝】教員剣美会(先鋒:山本千尋、中堅:長谷川愛実、大将:塚原裕美)

個 人 戦	優勝	準優勝	第3位	第3位
35歳未満	山本 千尋 教員剣美会	長谷川 愛実 教員剣美会	橋本 こころ あななん剣友会	佐藤 奈那子 大学連合
35歳以上(三段以下)	舛田 さゆり 剣遊会 桃	高橋 絵奈 徳島支部	井後 恭子 麻植支部	大前 真由美 大塚製菓
35歳以上(四段以上)	前田 奈々枝 川島高校剣友会	阿井 恵子 あななん剣友会		

参加者 役員等含めて62名(団体戦9チーム、個人戦26名)

審査部より

審査部長 生田 浩章

令和五年度の行事につきましては、剣道の部では、初段以下審査会（四回）、二段以上審査会（四回）、四・五段講習会（一回）、全て無事終えることができました。

地元役員、審査員、剣道連盟関係者の方々には多大なるご協力を頂きまして心よりお礼申し上げます。

審査会の結果につきましては、剣道初段以下の部、受審者八六五名、合格者八四六名、合格率九八％、剣道二段～五段・称号の部、受審者二四四名、合格者二一五名、合格率八八％となりました。

六段以上の高段位合格者につきましては、剣道六段十二名、剣道七段五名、剣道八段一名、剣道錬士二名、剣道教士三名という結果でありました。合格者の先生方は下記のとおりです。

【剣道六段】

- 片山 将志（刑務所支部）
- 秋山 雄治（刑務所支部）
- 高橋 伊織（刑務所支部）
- 大城 健作（阿南支部）
- 松田 正稔（阿南支部）
- 河村 知志（鳴門支部）
- 湯村 潔喬（徳島支部）
- 日和田朗子（麻植支部）
- 鳴滝 朝希（徳島支部）
- 岩井 睦司（板野西支部）
- 櫻井 一志（板野東支部）
- 久保 雄二（徳島支部）

【剣道八段】

- 山名 信行（警察支部）

【剣道錬士】

- 塚原 裕美（鳴門支部）
- 紅露喜代美（鳴門支部）

【剣道教士】

- 近藤 正章（警察支部）
- 江口 大祐（刑務所支部）
- 玉田 真理（徳島支部）

【剣道七段】

- 佐々木克哉（徳島支部）
- 谷 博（鳴門支部）
- 松本 慎二（警察支部）
- 原田 敏也（麻植支部）
- 尾脇 広美（麻植支部）

強化部より

強化部長 白 木 洋 一

【本年の強化状況】

本年五月八日から五類に移行した新型コロナウイルス感染症ではありませんが、本年度も強化稽古会は国体や都道府県對抗大会などのメンバーを中心に毎週木曜日に中央武道館において強化稽古を行って参りました。

本年度の強化成果の報告としては、都道府県對抗剣道優勝大会が男女ともベスト十六に進出したことと、成年女子の十年ぶりのブロック予選大会優勝です。これは、ひとえに選手各個人の日々の稽古の賜物であります。毎回の稽古に課題を設定し、自身の剣道と真摯に向き合い、地道に取り組むことによって得られた結果だと考えます。今回のことが、昨年の男子の国体活躍に続き、徳島県の剣道向上の原動力になってくれると考えます。

一、令和五年度実施結果

(一) 【剣道連盟強化稽古会】
期間 令和五年一月十九日～

令和五年十二月二十八日現在

実施回数 四十七回

延べ参加人数 七〇二名

平均参加人数 (約十五名)

(二) 地区交流稽古会

十月二十日 (金) 南部交流稽古会

(阿南市総合スポーツセンター)

十一月十日 (金) 西部交流稽古会

(協町小学校体育館)

(三) 長期育成強化訓練

令和六年 一月二十一日 (日)

於 ソイジョイ武道館

強化委員会により選出された一〇四名が

参加予定

(四) 強化遠征

国体剣道成年女子合同強化合宿訓練

令和五年六月二十四日 (土) ～二十五日

(日) 於 広島県

三人制、徳島A・Bの二チーム参加

二、大会結果

【令和五年の試合結果】

第二十一回 全日本選抜剣道八段優勝大会

開催日：令和五年四月十六日 (日)

会場名：枇杷島スポーツセンター (愛知県)

一回戦

玉田晋作 コメー 寺地種寿 (東京)

二回戦

玉田晋作 コメー コメ 染谷恒治 (千葉)

葉)

第七十一回全日本都道府県對抗剣道優勝大会

会【※ベスト十六進出】

開催日：令和五年四月二十九日 (土)

会場名：エディオンアリーナ大阪

(大阪府立体育館)

一回戦

徳島県 2 1 新潟県

二回戦

徳島県 2 1 京都府

【三回戦】 徳島県 1 - 2 千葉県

※先鋒 内海 翔貴 選手(文理高校)が大
会優秀選手賞を受賞しました

第十四回全日本都道府県対抗女子剣道優勝

大会 【※ベスト十六進出】

開催日…令和五年七月十日(日)

会場名…日本武道館

【二回戦】 徳島県 2 - 1 栃木県

(栃木―岡山の勝者)

【三回戦】 徳島県 2 - 4 大阪府

国民体育大会第四十四回四国ブロック予選

大会【※成年女子十年ぶり優勝、本大会出

場】

開催日…令和五年八月二十七日(日)

会場名…愛媛県武道館

○少年男子 四位

徳島県 3 - 1 香川県

徳島県 0 - 3 愛媛県

徳島県 1 - 2 高知県

○少年女子 四位

徳島県 0 - 3 高知県

徳島県 1 - 1 香川県

(本数負け)

徳島県 1 - 3 愛媛県

○成年女子 一位

徳島県 2 - 1 香川県

徳島県 1 - 1 愛媛県

(引き分け)

徳島県 2 - 0 高知県

第六十一回全日本女子剣道選手権大会

開催日…令和五年九月三日(日)

会場名…ジェイテクトアリーナ奈良

【一回戦】

河野菜々子 - コ 松本弥月(神奈川)

延

第六十八回全日本東西対抗剣道大会

開催日…令和五年九月二十四日(日)

会場名…沖縄県立武道館

五将 吉田茂生 × 栄花英幸(北海道)

(引き分け)

開催日…令和五年十月八日(日)

令和五年十月十日(火)

会場名…鹿児島県霧島市牧園アリーナ

【成年女子】

【一回戦】 徳島県 0 - 2 岐阜県

【成年男子】

【二回戦】 徳島県 1 - 3 東京都

(愛知―東京の勝者)

第七十回全日本剣道選手権大会

開催日…令和五年十一月三日(金)

会場名…日本武道館

【一回戦】

山本義征 - メメ 矢野貴之(東京)

第七十七回国民体育大会剣道大会

少年部より

少年部長 白 木 崇

一、少年剣道指導者講習会

四月十六日(日)(受講者三十七名)

医・科学委員会委員長 佐々木克哉先生

「コロナの現状とアフターコロナ」

試合・審判委員会委員長 富浦廣志先生

「試合審判法(新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法)」

三、徳島県代表選手強化遠征及び強化練習

○岡山県剣連主催 都道府県対抗強化小

学生交流錬成大会 八月十一日(金)

○愛媛県剣連主催 四国小・中学生選抜

剣道強化錬成会 八月二十六日(土)

○大阪代表練習試合 九月三日(日)

○強化練習 三回(小松島市立武道館)

四、第十八回全日本都道府県対抗少年剣道

優勝大会 九月十七日(日)

予選リーグ(三重県・秋田県・徳島県)

予選リーグ敗退。

二、全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会

県代表選手選考会

七月三十日(日)

※第二回少年剣道選手権大会終了後(上位選手による)

《徳島県代表選手》

棚橋弘至(六年生・剣清塾)、水口萌香

(五年生・剣清塾)、坂本圭吾(六年生・

誠武館)、平田愛芽(五年生・剣清塾)、

坂口潤(六年生・日亜錬心塾)

五、少年剣道強化訓練 各教室二名(登録

数五十五名) 毎月一回実施(十二回)

①四月八日、②五月二十日、③六月十日、

④七月二十二日、⑤八月十九日、⑥九月

九日、⑦十月十四日、⑧十一月十一日、

⑨十二月十六日、⑩一月十三日、⑪二月

三日、⑫三月九日

(延べ四九一名)出席率七四・四%

(平均四〇・九人)

女子部より

女子部長 竹内 佳代子

一回戦

河野菜々子

一コ 松本弥月

準優勝 阿井 恵子

〈女子稽古会〉

○毎週木曜日 一九・三〇～二〇・三〇

中央武道館で実施

○状況をみて

・土曜日 一四・〇〇～一五・〇〇

石井中学校で実施

・土曜日 一一・〇〇～一二・〇〇

大麻中学校で実施

※女子のラインで通知している。

〈大会の結果〉

①全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

(七月九日) 会場 日本武道館

二回戦 徳島 二―一 栃木

三回戦 徳島 二―四 大阪

[団体戦] 参加チーム数 九

優勝 教員剣美会

(山本・長谷川・塚原)

準優勝 剣遊会 梅

(山田・迎・横尾)

②国民体育大会第四十四回四国ブロック大会

会(八月二十七日) 会場 愛媛県武道館

徳島 二―一 香川

徳島 一―一 愛媛

徳島 二―〇 高知

[個人戦]

三十五才未満の部 参加者十二名

優勝 山本 千尋

(二勝一分け)

準優勝 長谷川愛実

第三位 橋本こころ・佐藤奈那子

③特別国民体育大会剣道競技会(十月八日)

会場 霧島市牧園アリーナ

一回戦 徳島 〇―二 岐阜

三十五才以上三段以下の部 参加者九名

優勝 柘田さゆり

準優勝 高橋 絵奈

第三位 井後 恭子・大前真由美

④全日本女子剣道選手権大会(九月三日)

会場 ジェイテクトアリーナ奈良

三十五才以上四段以上の部 参加者六名

優勝 前田奈々枝

〈都道府県剣道連盟の女子代表者による

全国リモート連絡会議の報告〉二月九日

①日程

一、役員あいさつ

二、報告事項

三、全体会

(一)県剣道連盟副会長就任のあいさつ及

び抱負

山梨県剣道連盟 笠井元美副会長よ

り「令和六年十二月に山梨県で女性

七段戦を実施する。四〇歳以上で三

十二名を選抜して行うという報告が

ありました。」

四、分科会

(一)発表(一人三〜四分)

①各剣道連盟女子の活動状況及び女子剣道普及の課題において

②幼年剣道人口の減少に対する対策について

③部員募集やそれに係る広報の工夫について

④その他(剣道の魅力をどう伝えるか等)

(二)分科会の質疑応答

五、全体会

(一)発表(五分程度×七班)

六、質疑応答

②おもな内容

分科会での報告は、ほとんどが上記の①③に関する内容でした。

(一)各剣道連盟女子の活動状況及び女子剣道普及の課題について

・各県とも、ライングループを作って連絡・情報の共有をおこなっている。

・女子稽古会の工夫をする。

↓家族参加もOKにしている。子ども

連れをOKにして、ベビーシッターもつけているところがあった。

稽古の後、お茶会を行っている。お泊まり稽古会の実施。

トレーナーさんに来てもらい、アフターケア法を学ぶ。

高段者の先生方のご指導のもと、日本剣道形や審判法の研修を行う。

・女子剣道大会運営の工夫をする。
↓熊本県では、二人制団体戦の部にチームの合計年齢が一八〇歳以上の部を

今年度つくった。賞品の工夫(米・野菜・くだもの)など。

③部員募集やそれに係る広報の工夫について

・ポスターでお知らせ。

・インスタやホームページに女子の活動状況を掲載する。

各県ともいろいろな取り組みを行っていることを知ることができました。特に人口

の少ない県は、大会や稽古会に参加する女性

の人数が少ないことが課題でした。女性

が続いていくためには、家族の理解などまだまだ壁があるようです。

剣道に興味・関心がある方、剣道を始めてみたい方、一度剣道から離れてしまい長いブランクのある方などが気軽に剣道を始めることができるようにするために、女子

稽古会の様子や大人が練習できる場所などの情報を、ホームページやインスタグラム

でお知らせできたらと考えています。

で

〈令和六年度に向けて〉

①女子大会について

大会終了後のアンケートから、日程も大会内容も「従来通り」という意見だったので、引き続き、今の形で大会を実施

していきたい。(令和六年度は三月二日

(日)実施予定)

団体戦のオーダーが年齢順になっているところは、「各チームで自由に決めた

い」という意見もあったので、検討していきたい。

大会終了後の「審判講習会」と「合同稽古会」については、引き続き実施して

いく。

②女子稽古会について

今年度の形で継続して実施。女子部のLINEを通じて随時連絡を行う。

・木曜日(毎週)

一九・三〇(二〇・三〇 中央武道館

・土曜日(月一回)

一四・三〇(一六・三〇

白木先生のご指導の下の稽古会

今年度は、六段に日和田 朗子さんが合格されました。おめでとうございます。

次年度も皆さんがそれぞれの目標に向かって剣道を続けられるために、そしてより多くの女性の皆様と一緒に剣道を楽しめるために活動していきたいと思えます。

今後とも協力よろしく願います。



審判部活動報告

審判部長 富 浦 廣 志

一 本年度の活動

①徳島県審判講習会

三月二十六日 講師 富浦廣志

②全日本剣道連盟中央講習会

四月一・二日 吉田茂生・玉田・晋作

③少年剣道教室指導者講習会 審判研修

四月十六日 講師 富浦廣志

④全剣連中央講習会伝達講習会

五月七日 講師 吉田茂生

⑤全日本剣道連盟主催ブロック研修会「試合・審判法」

十月八日

山室雅幹・園田慎吾・河野寿仁・金野卓司・金野裕美・兼松佳史の6人の先生方

⑥各大会での審判研修の実施

・暫定的な審判法の理解を深めるための研修。昼食時や団体戦第一試合終了後、審判研修を実施

・開会式前など時間を利用して、暫定的な

審判法を選手に対しての講習を行った。

⑦審判依頼 剣道連盟主催大会において審判依頼を行っている。

⑧連盟主催講習会に積極的に参加していた。だき最新の審判技能を有している六段・七段の先生方に、主催大会の審判をお願いした。

二 来年度の活動について

○新型コロナウイルス感染症が五類になったことで、全剣連の今後の対応を注視し、「新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法」のルールの変更点などがある場合、いち早く対応し、大会運営に支障・混乱が起きないようにする。

○全剣連重点指導の徹底（一昨年度に引き続き）

ア) 宣告、表示を正確、明確に行う。
イ) 「有効打突」及び「反則行為」の見極め。

・適正公平に審判 私的な感情をなくし公平に（＝信頼性）審判員も見ら

れている評価されている意識

・規則に載っていないことがおこったから第一条に照らし合わせて判断する。（剣道がより正しい方向に向かえるか判断する）

・成人は成人の、少年は少年の、それぞれの適正を見極めて。

・罅迫り合いの「空費」「不当」「受けてから入って罅迫り合いに」積極的に。意識がなくても 組み立てがそうになっているものもとっていく。（不当な行為として判断する）

○コロナウイルス感染拡大防止ガイドラインに伴う、暫定的な試合・審判法の趣旨・方法の理解を深め、実践力を高められるよう、会員に対し啓発を行っていく。

「審判が良くなれば、試合が良くなる」という意識を高め、審判講習会や各種大会を通して、審判技能の向上や、審判員としての資質向上を図っていきたい。

中体連より

中体連部長 木下 臣 仁

○令和五年度県内各種大会団体戦成績表

性別	男 子				女 子			
	大会名	選手権	県総体	新人戦	強化錬成	選手権	県総体	新人戦
期日	5.5.6	5.7.15	5.11.18	5.1.20	5.5.6	5.7.15	5.11.18	5.1.20
会場	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館	ソイジョイ 武道館
参加校	29校	31校	25校	26校	21校	23校	17校	19校
優勝	徳島	那賀川	那賀川	徳島	徳島	小松島	徳島	徳島
準優勝	那賀川	徳島	徳島文理	那賀川	小松島	徳島	南部	南部
第3位	徳島文理	小松島	徳島	徳島文理	那賀川	那賀川	那賀川	那賀川
第3位	小松島	徳島文理	鷲敷	鷲敷	国府	鳴門一	小松島	小松島

県総体個人

令和五年七月十六日(日)

ソイジョイ武道館

男子

優勝 津島 優生(徳島文理)

準優勝 野田 宗佐(徳島)

第三位 川添 将義(徳島)

第三位 村瀬 絆(徳島)

女子

優勝 茨木 里音(徳島)

準優勝 榎原 空(小松島)

第三位 殿川 瀬里(上勝)

第三位 吉岡 未徠(那賀川)

四国総体

令和五年八月三日(木)

愛媛県武道館

〈団体戦〉

男子

那賀川中学校

予選リーグ三位(予選敗退)

徳島中学校

予選リーグ三位(予選敗退)

女子

徳島中学校 第三位

(準決勝 龍雲 3 | 0 徳島)

小松島中学校 予選リーグ三位

(予選敗退)

〈個人戦〉

男子

津島 優生(徳島文理) 一回戦

野田 宗佐(徳島) 一回戦

村瀬 絆(徳島) 二回戦

川添 将義(徳島) 二回戦

西岡 葵士(那賀川) 一回戦

坂井 蓮(徳島文理) 三回戦

藤崎 悠(相生中) 一回戦

林 巧(那賀川) 二回戦

女子

茨木 里音(徳島) 第三位

榎原 空(小松島) 一回戦

殿川 瀬里(上勝) 二回戦

吉岡 未徠(那賀川) 一回戦

六條 瑚子(石井) 一回戦

多川 寧音(南部) 一回戦

西村 渚(鳴門一) 二回戦

櫻本 蘭(那賀川) 一回戦

大将 津島 優生(徳島文理)
 <予選リーグ>

全国中学校大会

令和五年八月十八(金)～二十日(日)
 愛媛県武道館

徳島 0 1 3 石川
 徳島 1 1 2 岩手(予選敗退)

<団体戦>

男子 那賀川中学校 予選リーグ三位
 女子 小松島中学校 予選リーグ三位

県内行事

○木刀による剣道基本技稽古法講習会
 七月二十九日(土) 石井中学校武道館
 ○徳島県中学校剣道一年生大会

津島 優生(徳島文理) 二回戦敗退

十月二十八日(土) ソイジョイ武道館

野田 宗佐(徳島) 一回戦敗退

・男子団体 優勝 那賀川中学校

茨木 里音(徳島) 一回戦敗退

男子個人 優勝 殿川鉄心(上勝)

櫻原 空(小松島) 二回戦敗退

・女子団体 優勝 南部中学校
 女子個人 優勝 坂東真帆(徳島)

全国都道府県対抗少年剣道大会

令和五年九月十七日(日)

○第十九回四国中学校新人剣道大会

大阪府…おおきにアリーナ舞洲

令和六年二月二十四日(土)
 うだつアリーナ

監督 山本 千尋(徳島)

コーチ 西田 凌介(徳島文理)

先鋒 茨木 里音(徳島)

次鋒 櫻原 空(小松島)

中堅 野田 宗佐(徳島)

副将 川添 将義(徳島)

優秀選手

男子十六名、女子十六名(本誌P41)

令和五年度中学校剣道部員数

() は昨年度

	1年生	2年生	3年生	合計
男子	83人 (97人)	91人 (87人)	85人 (75人)	259人 (259人)
女子	45人 (72人)	65人 (64人)	59人 (71人)	169人 (207人)
合計	128人 (169人)	156人 (151人)	144人 (146人)	428人 (466人)

高体連より

高体連剣道専門部委員長

河野 寿仁

一、大会報告

○第五十七回徳島県高等学校剣道選手権大会

- ・日時 令和五年十一月十二日
- ・会場 ソイジョイ武道館

・男子 出場者数九十一名

優 勝 内海翔貴(徳島文理)

準優勝 篠原崇也(城北)

三 位 受川 諒(鳴門渦潮)

橋本和馬(城北)

・女子 出場者数五十六名

優 勝 中村莉音(富岡東)

準優勝 平田大和(富岡東)

三 位 村田七菜(富岡東)

武藏小春(富岡東)

○男子第六十八回・女子第五十八回徳島県

高等学校剣道新人大会兼全国選抜大会県予選

・日時 令和五年十一月二十五日

・会場 ソイジョイ武道館

・男子 参加校数十三校

優 勝 城北

準優勝 阿南光

三 位 鳴門渦潮・徳島文理

・女子 参加校数十校

優 勝 富岡東

準優勝 城北

三 位 富岡西・阿南光

○第二十三回四国高等学校剣道新人大会

・日時 令和五年二月四日～五日

・会場 藍住町民体育館

・男子団体 城北・阿南光・鳴門渦潮・徳島文理が出場

・女子団体 富岡東・城北・富岡西・阿南光が出場

優勝・富岡東

男女個人 前年の選手権大会ベスト八

進出者が出場

男子 ベスト八・岡崎進平(富西)

女子 優 勝・中村莉音(富岡東)

準優勝・村田七菜(富岡東)

第三位・玉濱智花(富岡東)

○第三十二回全国高校剣道選抜大会

・日時 令和五年三月二十六日～二十八日

・会場 愛知県春日井市総合体育館

・男子 城北が出場 二回戦敗退

・女子 富岡東が出場 二回戦敗退

○第四十八回徳島県剣道連盟会長杯争奪高

校剣道大会

・日時 令和五年四月二十三日

・会場 ソイジョイ武道館

・男子 参加校数十三校

優 勝 城北

準優勝 阿南光

三 位 富岡西・鳴門渦潮

・女子 参加校数九校

優 勝 富岡東

準優勝 城北

三 位 富岡西・阿南光

○第六十三回徳島県高等学校総合体育大会

・日時 令和五年六月二日～三日

・会場 ソイジョイ武道館・藍住町民体育館

・出場者数 男子二三三名・女子八十三名
・団体戦

男子 優勝 城北

準優勝 富岡西

三位 鳴門渦潮

四位 阿南光

女子 優勝 富岡東

準優勝 城北

三位 阿南光

四位 富岡西

・個人戦

男子 優勝 近藤(城北)

準優勝 永瀆(城北)

三位 川口(富岡西)

米田(鳴門渦潮)

女子 優勝 中村(富岡東)

準優勝 横山(富岡東)

三位 村田(富岡東)

武藏(富岡東)

・会場 藍住町町民体育館
・男子団体 城北・富岡西・鳴門渦潮・
阿南光が会場 優勝・城北

・女子団体 富岡東・城北・阿南光・富

岡西が会場 準優勝・富岡東

・男子個人 八名出場

ベスト八・川口寛太(富岡西)

・女子個人 八名出場

優勝・中村莉音(富岡東)

ベスト八・武藏小春(富岡東)

横山 舞(富岡東)・・・一回戦敗退
中村莉音(富岡東)・・・三回戦敗退

○第四十四回国体四国ブロック大会

・日時 令和五年八月二十七日

・会場 愛媛県武道館

・少年男子

監督 大石 真也

コーチ 西田 凌介

選手 内海 翔貴(徳島文理)

篠原 高也(城北)

永瀆 聡良(城北)

羽坂 颯真(富岡西)

近藤 正獅(城北)

玉垣 一樹(阿南光)

橋本 和馬(城北)

結果 リーグ一勝二敗で、国体本戦
出場ならず

・少年女子

監督 長井 薫

コーチ 山本 義裕

選手 武藏 小春(富岡東)

村田 七菜(富岡東)

○第六十九回(男子)第五十七回(女子)

四国高等学校剣道選手権大会

・日時 令和五年六月十七日～十八日

・女子個人

永瀆聡良(城北)・・・一回戦敗退

近藤正獅(城北)・・・二回戦敗退

平田 大和(富岡東)
 福岡 詩(富岡東)
 中村 莉音(富岡東)
 山田 莉桜(富岡東)
 横山 舞(富岡東)
 結果 リーグ三敗で、国体本戦出場
 ならず

○第五十七回徳島県高等学校剣道選手権大会

・日時 令和五年十一月十二日
 ・会場 ソイジョイ武道館
 ・男子 出場者数七十九名
 優 勝 尾畑 涼月(富岡西)
 準優勝 橋本 和馬(城北)
 三位 片岡恭二朗(徳島文理)
 本庄 創思(富岡西)
 ・女子 出場者数五十五名

優 勝 中村 莉音(富岡東)
 準優勝 福岡 詩(富岡東)
 三位 山崎 春菜(富岡東)
 横山 舞(富岡東)

○男子第六十八回・女子第五十八回徳島県

高等学校剣道新人大会兼全国選抜大会県予選

・日時 令和五年十一月二十五日
 ・会場 ソイジョイ武道館
 ・男子 参加校数十二校
 優 勝 城北
 準優勝 徳島科技
 三位 阿南光・川島
 ・女子 参加校数 八校
 優 勝 富岡東

準優勝 城北
 三位 徳島文理・阿南光

二、強化事業

○令和五年度徳島県国体少年の部強化錬成会

・日時 令和五年十二月二十八日～二十九日
 ・会場 阿南市スポーツ総合センター
 阿南光高校

・招待校 鈴鹿高校(三重県)
 ・県外参加校 近大和歌山(和歌山)
 ・近大付属(大阪)・東海大仰星(大阪)
 履正社(大阪)・日吉ヶ丘(京都府)
 八幡工(滋賀)・滝川第二(兵庫)
 新田(愛媛) 尽誠学園(香川)・出雲

西(島根)・西京(山口)・金沢(石川)・深川(東京)・星琳(福岡)

・県内参加者 富岡東、富岡西、阿南光、城北、鳴門渦潮、徳島文理、徳島科技、徳島北、徳島市立、城ノ内、城東、川島、阿波、脇町、板野、阿南高専

○令和五年度徳島県高等学校体育連盟剣道 専門部春季錬成大会

・日時 令和六年三月十六日～十七日
 ・会場 阿南市スポーツ総合センター
 ・招待校 育英高校(兵庫県)・菊池女子高校(熊本県)

・県外参加校 桜丘(愛知)・浜名(静岡)・滝川第一(兵庫)・明石(兵庫)・神戸弘陵(兵庫)・関西学院(兵庫)・履正社(大阪)・西京(山口)・東播工(兵庫) 高松南(香川)・琴平(香川)・新田(愛媛)・済美(愛媛)・丹原(愛媛)・岡豊(高知)・明德義塾(高知)
 ・県内参加者 富岡東、富岡西、阿南光、城北、鳴門渦潮、徳島文理、徳島科技、

川島、徳島市立、徳島北、城ノ内、板野、脇町、阿波

大学連より

三、人口調査

○平成三十年度～令和五年度の人口推移

令和3年度	平成30年度
230名	243名
令和4年度	令和元年度
220名	242名
令和5年度	令和2年度
217名	219名

部長 木原資裕

一、第七十回中四国学生剣道選手権大会への出場（松山）

日時…令和五年五月十四日

○一回戦敗退

朝桐（徳大）・前田（徳大）・山本（徳大）・小島直（徳大）

○二回戦敗退

片岡（徳大）・宮田（徳大）

○三回戦敗退

松本喜（徳大）・國近（徳大）

二、第五十五回中四国女子学生剣道選手権大会への出場（松山）

日時…令和五年五月十四日

○一回戦敗退

大西（鳴教大）・北林（徳大）

○二回戦敗退

神崎（鳴教大）

三、第七十回中四国学生剣道優勝大会への出場（岡山）

日時…令和五年八月二十七日

○予選リーグ

徳島大 二敗 予選リーグ敗退

四、第五十回中四国女子学生剣道優勝大会への出場（岡山）

日時…令和五年八月二十七日

○予選リーグ

徳島県より出場大学なし

五、第四十二回眉山山杯剣道大会（徳島県学生剣道選手権大会）ならびに第十六回徳島県学生剣道東西対抗試合の実施

日時…令和五年十一月二十三日（祝）

場所…徳島文理大学体育館

参加者数…四十二名（選手三十二名・役員審判十名）

○選手権大会成績

男子 優勝 織田祐輔（文理）

二位 渡邊功太（常三島）

三位 松本尊灯（蔵本）

三位 松本尊灯（蔵本）

尾ノ井勇人(常三島)
女子 優勝 北林 葵(常三島)

二位 伊藤有珠(文理)

○東西対抗優秀選手

男子 中原進吾(常三島) 二人抜き

楠 雷斗(蔵本) 二人抜き

織田祐輔(文理) 二人抜き

前田祥吾(常三島) 大将勝ち

女子 妹尾真瑚(蔵本) 四人抜き

北林 葵(常三島) 一人抜き・

大将

六、第四十三回中四国学生剣道新人大会へ

の出場(広島)

日時・令和五年十二月十日

○男子

一回戦 徳島大 B ○ 一 五

広島修道大学

二回戦 徳島大 A 一 一 二

環太平洋大 B

○女子

徳島県より出場大学なし

八、大学連総括

ると思われる。

令和五年の大学連の部員調査では七十六名(男子五十名・女子二十六名)であるが、希望すれば出場できる眉山杯(徳島県大学選手権)出場者は三十二名(男子二十六名・女子六名)である。また、令和五年の中四国学連の団体戦には徳島大学男子チームが出場しているだけであり、女子団体戦には出場していない。男子個人戦においても徳島大学より八名の出場、女子個人戦では四名(徳島大二名・鳴教大二名)の出場に止まっている。

全国的に見ると、大学剣道の二極化が進んでおり、活動が低迷し、部存続が難しくなっている大学と、スポーツ推薦枠を有し、専任の教員あるいは職員のポストがあり、剣道部員数も多く、指導陣・施設も充実している大学とが存在している。徳島県内の大学は前者であることは言うまでもないが、今後の徳島県における大学連のあり方を考える、試合中心の活動ではなく、剣道を行う意義や日常生活の質を高めることを意図した活動展開を模索すべき時期に来てい

令和五年度

徳島県高齢剣友会活動状況

高齢剣事務局 松 本 憲 二

令和五年度徳島県高齢剣友会は、役員改正を行い名誉会長高島稔之、会長美馬勝行、副会長藤川和秋、松村和宏、理事長乾清隆、事務局長松本憲二、会計武田俊文と改正を行い、会長美馬勝行以下会員九十五名で以下の活動を実施しました。

主な行事

四月

・第七回四国高齢者剣道交流大会（愛媛県）

六月

・第四十五回全日本高齢者武道大会（日本武道館）

・神奈川県高齢剣二〇周年記念大会（神奈川県）

奈川県）

七月

・西部稽古会（吉野川市）

九月

・第二十九回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（松茂第二体育館）

十月
・第十五回秋季合宿稽古会、百寿記念大会（長野県）

・第三十五回全国健康福祉祭えひめ大会（愛媛県）

十二月

・南部稽古会（牟岐町）

・全日本高齢剣友会会長岩立三郎先生との稽古会（中央武道館）

定例稽古会

毎月第二、第四土曜日の稽古会（松茂第二体育館、藍住武道館）を開催しました。

各大会の模様は、参加者から個別にご報告をいただいておりますので、その他の活動について事務局から報告します。

活動内容

定例稽古会

松茂町第二体育館、藍住武道館（十月第四土曜日）におきまして第二、第四土曜日午後二時から、会員等二十四～三十七名が参加しました。

西部稽古会

令和五年七月八日（土）午後二時から吉野川市ふるさとセンターにおいて西部稽古会を四年ぶりに実施しました。稽古会は、高齢剣友会を中心に四十八名が参加、蒸暑い中、熱気あふれる稽古で冷房も効かないほどでした。稽古会後、会員等二十八名が、うどん亭八幡において懇親会を行い、剣道談義に花を咲かせました。

南部稽古会

令和五年十二月九日（土）午後二時から牟岐町民体育館で実施、兵庫県から伊澤章先生の他五名の先生の参加を得て、四十一名が参加しました。その後民宿白木屋において兵庫の先生六名を交えて三十四名で忘年会を兼ねての懇親会を行い美味しい料理に舌鼓を打ち剣道談義に花を咲かせました。

範士岩立三郎先生との稽古会

令和五年十二月十五日（金）午後三時から中央武道館で、全日本高齢剣友会会長岩立三郎先生が来県された機会に稽古会を実施、近藤巨先生も来ていただき、美馬会長

を含め二十二名が参加しました。

総括

今年度は新型コロナウイルスが五類に移
行したことから、行事を予定通り実施する
ことができました。また、松村先生から県
外の試合等を申込まれたとき、県外で多くの
試合等に参加ができた他に懇親会にも参加
して他県との交流を深めることができた一
年となりました。



徳島県剣道稽古場所一覧（令和6年度版）

支部名	教室および道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時 (少年・一般の区別明記のこと)
徳島支部	徳島少年剣道教室	生田浩章 088-626-2470	徳島剣道教室剣道場	少年 (火・木) 17:00-20:00 (土) 16:00-
	蔵本少年剣道クラブ	福永 徳 088-631-0207	加茂名中学校武道場	少年 (火・金) 19:00-21:00 (日) 18:00-21:00
	加茂名少年剣道教室	鈴江俊和 088-631-4753	加茂名小(木) 加茂名中(土) 加茂名南小(日)	少年 (木・土) 18:00-19:45 (日) 17:20-19:30
	東内道場	東内 勉 088-631-3971	研修道場 東内会館	少年 (木・土) 18:00-20:00
	上八万剣道倶楽部	川人 護 088-668-1384	上八万小学校体育館	少年 (水・土) 17:00-19:00 一般 (水・土) 19:00-21:00
	宅宮(えのみや)剣道倶楽部	河野通宣 088-668-0167	えのみや睦会武道場	少年 (土) 19:00-21:00
	入田錬成会	佐藤佳宏 088-644-3124	入田中学校体育館	少年 (火・土) 19:30-21:30 一般 (火・土) 21:30-22:30
	北井上剣道教室	美馬勝行 088-642-3898	北井上中学校体育館	少年 (火・金) 19:00-21:00
	徳島清風館道場	久保隆司 088-633-0727	国府小学校体育館	少年 (土・日) 17:00-19:00
	養武館	米倉 滋 088-668-6650	八万中剣道場(火) 養武館道場(木・土)	少年 (火) 19:00-21:00 (木・土) 19:30-21:00
	徳島親道館剣道場	矢武秀生 088-644-5171	親道館道場	少年 (火・金) 19:00-20:30
	佐古剣道クラブ	谷本浩志 088-637-2204	佐古小学校体育館	少年 (火・木) 17:00-19:00 (日) 9:00-12:00
	渭東少年剣道教室	吉田昌彦 088-664-2153	城東中学校黎明館	少年 (火・木・金) 19:00-21:00
	徳島錬心館	大澤孝彰 088-654-6325	錬心館道場	一般 (火・木・土) 19:00-20:00
	松紀和会道場	松村和宏 090-8970-4863	松紀和会道場	少年 (火・水・木・金) 19:00-20:30
日亜錬心塾	山本泰史 090-3780-9813	大松小学校(月・土) セント歯科(木)	(月) 18:10-19:30 少年 (木) 18:30-20:30 (土) 13:00-15:00	
鳴門支部	鳴門市光武館	寺西明弘 088-685-0703	光武館剣道場	少年 (火・木) 18:30-20:30 (土) 17:30-19:30
	鳴門市少年剣道教室	石村行範 088-686-8923	鳴門ソイジョイ武道館	少年 (月・水) 18:00-20:00 (土) 9:00-11:00 一般 (月) 20:00-21:00
	大麻錬成館	近藤敏晴 088-689-0857	大麻中学校剣道場	少年 (火・土) 18:30-20:00
板野東支部	北島少年剣道教室	伊賀雅人 088-698-4528	北島北小学校体育館	少年 (月・木) 19:00-20:30 一般 (月) 20:45-22:00
	誠武館道場	井川理之 090-4976-4477	北島町立武道館	少年・一般 (木・金・土) 19:00-21:00
	松茂少年剣道教室	米田利彦 088-699-6176	松茂町第二体育館 (武道館)	少年・一般 (火・金) 19:00-22:00
	修武館道場	武田修典 080-5664-2686	修武館道場	少年 (月・水・木) 18:30-20:00 一般 (水) 18:30-20:00

板野西支部	板野西稽古場	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	一般（火・木・土）21:00-22:00
	藍住剣道スポーツ少年団	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	少年（火・木・土）19:00-20:30
	剣道板野道場	米崎信弥 090-4972-4177	板野町体育センター	少年（火・水）19:30-21:00 少年（日）9:00-11:00
	上板少年剣道教室	藤本辰夫 088-694-5031	神宅小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
阿波支部	市場剣道教室	大野和則 090-2822-7715	市場武道館	少年（月・火・木・土） 19:30-21:00
	阿波支部稽古会	安田勝裕 0883-35-7111	市場武道館	少年・一般（月）20:00-21:00
美馬支部	脇町少年剣道教室	柴田宗忠 0883-53-2629	脇町小学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00 一般は8:30-22:00
	徳島春風館道場	青木茂生 0883-53-7118	徳島春風館道場	少年・一般（月・木・土） 19:30-21:00
	半田剣道教室	大川 功 0883-64-2181	半田スポーツセンター	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
	美馬市体協剣道部	中川 正 0883-53-0116	脇町中学校武道館	一般（月・水・土）19:00-22:00
三好支部	東みよし淳志館	増田和広 0883-79-3704	三好中学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-21:00
	佐馬地少年剣道クラブ	山田泰弘 0883-74-1932	馬路小学校体育館	少年・一般（水）18:30-20:00
	三野少年剣道クラブ	久保和雄 0883-77-3899	三野中学校体育館	少年（土）18:00-20:00
	山城町剣道修錬クラブ	島尾眞且 0883-86-1398	山城中学校武道館	少年・一般（水・土） 19:30-21:30
	奥祖谷剣道クラブ	中石 昭 0883-88-5802	旧 栃之瀬小学校 体育館	少年（火・金）19:30-21:00
	井川武道会	中川勝弘 0883-78-2115	三好市柔剣道場	少年（水）20:00-21:00
麻植支部	麻植支部稽古会	日野利之 090-2783-3416	川島中学校体育館	少年・一般（金）（20:00-21:30）
	上浦剣道教室	近久 寛 090-1329-7817	上浦小学校体育館	少年（水・土）18:30-20:00
	鴨島少年剣道教室	藤川和秋 090-2786-5975	鴨島第一中学校武道館	少年（火・木・土）19:15-21:00
	川島剣道スポーツ少年団	猪野和男 0883-25-6004	農村環境改善センター 市立川島中学校体育館	少年（火・木・土）19:00-21:00
	山川スポーツ少年団 修錬館	柳谷照男 0883-42-6936	山川中学校武道館	少年（水・土）19:00-21:00
	吉野川少年剣道教室	片山尊史 0883-25-6014	牛島小学校体育館 西麻植小学校体育館	少年（火・水・金・土） 20:00-22:00
	寶 壽 館	日和田慈海 0883-42-3605	醫 光 寺	随時利用可 ただし、事前確認のこと

阿南支部	阿南支部稽古会	村井正志 080-1992-2715	阿南第一中学校	小・中・高・大・一般 (第2木・第4木) 19:30-21:00
	阿南少年剣道教室	中西 実 088-664-4879	阿南市武道館	少年(火・木・金) 19:00-21:00 一般(火・金) 21:00-22:00
	新野少年剣道教室	馬見和秀 0884-36-2428	新野小学校体育館	少年(火・木・土) 18:30-20:30
	大野小学校剣道部	西岡直彦 0884-22-6535	大野小学校体育館	少年(月・水・木) 18:30-20:30 一般(水) 21:00-22:00
	徳島至誠館	中山繁輝 090-1002-8976	徳島至誠館道場	少年(月・水・金) 19:00-21:00
	那賀川少年剣道クラブ	二反田和則 0884-21-2207	今津小学校体育館(火) 那賀川B&G体育館(水・金)	少年(火・水・金) 19:00-21:00
	那賀川剣道教室 わかあゆ会	山田耕司 0884-42-3381	平島小学校体育館	少年(月・水・金) 19:00-21:00
	羽ノ浦少年剣道教室	森 眞一 0884-44-5415	羽ノ浦中学校武道館	少年(火・金) 19:00-21:00 一般(水) 19:30-21:00
	徳島剣清塾	河田清実 090-1579-7001	阿南第一中学校剣道場	少年(月・水・金) 19:00-21:00
丹生谷支部	振武館	奥田博志 0884-62-1134	那賀町B&G 海洋センター武道場	少年(水・金) 19:00-21:00 一般(水・金) 21:00-22:00
	相生龍虎館	山下勝也 0884-62-0834	相生小体育館	少年(火・木・土) 16:00-18:00
	木頭錬心館	小川大造 0884-68-2242	木頭中柔剣道場	少年・一般(月・水・金) 18:00-20:00
	北川小学校剣道クラブ	谷 次郎 0884-69-2430	那賀町北川体育館	少年(月・水) 18:00-19:30 (金) 18:00-20:00
小松島支部	小松島支部稽古会	梅山寧史 0885-33-1251	小松島中学校武道場	一般(木) 19:30-21:00
	小松島小剣クラブ	青木博志 0885-33-1251(梅山)	北小松島小学校体育館(月金) 小松島小学校体育館(水)	少年(月・水・金) 19:00-21:30
	和田島少年剣道クラブ	篠原誠一 0885-37-2030	和田島小学校体育館	少年(火・金) 19:00-21:00
	立江剣道教室	原 知永 0885-38-2121	立江小学校体育館	少年(火・土・日) 18:30-20:00
海部支部	海部川剣道教室	丸岡偉人 0884-73-3175	海部小学校体育館	少年・一般(月・水・木) 19:00-20:45
	一心館道場	影山美雄 0884-79-3125	一心館剣道場	少年(月・木) 16:30-18:00 一般(水・第2金・第4金) 18:00-20:00
名西支部	石井少年剣道クラブ	近藤正章 088-674-5288	石井町立高浦中学校武道場	水・土 19:30-21:30
	久武館	瀬部克好	久武館道場	水・土 19:30-21:30
県剣道連盟	徳島県剣道連盟稽古会		中央武道館	一般 木 19:00-20:30
	女子部稽古会		中央武道館	一般 第1日曜 18:00-19:00
	高齢剣稽古会	乾 清孝 090-4974-0107	ソイジョイ武道館	一般 土 14:00~ 開催日は毎月変更(要確認)

居合道 道場案内

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。 居合道部

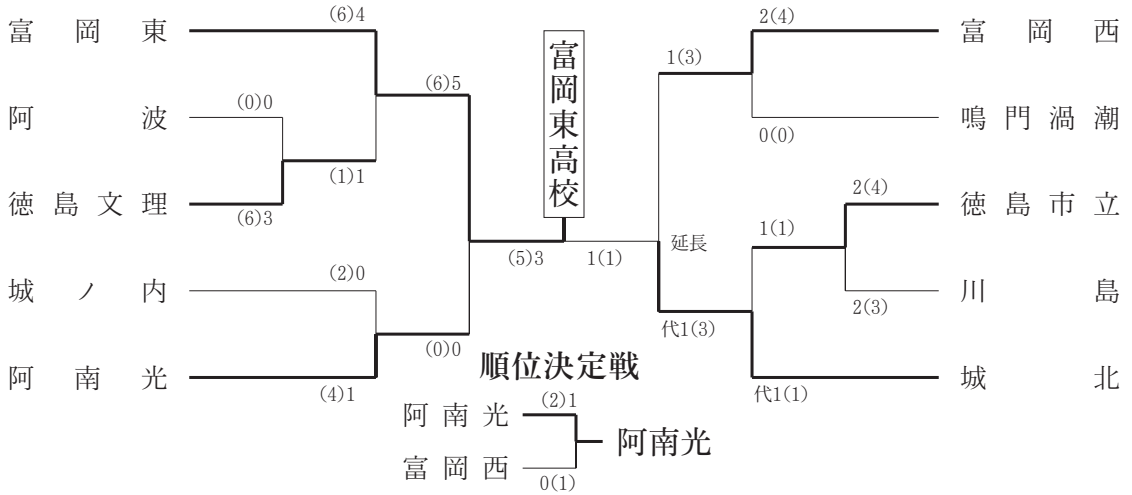
道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時
大和錬心館	錬士六段・西本 忠司 自宅 0884-69-2120 携帯 090-7143-0160	木頭中学校柔剣道場 那賀町木頭和無田	火曜日 19:00～21:00 木曜日 19:00～21:00
徹心道場	代表者 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日 19:30～21:30 水曜日 19:30～21:30 金曜日 19:30～21:30 (少年)
大和養心館	範士八段・原田 勝 自宅 0885-33-0222 携帯 090-7141-8996	大和養心館 小松島市金磯町11番78号	月曜日 18:00～21:00 水曜日 18:00～21:00 金曜日 18:00～21:00
阿波洗心館	代表 岡山博之 088-669-1610	松茂町第二体育館	火曜日 20:00～22:00 (月曜祝日の週は休み)
		セント歯科体育館	土曜日 19:00～21:00
居合道錬成会	四段・鎌田 貴 携帯 080-5661-7133	徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
阿波居合道伝習会	教士八段・坂本 憲一 自宅 0883-36-3008 携帯 090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日 19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日 19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
大湊道場 (全日本剣道連盟)	教士七段・福井 勝 携帯 090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日 10:00～12:00 (行事日を除く)
鳴門道場	錬士六段・満壽 良史 自宅 088-686-7115 携帯 090-9778-2350	鳴門市健康福祉交流センター 軽運動場	土曜日 9:30～12:00
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅 0883-53-7118 携帯 090-8693-4935	徳島春風館道場 (穴吹町三島)	水曜日 19:30～21:00
剣道・板野道場	五段・川人 政利 自宅 088-698-2970	南公民館	水曜日 19:30～21:30
		板野町体育センター	日曜日 11:00～12:00
修武館道場	武田修典 携帯 080-5664-2686	修武館道場	水曜日 20:00～21:00

令和5年度大会記録

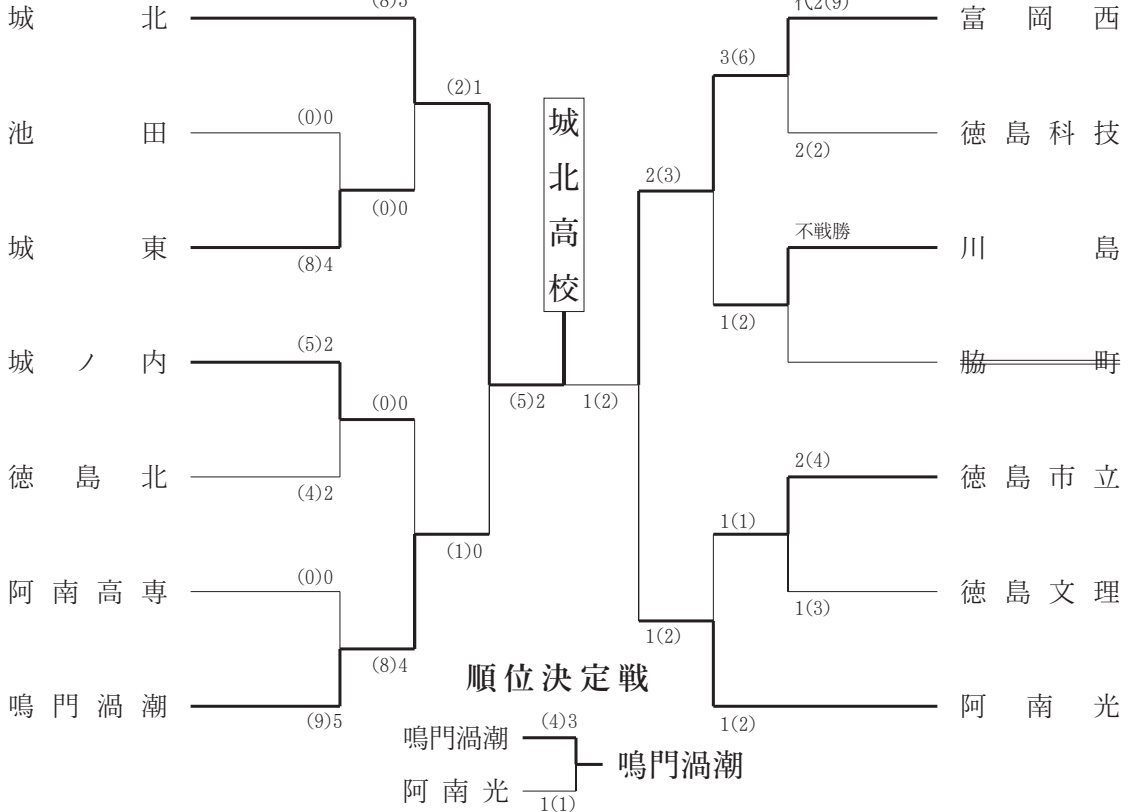
徳島県高校総体 団体戦

日時 令和5年6月2日(金)
会場 藍住町民体育館

〈女子団体戦〉



〈男子団体戦〉



〈男子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	篠原	橋本	永瀨	藏本	近藤	1	2	
	▲一本勝 ⊗	△	⊖	△	△			
鳴門渦潮	撫養	井川	受川	米田	徳永	0	1	
	△	▲	△	△	△			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	細川	本庄	中川口	桑原	大羽坂	2	3	
	⊖	⊗一本勝	⊗一本勝	△	△			
阿南光	吉岡	山下	中野	玉垣	島田	1	2	
	△	▲	△	⊖一本勝	△			

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
鳴門渦潮	撫養	中根	受川	入江	徳永	3	4	
	⊗	△	△	⊗一本勝	⊗一本勝			
阿南光	吉岡	村橋	中野	岡	島田	1	1	
	△	△	⊗一本勝	△	△			

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	篠原	橋本	永瀨	藏本	近藤	2	5	
	△	△	⊗メ	⊖メ	⊖			
富岡西	細川	本庄	川口	桑原	羽坂	1	2	
	⊗一本勝	△	△	△	△			

〈女子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	村田	玉瀨	平田	岩佐	中村	5	6	
	⊖一本勝	⊖一本勝	⊗一本勝	⊗コ	⊗一本勝			
阿南光	古賀	上村	阿井	入江	西崎	0	0	
	△	△	△	△	△			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	山本	内田	金谷	山崎	田窪	1	3	田窪
	△コ	△	メ	△	△			
城北	赤池	村田	近藤	國見	小山田	1	3	延長 ⊗小山田
	⊗	△	⊗	⊖一本勝	△			

順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南光	古賀	上村	阿井	入江	西崎	1	2	
	⊗一本勝	△	△	△	△メ			
富岡西	山本	内田	金谷	山崎	田窪	0	1	
	△	△	△	△	⊗			

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡東	村田	玉瀨	平田	岩佐	中村	3	5	
	⊖メ	△	△	⊗コ	⊗一本勝			
城北	赤池	村田	近藤	國見	小山田	1	1	
	△	△	⊖一本勝	△	△			

徳島県高校総体 個人戦

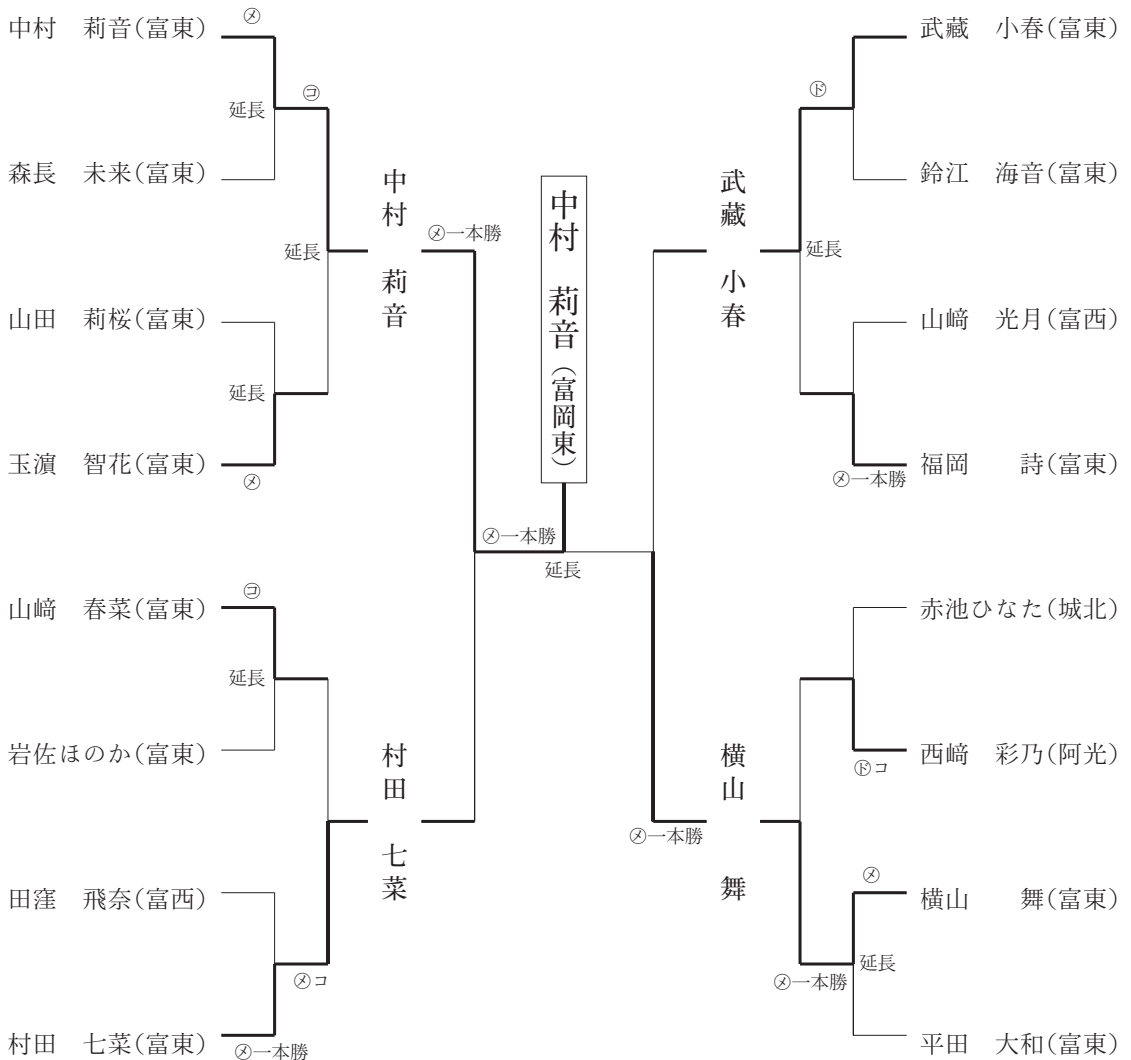
日時 令和5年6月3日(土)

会場 藍住町民体育館

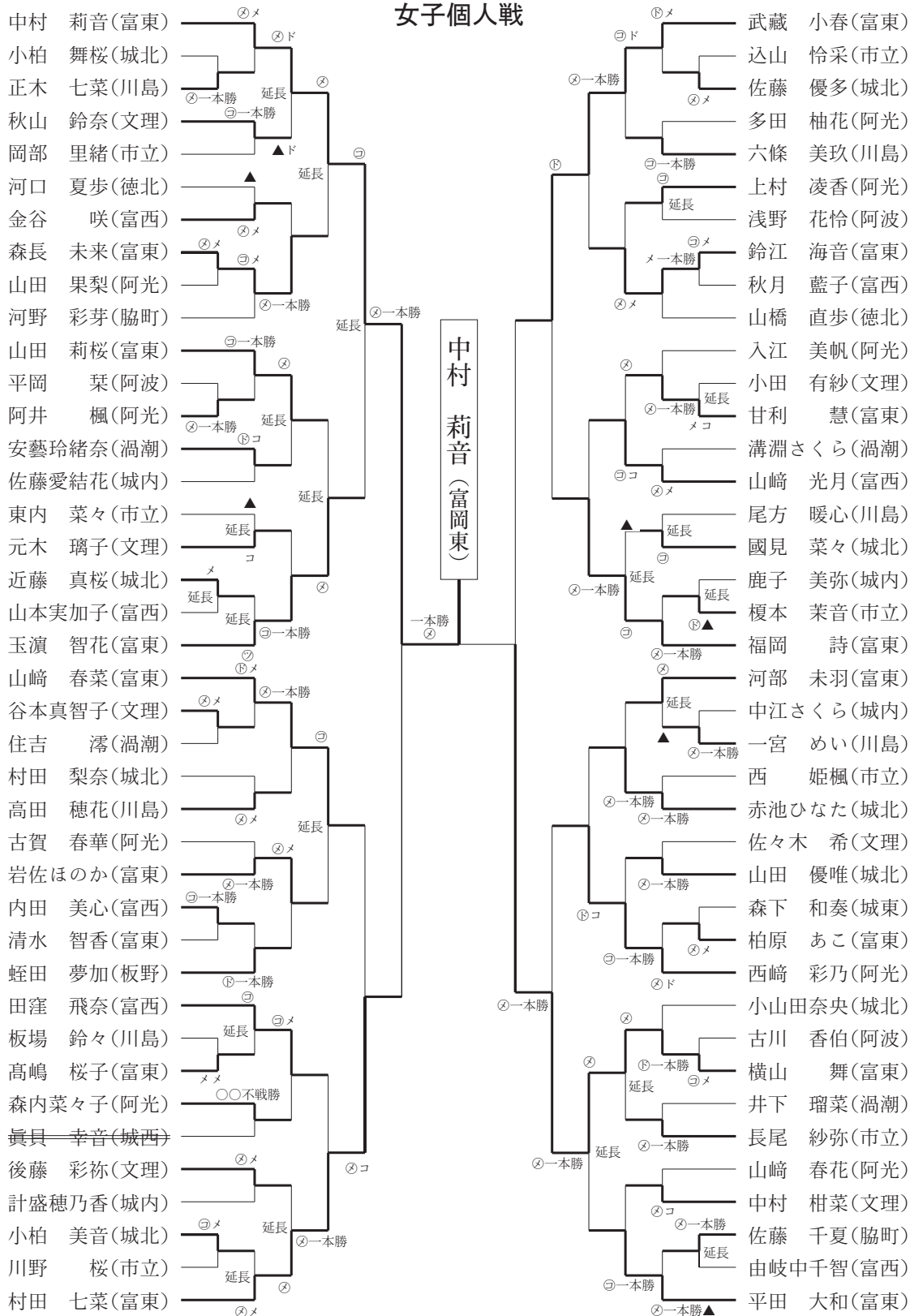
女子個人の部

優勝 中村 莉音 (富岡東)
 準優勝 横山 舞 (富岡東)
 第3位 武藏 小春 (富岡東)
 村田 七菜 (富岡東)

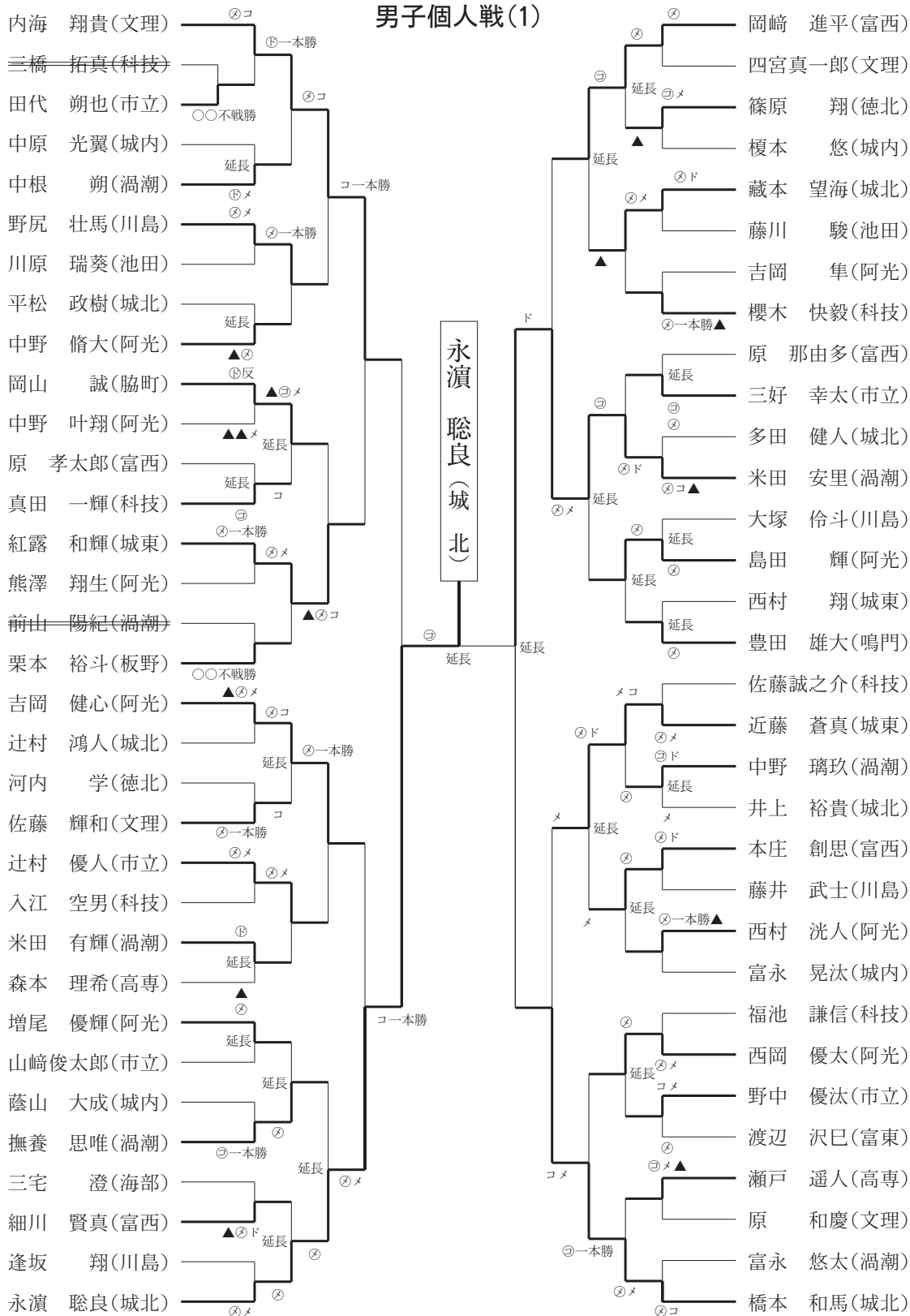
女子個人戦



女子個人戦



男子個人戦(1)



四国高等学校剣道選手権大会

日 時 令和5年6月17日・18日
場 所 藍住町民体育館

〈女子団体予選リーグ〉

第1試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡東	平田	村田	山田	岩佐	中村		2	2
	⊗一本勝	⊗一本勝						
明德義塾							0	0
	加藤	伊藝	松田	村上▲	吉永			

第2試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
高知	川田	西尾	濱田	谷脇	楠岡晴		2	3
	⊗一本勝		Ⓛコ					
富岡西							0	0
	山本	内田	金谷▲	山崎	田窪			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡東	平田	村田	山田	岩佐	中村		2	3
	⊗一本勝				Ⓜメ			
丸亀				一本勝Ⓜ			1	1
	多田羅	高橋	松本	北山	徳田			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
琴平	山神	小塚	井口	福井	北野		2	4
	⊗一本勝	⊗一本勝	⊗	Ⓜ				
富岡西							0	2
	山本	内田	金谷▲メ	山崎メ	田窪			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡東	平田	村田	山田	岩佐	中村		2	4
	⊗メ				⊗メ			
済美							0	0
	猪野	樋口	宇和川	中塚	越智			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
丹原	越智	野口	豊嶋	櫛部	岡田		2	2
	⊗一本勝				⊗一本勝			
富岡西							1	1
	山本	内田	金谷一本勝Ⓜ	山崎	田窪			

〈女子団体予選リーグ〉

第3試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
高知	明神	上杉	宇賀	梁井	住野		1	2
	△							
阿南光	吉岡	村橋	中野	岡	島田		0	0
	△							

第4試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
城北	篠原	橋本	永瀨	藏本	近藤		1	2
	△							
岡豊	曾我	下司	西尾	岩城	岩崎	一本勝	1	1
	△							

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
済美	俣野	児島	城戸	渡邊	大西		4	4
	△							
阿南光	吉岡	村橋	中野	岡	島田		0	0
	△							

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
城北	篠原	橋本	永瀨	渡邊	近藤		1	1
	△							
帝京第五	山部	松本	倉橋	新口	宮崎		0	0
	△							

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
丸亀	千葉康	中野	松本	西村	千葉隆		0	0
	△							
阿南光	吉岡	村橋	中野	岡	島田		1	1
	△							

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
城北	篠原	橋本	永瀨	渡邊	近藤		3	4
	△							
高松南	一本勝	一本勝	山村	林	善勝		2	2
	△							

〈女子団体予選リーグ結果〉

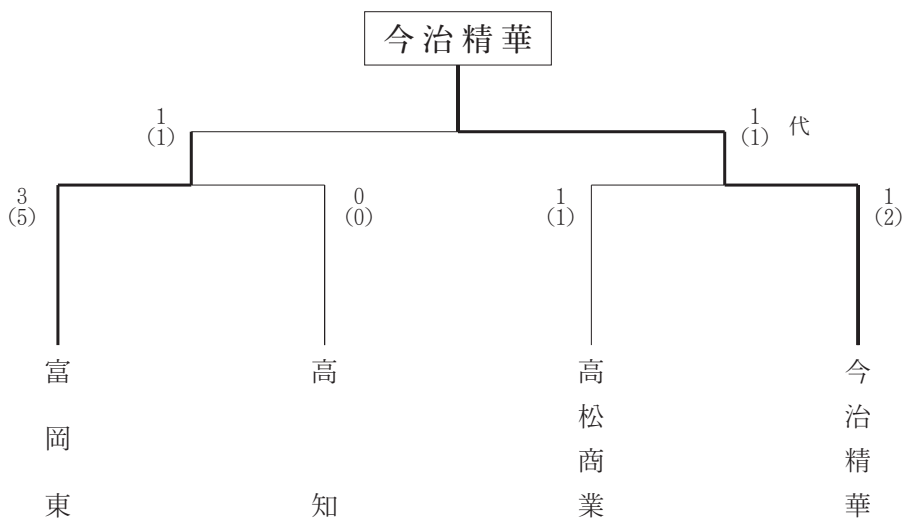
A	富岡東	済美	丸亀	明德義塾	勝点	勝者数	取得本数	順位
富岡東		$\frac{4}{2}$	$\frac{3}{2}$	$\frac{2}{2}$	3	6	9	1
済美	$\frac{0}{0}$		$\frac{2}{2}$	$\frac{7}{3}$	2	5	9	2
丸亀	$\frac{1}{1}$	$\frac{0}{0}$		$\frac{1}{1}$	0.5	2	2	3
明德義塾	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{1}$		0.5	1	2	4

B	高知	琴平	丹原	富岡西	勝点	勝者数	取得本数	順位
高知		$\frac{3}{2}$	$\frac{7}{4}$	$\frac{3}{2}$	3	8	13	1
琴平	$\frac{2}{1}$		$\frac{1}{1}$	$\frac{4}{2}$	1	4	7	3
丹原	$\frac{1}{0}$	$\frac{2}{2}$		$\frac{2}{2}$	2	4	5	2
富岡西	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{0}$	$\frac{1}{1}$		0	1	3	4

C	今治精華	城北	岡豊	高松南	勝点	勝者数	取得本数	順位
今治精華		$\frac{4}{2}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{3}{2}$	2.5	4	7	1
城北	$\frac{1}{1}$		$\frac{0}{0}$	$\frac{3}{2}$	1	3	4	3
岡豊	$\frac{0}{0}$	$\frac{3}{2}$		$\frac{3}{2}$	2.5	4	6	2
高松南	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{1}$		0	2	4	4

D	高松商業	高知商業	阿南光	今治西	勝点	勝者数	取得本数	順位
高松商業		$\frac{0}{0}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{5}{2}$	2.5	5	9	1
高知商業	$\frac{0}{0}$		$\frac{4}{2}$	$\frac{5}{2}$	2.5	4	9	2
阿南光	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{0}$		$\frac{0}{0}$	0	0	1	4
今治西	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{1}$		1	3	6	3

〈女子団体決勝トーナメント〉



準決勝

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡東	平田	村田	山田	岩佐	中村		3	5
	⊗メ	⊗一本勝	▲⊗メ					
高知							0	0
	川田	西尾	濱田	高島	楠岡晴			

準決勝

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
今治精華	片山	高橋涼	藤本	藤田	高橋杏		1	2
					⊗ド			
高松商業							1	1
	坂口明	上原	長尾	坂口桃	木村			

決勝

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡東	平田	村田	山田	岩佐	中村	村田	1	1
			⊗一本勝					
今治精華							代1	1
	片山	高橋涼	藤本	藤田	高橋杏	⊗高橋杏		

〈男子団体予選リーグ〉

第1試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
高知商業	谷悠	谷凌	比豫森	仙頭	大森		0	1
		⊗						
鳴門渦潮	メ⊗ 板倉	メ 大野		一本勝⊗ 山下	柴田		2	4
			松永					

第2試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡西	細川	本庄	川口	岡崎	羽坂		0	0
明德義塾					一本勝⊗ 青木		1	1
	上出	大福	豊田	大野				

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
琴平	新名海	新名亮	北山	須和	井上		1	1
	▲	⊗ 一本勝						
鳴門渦潮							0	0
	撫養	井川	受川	米田	徳永			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
富岡西	細川	本庄	川口	岡崎	羽坂		0	0
高松商業							0	0
	溝渕	松原	椎崎	安田	井出			

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
鳴門渦潮	撫養	井川	入江	米田	徳永		1	1
			⊗ 一本勝	▲	▲			
今治精華		一本勝⊗ 村上晃		一本勝⊗ 村上慎	一本勝⊗ 竹田		3	3
	木村		村上須					

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
新田	齊藤	片山	赤松	近藤	西岡		1	3
			⊗ メ	▲	⊗			
富岡西				一本勝⊗ 岡崎	メコ 羽坂		2	3
	細川	本庄	川口					

〈男子団体予選リーグ〉

第3試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
城北	村田	赤池	近藤	國見	小山田		0	0
	井上	西村	佐竹	山崎	尾原			
岡豊			メ ⊗	▲	▲ ⊗		2	3

第4試合場

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
高知商業	田中 ⊗ メ	高平 ⊗	辻	根木 ⊗ 一本勝	櫻木		2	4
阿南光	古賀	村上	阿井	入江	西崎		0	1

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
城北	村田 ⊗ コ	赤池 ⊗ 一本勝	近藤	國見	小山田		2	3
高松南	山本	高尾	大前	メ ⊗ 平田	加藤		1	2

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
高松商業	坂口明	上原	長尾	坂口桃 ⊗ 一本勝	木村 ⊗ コ		3	4
阿南光	古賀	村上	阿井	入江	西崎		0	0

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
今治精華	片山	高橋涼 ▲	藤本 ⊗ メ	藤田 ⊗ メ	高橋杏		2	4
城北	村田	▲ 一本勝 ⊕	近藤	國見	小山田		1	1

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
阿南光	古賀	村上	阿井	入江	西崎		0	0
今治西	渡邊	メ ⊕ 牟田	柚山	田窪	八木		1	2

〈男子団体予選リーグ結果〉

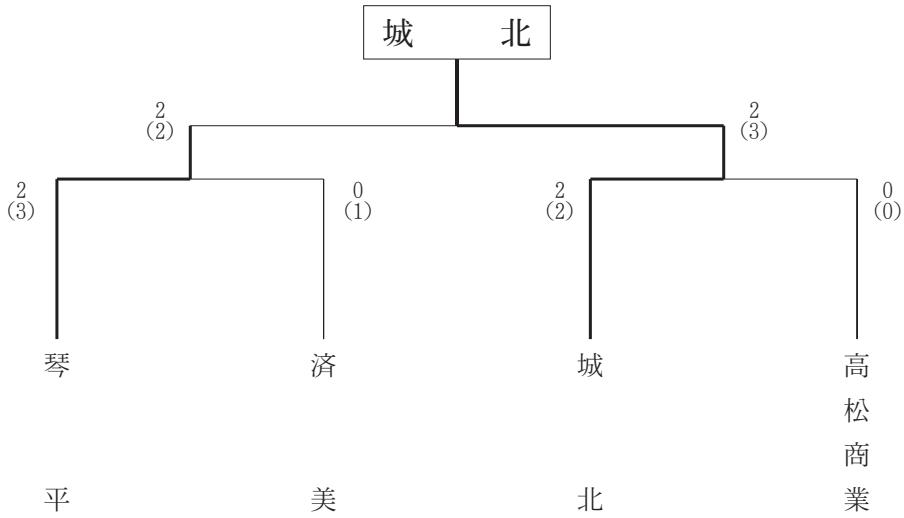
A	琴平	高知商業	鳴門渦潮	今治精華	勝点	勝者数	取得本数	順位
琴平		$\frac{3}{2}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{1}$	2.5	4	6	1
高知商業	$\frac{3}{2}$		$\frac{1}{0}$	$\frac{2}{2}$	1.5	4	6	2
鳴門渦潮	$\frac{0}{0}$	$\frac{4}{2}$		$\frac{1}{1}$	1	3	5	4
今治精華	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{3}{3}$		1	4	5	3

B	新田	富岡西	明德義塾	高松商業	勝点	勝者数	取得本数	順位
新田		$\frac{3}{1}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{0}{0}$	1	2	5	4
富岡西	$\frac{3}{2}$		$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	1.5	2	3	3
明德義塾	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{1}$		$\frac{1}{1}$	1.5	3	3	2
高松商業	$\frac{1}{1}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{1}$		2	2	2	1

C	高知	済美	丸亀	阿南光	勝点	勝者数	取得本数	順位
高知		$\frac{2}{1}$	$\frac{4}{2}$	$\frac{2}{1}$	2	4	8	2
済美	$\frac{4}{2}$		$\frac{10}{5}$	$\frac{4}{4}$	3	11	18	1
丸亀	$\frac{1}{0}$	$\frac{0}{0}$		$\frac{0}{0}$	0	0	1	4
阿南光	$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{1}$		1	1	1	3

D	城北	高松南	帝京第五	岡豊	勝点	勝者数	取得本数	順位
城北		$\frac{4}{3}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{1}$	3	5	7	1
高松南	$\frac{2}{2}$		$\frac{0}{0}$	$\frac{4}{2}$	0.5	4	6	3
帝京第五	$\frac{0}{0}$	$\frac{6}{4}$		$\frac{2}{2}$	2	6	8	2
岡豊	$\frac{1}{1}$	$\frac{4}{2}$	$\frac{1}{1}$		0.5	4	6	3

〈男子団体決勝トーナメント〉



準決勝

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
琴平	新名海	新名亮	北山	須和	井上		2	3
		⊗一本勝			メメ			
済美					Ⓛ大西		0	1
	俣野	児島	城戸	渡邊				

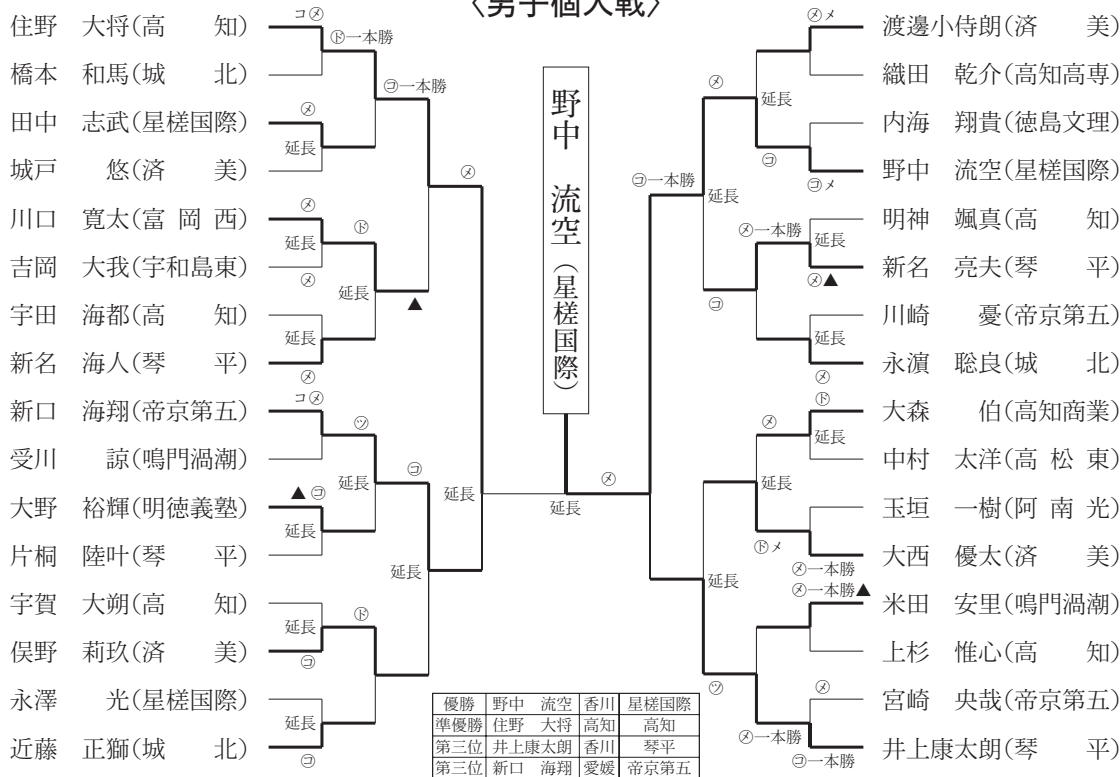
準決勝

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
高松商業	溝渕	松原	椎崎	安田	井出		0	0
城北		一本勝⊗	一本勝⊗				2	2
	篠原	橋本	永濱	渡邊	近藤			

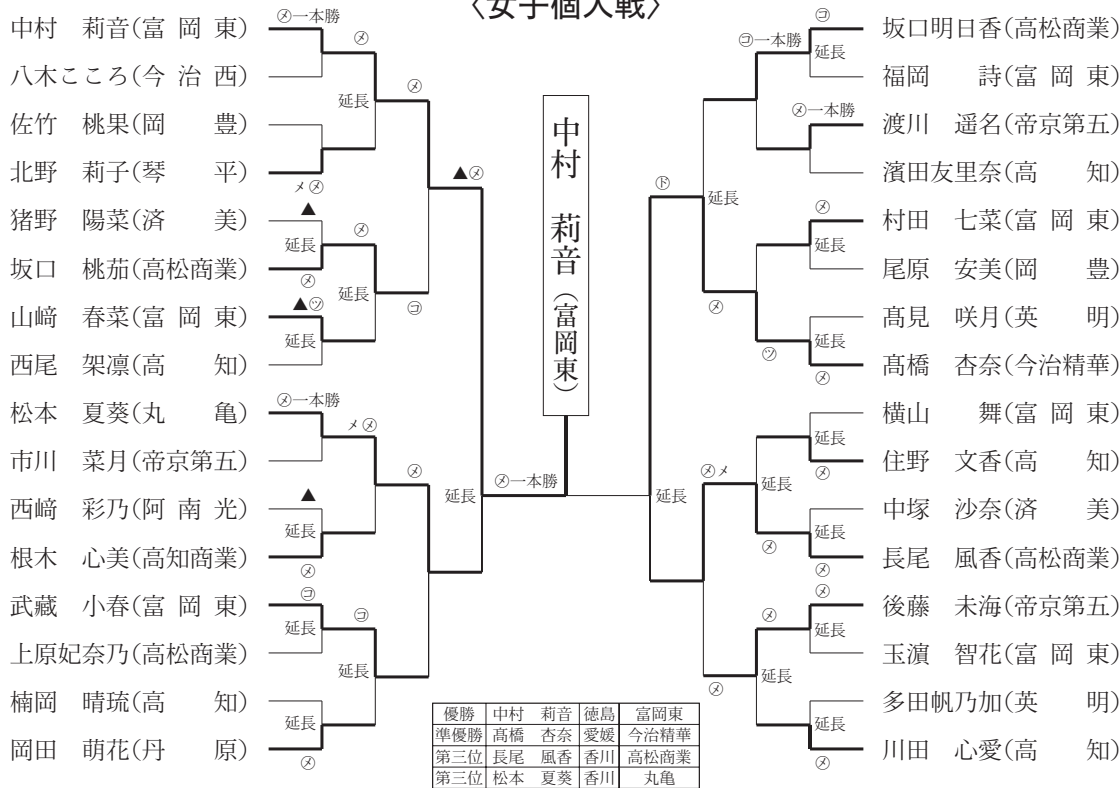
決勝

学校名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表戦	勝数	本数
琴平	新名海	新名亮	北山	須和	井上		2	2
	⊗一本勝		▲⊗					
城北				コ⊗	一本勝⊗		2	3
	篠原	橋本	永濱	渡邊	近藤			

〈男子個人戦〉



〈女子個人戦〉



第77回 徳島県中学校総合体育大会 剣道競技

【 団 体 戦 】

日 時 令和 5 年 7 月 16 日 (日)
場 所 鳴門ソイジョイ武道館

順 位	男 子	女 子
優 勝	那 賀 川 中 学 校	小 松 島 中 学 校
準 優 勝	徳 島 中 学 校	徳 島 中 学 校
第 3 位	小 松 島 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
第 3 位	徳 島 文 理 中 学 校	鳴 門 市 第 一 中 学 校

[男子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
徳 島 中	川 添	西 尾	中 岡	村 瀬	野 田	△ 0 0	
	▲						
那賀川中	メ	メ		メ		○ 3 3	
	林	柏 原	阿 井	西 岡	大 和		

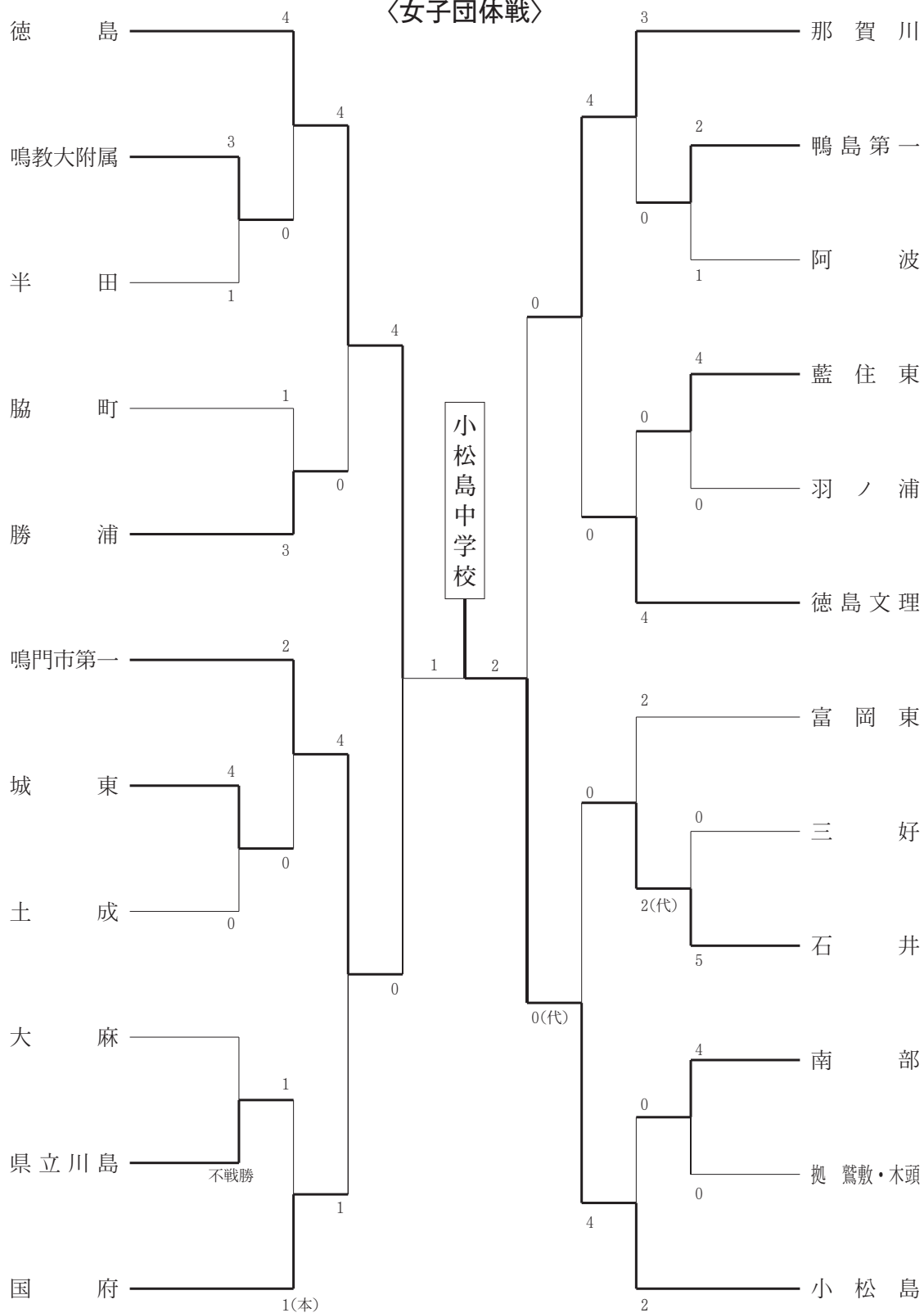
[女子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 敗	代表戦
徳 島 中	茨 木	坂 東	大 原	清 水	橋 本	△ 3 1	
	メ	メ			メ		
小松島中			コ	ド	メ	○ 4 2	
	中 野	桑 田	松 浦	岩 谷	檜 原		

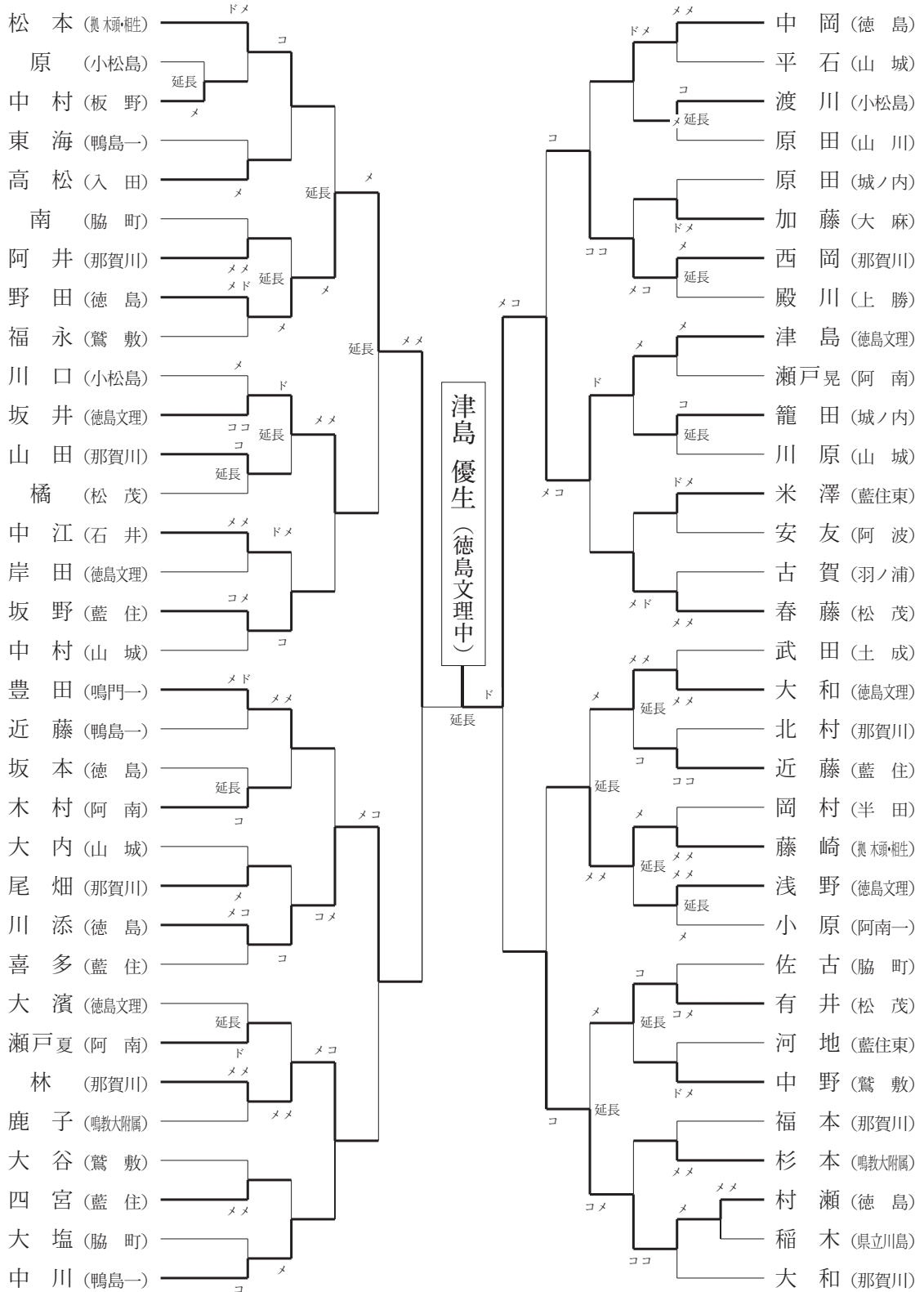
【 個 人 戦 】

順 位	男 子	学校名	女 子	学校名
優 勝	津 島 優 生	徳島文理	茨 木 里 音	徳 島
準 優 勝	野 田 宗 佐	徳 島	檜 原 空	小 松 島
第 3 位	川 添 将 義	徳 島	殿 川 瀬 里	上 勝
第 3 位	村 瀬 絆	徳 島	吉 岡 未 徠	那 賀 川

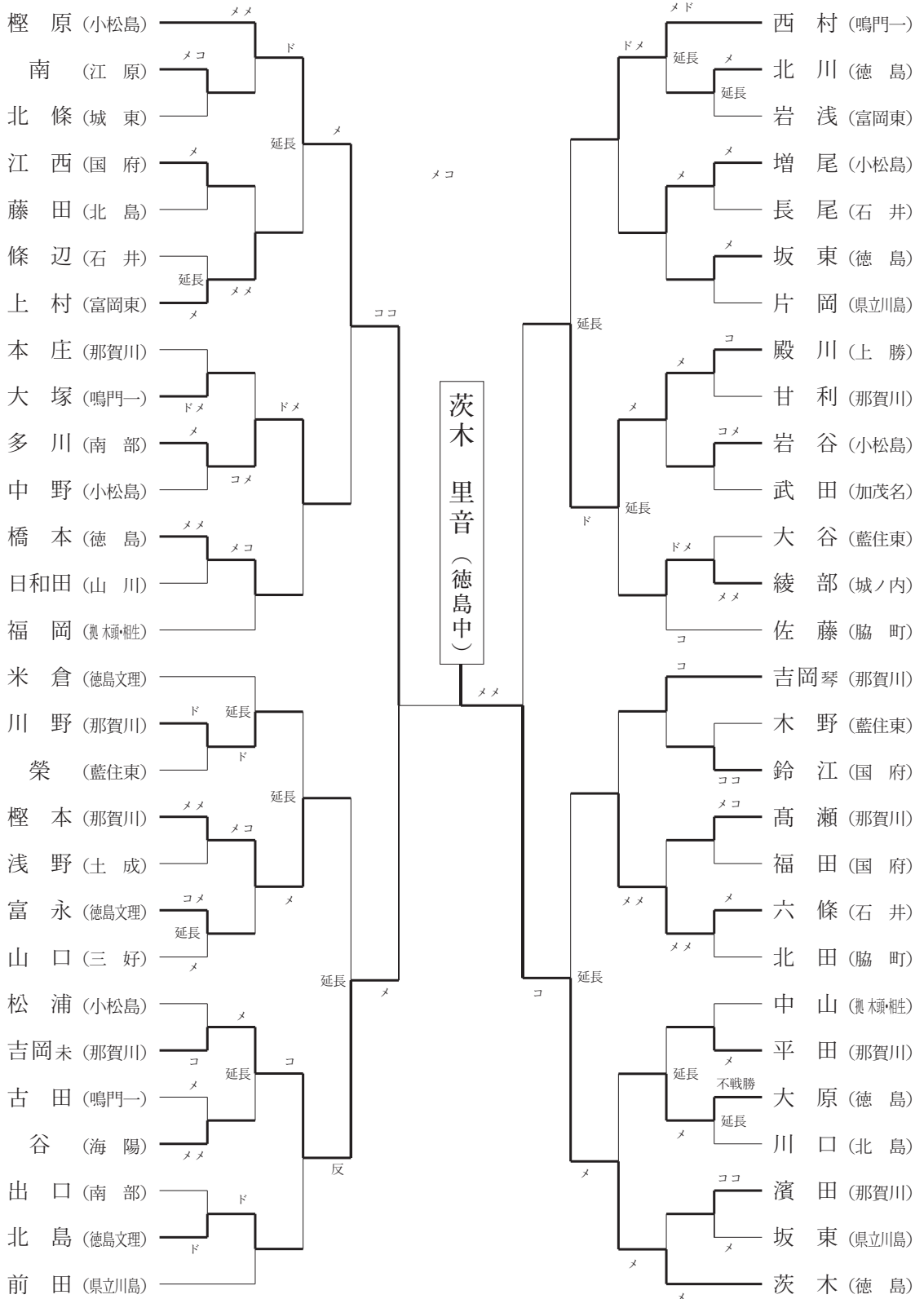
〈女子団体戦〉



個人戦〈男子〉



個人戦〈女子〉



第2回 徳島剣少年剣道選手権大会

日時 令和5年7月30日(日)

場所 ソイジョイ武道館

1・2年生の部

優勝	準優勝	三位	三位
岩 浅 晴	高 野 里 絆	山 出 育 弥	多 田 晴 菜
徳島剣清塾	徳島剣清塾	鴨島少剣	日亜錬心塾

3・4年生の部

優勝	準優勝	三位	三位
岩 浅 詩	多 川 華 音	吉 田 圭 吾	松 本 蒼 生
徳島剣清塾	日亜錬心塾	和田島少剣	鷲敷振武館

5年生の部

優勝	準優勝	三位	三位
平 田 愛 芽	水 口 萌 香	松 浦 暖	武 内 晴 紀
徳島剣清塾	徳島剣清塾	日亜錬心塾	日亜錬心塾

6年生の部

優勝	準優勝	三位	三位
棚 橋 爽 斗	坂 口 潤	山 本 京	河 田 淳 紀
徳島剣清塾	日亜錬心塾	阿南少剣	徳島剣清塾

第18回 全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会 代表選手

氏名	所属	学年
棚 橋 爽 斗	徳 島 剣 清 塾	6年
坂 口 潤	日 亜 錬 心 塾	6年
坂 本 圭 吾	誠 武 館 道 場	6年
平 田 愛 芽	徳 島 剣 清 塾	6年
水 口 萌 香	徳 島 剣 清 塾	6年

以上5名が、9月17日に大阪市で行われた第18回都道府県対抗少年剣道優勝大会の徳島県代表選手として出場。

第54回 徳島県少年剣道錬成大会

予選リーグ (団体戦)

日 時 令和5年11月5日(日)
場 所 ソイジョイ武道館

A	徳島剣道清塾	渭東少年剣道教室	吉野川少年剣道教室	勝数	勝者数	得点数	点数	順位
徳島剣道清塾	△	(10/5)	(9/4)	2	9	19	2	1
渭東少年剣道教室	(△/0)	△	(△/0)	0	0	1	0	3
吉野川少年剣道教室	(△/0)	(4/2)	△	1	2	5	1	2

B	鴨島少年剣道教室	誠武館道場	木頭錬心館 驚敷振武館	石井少年剣道クラブ	勝数	勝者数	得点数	点数	順位
鴨島少年剣道教室	△	(△/0)	(△/2)	(1/0)	0	2	5	0	4
誠武館道場	(8/5)	△	(8/4)	(5/2)	3	11	4	3	1
木頭錬心館 驚敷振武館	(4/3)	(△/1)	△	(3/2)	1	6	9	1.5	3
石井少年剣道クラブ	(6/3)	(△/1)	(3/2)	△	1	6	11	1.5	2

C	藍住剣道スポーツ少年団	池田剣正童 山城町剣道修練クラブ	徳島少年剣道教室	勝数	勝者数	得点数	点数	順位
藍住剣道スポーツ少年団	△	(7/4)	(△/0)	1	4	7	1	2
池田剣正童 山城町剣道修練クラブ	(△/0)	△	(△/0)	0	0	1	0	3
徳島少年剣道教室	(7/4)	(10/5)	△	2	9	17	2	1

D	鳴門市光武館道場	和田島少年剣道クラブ	那賀川剣道教室わかあゆ会	勝数	勝者数	得点数	点数	順位
鳴門市光武館道場	△	(4/3)	(△/1)	1	4	7	1	2
和田島少年剣道クラブ	(△/1)	△	(△/0)	0	10	1	0	3
那賀川剣道教室わかあゆ会	(2/1)	(6/3)	△	2	9	17	2	1

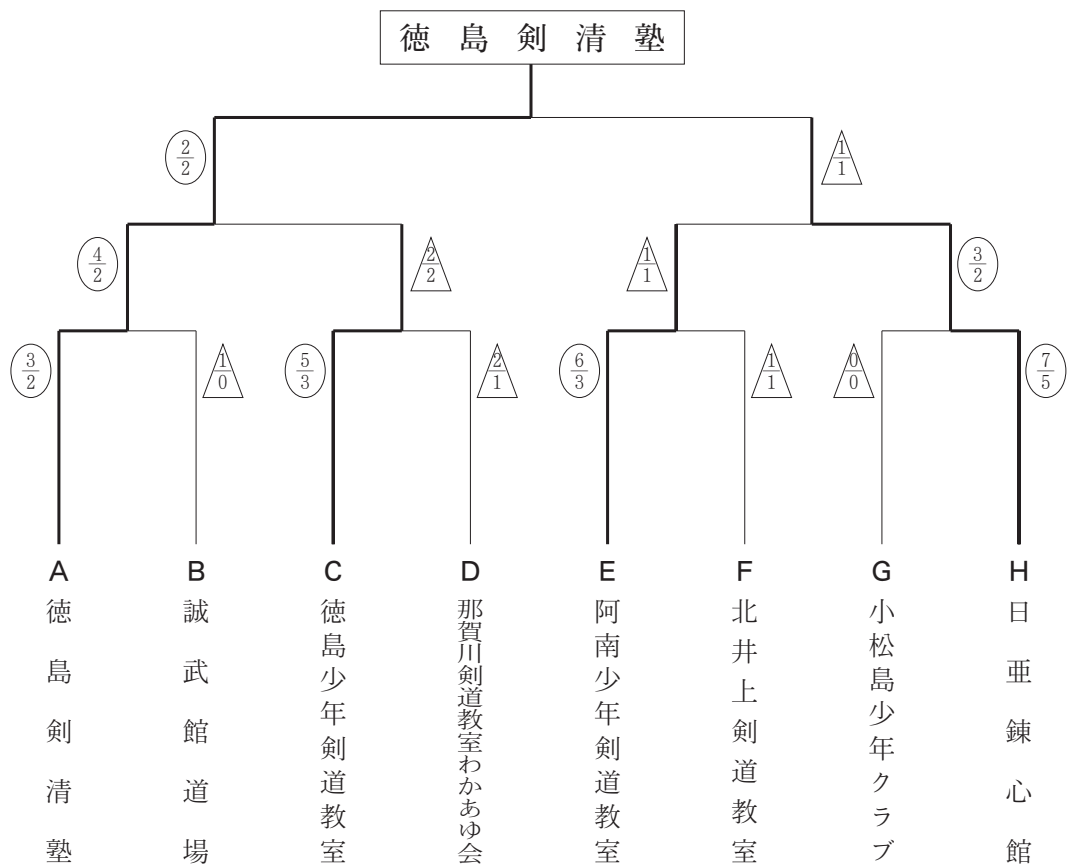
E	阿南少年剣道教室	佐古剣道クラブ	市場剣道教室	勝数	勝者数	得点数	点数	順位
阿南少年剣道教室	△	(8/4)	(9/4)	2	8	17	2	1
佐古剣道クラブ	(△/1)	△	(5/2)	0	3	8	0.5	2
市場剣道教室	(△/0)	(5/2)	△	0	2	7	0.5	3

F	大野小学校剣道部	東みよし淳志館	北井上剣道教室	阿波少年剣道教室	勝数	勝者数	得点数	点数	順位
大野小学校剣道部	△	(8/4)	(△/1)	(7/4)	2	9	17	2	2
東みよし淳志館	(△/1)	△	(△/0)	(△/0)	0	1	3	0	4
北井上剣道教室	(5/3)	(8/4)	△	(6/3)	3	10	19	3	1
阿波少年剣道教室	(△/1)	(6/3)	(△/2)	△	1	6	11	1	3

G	徳島至誠館	小松島少剣クラブ	上浦剣道教室	養武館	勝	勝	得	点	順
					数	者	本	数	位
徳島至誠館		$\frac{2}{0}$	$\frac{6}{3}$	$\frac{2}{2}$	2	5	10	2	2
小松島少剣クラブ	$\frac{5}{2}$		$\frac{4}{2}$	$\frac{5}{3}$	3	7	14	3	1
上浦剣道教室	$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$		$\frac{0}{0}$	0	0	0	0	4
養武館	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$	$\frac{2}{1}$		1	2	4	1	3

H	加茂名少年剣道教室	日垂錬心館	松茂少年剣道教室	大麻錬成館	勝	勝	得	点	順
					数	者	本	数	位
加茂名少年剣道教室		$\frac{0}{0}$	$\frac{5}{2}$		1	2	5	1	2
日垂錬心館	$\frac{8}{5}$		$\frac{7}{4}$		2	9	15	2	1
大麻錬成館 松茂少年剣道教室	$\frac{2}{1}$	$\frac{0}{0}$			0	1	2	0	3

決勝トーナメント



準 決 勝 戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
徳島剣清塾	河田	岩浅	水口	平田	棚橋		4 2
		X		㊦ ㊦	▲ ㊦ ㊦		
徳島少年剣道教室	一本勝 ㊦	X	一本勝 ㊦				2 2
	橋本	北島	陶久	中川	前田		

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
阿南少年剣道教室	山本	中西	山ノ井夏	山ノ井雄	須藤		1 1
	X	X			㊦一本勝		
日亜錬心館	X	X	㊦ ㊦	一本勝 ㊦			3 2
	大泉	多川	松浦	武内	坂口		

決 勝 戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
徳島剣清塾	河田	岩浅	水口	平田	棚橋		2 2
	㊦一本勝	㊦一本勝	X	X			
日亜錬心館			X	X	一本勝 ㊦		1 1
	大泉	多川	松浦	武内	坂口		

優勝 徳島剣清塾
 準優勝 日亜錬心館
 第3位 徳島少年剣道教室
 第3位 阿南少年剣道教室

第75回 四国四県剣道大会

日 時 令和5年5月14日(日)

場 所 高知県武道館

県名	順位	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
徳島県	氏名	松本	長地	前田	本田	森	白木恒	山本	大石	江口	日和田	佐野	吉田	岩木	白木	白木	6 — 5
	取得部位			⊗一本勝▲					⊗メ		▲	⊕一本勝	⊖一本勝			⊗一本勝	
高知県	取得部位		メ⊗		一本勝⊗	一本勝⊗	一本勝⊗			一本勝⊕					一本勝⊗		7 — 6
	氏名	森岡真	森岡実	松本	矢野	緒方	濱田	竹内	中澤	徳久	高木	野老山	井口	小野	小笠原	岡本	

県名	順位	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
香川県	氏名	糸濱	吉田	河村	前田	米	井尻	大林	山崎	小川	岡西	小野	坂口	山内	西本	松本	10 — 5
	取得部位		▲コ			⊕コ	⊗メ			⊖一本勝	⊖一本勝				⊗	⊖コ	
徳島県	取得部位	コ⊗	メ⊗	メ⊖	一本勝⊕			メ⊗	メ⊗						ド		12 — 6
	氏名	松本	長地	前田	本田	森	白木恒	山本	大石	江口	日和田	佐野	吉田	岩木	白木	白木洋	

県名	順位	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将	得点
愛媛県	氏名	岩中	柳原	川野	大野	山下	門岡	菅	國松	片上	客野	近藤	高宮	乗松	井上	藤本	14 — 5
	取得部位	⊗コ	⊗メ				⊕		⊗	ココ	⊕ド		⊗メ	メ	メ		
徳島県	取得部位			メ⊕	メ⊗		ド		ド	⊗			一本勝⊕		⊗	⊗	10 — 3
	氏名	松本	長地	前田	本田	森▲	白木恒	山本	大石	江口	日和田▲	佐野▲	吉田	岩木	白木	白木洋	

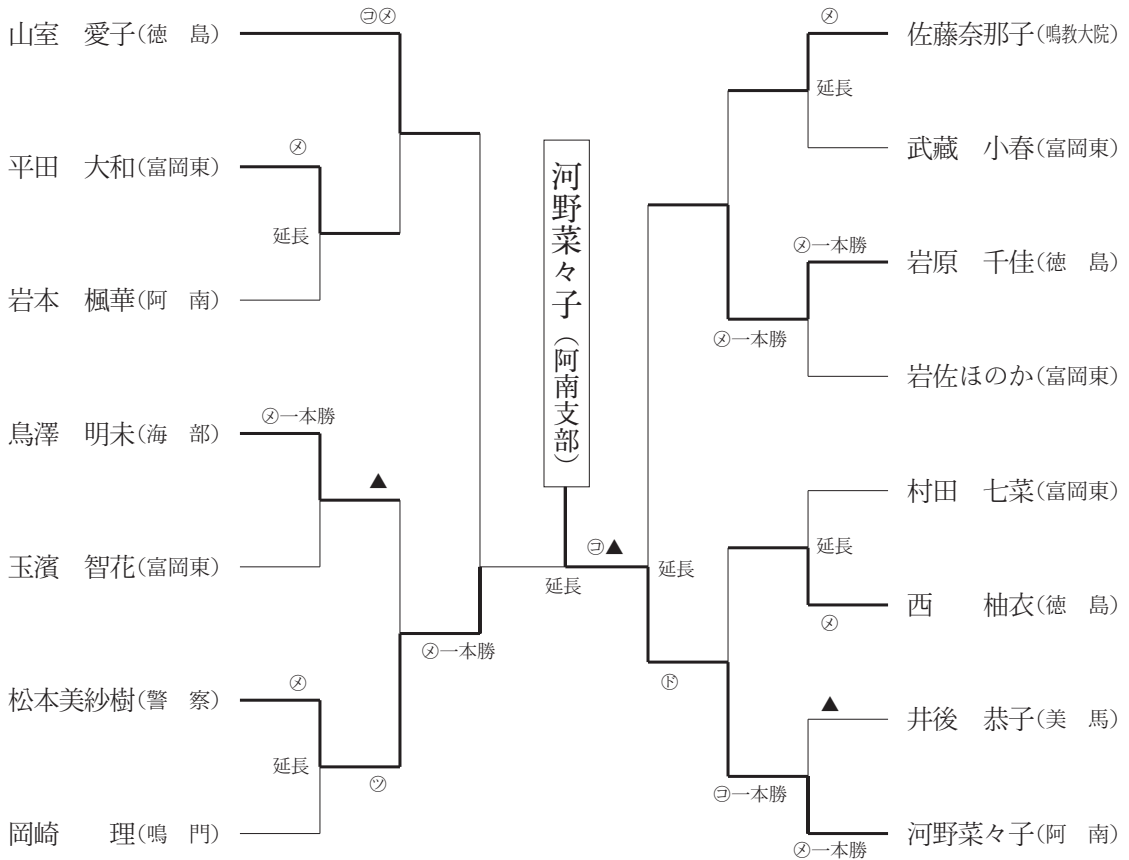
	高知	徳島	香川	愛媛	勝数	勝者数	勝本数	順位
高知		$\frac{7}{6}$	$\frac{11}{4}$	$\frac{5}{2}$	1	12	23	4
徳島	$\frac{6}{5}$		$\frac{12}{6}$	$\frac{10}{3}$	1	14	28	2
香川	$\frac{10}{5}$	$\frac{10}{5}$		$\frac{5}{2}$	1	12	25	3
愛媛	$\frac{12}{6}$	$\frac{14}{5}$	$\frac{10}{7}$		3	18	36	1

優勝	愛媛県
準優勝	徳島県
第3位	香川県
第4位	高知県

第26回 徳島県女子剣道選手権大会並びに 第62回 全日本女子選手権大会県予選会

優勝 河野 菜々子 (阿南支部)
 準優勝 松本 美紗樹 (警察支部)
 第三位 山室 愛子 (徳島支部)
 第三位 岩原 千佳 (徳島支部)

日時 令和5年7月23日(日)
 場所 ソイジョイ武道館



第50回 徳島県社会人剣道大会

予選リーグ

日時 令和5年9月17日
場所 ソイジョイ武道館

A	徳島刑務所	大塚製薬	羽ノ浦稽古会	勝者数	勝本数	得点数	順位
徳島刑務所		(7/4)	(9/5)	2	9	16	2
大塚製薬	(1/0)		(6/2)	0	2	6	0
羽ノ浦稽古会	(1/0)	(8/3)		1	3	9	1

B	蔵本剣道倶楽部鷹	美馬支部 B	小松島 B	勝者数	勝本数	得点数	順位
蔵本剣道倶楽部鷹		(8/4)	(1/1)	1	5	9	1
美馬支部 B	(1/0)		(1/0)	0	0	2	0
小松島 B	(4/2)	(5/3)		2	5	9	2

C	三好支部	板野東	阿波支部 A	勝者数	勝本数	得点数	順位
三好支部		(3/1)	(3/0)	0	1	6	0
板野東	(5/2)		(6/3)	2	5	11	2
阿波支部 A	(8/4)	(4/2)		1	6	12	1

D	鷲敷振武館	美馬支部 C	麻植支部	勝者数	勝本数	得点数	順位
鷲敷振武館		(7/4)	(6/3)	2	7	13	2
美馬支部 C	(0/0)		(3/1)	0	1	3	0
麻植支部	(3/1)	(6/3)		1	4	9	1

E	小松島 C	北井上剣道教室 B	徳島支部	勝者数	勝本数	得点数	順位
小松島 C		(7/3)	(8/4)	2	7	15	2
北井上剣道教室 B	(2/0)		(2/0)	0	0	4	0
徳島支部	(1/0)	(3/1)		1	1	3	1

F	小松島 A	蔵本剣道倶楽部鷲	美馬支部 A	勝者数	勝本数	得点数	順位
小松島 A		(7/3)	(7/4)	2	7	14	2
蔵本剣道倶楽部鷲	(2/2)		(7/3)	2	5	11	1
美馬支部 A	(2/1)	(1/1)		0	2	5	0

予選リーグ

G	阿波支部 B	養武館	北井上剣道教室 A	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	阿波支部 B	△ 2 1	△ 1 0	0	1	3	0	3
養武館	(4 2)	△ 2 2	1	4	6	1	2	
北井上剣道教室 A	(9 5)	(6 3)	2	8	15	2	1	

H	阿南支部	丹生谷支部	海部支部	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	阿南支部	△ 7 4	(7 4)	(6 3)	2	7	13	2
丹生谷支部	△ 1 1	△ 1 1	(6 4)	1	5	8	1	2
海部支部	△ 0 0	△ 0 0	△ 0 0	0	0	1	0	3

I	名西	藍住剣道 S/S	鳴門支部	勝数	勝者数	得本数	点数	順位
	名西	△ 5 2	△ 4 2	2	4	9	2	1
藍住剣道 S/S	(2 0)	△ 9 4	1	4	11	1	2	
鳴門支部	(2 1)	△ 1 0	0	1	3	0	3	

〈女子個人戦〉



優勝 前田奈々枝 (阿波支部)

準優勝 長地千景 (阿南支部)

第三位 平山安香音 (小松島支部)

第三位 玉置香織 (鳴門支部)

2023年(令和5年)8月16日 水曜日

四国全中、本県から197人挑む



剣道女子・小松島



剣道男子・那賀川

男子・那賀川
勝負強き期待
剣道
(18)20日・愛媛県武
加吉川(兵庫)奥田富

道館
団体は、男女とも3校
ずつのリーグ戦で各組1
位となった16校が決勝ト
ーナメントに進む。
県総体を2大会連続で
制した男子の那賀川は、
と筑紫野南(福岡)の強
豪2校に挑む。粘り強い

山と同組。運動量豊富
な林が連続技を仕掛け、
大和が得意のメンで勝負
強さを発揮したい。
女子は県総体初優勝の
小松島が、瀬田(神奈川)

岩とスヒードが武器の
檜原が勝利を呼び込める
か。
個人は四国総体女子3
位の茨木(徳島)が一つ
でも上位を目指す。
【男子団体・那賀川】県総体1
位 磐瀬(徳島)▽準 大和
阿 林 北村(高松) 山 阿
井 西岡(高松) 相原(徳島)
【男子個人】西田(徳島)
【女子団体】小松島 県総体1
位 磐瀬(徳島)▽準 津島(徳島)
【女子個人】山 松浦(徳島)
原 岩(高松) 松浦(徳島)
音 桑田(高松) 瀬田(神奈川)
【同僚】磐瀬 山 津島 原
島 岩 音 桑田 瀬田
原(小松島)

地域文化功労 県内2人

竹内菊世さん 若手の作家を育成 坂本憲一さん 郷土刀研究に尽力

文化庁は9日、2023年度地域文化功労者を発表しました。県関係では、芸術文化功労に徳島ペンクラブ顧問



坂本憲一さん



竹内菊世さん

問の竹内菊世さん(89)は徳島市通町2丁目が、文化財功労には県銃砲刀剣類登録審査委員の坂本憲一さん(75)は阿波市市場町八幡が選ばれた。

竹内さんは、教員をしていた1968年にペンクラブに入会した。80年の「阿波の歴史を小説にする会」創立に関わったほか、2007年に同人誌「飛行船」を創刊した会の代表を務め、現在も健筆を振るっている。公募の「飛行船文学賞」を設け、新人発掘や若

手育成にも貢献してきた。坂本さんは、県郷土文化会館(現あわぎんホール)の職員として歴史と民俗部門を担当し、阿波木偶資料館の開設に携わった。居合を通じて刀剣への見識を深め、1994年に文化庁から銃砲刀剣類登録審査委員に任命され、2002年から県審査委員に就いた。郷土刀の刀工の研究に尽力している。

竹内さんは「認めていただいて、ありがたい。まだしばらくは変わらず書き続けられると思う」。坂本さんは「刀工の分野は分かっていることが多い。受賞を励みに研究していきたい」と意欲を見せた。

23年度の地域文化功労者は全国で76人・18団体の計94件(芸術文化54件、文化財40件)。16日に京都市で表彰式がある。(廣井和也)

男子決勝・城北対徳島科技 中堅戦で1本勝ちし、優勝に貢献した城北の橋本(右)＝鳴門ソイジョイ武道館(立花善晴撮影)

城北9度目頂点 男子

女子は富岡東10連覇

剣道

県高校新人大会

剣道の全国高校選抜大会徳島県予選を兼ねた第

68回男子、第58回女子県度目の優勝を輝き、女子は富岡東が10年連続35度目の頂点に立った。男子は城北が2年連続9

上位4校が四国新人大会に出場する。同2月3、4日・愛媛県

男子1回戦 城北5-0 徳島市立、阿南専3-0 川島4-1 徳島北、徳島技2-1 徳島文理、徳島法勝、城北4-1 城之内阿南光5-0 阿南高専、川島2-1 鳴門高潮、徳島技2-1 富岡西、連勝 城北1本



数勝を1回戦で、徳島技4-1 川島、順位決定戦 阿南光4-1 川島

城北5-0 徳島科技 多田メイト 真田 渡邊メイト 八次原 橋本メイト 入江 蔵本ドド 七条 藤原メイト 三宅 藤原メイト 富岡東5-0 阿波、徳島文理1-0 富岡西、阿南光1-0 川島、城北、不戦勝 徳島市立、連勝 富岡東3-0 徳島文理、城北3-0 阿南光、順位決定戦 徳島文理3-1 阿南光、決勝

積極姿勢で流れ

○10連覇を果たした

富岡東女子。決勝では、先鋒森長が積極的な攻めを流しをつかんだ。開始約3分にメンを決めた後、冷静に試合を進め、1本を取り返そうと前のめりになった相手の隙を突いた。約30秒後に再び、



女子決勝・富岡東対城北 大将戦を制した富岡東の中村(右) (立花善晴撮影)

危なげなく5連勝

城北

城北男子が4戦全勝の危なげない試合運びで、徳島科技との決勝を制した。蔵本主将は「夏の全国総体では予選リーグで負けて悔しい思いをした。もう一度全国に行くという強い気持ちで臨んだ。勝てうれしいと話した。

準決勝で競り合いの末に阿南光に本数勝ちした勢いを、決勝に持ち込んだ。先鋒(せんほう)多田が先勝すると、「ポイントゲッターの自分が取り切る」と次鋒・渡邊が開始30秒過ぎにメンを立て続けに決めて2本勝ち。「先鋒がつかないで、相手よりも先に仕掛け続け、開始約3分でメンを決めて1本勝ちした。全国総体では誰が出ても確実に1本を取ることが目標に、稽古に励んできた。決勝では5人で7本を奪い、成果を示した。渡邊と蔵本主将は来春の全国選抜大会に向け「出場する全員が役割を果たせるよう、常に本番を想定して、気を張った状態で一日2日を大切に練習する」と語った。(佐々木秋穂)

【掲載希望をお寄せください】チーム名、申込者の氏名、住所、電話番号を書いて、郵便番号770-8572(住所不要)徳島新聞社社会部「頑張れスポーツ少年団」係へ。ファクス(088(655)7458)でも受け付けます。

頑張れ スポーツ少年団



山川スポーツ少年団修練館

- ◆1966年発足、吉野川市
- ◆柳谷照男道場長、選手8人(男子7人、女子1人、子ども園〜中学3年)
- ◆在籍校、高越こども園、高越小、山瀬小、山川中、城ノ内中
- ◆練習 週3回
- ◆チーム自慢 協力し合って当番でキャプテンをする、礼儀正しく元気いっぱいチーム
- ◆目標 団体戦、個人戦ともに優勝目指して稽古を頑張る
- ◆入部希望などの問い合わせは柳谷道場長、電話090(1004)4808

剣道

2023年(令和5年)7月13日 木曜日

剣道

半田剣道教室

- ◆1977年発足、つるぎ町
- ◆大川功室長、選手8人(男子6人、女子2人、小学3年〜中学3年)
- ◆在籍校 半田小、王地小、半田中
- ◆練習 週2回
- ◆岡結子副主将のチーム自慢 みんなで仲良く頑張れるチーム
- ◆目標 地方大会で優勝する
- ◆入部希望などの問い合わせは大川室長、電話090(4979)6804



【掲載希望をお寄せください】チーム名、申込者の氏名、住所、電話番号を書いて、郵便番号770-8572(住所不要)徳島新聞社社会部「頑張れスポーツ少年団」係へ。ファクス(088(655)7458)でも受け付けます。

頑張れ スポーツ少年団



徳島春風館道場

- ◆1988年発足 美馬市
- ◆青木茂生監督、選手19人(男子10人、女子9人、3歳〜高校2年)
- ◆在籍校 脇町、江原南、貞光の各小学校、穴吹、江原の両中学校、脇町高、穴吹認定こども園、岩倉認定こども園、市場かもめこども園、白うめ幼稚園、脇町保育所
- ◆練習 週3回
- ◆松岡金太郎キャプテンのチーム自慢 楽しく仲良く元気よく、年上の子が小さい子たちに優しく声をかけて面倒を見る
- ◆目標 文武両道
- ◆入部希望などの問い合わせは青木監督、電話090(889666)466615

剣道

【掲載希望をお寄せください】チーム名、申込者の氏名、住所、電話番号を書いて、郵便番号770-8572(住所不要)徳島新聞社社会部「頑張れスポーツ少年団」係へ。ファクス(088(655)7458)でも受け付けます。

頑張れ スポーツ少年団



鷲敷振武館

- ◆1950年発足、那賀町
- ◆奥田博志監督、選手6人(男子4人、女子2人、小学5年)
- ◆在籍校 鷲敷、岩脇の各小学校、いわわきこどもセンター
- ◆練習 週2回
- ◆鈴木望君のチーム自慢 みんな仲が良くチームワークが抜群
- ◆目標 一つでも多く勝てるように頑張る
- ◆入部希望などの問い合わせは奥田監督、電話09027802344

剣道

【掲載希望をお寄せください】チーム名、申込者の氏名、住所、電話番号を書いて、郵便番号770-8572(住所不要)徳島新聞社社会部「頑張れスポーツ少年団」係へ。ファクス(088(655)7458)でも受け付けます。

頑張れ スポーツ少年団

徳島少年剣道教室



- ◆1970年発足、徳島市
- ◆生田浩章監督、選手17人(男子15人、女子2人、4歳～小学6年)
- ◆在籍校、徳島文理大付属幼稚園、みつぼしこどもえん、助任、内町、入田、千松、八万、福島、徳島文理各小学校
- ◆練習 週3回
- ◆橋本佳都キャプテンのチーム自慢 学年問わず仲が良く、一致団結して試合や練習ができています
- ◆目標 全国大会出場
- ◆入部希望などの問い合わせは生田監督、電話090(1009)6348

剣道

剣道

立江剣道教室



- ◆1981年発足、小松島市
- ◆原知永監督、選手11人(男子5人、女子6人、幼稚園～中学1年)
- ◆在籍校、坂野幼稚園、立江、大松、南小松島、芝田各小学校、小松島南中学校
- ◆練習 週3回
- ◆溝木寛人主将のチーム自慢 団結力があり、元気で仲良く成長しているところ
- ◆目標 小松島市の大会で全員で勝つ
- ◆入部希望などの問い合わせは原監督、電話090(7783)1464

大正琴や日本舞踊
つるぎ町民が披露

つるぎ町の住民が日頃の文化活動の成果を発表する「つるぎ町文化フェスタ

芸能大会」(町文化協会主催)が、同町貞光の町就業改善センターで開かれた。

町内の9グループが出演し、コーラスや大正琴、民舞などを披露。貞光、半田の放課後子ども教室に通う児童ら11人が「さくらさくら」

「黒田節」などの民謡に合せて日本舞踊を踊ると、約200人の観客から盛んな拍手が送られた。絵画や生け花、俳句などの美術作品も展示された。

文化フェスタは年に1度開いており、8回目の今回は4日であった。協会の中本森八会長(79)は「町唯一の芸能大会。地域の伝統が残るよう、今後も続けていきたい」と述べた。12月3日にはトキメンタリー映画「瀬戸内寂聴 99年生きて思うこと」の上映会もある。(加藤菜治)

【紙面編集】尾形つぐみ

【掲載希望をお寄せください】チーム名、申込者の氏名、住所、電話番号を書いて、郵便番号770-8572(住所不要)徳島新聞社社会部「頑張れスポーツ少年団」係へ。ファクス(088(655)7458)でも受け付けます。

頑張れ **スポーツ少年団**

剣道

上浦剣道教室

- ◆1978年発定、吉野川市
- ◆近久寛代表、選手10人(男子9人、女子1人、小学1年~中学3年)
- ◆在籍校 南井上、高川原、柿原、森山各小学校、鴨島東、鴨島第一、鳴門教育大付属各中学校
- ◆練習 週2回
- ◆三好琥珀主将のチーム自慢 みんな仲が良く、一生懸命練習している
- ◆目標 剣道を通して生き方を学ぶ
- ◆入部希望などの問い合わせは近久代表、電話090(1329)7817



【掲載希望をお寄せください】チーム名、申込者の氏名、住所、電話番号を書いて、郵便番号770-8572(住所不要)徳島新聞社社会部「頑張れスポーツ少年団」係へ。ファクス(088(655)7458)でも受け付けます。

頑張れ **スポーツ少年団**

相生龍虎館

- ◆2001年発定、那賀町
- ◆山下勝也監督、選手4人(男子3人、女子1人、小学3年)
- ◆在籍校 相生
- ◆練習 週2回
- ◆高田湊祐君のチーム自慢 人数は少なくても、みんなで仲良く練習している
- ◆目標 正しい剣道で相手を尊重して試合に臨む
- ◆入部希望などの問い合わせは保護者代表の藤崎さん、電話090(1172)0900



剣道

2024年(令和6年)1月25日 木曜日

剣道

木頭錬心館

- ◆ 1972年発足、那賀町
- ◆ 小川大造監督、選手9人(男子5人、女子4人、小学2年~中学3年)
- ◆ 在籍校 木頭学園
- ◆ 練習 週3回
- ◆ 松本心真主将のチーム自慢 新しい仲間が増えて楽しくなった
- ◆ 目標 みんなで一勝すること
- ◆ 入部希望などの問い合わせは小川監督、電話090(4)472(200)7



(23) 地域総合

2024年(令和6年)2月29日 木曜日

徳島

【掲載希望をお寄せください】 チーム名、申込者の氏名、住所、電話番号を書いて、郵便番号770-8572(住所不要)徳島新聞社社会部「頑張れスポーツ少年団」係へ。ファクス(088(655)7458)でも受け付けます。

頑張れ スポーツ少年団

小松島少剣クラブ



- ◆ 1977年発足、小松島市
- ◆ 青木博志監督、選手25人(男子16人、女子9人、保育園~中学3年)
- ◆ 在籍校 かもめ保育園、南小松島、北小松島、千代、芝田、論田、方上、横瀬各小学校、小松島、徳島、徳島文理、富岡東、上勝、大麻各中学校
- ◆ 練習 週3回
- ◆ 川添大義主将のチーム自慢 みんな仲良く楽しく剣道をしている
- ◆ 目標 一つ一つの試合で良い結果を残すために全力で頑張る
- ◆ 入部希望などの問い合わせは青木監督、電話090(9)559(174)8

剣道

2023年(令和5年)4月4日 火曜日

あわー スポーツ

剣道

◆第28回徳島市スポーツ少年団交流大会(2月1日・とぎんトモアリーナ)
【団体】小学校低学年の佐古剣道クラブの徳島少年剣道教室▽高



小学校低学年で優勝の佐古剣道クラブ

小学校高学年で優勝の徳島少年剣道教室A



学年の徳島少年剣道教室Aの佐古剣道クラブ③北井上剣道教室③養

- 【個人】小学校1年生の中川照大(徳島少年剣道教室)②藤丸ゆい(徳島少年剣道教室)③國丸拓海(加茂名少年剣道教室)③佐藤千冬(養武館)▽2年生①高橋秀(徳島少年剣道教室)②湯川実千琉(徳島少年剣道教室)③藤川慎太郎(佐古剣道クラブ)③清水榮太(佐古剣道クラブ)▽3年生①平野大翔(佐古剣道クラブ)②黒上穂衣(清東少年剣道教室)③越智映斗(加茂名少年剣道教室)③佐藤尊大(養武館)▽4年生①北島弘暉(徳島少年剣道教室)②中川亮志(徳島少年剣道教室)③東楓子(佐古剣道クラブ)③川野太雅(北井上剣道教室)▽5年生①橋本佳都(徳島少年剣道教室)②陶久翔(徳島少年剣道教室)③國原真(北井上剣道教室)③前田啓(徳島少年剣道教室)▽6年生①徳原瑛騎(佐古剣道クラブ)②中川旺亮(徳島少年剣道教室)③橋本佳梨(徳島少年剣道教室)③湯川千暉(徳島少年剣道教室)▽中学生①多田健人(養武館)②天和智哉(養武館)③中岡亮佑(徳島少年剣道教室)③増巻佑(徳島少年剣道教室)③富女子①英木圭吾(徳島少年剣道教室)②吉岡未來(養武館)③吉岡琴祿(養武館)③米倉真央(徳島少年剣道教室)

◆第27回徳島市少年練成大会(3月5日・佐吉小学校)
【団体】①徳島少年剣道教室A②佐古剣道クラブA③日垂錬心塾光

- 【個人】1年生以下の中川徳少(徳少)③小松松紀和会▽2年生①湯川(徳少)②高橋(徳少)③坂東(入田)▽3年生①多川日垂②平野佐古③東根(日垂)▽4年生①中江古②松浦日垂③高橋(松紀和会)▽5年生男子①陶久(徳少)②大泉(日垂)③國原(北井上)▽同女子①佐藤(徳少)②多川日垂③徳原(佐吉)



上位入賞者ら

◆獅子会少年少女練成大会(3月19日・京都武徳殿)
徳島県関係
▽小学生低学年②日垂錬心塾
▽同高学年の日垂錬心塾(出口絢葉)坂口潤(多川響音)



2023年(令和5年)4月11日 火曜日

剣道

◆第45回全国スポーツ少年団交流大会(3月25日・27日・新潟県信公武道館)
徳島県関係

- ▽決勝トナメント1回戦
徳島県(平田響)Ⅱ徳島剣道教室(尺長紗和子)Ⅱ新潟少年剣道教室(鹿島大雅)Ⅱ徳島剣道教室(高瀬智菜)Ⅱ新潟少年剣道教室(河田蒼生)Ⅱ徳島剣道教室(211和歌山県)Ⅱ徳島県(佐賀真4)Ⅱ徳島県(徳島県)は敢闘賞受賞。



敢闘賞の徳島県チーム

あわー スポーツ

2023年(令和5年)4月25日 火曜日

剣道

団体優勝の徳島
少年剣道教室



◆第27回徳島市少年剣道大会・6
年生大会(3月5日・佐古小
学校)
【団体】①徳島少年剣道教室A
・光 敢闘賞 ②白亜錬心塾
・輝

【個人】1年生以下①中山照大
徳島少年剣道教室 ②齋藤ゆい
徳島少年剣道教室 ③小松泰徳
松和会道場、敢闘賞 ④片岡
央之 白亜錬心塾 ⑤2年生の湯
川美季 琉(徳島少年剣道教室) ⑥
高橋秀(徳島少年剣道教室) ⑦坂
東翼(入田錬成会、敢闘賞) ⑧美
鳥友佑(加茂少年剣道教室) ⑨
3年生の多川華音(白亜錬心塾)
⑩平野大翔(佐古道場) ⑪東根
蒼生(白亜錬心塾、敢闘賞)
⑫黒上結衣(清泉少年剣道教室)
⑬4年生の江澤志(佐古道場ク
ラブ) ⑭松浦暖(白亜錬心塾) ⑮
高橋知湧(松和会道場、敢闘
賞) ⑯北島弘暉(徳島少年剣道教室)
⑰5年生の陶久一翔(徳島少年剣
道教室) ⑱大泉仁(白亜錬心塾)
⑲國原一真(北上剣道教室、
敢闘賞) ⑳前田裕吾(徳島少年剣
道教室) ㉑6年生の佐藤泰仁(徳島
少年剣道教室) ㉒多川翠音(白亜
錬心塾) ㉓徳原英騎(佐古道場ク
ラブ、敢闘賞) ㉔中川旺亮(徳島
少年剣道教室)



(左から)坂口、竹内、松浦、大泉、多川

◆はりま錬成大会(4月1日・兵
庫県立武道館)
◇徳島関係の上位
▽小学生高学年団体 敢闘賞 ①
白亜錬心塾(大泉、多川華音、
松浦暖、武内晴紀、坂口潤)

(17) 地域スポーツ

2023年(令和5年)6月13日 火曜日

3/5

剣道

◆第3回阿南市剣道大会(5月
14日・北島町武道館)
【低学年】チヨリテグの誠
武館の兼住剣道スポーツ少年団 ③
大麻・松茂合同チームひょうた



(左から)山本、中西、須
藤、山ノ井雄、山ノ井夏

◆朝日新聞剣道倶楽部創立15周年
記念大会(5月5日・兵庫県立武
道館)
◇徳島関係の上位
▽小学生高学年決勝トーナメン
ト1回戦 阿南少年剣道クラブ
山本、中西、須藤、山ノ井雄、
山ノ井夏 3-1 兼合少年剣友会
▽2回戦 阿南1(本教勝) 1
五徳剣志館 雄々決勝 福田道場
3-1 阿南
阿南少年剣道教室は敢闘賞。



低学年の上位入賞チームのメンバーら



高学年の上位入賞チームのメンバーら

ん丸リーグの至誠館の阿南少年剣
道教室 兼住武館
【高学年】チヨリテグの誠
武館の阿南少年剣道教室 兼住武館
剣道教室

▽ひょうたん丸リーグの至誠館の
大麻・松茂合同チーム ③阿南少年
剣道教室

2023年(令和5年)6月26日 月曜日



剣道



徳島剣清塾

◆第41回浦旗少年大会(6月14日・新居浜市民体育館)
 ◇徳島関係の上位
 【団体】小学生低学年の徳島剣清塾(上原賢、野村拓未、高橋明里、清水春花、岩崎、▽高学年の徳島剣清塾、棚橋爽斗、水口勇貴、平田葵、亀井心暖、河田淳紀)
 【個人】小学生低学年 敢闘賞



敢闘賞の日亜練心塾

岩崎詩
 ◆情道道場全国選抜育成会(5月5日・岐阜県安八町総合体育館)
 ◇徳島関係の上位
 ▽小学校高学年団体
 日亜練心塾(大森仁、多川華貴、松浦暖、武内晴希、坂内颯)

2023年(令和5年)7月3日 月曜日

剣道



低学年の上位チーム

◆第4回誠武館道場錬成会(6月21日・北島町武道館)
 【低学年】チヨリテークの和田勇少年剣道教室の徳島少年剣道教室の兼任剣道スポーツ少年団▽チヨリテークの誠武館の兼武館の小松勇少剣道クラブ
 【高学年】チヨリテークの徳島少年剣道教室の阿南少年剣道教室の武館のチヨリテークの小松勇少剣道クラブの兼任剣道スポーツ少年団の兼武館



高学年の上位チーム

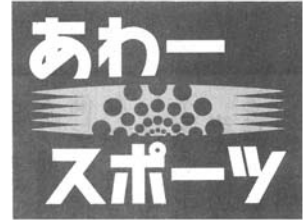
上原賢、野村拓未、高橋明里、岩崎、岩崎詩



優勝の徳島剣清塾

◆第55回種田平太郎記念杯争奪少年大会(6月28日・高松市総合体育館)
 ◇徳島関係の上位
 ▽小学校低学年の徳島剣清塾

2023年(令和5年)7月24日 月曜日



(左から) 岩浅詩、清水、高橋、野村、上原



(左から) 高野、祖川、岩浅晴

剣道

◆2023年倉敷少年錬成大会
7月1日・水島緑地福田公園体育館

◎徳島関係の上位
▽小学生2年生以下(徳島剣道塾(岩浅晴、相川結人、高野重輝)
▽低学年(徳島剣道塾(上原重貴、野村拓実、高橋明里、清水亮花、岩浅晴)



上位入賞者

◆2023年度小松島署内防犯少年大会(6月24日・小松島)
▽小学生(坂本海翔(小松島少剣クラブ)、川添大義(小松島少剣クラブ)、鈴木くみ(小松島少剣クラブ)、西尾柚花(小松島少剣クラブ)、中学生(西育真(小松島少剣クラブ)、橋本愛生(小松島少剣クラブ)、小松島将義(小松島少剣クラブ)、原瑛大(小松島中))
◆徳島西署防犯大会(7月1日・徳島西署)
▽小学生(國原(眞(北井上剣道教室)、中江颯志(佐古剣道クラブ)、川野太雅(北井上剣道教室)、綿木蒼(石井少年剣道クラブ)、中学生(藤原瑛倫(佐古剣道クラブ)、谷本遙(佐古剣道クラブ)、高橋優魁(松和合道場))

2023年(令和5年)8月14日 月曜日

◆徳島県道場少年大会(鳴門)シヨイ武道館
【団体】小学生(白垂練心塾(徳島剣道塾(齋武館(鳴門市武館)、中学生(鳴門市光武館(齋武館)



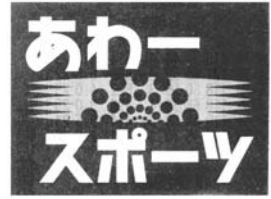
優勝の徳島剣道塾

◆第23回金旗争奪・小松島少剣クラブ創立45周年記念少年大会(7月23日・小松島市立体育館)
▽順位(徳島剣道塾(野村拓実、岩浅晴、河田淳紀、平田聖芽、棚橋爽斗)、徳島少年剣道教室(小松島少剣クラブ)、那賀川剣道教室(わかあゆ会)

剣道

館(白垂練心塾(羽ノ浦少年剣道教室)
【個人】小学生男子(棚橋爽斗(徳島剣道塾(河田淳紀(徳島剣道塾)、坂口潤(白垂練心塾)、大泉仁(白垂練心塾)、水口萌香(徳島剣道塾)、白垂練心塾)、橋本愛美(鳴門市光武館)、平田聖芽(徳島少年剣道教室)、齋武館(徳島少年剣道教室)、大和智哉(齋武館)、谷本遙(佐古剣道クラブ)、藤原瑛騎(佐古剣道クラブ)、岩浅花(徳島剣道塾(吉岡琴弥(齋武館)、大塚(鳴門市光武館)、多川聖音(白垂練心塾))

2023年(令和5年)9月2日 土曜日



剣道・居合道

◆第18回吉野川市民体育大会
(6月6日・美郷文化センター)
◇剣道
①団体 小学生低学年 輪島少年剣道教室(山出 弥彦 森本康大 山出朋彦) ②吉野川少年剣道教室 D 輪島上浦合同子 ③高学年 吉野川少年剣道教室 B ④高学年 次郎 仲野大 北川都 ⑤上浦剣道教室 吉野川少年剣道教室 C 輪島少年剣道教室
①個人 木刀による基本稽古法
②飯田のい ③森本伸子 ④山出直樹 ⑤井藤次郎 ⑥小之年以下 ⑦森本康大 ⑧山出朋彦 ⑨藤本健馬 ⑩松村拓馬 ⑪3、4年生 ⑫北川都 ⑬川城太郎 ⑭山出弥彦 ⑮佐藤叶 ⑯5、6年生 ⑰三好祐亮 ⑱岡澤大 ⑲丹後七海 ⑳藤心 ㉑中野玄 ㉒後藤田友香 ㉓前田翔 ㉔後藤田彩花 ㉕片岡博喜 ㉖岡子 ㉗本間千穂 ㉘東海大地 ㉙三浦真 ㉚原田輝 ㉛高校女子 ㉜板場々々 ㉝正木七菜 ㉞佐藤結花 ㉟宮内 ㊱同男子 ㊲前田真 ㊳大塚佑斗 ㊴佐藤輝 ㊵岡佑斗 ㊶高水 ㊷涼介 ㊸花川 ㊹菅原 ㊺海北勝 ㊻本間 ㊼大郎
◇居合道
▽小学生 富本寛 藤川翔太 朗 木村葵 中生 木村起真 高本昂成 北川 核 高橋生 大森泰 大塚健心 山田繁 五段以下 小野敏 山田正 日和田海 八段以上 中尾 徳山 豊持 天



10月9日 月曜日

剣道



◆板野郡スポ1少年団予選会
(9月10日・北野武道館)
▽先鋒の部 徳田京社(誠徳道場) ②村崎いづは(誠徳道場) ③山本瑠璃(誠徳道場) ④西岡和海(聖剣道スポ1少年団) ⑤中堅・将の部 坂本吾(誠徳道場) ⑥藤井人(聖住剣道館道場) ⑦藤川信人(聖住剣道館道場) ⑧高橋大(聖住剣道スポ1少年団)

11月14日 火曜日

剣道



小学校団体の上位入賞者

◆2023年度阿南市体育祭 10月1日 阿南市武道館
◇団体 小学校低学年 徳島剣道教室(那川剣道教室わかあひ会) ②徳島至聖館 ③徳島少年剣道教室わかあひ会 ④阿南少年剣道教室 A ⑤阿南少年剣道教室 B ⑥那賀川少年剣道教室 A ⑦那賀川わかあひ会 ⑧中学校男子 ⑨那賀川 B ⑩那賀川 A ⑪阿南 ⑫那賀川 ⑬高岡 ⑭徳島清純 ⑮水口 ⑯徳島 ⑰徳島清純 ⑱水口 ⑲那賀川 ⑳徳島清純 ㉑水口 ㉒那賀川 ㉓阿南 ㉔那賀川 ㉕高岡 ㉖徳島清純 ㉗徳島至聖館 ㉘徳島清純 ㉙水口 ㉚那賀川 ㉛阿南 ㉜那賀川 ㉝高岡 ㉞徳島清純 ㉟徳島至聖館 ㊱徳島清純 ㊲水口 ㊳那賀川 ㊴阿南 ㊵那賀川 ㊶高岡 ㊷徳島清純 ㊸徳島至聖館 ㊹徳島清純 ㊺水口 ㊻那賀川 ㊼阿南 ㊽那賀川 ㊾高岡 ㊿徳島清純



小学校個人の上位入賞者

①徳島清純 ②那賀川 ③徳島至聖館 ④那賀川 ⑤徳島清純 ⑥水口 ⑦那賀川 ⑧阿南 ⑨那賀川 ⑩高岡 ⑪徳島清純 ⑫徳島至聖館 ⑬徳島清純 ⑭水口 ⑮那賀川 ⑯阿南 ⑰那賀川 ⑱高岡 ⑲徳島清純 ⑳徳島至聖館 ㉑徳島清純 ㉒水口 ㉓那賀川 ㉔阿南 ㉕那賀川 ㉖高岡 ㉗徳島清純 ㉘徳島至聖館 ㉙徳島清純 ㉚水口 ㉛那賀川 ㉜阿南 ㉝那賀川 ㉞高岡 ㉟徳島清純 ㊱徳島至聖館 ㊲徳島清純 ㊳水口 ㊴那賀川 ㊵阿南 ㊶那賀川 ㊷高岡 ㊸徳島清純 ㊹徳島至聖館 ㊺徳島清純 ㊻水口 ㊼那賀川 ㊽阿南 ㊾那賀川 ㊿高岡



中学校団体・個人の上位入賞者ら

①徳島清純 ②那賀川 ③徳島至聖館 ④那賀川 ⑤徳島清純 ⑥水口 ⑦那賀川 ⑧阿南 ⑨那賀川 ⑩高岡 ⑪徳島清純 ⑫徳島至聖館 ⑬徳島清純 ⑭水口 ⑮那賀川 ⑯阿南 ⑰那賀川 ⑱高岡 ⑲徳島清純 ⑳徳島至聖館 ㉑徳島清純 ㉒水口 ㉓那賀川 ㉔阿南 ㉕那賀川 ㉖高岡 ㉗徳島清純 ㉘徳島至聖館 ㉙徳島清純 ㉚水口 ㉛那賀川 ㉜阿南 ㉝那賀川 ㉞高岡 ㉟徳島清純 ㊱徳島至聖館 ㊲徳島清純 ㊳水口 ㊴那賀川 ㊵阿南 ㊶那賀川 ㊷高岡 ㊸徳島清純 ㊹徳島至聖館 ㊺徳島清純 ㊻水口 ㊼那賀川 ㊽阿南 ㊾那賀川 ㊿高岡

2023年(令和5年)11月20日 月曜日

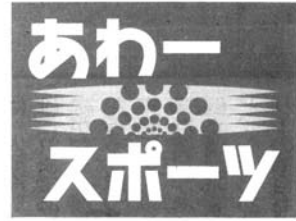
地域スポーツ (16)

前2位の鳴門第一中(手)と3位の徳島中A



◆第26回西日本近畿連合少年大会(10月9日・鳴門アムパレ) 徳島関係の上位

剣道

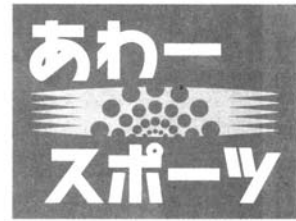


優勝の大塚製薬

◆第20回業大会(10月14日・茨城県つくば市) 徳島関係

濱大谷心海(大塚製薬)▽岡野子(徳島A)▽野田佐川(徳島B)▽中岡亮(龍岡)▽龍岡実(徳島文理D)▽リシヨシオ(那賀A)▽小学生低学年リシヨシオ(那賀A)▽和野少年剣道クラブA

2023年(令和5年)11月27日 月曜日



剣道



◆第16回文理杯争奪大会(10月22日・徳島文理中学高校体育館) 徳島関係の上位

2023年(令和5年)12月4日 月曜日 地域スポーツ (16)



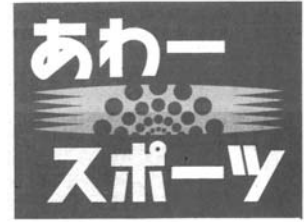
剣道

◆第16回徳島少年剣道大会(11月1日・鳴門アムパレ) 徳島関係の上位

【団体】(○)白亜錬心塾・光(多)川(徳内)坂口(松浦)大塚(徳吉)剣道クラブ(徳島少年剣道教室) 敢闘賞(徳島少年剣道教室) B 【個人戦】小学1年生以下(○)川照大(徳島少年剣道教室)②岩田賢介(酒東少年剣道教室)③森本美実(養武館) 敢闘賞(山田瑚々(白亜錬心塾)▽2年生(多)田晴菜(白亜錬心塾)②片岡史之(白亜錬心塾)③小松泰徳(松紀) 6年生(○)陶久一翔(徳島少年剣道教室)②橋本佳樹(徳島少年剣道教室)③森本大智(養武館) 敢闘賞(大塚仁(白亜錬心塾) 和合道場) 敢闘賞(藤澤冬兼(武蔵)▽3年生(○)高橋秀(徳島少年剣道教室)②藤川優太郎(徳吉)剣道クラブ)③湯川平(徳島少年剣道教室) 敢闘賞(清水亮太(佐吉)道クラブ)▽4年生(○)多川華音(白亜錬心塾)②野大翔(佐吉)道クラブ)③藤衣(酒東)少年剣道教室) 敢闘賞(武田純(加茂)少年剣道教室)▽5年生(○)松浦暖(白亜錬心塾)②志(佐吉)道クラブ)③中川颯(武内)晴紀(白亜錬心塾) 敢闘賞(中山晃志(徳島少年剣道教室)▽

優勝の白亜錬心塾・光





剣道

◆鳴門市民体育祭(1月4日・鳴門市剣道場)
▽小学生低学年の橋本心実(鳴)

上位入賞者



門市光武館道場 ②河村美裕(天麻鎌成館) ③大塚颯大(鳴門市光武館道場)▽高学年の豊田聖哉(鳴門市光武館道場) ②橋原暎入(鳴門市光武館道場) ③橋本実美(鳴門市光武館道場) ④大倉貴(鳴門市光武館道場)▽中学生の矢野大輪(天麻) ②石川圓樹(天麻) ③松井悠真(鳴門第一)

剣道

◆徳島県西部地区少年大会(阿波中学校)
▽小学校の誠武館道場の鳴門市光武館道場 ③高野川少年剣道教室 ③鴨島少年剣道教室▽中学校男子 ①板野 ②鴨島第一 ③阿波▽同女子 ①県立川島 ②石井 ③阿波・土成・鴨島第一
◆阿南少年剣道教室創立50周年記念練成会(2月18日・阿南市武道)



(左から) 松浦、大泉、武内、中崎、中西、坂口

館
◇徳島県関係の上位
▽小学生団体①白根練心塾(坂口潤、大泉、松浦、武内、中崎、中西、中西進治郎) ②阿南少年剣道教室



剣道

◆第14回大阪堺桂志館練成会(2月24日・奈良県川西町土体育館)
◇徳島県関係の上位
▽小学生低学年団体敢闘賞 白亜練心塾(多川華音、眞木優成)



(左から) 武内、多川、眞木

武内菜奈
◆2023年度板野東支部練成大会(2月25日・松成町第一体育館)
所属は、すまも誠武館道場
〔団体〕小学校低学年①誠武館A 露口航十朗、姫田京杜、山本翔希 ②誠武館B▽高学年①誠武館B 村瀬いろは、山本理瑚、山本理瑚
〔個人〕小学校1年生以下①櫻木心晴 ②坂東佑基 ③梶原市 ③阿部結人 ④2年生①露口寧々▽3年生①榎木新大の矢野陽希▽4年生①山本理瑚▽5年生①梶原市 ②村瀬いろは ③滝光市▽6年生①坂本圭喜の山本理瑚



上位入賞者

2024年(令和6年)2月26日 月曜日



剣道



◆選旗争奪第40回少年剣道大会(2月4日・新野中校)
【団体】①徳島剣道・炎高 橋原上原穂貴 水口廣貴 池井心 高野葉叶 ②徳島清盛 光③大野小学校④阿南少年剣道教室
【個人】幼年・1年生①長崎 剣清②寒山寺 至誠③森本明季 ④小福純 和田 田馬▽2年生①相川天 剣清 ②野原祥 ③川島 隆雄 ④あけ念 水口根宗 剣清 ⑤3年生①野村架 ②清盛 ③井村心 ④清盛 ⑤尺 長濱真 ⑥新野 ⑦相模 ⑧清盛▽4年生①松本蒼生 振雄 ②小山翔 ③剣清 ④茶時士 ⑤野川 ⑥佐藤叶人 ⑦阿南▽5・6年生①中西勇 ②表原一心 ③阿南 ④あけ念 ⑤藤野政 ⑥わかあけ念

団体の上位入賞チーム



個人3年生以上 の上位入賞者



個人幼年～2年生の上位入賞者



小学校低学年優勝 の佐古剣道クラブ

◆第29回徳島市小学生剣道大会(2月1日・とくさんホール)
【団体】小学校低学年①佐古剣道クラブ ②徳島少年剣道教室A ③徳島少年剣道教室A北井上剣道教室 ④佐古剣道クラブ
【個人】小学1年生以下①中川 照大(徳島少年剣道教室) ②森本 美実(兼武) ③若田蒼介(清盛少年剣道教室) ④近藤治雄(加茂名少年剣道教室)▽2年生①飛葉 けい(徳島少年剣道教室) ②小島 悠(加茂名少年剣道教室) ③石川 哲(兼武)▽3年生①森本 智(兼武) ②清水美太(佐古剣道クラブ) ③高橋秀(徳島少年剣道教室) ④丸山尊(兼武)▽4年生①野大翔(佐古剣道クラブ) ②島田翔(清盛少年剣道教室) ③村上結衣(兼武少年剣道教室) ④佐藤雄太(兼武)▽5年生①中江雄志(佐古剣道クラブ) ②中川晃志(徳島少年剣道教室) ③北川弘暉(徳島少年剣道教室) ④東 操子(佐古剣道クラブ)▽6年生①橋本律都(徳島少年剣道教室) ②陶久一翔(徳島少年剣道教室) ③陶原一真(兼武)▽中学生男子①森本大智(兼武) ②柏原健人(兼武) ③野田佐(徳島少年剣道教室)▽同女子①栗山貴徳(徳島少年剣道教室) ②橋本佳法(徳島少年剣道教室) ③清水咲希(徳島少年剣道教室) ④綿部杏花(兼武)

小学校高学年優勝の 徳島少年剣道教室A



上位入賞者ら

◆第7回三木杯争奪少年大会(2月4日・日本フーズ高岡市民プラザ)
▽小学2年生以下①田嶋心塾 ②鹿子鷹 ③岡田之多聞堂 ④徳島少年剣道教室A ⑤徳島少年剣道教室⑥立剣道教室▽3・4年生①田嶋心塾 ②東根生 ③内栗奈 ④多川華音 ⑤蔵武 ⑥本町剣道水戸少年団⑦佐古剣道クラブ⑧5・6年生①徳島少年剣道教室A(橋本律都 陶久一翔 前田悠希) ②小松晋少剣道クラブA

③長尾少年剣友会(鳴門市武館道場A)

令和六年度

剣道・居合道・杖道昇段審査 学科試験問題・解答例

徳島県剣道連盟の段位審査における学科
問題について

この解答にあたっては、適語選択については名称等、正確に記憶しておかねばならない事項もあるが、記述式の問題においては、今の自分のレベルで考え、自分の言葉で表現することを求めている。

【剣 道】

剣道段位学科問題について

剣道の学科問題は、日本剣道形についての設問を初段から四段は必修とし、空欄に適切な語句を語群から選択して解答する適語選択形式とした。

問題数については、各段四問より二問を出題することとした。初段から四段については、必修問題として日本剣道形が出題されるので、残りの三問から一問の出題となる。

五段については、全四問中から二問の出題とする。

初段と二段については、従来の記述式だけではなく、適切な語句を語群から選択して解答する適語選択を多く取り入れた。

三段・四段・五段の記述式の問題は、解答例に簡条書き形式を一部取り入れた。

初段の部

1 日本剣道形太刀の形の一本目・二本目・三本目について説明した文の（ ）に適語を語群から選び記入なさい。

〔一本目〕

打太刀は諸手(①)、仕太刀は諸手(②)で、打太刀は左足、仕太刀は右足から、互いに進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て右足を踏み出し、仕太刀の(③)を打つ。

仕太刀は左足から体を少し後ろに自然体でひくと同時に、諸手も後ろにひいて、打太刀の剣先を抜き、右足を踏み出し、打太刀の(③)を打つ。打太刀が剣先を下段のまま送り足で一步ひくので、仕太刀は、十分な気力で打太刀を押しながら、剣先を(④)の中心につけ、打太刀がさらに一步ひくと同時に、左足を踏み出しながら、諸手(①)に振りかぶり残心を示す。

〔二本目〕

打太刀、仕太刀相(⑤)で、互いに右足から進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て仕太刀の(⑥)を打つ。

仕太刀は、左足から右足をともなって左斜め後ろにひくと同時に、剣先を下げて、打太刀の刀の下で半円をえがく心持ちで打太刀の打ち込んでくるのを抜いて、大きく右足を踏み出すと同時に打太刀の(⑥)を打つ。

〔三本目〕

打太刀、仕太刀相(⑦)で互いに右足から進み、間合に接したとき、互いに気争いで自然に相中段になる。そこで打太刀は機を見て、刃先を少し仕太刀の左に向け、右足から一步踏み込みながら、鎧ですり込み、諸手で仕太刀の(⑧)を突く。仕太刀は、左足から一步大きく体をひきながら、打太刀の刀身を物打ちの鎧で軽く入れ突きになやすと同時に打太刀の(⑨)へ突き返す。

打太刀はこの時、右足を後ろにひくと同時に、剣先を仕太刀の刀の下から返して、諸手をやや伸ばし、左自然体の構えとなり、剣先は仕太刀の(⑩)につけて仕太刀の刀を物打ちの鎧で右に押さえる。

《語群》

中 段	下 段	左上段	右上段
水 月	正 面	咽喉部	右小手
顔	胸部		

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕 ①左上段 ②右上段 ③正面 ④顔

⑤中段 ⑥右小手 ⑦下段 ⑧水月
⑨胸部 ⑩咽喉部

2 「気剣体一致」について説明した文の() () に適語を語群から選び記入しなさい。

主に打突動作に関する教えであり、気とは(①)、剣とは(②)、体とは(③)と体勢のことである。これらがタイミングよく(④)がとれ、一体となって動くことで(⑤)となり得る。

《語群》有効打突 気力 体さばき

調和 竹刀操作

①	②	③	④	⑤
---	---	---	---	---

〔解答〕 ①気力 ②竹刀操作 ③体さばき

④調和 ⑤有効打突

3 全日本剣道連盟が制定した「剣道の理念」の() () に適語を語群から選び記入しなさい。

『剣道は(①)の(②)の(③)による(④)の(⑤)である』

《語群》人間形成 理法 道 剣
修練

①	②	③	④	⑤
---	---	---	---	---

〔解答〕 ①剣 ②理法 ③修練

④人間形成 ⑤道

4 「切り返しの目的」について説明した文の() () に適語を語群から選び記入しなさい。

切り返しは、正面打ちと、連続左右面打ちを組み合わせ、基本動作を総合的に練習するためのものである。切り返しのなかで、姿勢や(①)、打ちの(②)や手の内の作用、足さばき、(③)の取り方、(④)、さらに体力や気力を養い、(⑤)の打突の習得を目的とする。

《語群》間合 刃筋 気剣体一致

構え 呼吸法

①	②	③	④	⑤
---	---	---	---	---

〔解答〕 ①構え ②刃筋 ③間合

④呼吸法 ⑤気剣体一致

二段の部

1 日本剣道形太刀の形四本目と五本目について説明した文の() () に適語を語群から選び記入しなさい。

〔四本目〕

打太刀は、(①)、仕太刀は(②)で、互いに左足から進み間合に接したとき、打太刀は機を見て(①)から、諸手左上段に、仕太刀もすかさず(②)から、諸手左上段に変化して、互いに右足を踏み出すと同時に、十分な(③)で相手の(④)に打ち込み、切り結んで相打ちとなる。

相打ちとなつてからは、双方同じ気位で互いの刀身が鎧を削るようにして、自然に相中段となり、打太刀は機を見て刃先を少し仕太刀の左に向け、右足を(左足もともなつて)進めると同時に、諸手で仕太刀の(⑤)を突く。

仕太刀は、左足を左前に、右足をその後ろに移すと同時に大きく巻き返して打太刀の(④)を打つ。

打太刀は左足から、仕太刀は右足から十分に(⑥)の気位を示しながら相中段になりつつ、抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて元の位置にかえる。

〔五本目〕

打太刀は(⑦)、仕太刀は(⑧)で、打太刀は(⑨)から仕太刀は(⑩)から、互いに進み、間合いに接したとき、打太刀は機を見て右足を踏み出すと同時に(⑦)から、仕太刀の(④)を打つ。

仕太刀は、左足からひと同時に左端で打太刀の刀をすり上げ、右足を踏み出して(④)

を打ち、右足をひきながら(7)に振りかぶって残心を示す。

打太刀が剣先を(8)につけ始めるので、同時に仕太刀も左足をひいて剣先を(8)に下ろし、相(8)になる。打太刀は左足から、仕太刀は右足から小足三步で、刀を抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて元の位置にかえる。

《語群》中段 下段 諸手左上段

脇構え 諸手右上段 八相の構え
正面 残心 氣勢 右肺
右足 左足 胸部 咽喉部

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕①八相の構え ②脇構え ③氣勢

④正面 ⑤右肺 ⑥残心
⑦諸手左上段 ⑧中段 ⑨左足
⑩右足

2 「打突の好機」について五つあげなさい。

〔解答〕以下の基本的な項目から答えること。

- ・相手の動作の起り(出ばな)
- ・技の尽きたところ(動作や技が終わったところ)
- ・居ついたところ(身体の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき)

- ・退がるところ(引きはな)
- ・受け止めたところ(受け止めた時に隙が生じる)
- ・息を深く吸うところ(息を吸う時は、相手の動作が止まる)

3 「稽古で心がけなければならぬこと」について述べた文の()に適語を語群から選び記入しなさい。

- (1) 竹刀の(1)、準備運動、整理運動をはじめとした(2)に留意する。
(2) 大きな目標や(3)をもって取り組む。
(3) (4)を重んじる。
(4) 立会いの「(5)」を大事にして、一本一本をおろそかにしないように、常に旺盛な(6)で、精神を込めて稽古をする。
(5) (7)に忠実な稽古をする。
(6) (8)を積極的に使って稽古をする。
(7) 稽古後は(9)し、(10)・研究をおこたらない。

《語群》研究心 初太刀 点検 気力

工夫 反省 安全面
しかけていく技 基本 礼儀作法

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕①点検 ②安全面 ③研究心

- ④ 礼儀作法 ⑤ 初太刀 ⑥ 気力
- ⑦ 基本 ⑧ しかけていく技
- ⑨ 反省 ⑩ 工夫

4 全日本剣道連盟が制定した「剣道修練の心構え」について、()に適語を語群から選び記入しなさい。

「剣道修練の心構え」

剣道を正しく(1)に学び
心身を(2)して旺盛なる(3)を養い
剣道の(4)を通じて(5)をとうとび
(6)を重んじ(7)を尽くして
常に自己の(8)に努め
もって(9)を愛して
広く人類の(10)に
寄与せんとするものである

《語群》国家社会 昭和五十年三月二十日制定

平和繁栄 気力 信義
修養 真剣 特性 礼節
錬磨 誠

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕①真剣 ②錬磨 ③気力

- ④ 特性 ⑤ 礼節 ⑥ 信義 ⑦ 誠
- ⑧ 修養 ⑨ 国家社会 ⑩ 平和繁栄

三段の部

1 日本剣道形太刀の形六本目と七本目について説明した文の()に適語を語群から選び文を完 成させなさい。

〔六本目〕

打太刀は、(①)、仕太刀は(②)で、互いに右足から進み、間合に接したとき、仕太刀は機を見て(②)から打太刀の両拳の中心を攻める氣勢で、(①)に上げ始めるので、同時に打太刀も、これに應ずる心持ちでやや剣先を下げて、仕太刀の刀と合おうとする瞬間、右足をひいて(③)に振りかぶる。

仕太刀はすかさず(①)のまま大きく右足から(左足もともなって)一歩進む。打太刀は直ちに左足をひいて(①)となり、機を見て仕太刀の(④)を打つ。

仕太刀はその刀を、左足を左にひらくと同時に、小さく半円を描く心持ちで、右蹠ですり上げ、右足を踏み出し、打太刀の(④)を打つ。

打太刀は剣先を下げて、左足から左斜め後ろに大きくひくので、仕太刀は左足を踏み出しながら、(③)に振りかぶり(⑤)を示す。

〔七本目〕

打太刀、仕太刀相(①)で、互いに右足から進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て、一歩軽く踏み込み、刃先をやや仕太刀の

左斜め下に向けて、蹠ですり込みながら、諸手で仕太刀の(⑥)を突く。仕太刀は、打太刀の進む程度に應じて、左足から体をひくと同時に、諸手を伸ばし、刃先を左斜め下に向け、物打ちの蹠で打太刀の刀を支える。

互いに相(①)になり、打太刀は、(⑦)を踏み出し、右足を踏み出すと同時に、体を捨てて諸手で仕太刀の(⑧)に打ち込む。

仕太刀は右足を右前にひらき、左足を踏み出して体をすれ違いながら諸手で、打太刀の(⑨)を打ち、右足を踏み出し左足の右斜め前に軽く右膝をつけて、爪先を立て左膝を立てる。諸手は十分に伸ばし、刀は手とほぼ平行に右斜め前にとり、刃先は右に向ける。その後、刀を返して(⑩)に構えて、(⑤)を示す。

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

左足 胸部 咽喉部 残心 右足
 下段 脇構え 八相の構え 中段
 右小手 左小手 右胴 左胴 正面

〔解答〕

- ①中段 ②下段 ③諸手左上段
 ④右小手 ⑤残心 ⑥胸部
 ⑦左足 ⑧正面 ⑨右胴
 ⑩脇構え

2 「平常心」について説明しなさい。

〔解答例〕

物事(事象)の変化に対し動揺することなく、日頃の気持ちで冷静に対応できる磨かれた心の状態をいう。事に臨んで心を動かすことなく、ふだんと変わらない平常心の心で対処することは非常に難しいことである。剣道では、この平常と変わらない心を持たねばならないことを強く求めている。

3 「三殺法」について説明しなさい。

〔解答例〕

相手を制するための手だてとして、相手の剣、技、気の三つを封ざること。
 剣を殺す⇨相手の剣を押さえ、払うなどして剣の働きを制する。
 技を殺す⇨先手先手と攻め、相手に技を仕かける余裕を与えない。
 気を殺す⇨気力で相手を圧倒し、相手が攻撃しようとする機先を制する。

4 互格稽古で注意することを書きなさい。

〔解答例〕

- ①修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行う。
 ②相手と対等の気持ちで行う。

③立ち会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂込めて打突する。

④間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫する。

⑤相手を選び好みしないで、多くの人と稽古する。

四段の部

1 日本剣道形 小太刀の形について（ ）に適語を語群から選び回答欄に記入しなさい。

〔二本目〕

打太刀は①、仕太刀は②の構えで、打太刀は左足から、仕太刀は右足から、互いに進み間合いに接したとき、仕太刀が入身になろうとするので、打太刀は右足を踏み出すと同時に、①から、仕太刀の③に打ち下ろす。

仕太刀は右足を斜め前に、左足をその後ろに進めて、体を右にひらくと同時に、右手を頭上へ上げ、刃先を後ろにし、左鑷で受け流して打太刀の③を打ち、左足から一歩ひいて上段にとって残心を示す。

〔二本目〕

打太刀は④、仕太刀は②の構えで、互いに右足から進み間合いに接したとき、打太刀は、守る意味で、④から中段になろうと

とする瞬間、仕太刀は、打太刀の刀を制して入身になろうとするので、打太刀は、右足を後ろにひいて⑤にひらくのを、すかさず、仕太刀が、再び中段で入身になって攻めてくるので、打太刀は⑤から変化して①の振りかぶり、右足を踏み出すと同時に仕太刀の③に打ち込む。

仕太刀は左足を左斜め前に、右足をその後ろに進めて、体を左にひらくと同時に、右手を頭上へ上げ、刃先を後ろにし、右鑷で受け流して面を打ち、打太刀の⑥を押さえて腕の自由を制すると同時に、右拳を右腰にとり、刃先を右斜め下に向け、剣先を⑦につけて残心を示す。

〔三本目〕

打太刀は中段、仕太刀は⑧の構えで、打太刀は立ち会いの間合から、右足、左足と進み、次の右足を踏み出すとき、仕太刀が入身になろうとするのを中段から⑨に振りかぶって、仕太刀の③に打ち下ろす。仕太刀は、その刀をいったんすり上げて打太刀の右斜めにすり落とす。

打太刀は、直ちに左足を踏み出し、仕太刀の⑩を打つ。仕太刀は左足を左斜め前に踏み出し、体を右斜めにひらくと同時に、胴を打ってくる打太刀の刀を、左鑷ですり流し、そのまま左鑷で、打太刀の鐔元にすり込み、小太刀の刃部のはばきで打太刀の鐔元を押さえ、入身になり、打太刀の⑥を押さえ

る。

打太刀がひくので、仕太刀はそのまま攻めて、二三歩進み右拳を右腰にとり、刃先を右斜め下に向けて、剣先を⑦につけ、残心を示す。

《語群》 諸手左上段 諸手右上段

中段半身 下段半身 下段

脇構え 八相の構え 二の腕

右小手 右胴 左胴 正面

胸部 咽喉部

⑥	①
⑦	②
⑧	③
⑨	④
⑩	⑤

〔解答〕 ①諸手左上段 ②中段半身 ③正面

④下段 ⑤脇構え ⑥二の腕

⑦咽喉部 ⑧下段半身

⑨諸手右上段 ⑩右胴

2 有効打突について説明しなさい。

〔解答例〕

有効打突は、剣道試合・審判規則に、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものと規定されている。このような諸条件を満たした一本が有効打突となる。

言いかえれば、気剣体一致の打突である。有効な打突は理合と残心からなっており、理

合を要素と要件に分けると、要素には、間合・機会・体さばき・手の内の作用・強さと刃えが含まれる。要件には、姿勢・氣勢（発声）・打突部位・竹刀の打突部・刃筋が含まれる。残心は、打突後の身構え・気構えである。

3 残心の重要性について述べなさい。

〔解答例〕

打突した後でも相手に心を留めて、もし相手が再び反撃しようとしたら、直ちにこれを制し得る油断のない身構えと気構えにならなければならない。もし、打突した後には油断していたならば逆に相手に反撃されてしまう。また、打突した後には心を残そうとすれば、かえって残そうとすると心に心が止まってしまうとされている。心を残さず、思い切って捨て身で打突することによってこそ、自然と相手に対する油断のない心が生まれ、これが相手の反撃に備える身構えと気構えになる。

4 剣道における熱中症の予防と対処方法について述べなさい。

〔解答例〕

熱中症とは、高温環境に高湿度が加わると、うっ熱によって、体温上昇が助長されて体温調節機能が障害される。このような状態を総称して熱中症と言う。

〔熱中症の予防〕 熱中症を防ぐためには

- ① 剣道場の換気、風通しに十分注意すること。
- ② 稽古の前にはコップ1〜2杯の水分を摂取すること。

③ 急に暑くなったときには、稽古量を少なめから始め、暑さに慣れるまでは徐々に増やしていくこと。

④ 稽古は長時間続けずに、面をはずして定期的な休息をとること。

⑤ 稽古の間には十分量の水分を補給すること。スポーツドリンクや食塩水（水1リットルに1〜2gの食塩）が望ましい。

〔対処方法〕 熱中症になったら

① ただちに涼しいところに運び、防具を外して袴のひもをゆるめ、頭を低くして寝かせよう。

② 冷たいタオルで全身の汗をぬぐいつつ、首の周囲や太ももの付け根などを、水を包んだタオルなどで冷やす。

③ 水分補給をスポーツドリンクや食塩水で行う。

④ 三十八度以上熱があるとき、けいれんが起ったとき、意識がもうろうとしたり、意識がないときは危険なので、すこしでもおかしいときは、体温を下げる応急処置を行いつつ、救急車を呼んで病院にて治療を行う。

五段の部

1 審判員の心得について「一般的要件」と「留意事項」を述べなさい。

〔解答例〕

一般的要件

- ① 公正無私であること。
- ② 剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。
- ③ 剣理に精通していること。
- ④ 審判技術に熟達していること。
- ⑤ 健康体で、かつ活動的であること。

留意事項

- ① 服装を端正にすること。
- ② 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。
- ③ 言語が明晰であること。
- ④ 数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。
- ⑤ よい審判を見て学ぶこと。

2 「指導者としての心構え」について述べなさい。

〔解答例〕

- ① 確固たる信念と情熱、愛情と誠意をもって指導する。
- ② 指導を受ける者の人格と個性を尊重しながら

ら指導する。

③自らの人格を養い、信頼される指導者となるように努力する。

④指導を受ける者とともに修練に励み、技能の向上に努める。

⑤能率的・合理的な指導法の研究を心がけ、指導を受ける者が理解しやすい指導の方法を研究する。

⑥指導を受ける者の健康や安全に留意する。

3 「互格稽古」について説明し、「指導上の留意点」を述べなさい。

〔解答例〕

技能や気力の同等の者、あるいは同等に近い者が、互いに気をはかり、相手の変化に対して互格の態度や対等の気持ちで有効打突を競い合うなかで、総合的な能力を養う稽古法である。

①修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行わせる。

②相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行わせる。

③立会いの「初太刀」を大事にし、一本一本に精魂込めて打突させる。

④間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫させる。

⑤相手をより好みしないで、多くの人と稽古

をさせる。

4 剣道形を実施するときの留意点について述べなさい。

〔解答例〕

剣道形は、一定の形式と順序に従って行う一連の約束動作であるが、形を形骸化させない生きたものにするために、お互いが寸分の緩みのない気の働きをもって行わなければならない。

①立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱いを適切に行う。

②五つの構えと小太刀の半身の構えを正しく行う。

③目付けや呼吸法を心得て、終始、充実した氣勢、気迫をもって合気で行う。

④打太刀（師の位）、仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、原則として打太刀が先に動作を起こす。

⑤「機を見て」「入身になろうとする」といった打突の機会を理解して行う。

⑥打太刀は一足一刀の間合いから打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を正確に打突する。

⑦振りかぶりは、剣先が両こぶしより下がらないようにし、一拍子で打つ。

⑧足さばきはすり足で行い、打突するときには後ろ足を前足に引き付ける。

⑨残心は十分な気位をもって行う。



【居合道】

初段の部

1 全日本剣道連盟が昭和50年3月20日に制定した「剣道の理念」を記せ

剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。

2 「居合道と礼」について記せ

礼は、対人関係や社会の秩序を円滑に維持し、平和で充実した社会生活を送るために必要なことであるが、世代を超えて学び合い、生涯にわたる人間形成の道である居合道においても同じことがいえる。居合道は道場での稽古を始め、講習会や大会など様々な場互いに学び、修練を積み重ねることによって自己の錬磨と修養につなげることができるのであり、ともに居合道を学んでいる人々に対しては常に敬意と感謝の念を持ち、礼儀正しく接していくことが大切である。

3 「柄の持ち方」について記せ

右手は鐳元近くを持ち、左手は「巻き止め」に小指がかからぬように「柄頭」を余して持つ。

両腕とも上筋より下筋を強くし、小指と薬指を締めて他の指をゆるめ、ちょうど鶏卵を握るように柄に手のひらが全部さわるように柔らかく持つ。

4 全日本剣道連盟が昭和50年3月20日に制定した「剣道修練の心構え」について穴埋め式による問題を10項目出題する。

二段の部

1 「居合道の目付け」について記せ

実際には見えない敵を相手とする居合道において「目付け」はとても大切である。居合道における「仮想敵」は常に動いているため、敵の位置や動きを意識して演武する必要がある。居合道の「仮想敵」は自分と同じくらしい背丈とし、仮想敵の顔の中心を見るようにするが、一点を注視するのではなく、敵の全体を見るようにする。また、敵を倒した後の目付けは倒れた敵を見越したところとし、気は四方にくばる。

2 「居合道の呼吸」について記せ

各技に移るときは原則として三呼吸目を吸い込んだときに動作を始める。各技を一呼吸で終えることが望ましいが、息継ぎする場合

は敵に悟られないように行う。

3 「演武の心得」について記せ

演武はすべて充実した氣勢、正確な刀法、適法な姿勢、「気・剣・体の一致」を心がけ、全身全霊を打ち込んで真剣勝負の心境で「行ずる」心がけが大切である。

4 「一本目・前」、「二本目・後ろ」、「三本目・受け流し」の「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

三段の部

1 「残心」について記せ

敵を倒した後も油断せず、どんな反撃にも直ちに対応できるような身構えと気構えのことである。居合道においては倒した敵に心を残すことではなく、四方いずれの方向からの新たな攻撃にも対処できる気を配ることが最も重要であり、新たな敵に対する気構え、体構えのことである。

2 「気剣体の一致」について記せ

「気」とは氣勢、「剣」とは刀の操作、「体」

とは体さばきと体勢のことで、これらがタイミングよく調和がとれ、一体となって働くことにより、効果的な斬突が可能となる。

3 「中段の構え」及び「諸手左上段の構え」について記せ

「中段の構え」は右足を前に左こぶしをへそ前より約一握り前にして両手で刀を持ち、剣先の延長が敵の両眼の方向に向くように刀を保持した構え。

「諸手左上段の構え」は両手で刀を頭上上げた構えで、中段の構えから左足を前に出し、左こぶしを左額の前上一握りのところとし、剣先は約45度後ろ上方に向け、やや右に寄せる。

4 「四本目・柄当て」、「五本目・袈裟切り」、「六本目・諸手突き」における「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

四段の部

1 「試合における勝敗の決定」について記せ

正しい礼法・作法による充実した氣勢と適正な姿勢をもって、正確な技術と刀法に基づいた気・剣・体一致の技前と心構えの優劣に

よって勝敗の判定を決定する。勝敗の判定基準は次のとおり

①修行の深さ、②礼儀、③正確な抜きつけと切りつけ、④正確な鞘離れと刃筋、⑤正確な血振りと角度、⑥正確な納刀、⑦心の落着き、⑧目付け、⑨気迫・残心・間と間合い、⑩気・剣・体の一致、⑪武道として合理的な居合であることとし、「全日本剣道連盟居合（解説）」の審判・審査上の着眼点を参考とする。

2 「守破離」について記せ

剣道や居合道における修行上の段階を示す教えで、「守」は指導者の教えに忠実に従って学び、それを確実に身につける段階。「破」は「守」の段階で学んだことについて工夫を凝らし、技術を高める段階、「離」は「守」・「破」といったことを超越して、技術をさらに深め、新しい境地を開いて確立していく段階のことである。

3 「八相の構え」及び「脇構え」について記せ

「八相の構え」は「諸手左上段の構え」から、そのまま右拳を右肩のあたりまで下ろした形で、刀をとる位置は鰐を口の高さにし、口からほぼ拳ひとつ離す。左拳の位置はほぼ正中線とし、刀身の傾きは後ろ上方約45度と

し刃先は敵に向ける。

「脇構え」は右足を後ろにし、左半身となり、刀を右脇に剣先を後ろにし、刃先は右斜め下に向ける。剣先は下段の構え（膝頭より約3〜6センチメートル下）より少し下げた位置にとり、刀身が相手から見えないように構える。

4 「七本目・三方切り」、「八本目・顔面当て」、「九本目・添え手突き」における「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。

五段の部

1 全日本剣道連盟が平成19年3月14日に制定した「剣道指導の心構え」をもとに「居合道指導の心構え」について記せ

居合道の正しい伝承と発展のために、剣の理法に基づく刀の扱い方の指導に努める。相手の人格を尊重し、心豊かな人間の育成のために礼法を重んずる指導に努める。ともに居合道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める。

2 「自信と慢心」について記せ

〔解答例〕

修練を重ね居合が上達してくると、おのずと自信がついてくる。自信をもつことにより平常心を保つことができ、いかなる場合にも確かな技前を発揮することができる。また、そこには気位も備わってくるものである。

しかし、行き過ぎた自信は慢心となり、修行の妨げとなる。このため、居合道の修行においては常に謙虚な気持ちで向上心を持ち続け、反省と工夫を怠らないことが肝要である。

3 居合道段位審査における五段以下の実技審査について「全日本剣道連盟居合（解説）」の「審判・審査上の着眼点」のうち、「特に留意すべき項目」について記せ

初段から三段までの特に留意すべき項目は①正しい着装と作法、②正確な抜け、切付け、③正確な血振り・角度、④正確な納刀の4項目であり、四段及び五段では三段までの4項目に①心の落ち着き、②目付け、③気迫、④気・剣・体の一致の4項目を加えた8項目である。

4 「十本目・四方切り」「十一本目・総切り」

「十二本目・抜き打ち」における「全日本剣道連盟居合審判・審査上の着眼点」について穴埋め問題を10項目出題する。



【杖道】

初段の部

1 流租、流名について記せ。

流租は、夢想権之助勝吉、流名は、神道夢想流杖術である。

権之助は、寛永の頃の人と言われ、筑前の国（今の福岡県）宝満山に祈願参籠し、御神託を授かり、独自の杖術を創始されたのである。以来、今日まで永々として伝えられている。

2 形一本目「着杖」について解説せよ。

正面から切り下ろす太刀を、体を右斜め後ろにかわして左小手を打ち、さらに、退きながら上段に構えるその左小手を本手打する形である。

(打)

- 1 八相に構えてから間合に進み、右足を踏み出して正面を水平まで切り下す。
 - 2 右足から退きながら左上段に構える。
 - 3 右足から退きながら太刀を右脇下におろす。
 - 4 左足を右足の後ろに退き、構えを解く。
- (仕)
- 1 常の構えから右手を正面に伸ばし、すべ

らせて、杖尾を床につけて立て、杖先を握る。

- 2 右足から右斜め後ろに大きく退きながら体をかまし、右手を持ち替え腰にとり、左手で杖を握る。杖先を右に半円を描くように回すと同時に、左足から踏み出して左本手で左小手を打つ。

- 3 を両手いっぱいにとり、右足を踏み出し、左小手を本手打する。

- 4 杖先を顔面につけて残心を示す。

- 5 左手を後ろに引き、杖を両手いっぱいにとり、左手を肩の高さにし右手を右膝上につける。

- 6 右手を上から持ち替え、杖を右手の内側にすべらせながら左足を右足に揃え、常の構えとなる。

3 杖道を学ぶ目的とその効果について記せ。

杖道は精神の修養と身体の鍛錬を第一義とする。決して手足の技ではなく心の技で、その目的は精神修養にある。

杖道修練の効果は数多いが、主として次の5点をあげることができる。

- 1 礼儀、信義、誠実、忍耐等の精神が養われる。
- 2 身体を強健にし、活動を敏活にする。
- 3 姿勢態度がよくなる。
- 4 判断力、決断力が養われ、自信をもって

事に当たれるようになる。
5 対人関係がよくなり、社会生活に必要な協調性が養われる。

二段の部

1 基本技の修得について記せ。

基本は、杖の操法の基礎となるものであって、これを修得することによって杖道形が自由かつ円滑に行われるようになるものである。

- 1 正しい姿勢と気位を高める。

- 2 間合がわかり、打突が確実となる。

- 3 動作が正確、機敏、活発となる。

- 4 個癖がなくなり、打筋が正しくなる。

- 5 目付け、眼が明らかとなり、気合が充実してくる。

2 形二本目「水月」について解説せよ。

太刀で正面を切りかかるところを、右斜め前に体をかわして水月を突き、さらに引落打する形である。

(打)

- 1 八相に構えて間合に進み、振りかぶりながら右足を踏み込み正面を切る。
- 2 右足から大きく退きながら八相に構える。
- 3 右足から踏み込み切り付けるように中段に構える。

4 太刀を右後方に打ち落とされると同時に右足から退く。

5 左足を右足に引きつけ、構えを解く。
(仕)

1 常の構えから右足を右斜め前に踏み出し、左足をわずかに移動させて体をかかわらず左手は腰にとり、右手は杖の中央を握ったままで水月を突く。

2 右足から後ろに退くと同時に杖を右後ろに引き、左手を杖先にかけて、右手を持ち替え引落に構える。

3 太刀を引落打すると同時に、右足から踏み出し「打」の顔面を攻める。

4 残心を示す。

5 左手を後ろに引き、右手を肩の高さにし、杖を両手いっぱいにとり、左手を肩の高さにし右手を右膝上につけ、右手を上から持ち替え、杖を右手の内に押し込みながら左足を右足に引きつけ、常の構えとなる。

3 杖道の稽古のあり方について述べよ。

稽古とは、古を稽えることであって、師の教えを忠実に守って、これを繰り返し繰返し修行し、正しい技を修得し体得することである。

稽古を行うためには、上達をする最も大切な条件がある。

「汗の出る分量だけ強くなる」といわれる

が、時間の許す限り、精進の続く限り稽古することによって、技術が向上する。そして始めて杖道の目的である心身の練磨と人間性が、次第に養成されていくのであり、自分のためにも、社会貢献のためにも、充分肝に銘じて稽古に励まねばならない。

三段の部

1 杖の構え方について記せ。

構え方は、体勢を正しく相手を威圧する如く正々堂々の構えでなくてはならない。杖道における構え方は非常に多いが、その主なるものは、次の4つにわけられる。

1 「常の構え」

自然体のまま右手で杖の中央を握り、右体側に軽くつけ、杖先をほぼ「へそ」の高さにし、両足を揃えて立つ。

2 「本手の構え」

① 右本手の構え

常の構えから、右手、右足を前に出し、左手で杖尾を握り、右手をすべらせて、全長のほぼ4分の1の手幅にとり、杖先を相手の目の高さにし、「やや半身」となって構える。

② 左本手の構え

右本手の構えの左右逆となる。

3 「逆手の構え」

① 右逆手の構え

常の構えから、杖先を左手で逆に握り、右足を1歩踏み出すと同時に、右手は持ち替えることなく、杖尾を右後ろ上から回して前に出しつつ、右手をすべらせて、全長のほぼ4分の1の手幅にとり、杖先を相手の目の高さにし、「やや半身」となって構える。

② 左逆手の構え

いったん右逆手に構えてから、左手を引いて杖を両手いっぱいにとり、左足を出すと同時に杖を左後ろ上から回して前に出しつつ、左手をすべらせて、全長のほぼ4分の1の手幅にとり、杖先を相手の目の高さとし、「やや半身」となって構える。

4 「引落の構え」(右左)

① 右引落の構え

常の構えから、左足を前に出すと同時に杖先に左手をかけ、左手親指の付け根を左乳部に軽くつけ、四指を揃えて上に伸ばし「真半身」となり、右手を順に持ち替え、杖を下から握る。

② 左引落の構え

右本手の構えから、左親指をはずし、左手掌を返しながら杖を後ろ下に引落とし、右手を持ち替えて右乳部に右手親指の付け根を軽くつけ、四指を揃えて上に伸ばし真半身に構える。

2 形五本目「左貫」の理合いについて記せ。

太刀で水月を突いてくるのを、体を退きながら杖で受け流し、突外打の要領で、太刀を打ち、さらに引落打する形である。

3 杖道修練の心構えについて述べよ。

杖道は、精神の修養と心体鍛錬を目的とし、精神を根本とする心の技である。

- 1 杖道は、一生が修行である。一時的に猛練習しても途中で中止するようでは効果がない。杖道を正しく真剣に学ばなければならぬ。
- 2 心身を錬磨して旺盛なる気力を養うことが大切である。
- 3 杖道の特性を通じて礼節をとるとび信義を重んじ誠を尽して常に自己の修養に努めること。
- 4 師の教えを守り、自ら稽古に励み、更に向上の道を求めなければならない。
- 5 国家社会を愛して広く人類の平和繁栄に寄与することである。

四段の部

1 太刀の構え方について記せ。

基本的なものとしては、次のような構えがある。

1 「中段の構え」

右足を前に、左拳はへそ前より約ひと握り前にして、左手親指の付け根の関節をへその高さにする。剣先の延長は、両眼の中央または左目とする。

(一足一刀の間合を前提とする)

2 「諸手左上段の構え」

中段の構えから左足を前に出し、左拳を左額の前方約ひと握りのところとし、剣先は約45度後ろ上方に向け、やや右に寄せる。

3 「諸手右上段の構え」

中段の構えから左拳を額の前上約ひと握りのところとし、剣先は45度上方に向け、正中線上とする。

4 「下段の構え」

中段の構えから、そのまま剣先を相手の膝頭より約3〜6センチ下とする。

5 「八相の構え」

中段の構えから左足を出し、太刀を大きく諸手左上段に振りかぶる気持ちで構え、刃先は相手に向ける。

諸手左上段の構えから、そのまま右拳を右肩のあたりまで下ろした形で、太刀をと

る位置は髀を口の高さにし、口から約ひと握り離す。

左拳の位置はほぼ正中線上とし、刀身の傾きは後ろ上方約45度とする。

右足先はやや外側に向け、かかどが床に着かないように注意する。

6 「脇構え」

中段から右足を後ろに退きながら、太刀を右拳がおおむね口の高さを通るくらいに大きく右脇にとり、左半身となる。

右足先はやや外側に向け、かかどが床に着かないように注意する。

剣先は後ろに、刃先は右斜め下に向け、特に刀身が相手から見えないようにする。

左拳は、「へそ」の右斜め下約ひと握りのところにおく。この時、左手首は曲げない。

剣先は下段の構えより少し下げた位置にとる。

2 形八本目「太刀落」の理合いについて記せ。

中段に構えている「打」に対して、体かわして頭部を打ち、ついで繰り付け、後退するところを返し突きし、さらに引落打する形である。

3 杖道上達の要点について述べよ。

武道の向上は、一にも二にも数多く練習をすることである。いかに理論だけかわしても、身体の運用が伴わなければ、上達するものではない。武道は、人が十回すれば、自分は百回するという信念のもとに、積極的に稽古に取り組まなければ上達しない。あわせて、良き指導者を師とし、基本を十分に練習し、しっかりした土台をつくり、理論と一つ一つの基本技がともなってはじめて進歩がはやるものである。師や先輩の教えを守り、自ら鋭意の研究と工夫をもって、継続した稽古をすることが上達の秘訣と言えよう。

ことである。

2 形十本「正眼」の理合いについて記せ。

「打」が柄に手をかけたところ、機先を制して水月を打ち、退くところの脾腹を突き、さらに水月を打つ形である。

3 指導者としての心構えについて述べよ。

指導者は、人の手本と言われるよう平素より自覚を持って努力精進しなければならない。指導者として重要な点を具体的に述べてみよう。

五段の部

1 掌中の働き(手の内)とその効果について記せ。

杖道には、打突と構えの杖の持ち方と力の入れ方が重要である。何れも、もっとも合理的状態において打突技の効果が最高度に発揮されるのである。即ち、両手の持ち方、力の入れ具合、打突時の両手の力関係が充分把握され、体の運用が自然である場合はじめて、打突の冴えがあらわれるのである。特に注意しなければならないことは、手先だけの打突ではなく、全身の力関係を集中して打突する

1 指導者は、自身の修行と人間性の向上をはかり、尊敬される人間にならなければならない。

2 権威と自信を持って忍耐強く、公平に和の精神をもって合理的な指導を行う。

3 実態を把握し、興味をもたせるには如何に導くかを念頭におき、魅力ある指導法を研究する。自主性を育て楽しく稽古ができる指導法を研究する。

4 基本訓練をおろそかにせず、技術の向上にしたがって、術理面も指導し、上達の喜びを味あわせるようにする。

5 常に道場の整備、武具の点検、健康管理等の危険防止に留意し、稽古内容にも安全を第一とし、事故のないよう心がける。



令和6年度 徳島県剣道連盟行事予定

県内行事					
月	日	曜日	行事	場所	主催
4	6	土	第1回少年強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	県剣連
	7	日	少年剣道指導者講習会	9:00～ソイジョイ武道館	〃
	14	日	第79回国スポ予選	9:00～中央武道館	〃
	21	日	第49回会長杯争奪高等学校剣道大会	9:30～ソイジョイ武道館	〃
	27	土	令和6年度 総会	13:30～アミノパルコ視聴覚室	〃
	29	祝・月	第1回審査会(剣道 初段以下)	9:00～ソイジョイ武道館他	〃
5	6	月・祝	中央伝達講習会	9:00～ソイジョイ武道館	県剣連
	11	土	第53回中学校剣道選手権大会	9:00～ソイジョイ武道館	中体連
	12	日	居合道春季講習会、第1回審査会	9:00～松茂町第二体育館	県剣連
	18	土	第2回少年強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	〃
			四国四県剣道大会事前準備	13:00～ソイジョイ武道館	四国剣連
	19	日	四国四県剣道大会	9:00～ソイジョイ武道館	〃
26	日	第1回剣道 審査会(二段以上)	9:30～ソイジョイ武道館	県剣連	
6	1	土	第64回徳島県高等学校総合体育大会	9:00～那賀町総合体育館	高体連
	2	日	〃	〃	
	3	月	〃 (予備日)	〃	ソイジョイ武道館
	8	土	第3回少年強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	県剣連
30	日	第2回審査会(剣道 初段以下)	9:00～ソイジョイ武道館他	県剣連	
7	6	土	第4回少年強化訓練	9:00～中央武道館	県剣連
	13～14	土～日	第78回徳島県中学校総合体育大会	9:00～ソイジョイ武道館	中体連
	15	月祝	長期育成強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	県剣連
	25～27	木～土	剣道連盟土用稽古	18:30～中央武道館	〃
	28	日	居合道伝達講習会、第2回審査会	9:00～松茂町第二体育館	〃
		第3回徳島県少年剣道選手権大会	9:00～ソイジョイ武道館	〃	
8	4	日	第2回剣道審査会(二段以上・称号)	9:00～ソイジョイ武道館	県剣連
	17	土	第5回少年強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	〃
	25	日	第72回全日本剣道選手権大会県予選会 第63回全日本女子剣道選手権大会県予選会	9:30～ソイジョイ武道館	〃
9	7	土	第6回少年強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	県剣連
	15	日	第51回徳島県社会人剣道大会	9:30～ソイジョイ武道館	〃
	22	日	第3回審査会(剣道 初段以下)	9:00～ソイジョイ武道館他	〃
	28	土	第29回徳島県健康福祉祭剣道交流大会	9:00～ソイジョイ武道館	県高齢剣友会
10	12	土	第7回少年強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	県剣連
	13	日	剣道秋季講習会	9:00～ソイジョイ武道館	〃
	18	金	南部交流稽古会	19:00～未定	〃
	19	土	第21回徳島県中学校剣道1年生大会	9:00～ソイジョイ武道館	中体連
	26～27	土～日	杖道秋季講習会	9:00～松茂町第二体育館	県剣連
11	4	月・祝	第54回徳島県少年剣道錬成大会	9:00～ソイジョイ武道館	県剣連
	8	金	西部交流稽古会	19:00～脇町小学校体育館	〃
	9	土	第8回少年強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	〃
	10	日	第58回高等学校剣道選手権大会	9:00～ソイジョイ武道館	高体連
			居合道秋季講習会・第3回審査会	9:00～松茂町第二体育館	県剣連
	16	土	第49回中学校新人剣道大会	9:00～ソイジョイ武道館	中体連
	17	日	第3回剣道 審査会(二段以上)	9:00～ソイジョイ武道館	県剣連
	23	土祝	眉山杯大学剣道大会 第69回県高等学校新人大会兼全国選抜大会県予選会	9:00～徳島文理大学 那賀町総合体育館	大学連 高体連
12	1	日	第47回全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選会	9:30～ソイジョイ武道館	県スポーツ協会
	7	土	中四国地区剣道合同稽古会	14:00～日本フネ市民プラザ	全剣連後援
	8	日	令和6年度眉山ライオンズクラブ少年剣道大会	9:00～徳島市立体育館	眉山ライオンズクラブ
	14	土	第9回少年強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	県剣連
1	4	土	新年役員会、互礼会	13:30～未定	県剣連
	5	日	令和7年 稽古始め	9:30～ソイジョイ武道館	〃
	11	土	第10回少年強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	〃
	12	日	常任理事会	13:00～アミノパルコ視聴覚室	〃
	19	日	長期育成強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	県剣連
	25	土	第35回県中学校剣道強化錬成大会	9:00～ソイジョイ武道館	中体連
	26	日	第4回審査会(剣道 初段以下)	9:00～ソイジョイ武道館他	県剣連
2	2	日	剣道四、五段受審者講習会	9:30～中央武道館	県剣連
	8	土	第11回少年強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	〃
	9	日	第4回剣道審査会(二段以上・称号)	9:00～ソイジョイ武道館	〃
	13～15	木～土	剣道寒稽古	18:30～中央武道館	〃
	16	日	第73回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会 第17回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会	9:30～ソイジョイ武道館	〃
		県下居合道大会、第4回審査会	9:00～松茂町第二体育館	〃	
22～23	土～日	第20回四国中学校新人剣道大会	9:00～脇町だつアリーナ	四国中体連	
3	2	日	第43回女子剣道大会	9:30～ソイジョイ武道館	県剣連
	8	土	第12回少年強化訓練	9:00～ソイジョイ武道館	〃
	16	日	令和6年度 理事会	13:30～アミノパルコ視聴覚室	〃
	23	日	令和7年度審査員・審判員講習会	9:30～ソイジョイ武道館	県剣連

令和6年度 全剣連(主催・共催・後援)行事予定

月	日	曜日	《全剣連 居合道審査会》	場所	主催
5	3	金・祝	八段審査会 称号(範士・教士・錬士)	京都市	全剣連
6	28	金	七・六段審査会	久留米市	〃
11	26	火	称号(教士・錬士)	東京都	〃
	30	土	七・六段審査会	東京都	〃
12	1	日	八段審査会	東京都	〃
3	2	日	七・六段審査会	京都市	〃
月	日	曜日	《全剣連 杖道審査会》	場所	主催
5	3	金・祝	八段審査会 称号(範士・教士・錬士)	京都市	全剣連
11	26	火	称号(教士・錬士)	東京都	〃
1	24	金	八・七・六段審査会	東京都	〃
月	日	曜日	《全剣連 剣道審査会》	場所	主催
4	29	月・祝	六段審査会	京都市	全剣連
	30	火	七段審査会	〃	〃
5	1～2	水～木	八段審査会	〃	〃
	6	月・祝	称号(範士・教士・錬士)	〃	〃
	11	土	七段審査会	名古屋市	〃
	12	日	六段審査会	〃	〃
19	日	七段・六段審査会	北海道	〃	
8	10～11	土～日	八段審査会	名古屋市	〃
	24	土	七段審査会	宮城県	〃
	25	日	六段審査会	〃	〃
	31	土	六段審査会	福岡県	〃
9	1	日	七段審査会	〃	〃
11	9	土	七段審査会	名古屋市	〃
	10	日	六段審査会	〃	〃
	14	木	六段審査会	八王子市	〃
	15	金	七段審査会	〃	〃
	26	火	称号(教士・錬士)	千代田区	〃
	26～27	火～水	八段審査会	〃	〃
2	1	土	七段審査会	福岡市	〃
	2	日	六段審査会	〃	〃
	11	火・祝	七段・六段審査会	沖縄県	〃
	15	土	七段審査会	山梨県	〃
16	日	六段審査会	〃	〃	
月	日	曜日	《県外行事》	場所	主催
4	6～7	土～日	第59回中央講習会(剣道)	神戸市	全剣連
	20	土	中四国合同稽古会(広島県)	広島県	〃
	21	日	第22回全日本選抜剣道八段優勝大会	名古屋	〃
	29	土・祝	第72回全日本都道府県対抗剣道優勝大会	大阪市	〃
5	2～5	木～日	全日本剣道演武大会	京都市	〃
	11	土	四国四県高齢者剣道交流大会	香川県	四国高齢剣
6	3	月・祝	第45回全日本高齢者武道大会	東京都	後援 全剣連
	7～9	金～日	第62回 中堅剣士講習会	奈良市	全剣連
	9	日	第62回西日本勤労者剣道大会	高知市	後援 全剣連
	14～16	金～日	四国高等学校選手権大会	高知県	全剣連
	15～16	土～日	剣道審判法東西研修会(西日本)	奈良市	〃
	22	土	中四国合同稽古会(愛媛県)	松山市	後援 全剣連
	29～30	土～日	中央・地区講習会(居合道)	久留米市	全剣連
7	6	土	中四国合同稽古会(岡山県)	岡山市	後援 全剣連
	15	月・祝	第15回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会	日本武道館	〃
	27～28	土～日	剣道指導者育成東西研修会(西日本)	奈良市	〃
27～28	土～日	令和6年度全日本少年少女武道(剣道)錬成大会	千代田区	全剣連共催	
8	7	水	第62回四国中学校総合体育大会	愛媛県	四国中体連
	3～6	土～火	第71回全国高等学校剣道大会(総合体育大会)	大分県	全剣連共催
	11	日	第66回全国教職員剣道大会	茨城県神栖市	〃
	18～20	金～日	第54回全国中学剣道大会(総合体育大会)	新潟県	〃
	18	日	国民体育大会第45回四国ブロック大会	香川県	主管 香川県
19	月	四国教職員剣道大会	香川県	四国学剣連	
9	7	土	中四国合同稽古会(香川県)	高松市	後援 全剣連
	15	日	第70回全日本東西対抗剣道大会	香川県	全剣連
	15	日	第19回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会	おおきにアリーナ	後援 全剣連
	28～30	土～月	第78回国民スポーツ大会剣道大会	佐賀県	主管 全剣連
10	12	土	中四国合同稽古会(広島県)	広島県	後援 全剣連
	19	土	第59回全日本居合道大会	東京都	〃
	18～20	金～日	第35回全国健康福祉祭剣道交流大会	米子市	全剣連後援
11	3	日・祝	第72回全日本剣道選手権大会 第63回全日本女子剣道選手権大会	東京都	全剣連
	11～12	土～日	第72回全国青年剣道大会	足立区	全剣連共催
12	7	土	中四国合同稽古会(徳島県)	日本フネ市民プラザ	後援 全剣連
	21～22	土～日	令和6年度「骨太」四国ブロック講習会	高知市	全剣連
1	25～26	土～日	中央・地区講習会(杖道)	東京都	全剣連
2	1	土	中四国合同稽古会(岡山県)	岡山市	後援 全剣連
	1～2	土～日	令和6年度四国高等学校剣道新人大会	香川県	四国高体連
3	8	土	中四国稽古会(高知県)	高知市	後援 全剣連
	26～28	水～金	第34回全国高等学校剣道選抜大会	春日井市	全剣連共催
	29～31	土～月	第47回全国スポーツ少年団剣道交流大会	大分県	全剣連共催

☆ 徳島県剣道連盟 稽古会

毎月 第一木曜日 18:30～20:30 中央武道館

・日本剣道形 ・基本稽古 ・指導稽古

※ 稽古会中止等のお問い合わせは、事務局またはホームページでご確認下さい。

令和6年度 審査会実施計画表

【 剣 道 】

* 初 段 以 下

審査日	4月29日(祝月)	6月30日(日)	9月22日(日)	1月26日(日)	初段以下審査会の申込先 (南部の申込先が変更になりました)	
申込期日	4月15日(月)	6月16日(日)	9月8日(日)	1月12日(日)		
審査会場	中部	ソジヨイ武道館 (鳴門支部担当)	ソジヨイ武道館 (徳島支部担当)	ソジヨイ武道館 (板野東支部担当)	ソジヨイ武道館	〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マンション106 徳島県剣道連盟事務局 生田 浩章 宛 TEL 088-652-2337
	西部	土成農業者 トレーニングセンター	美郷ふるさと センター体育館	三野体育館	* 審査申込は 剣道連盟事務局まで お願いします	〒778-5251 三好市池田町白地本名987-1 山田 泰弘 宛 TEL 090-4976-1344
	南部	阿南市武道館	小松島市立 武道館	美波町日和佐 総合体育館		〒774-0021 阿南津乃峰郵便局留 馬見 和秀 [阿南市新野町宮ノ北13] TEL 090-5143-9890

* 二 段 以 上

審査日	5月26日(日)	8月4日(日)	11月17日(日)	2月9日(日)	二段以上審査会の申込先
申込期日	5月12日(日)	7月21日(日)	11月3日(日)	1月26日(日)	
審査種目	二～五段	二～五段・称号	二～五段	二～五段・称号	〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マンション106
審査会場	ソジヨイ武道館	ソジヨイ武道館	ソジヨイ武道館	ソジヨイ武道館	徳島県剣道連盟事務局 木下 裕康 宛 TEL 088-652-2337
◇ 四・五段講習会		2月2日(日)	9:30～15:00	中央武道館	・携行品 … 剣道具・木刀・筆記用具・受講料 1,000円

※ 称号・四・五段受審者の講習会について

- ① 四・五段受審予定者は、「四・五段講習会」または伝達講習会(5月)、剣道秋季講習会(10月)のいずれかを受講すること。
受講から1年以内に2回の審査を受審できるものとする。
- ② 全剣連の称号受審者は、伝達講習会(5月)または、剣道秋季講習会(10月)を受講のうえ1年以内に上記称号推薦選考会を受けること。

* 審 査 会 日 程

開 場	8:30
審査受付	8:40～9:10
受審者 稽古	8:40～9:30
開 会 式	9:40～
※ 審査終了後、希望者により稽古会	

* 初 段 以 下 審 査 会

開会式終了後、木刀による基本稽古法(3級・1級)・初段学科審査を同時に行う。		
木刀による 基本稽古法	3級	1本～4本まで
	2級	1本～6本まで
	1級	1本～9本まで
日本剣道形	初段	1本目～3本目

* 二 段 以 上 審 査 会

開会式終了後、学科・実技・形の順で審査を行う。		
日本剣道形	二段	1本目～5本目
	三段	1本目～7本目
	四段	1本目～7本目 小太刀 3本
	五段	
	称号	

【 居 合 道 】

審査日	5月12日(日)	7月28日(日)	11月10日(日)	2月16日(日)
申込期日	4月28日(日)	7月14日(日)	10月27日(日)	2月2日(日)
審査種目	級・段	級・段・称号	級・段	級・段・称号
講習会 他	春季講習会	伝達講習会	秋季講習会	居合道県下大会
審査会場	松茂第二 体育館	松茂第二 体育館	松茂第二 体育館	松茂第二 体育館
申 込 先				
〒772-0014 鳴門市撫養町弁財天字派名34-31 居合道部会事務局 満壽 良史 宛 TEL 090-9778-2350				

【 杖 道 】

審査日	8月 予定
申込期日	杖道部会事務局の指定日
審査種目	初段～五段
審査会場	愛媛県
申 込 先	
〒770-8070 徳島市八万町馬場山43-2 杖道部会事務局 米倉 武志 宛 TEL 088-668-6650	

【 審 査 申 込 み 時 の 注 意 】

- ① 審査申込書の全ての項目を正確に記入すること。(この申込書は全剣連への登録に必要となります)
- ② 審査申込書の「申込責任者」欄は次に記載する責任者の署名・捺印とする。
 - ・ 小・中学生・高校生は、所属する道場・教室・クラブ又は、学校の部活動の責任者。
 - ・ 県内大学剣道部に所属する大学生は、所属する大学剣道部の責任者。県外大学の剣道部に所属する大学生は、出身地域の支
 - ・ 徳島県剣道連盟支部会員は、所属支部の支部長。
- ③ 現級・段位を徳島県以外で取得した場合、申込時に段位証明書又は証書のコピーを添付すること。(申込書に取得した都道府県名を記入すること)
- ④ 審査申込期日は上記一覧表のとおりとし 各申込先へ審査料を添えて申し込むこと。(別紙「審査料・登録料一覧表」参照)
- ⑤ 徳島県剣道連盟の審査会を初めて受審する場合、審査料と合わせて初回手数料(1,000円)を納入すること。
- ⑥ 申込締め切り後においては、審査会欠席時の審査料の返金は行わないものとする。
- ⑦ 申込書を郵送または、事務局郵便受けに直接投函した場合は、申込書が届いているか必ず確認すること。

徳島県剣道連盟 審査資格

令和5年4月1日現在

級・段位	資 格
6～8級	小学1年～3年生は、認定により技倆相当の級位を与える。
5 級	小学4年生以上は、5級より受審できる。
4 級	中学生以上は、4級より受審できる。
3 級	高校生（相当年齢）以上は、3級より受審できる。
2 級	3級受有者で小学5年生以上を受審資格とする。
1 級	2級受有者で小学6年生以上を受審資格とする。 大学生、一般（大学生相当年齢以上）は1級より受審できる。 居合道・杖道受審者の大学生・一般（大学生相当年齢以上）は、1級を認定とする。
初 段	1級受有者で、13歳以上（審査日基準）を受審資格とする。
二 段	初段受有後、1年以上修業した者。
三 段	二段受有後、2年以上修業した者。
四 段	三段受有後、3年以上修業した者。指定講習会を受講済みであること。
五 段	四段受有後、4年以上修業した者。指定講習会を受講済みであること。 社会体育指導者資格初級の認定を受けた者については、五段の学科審査を免除するものとする。
六 段	五段受有後、5年以上修業した者。
七 段	六段受有後、6年以上修業した者。
八 段	七段受有後、10年以上修業し、かつ、満46歳以上である者。
錬 士	六段取得日より1年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
教 士	七段取得日より2年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。

審査料・登録料（消費税含）一覧表

令和5年4月1日現在

〈単位＝円〉

	初回手数料	審 査 料 (消費税10%含)	再 審 査 料	登 録 料 (消費税10%含)
3級以下	1,000	1,000	—	2,500
2 級	〃	1,500	—	3,500
1 級	〃	2,000	—	3,500
初 段	〃	3,000	3,000	6,950
二 段	〃	4,000	4,000	9,120
三 段	〃	5,000	5,000	12,390
四 段	〃	6,000	6,000	17,820
五 段	〃	8,000	8,000	23,280
六 段	〃	11,000	—	46,000
七 段	〃	15,400	—	57,000
八 段	〃	19,800	—	79,000
錬 士	〃	18,700	—	46,000
教 士	〃	27,500	—	79,000
範 士	〃	—	—	167,000

2023 この1年の主な出来事

1. 6	国内の新型コロナウイルスの新規感染者数が累計3千万人を越える
3.22	野球第5回ワールドベースボール・クラシックで日本が3度目の優勝
5. 5	世界保健機構が新型コロナ緊急事態終了を宣言
5. 8	新型コロナ感染症の位置付けがインフルエンザと同じ5類に移行
5.19	主要7カ国首脳会議（G7サミット）が広島市で開幕
6. 2	健康保険証をマイナンバーカードと一体化させる改正法が成立
6. 1	大リーグ・パドレスのダルビッシュがメジャー通算100勝を達成
7.16	テニスのウインブルドン車いす男子シングルスで小田凱人が初優勝
7.23	大相撲名古屋場所で豊昇龍が初優勝 大関昇進へ
8. 5	日大アメフト部員が覚醒剤・大麻取締法違反で逮捕
8.23	第105回全国高校野球選手権大会で慶応が107年ぶりの優勝
8.26	陸上の世界選手権女子やり投げで北口榛花が優勝
9. 7	ジャニーズ事務所が元会長の性加害を認める
10. 2	大リーグ・エンゼルスの大谷翔平が日本人初の本塁打王獲得
10.11	将棋の藤井聡太が史上初の八冠独占を達成
11. 5	プロ野球の阪神が38年ぶり2度目の日本一
11.17	大リーグ・エンゼルスの大谷翔平がアリーグ最優秀選手に選出
12.26	プロボクシングのスーパーバンタム級4団体王座統一戦で井上尚哉がKO勝ち

※ウクライナとロシア、イスラエルとパレスチナの武力紛争が継続

県内10大ニュース決まる

2023年の「読者が選ぶ県内10大ニュース」が決まりました。401通の有効投票があり、次のような順位になりました。

- ①徳島県知事に後藤田氏
- ②神山まるごと高専が開校
- ③阿波踊り、違法積敷と台風下強行に批判
- ④新ホール、藍場浜公園に
- ⑤ガンバロウズB3参入
- ⑥とくしまマラソン4年ぶり開催
- ⑦県立学校タブレット17%に故障
- ⑧佐那河内保育所で虐待などの事案が発覚
- ⑨県人口70万人割れ 60万人台は96年ぶり
- ⑩川田まんぢうが閉店

徳島新聞 令和5年12月29日

編集後記

『徳島の剣道』第四十号

編集委員会

『徳島の剣道』も今回で第四十号となる。創刊号は昭和六十年三月三十一日の発行である。創刊号のページ数は五十七ページであるが、本誌四十号は三百十三ページであり、別冊を含めると四百四十ページのボリュームとなっており、この四十年で約八倍の内容となったことになる。また、インターネットを通して、創刊号から現在の号まで、閲覧することもできるようにもなっている。

この発展の原点は創刊号の編集に携わった方々の熱意にあることはいうまでもない。創刊号編集長の石井博先生はその編集後記に次のように記されている。「これでいいという人生はない。これで完全だと言う剣道もあるわけではない。それだからこそ、一歩でもよいと思われる方向に歩き続けるのが、人間らしさだと思う。この機関誌が剣道を通しての人間形成の一助なれば幸いです。」私もこの気持ちで編集を担っていきたくないと決意している。

(木原)

木原資秋 藤川和毅 三木肇 西谷一 米倉肇 福多昌 白木雅 平野誠 玉田晋 中村裕 木下裕 満壽良 青木茂 別宮憲 谷口順 網師本誠

『徳島の剣道』第40号

令和6年7月7日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 藤川和秋

〒770-0861 徳島市住吉三丁目9-6
栗本マンション106号室

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360

